

資料(9) 学会ニュース(No.58~89)

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)  
 発行人 鈴木 秀雄 編集 広報委員会  
 事務局 〒186 東京都国立市富士見4-30-1  
 東京女子体育大学 レクリエーション研究室内  
 電話 0425-72-4138  
 FAX 0425-72-4138  
 郵便振替00150-3-602333

No.58

日本レジャー・レクリエーション学会

第25回記念大会を開催して

会員、一般参加者等約700名の参加を得て、日本レジャー・レクリエーション学会第25回記念大会が関東学院大学法学部(小田原校地)において、9月23・24日の両日にかけて開催された。研究発表・実践報告が4会場にわたって同時開催されることも初めての試みであった。また第25回総会を兼ねての企画として、記念大会時同時刊行することを企画し計画された『日本レジャー・レクリエーション学会の歩み1964-1995』も草創期からの23年間の歴史を総括する記念誌の特色を十分に果たす内容の発行となった。多くの方々の協力のもとに実現できたものである。

記念大会そのものは、大会日の常任理事会をかき取り、大会当日に臨時理事会を開き、総会に際する案件の審議を行い、加えて学会の自主決定についても話し合う時間を持てることができたことは幸いなことであった。

大会初日は、会長による記念講演、そして副議長、シンゴウと総会、報告会にも多数の会員の参加があった。午後一時半過ぎ、秋風のさわやかな中で、夜露を見ながら参加一帯の記念写真撮影会を催された。会場を待ちどわしい学会は、研究活動の現場の様であり、何れも嬉しい、会員に対する発表の場である、発表の機会提供が優先されるものである。

大会第2日目は、研究と実践との融合をはかる試みが行われた。また2日目は総会も開催された。総会における意義の多様化は当然としても、総会

理事長 鈴木 秀雄

において前任した副理事長の意見を尊重し、常任理事会、理事会の議を経て総会として提案された案件に対して、総会において当事者たる委員会委員あるいは理事役員から異論が出されたが、意見の異なる存在を認めながらこそ委員会の存在もまた民主的調整機能として必要とされることを理解しておきたいものである。たまたま役員候補者選考に対する論議であったが、あらゆる場面において、役員は会員の発声の場、発表の機会提供に際して明確な意志を持たなければならない。手続きを経て選任される、自ら意志よりその職を受け取ることを承認した役員は、学会の調和状態をことごとくなら

委員、諸役員の選定に際しては立派を認めた言葉を、会費への賛同の意も含め敬意を表すべきであるといえる。総会の時期延長によって、一部研究活動の発表時間の変更を余儀なくされたが、全演額の発表を無断終了することができたことは幸いである。来年度の第26回大会は、奈良女子大学において11月23・24日の両日の開催が予定され、また事務局も平成4年4月より東京女子体育大学から関東学院大学へ移転し、新設による学舎高院となるが、会員、役員一人一人が、学会のあるべき方向性や進むべき道をしっかりと見据えておくべきであることを実感した記念大会開催でもあった。大会そのものは、各方からの支援、協力を得て、日本レジャー・レクリエーション学会第25回記念大会として成功裡に終了することができたといえる。会員をはじめ多くの皆さんへ感謝申し上げる次第である。

総会案内

日時: 平成7年12月10日(日) 13時~15時  
 場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター 研修棟 501室 (小田原校 夢遊橋から徒歩5分)

1号議案 役員選考委員会委員の選定について  
 2号議案 専門分科会設置に関する経路の一部改訂(本則からの読みかえ)について  
 3号議案 理事会の運営に関する規程の一部改訂(本則からの読みかえ)について

2. 会 議

- 1) 学会総会の開催
- 2) 理事会
- 3) 常任理事会
- 4) その他

IV. 1995年度予算

1995年4月1日~1996年3月31日 (単位:円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
研究費	846,214	印刷費	2,800,000
年費	3,900,000	通信費	1,000,000
入会金	50,000	雑費	1,000,000
入会費	20,000	寄附金	116,000
広告費	1,800,000	会費	176,000
印刷費	1,000,000	大会費	376,000
雑費	4,000,000	主筆費	342,216
寄附金	1,000,000	合 計	4,837,316
合 計	4,837,316		

第25回日本レジャー・レクリエーション学会総会開催事務

日時 1995年9月24日(日) 13:30~  
 場所 関東学院大学法学部 小田原校地

1. 役員長 挨拶
2. 議長及び議事録署名人名入次
3. 報告事項
  - 1) 1994年度事業報告
  - 2) 1994年度決算報告
  - 3) 役員選考候補検討委員会報告

上記委員会における検討経過の報告があった。

- 1) 学会総会の開催
  - 2) 理事会
  - 3) 常任理事会
  - 4) その他
- IV. 1995年度予算
- 1995年4月1日~1996年3月31日 (単位:円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
研究費	846,214	印刷費	2,800,000
年費	3,900,000	通信費	1,000,000
入会金	50,000	雑費	1,000,000
入会費	20,000	寄附金	116,000
広告費	1,800,000	会費	176,000
印刷費	1,000,000	大会費	376,000
雑費	4,000,000	主筆費	342,216
寄附金	1,000,000	合 計	4,837,316
合 計	4,837,316		

第25回日本レジャー・レクリエーション学会総会開催事務

日時 1995年9月24日(日) 13:30~  
 場所 関東学院大学法学部 小田原校地

1. 役員長 挨拶
2. 議長及び議事録署名人名入次
3. 報告事項
  - 1) 1994年度事業報告
  - 2) 1994年度決算報告
  - 3) 役員選考候補検討委員会報告

● 第25回総会報告

日本レジャー・レクリエーション学会第25回総会が、本年度大会期間中の9月24日目に開催された。以下総会の議事内容と議事録を報告する。

開催日時 1995年9月24日  
 13:30~14:30, 17:30~18:00

場 所 関東学院大学(小田原校地)

1. 会長 挨拶
2. 議長及び議事録署名人名入次
3. 報告事項
  - 1) 1994年度事業報告
  - 2) 1994年度決算報告
  - 3) 役員選考候補検討委員会報告
  - 4) '96~97年度役員候補者について
  - 5) 第25回学会大会開催地について
  - 6) 『日本レジャー・レクリエーション学会の歩み 1964-1995-』の発行について
  - 7) 事務局移転について
  - 8) その他
4. 議事録の発行
5. 1995年度予算案(案)
6. 1995年度予算(案)
7. その他

1. 1994年度事業報告

1) 第24回学会大会開催  
 期日 1994年9月10日(日) 11日(祝)  
 場所 筑波大学北海道支校  
 『レジャー・レクリエーション研究』の発行 29号, 30号(大会号)

2) 機関誌の発行  
 『学会ニュース』の発行 NO.55, NO.56.

3) 会報  
 『月刊研究』の発行 1994. 10. 8  
 『自然と健康』 柳沢佳子 1994. 11. 5  
 『自然の管理』 物部 二(副知) 1994. 12. 3  
 『田中孝(資料総合研究)』 1994. 12. 3  
 『自然と生活文化』 松田誠幸 1995. 1. 14  
 『自然と都市環境』 下村彰 1995. 2. 4  
 『自然とスポーツ』 新野洋一 1995. 3. 4

4) 5) 組織の拡充  
 会員の拡充28名

2. 会 議  
 理事会(1回) 1994. 9. 18. (第24回学会大会前編)  
 常任理事会(9回)  
 総会(1回) 1994. 9. 11. (第24回学会大会中編)

II. 1994年度決算報告書

1994年4月1日~1995年3月31日  
 総収入 3,695,037  
 総支出 2,655,721  
 純額 949,316 (単位:円)

科目	千円	円	前年対比	増減率
研究費	843,214	843,214	0	0
年費	3,900,000	3,900,000	0	0
入会金	50,000	50,000	0	0
入会費	20,000	20,000	0	0
雑費	80,000	80,000	0	0
印刷費	1,000,000	1,000,000	0	0
寄附金	1,000,000	1,000,000	0	0
雑収入	10,000	10,000	0	0
合 計	3,695,037	3,695,037	0	0

科目	千円	円	前年対比	増減率
印刷費	2,800,000	2,800,000	0	0
通信費	1,000,000	1,000,000	0	0
雑費	800,000	800,000	0	0
寄附金	116,000	116,000	0	0
会費	176,000	176,000	0	0
大会費	376,000	376,000	0	0
主筆費	342,216	342,216	0	0
雑支出	342,216	342,216	0	0
合 計	2,655,721	2,655,721	0	0

監査の結果、決算報告は適正であると認めます。  
 1995年7月10日 監事 鈴木秀雄

III. 1995年度事業計画

1. 事業
  - 1) 第25回学会記念大会  
 期日: 1995年9月23日(土) 24日(日)  
 場所: 関東学院大学法学部小田原校地
  - 2) 『レジャー・レクリエーション研究』の発行  
 29号, 30号(大会号)
  - 3) 研究会の開催  
 テーマ『自然とレジャー・レクリエーション』  
 『学会ニュース』の発行  
 『学会周年記念事業』  
 『日本レジャー・レクリエーションの歩み 1964-1995-』の発行
  - 4) 学会賞品システム導入の検討
  - 5) 役員選考候補検討委員会の設置
  - 6) 組織の充実・会員の拡充
  - 7) その他

3. 役員選考候補検討委員会報告  
 委員会長の挨拶があった。
4. 次期役員候補者  
 役員候補(案)が提示され、選挙経過の報告が承認された。また木下茂雄と高橋和昭を名誉会員に推薦することになった。
5. 第26回学会大会開催地  
 第26回学会大会は奈良女子大学で開催予定が報告された。
6. 学会の歩み発行  
 『日本レジャー・レクリエーション学会の歩み 1964-1995-』を発刊した。1冊2000円を配布するが、会員には1冊無料に配布する。
7. 事務局移転  
 1995年以降事務局を移転する。

東海地区 宇留信成(中央大学)  
 中島雄雄(名古屋大学)  
 九州地区 大谷善博(福岡大学)  
 松尾正史(福岡大学)

8. 常任理事会報告  
 『日本レジャー・レクリエーション学会の歩み 1964-1995-』を発刊した。1冊2000円を配布するが、会員には1冊無料に配布する。
9. 事務局移転  
 1995年以降事務局を移転する。

常任理事会報告

<前4回>  
 日時 1995年9月1日(金) 14:00~16:30  
 場所 国立オリンピック記念青少年総合センター  
 出席者 横田、前野、黒田、熊野(秀)、坂口、下村、松浦、松田、宮下、油井、理事…西田、幹事…杉浦、野村、荒井

報告事項  
 1. 第26回学会大会開催地  
 第26回学会大会は奈良女子大学で開催する。

<第5回>  
 日時 1995年9月22日(金) 17:00~19:00  
 場所 関東学院大学法学部 小田原校地  
 出席者 横田、前野、黒田、熊野(秀)、坂口、下村、松浦、松田、宮下、油井、理事…西田、幹事…杉浦、野村、荒井

この常任理事会は、理事会、総会に報告又は審議に付す事項を協議した。

報告事項

1. 各役員報告  
 1) 幹事報告  
 第25回学会大会実行委員として、大会開催を行ってきた。来年度に向け会員の集約を予定している。
- 2) 研究員報告  
 月刊研究会が毎月10名程度の参加者で充実した研究会を開催してきたことが報告された。
- 3) 編集委員会  
 学会誌33号を本年11月に発行する予定が報告された。
- 4) 財務委員会  
 事務の効率化を目的に会費集

システム導入を調査、検討中であり、総会に報告したという説明があった。

5) 広報委員会 1994年度は学生会ニュース55・56号、本年版は57号を発行し、引き続き年度内に58号を発行する予定である。

6) 役員候補者選考委員会 役員候補(案)の説明、報告を受け了承された。候補者の検討過程で、木下茂樹、高橋和雄両氏を学生会員に推せんする旨のさしむかいになったという報告があり、容認できないと承認された。

2. 1994年度事務報告 事務報告書が了承された。

3. 1994年度決算報告 決算報告書が了承された。学生会費納入率は56%である。学生会費未納者の扱いは第4回常任理事会で決定した。5年以上未納者を一覧を学生会ニュースに掲載し、同時に総会に報告、該当者は退会の確認をとることを再度確認した。

4. 1996年度学生会大 来年度学生会大は奈良女子大学で開催することが報告された。

5. 「学会の歩み」の配布 「日本レジャー・レクリエーション学会を含む」1冊編成配布を行う。この他に1冊2000円で有償配布とする。

6. 事務局移転 東京女子体育大学に置かれている事務局は、1995年春をもって移転した。

**審議事項**

- 1995年度事業計画(案)について
- 1995年度事業計画(案)を審議し作成した。
- 1995年度予算(案)について
- 1996年度会計収支予算(案)を審議し作成した。
- 8名の入会について
- 会員の入会を承認した。

<第6圖>

日時 1995年9月4日(日) 15:35~17:25  
場所 関西学院大学法学部 小田原教室  
出席者 池田、前野、藤田、萩原、高橋、鈴木(次)、石井、坂下、下村、寺島、芳賀、松浦、梶野、西田、前野、池井  
理事……西田  
監事……梶野  
幹事……大森、荒井

**審議事項**

- 役員候補者(案)について
- 総会承認を受け役員候補者(案)を審議した。その結果、理事会で役員候補者(案)を決定した経緯を説明し、同案を再度総会に諮問することを決めた。案が否決された場合、新報に役員候補者選考委員会を設置して、再考しなおす方針を決めた。

<第7圖>

日時 1995年10月16日(金) 18:30~21:30  
場所 国立オリンピック記念青少年総合センター  
出席者 池田、黒田、高橋、前野、鈴木(秀)、石井、坂下、寺島、芳賀、松浦、下村、池井  
幹事……金子、梶野、荒井

**報告事項**

- 第23回学生会大会報告
- 鈴木実雄(副総会)と池井大実(実行委員長)から報告が行われた。また、坂下大会実行委員会(会計担当)から会計中間報告が行われた。
- 事務局移転 来年度から関西学院大学に事務局を置くことを大学長氏に要請した結果、承認されたことが報告された。

**審議事項**

- 役員候補者選考委員選出について
- 次期の役員候補者を選出する「役員候補者選考委員会」設置を審議し、7名の委員候補を決めた。この委員は理事会の議を経て、総会で承認される必要がある。
- 専門分科会設置に関する規則を、会則と整合をはかる必要から17案を18案に読み替えることを総会では決定した。
- 事務局移転について
- 来年度から関西学院大学に事務局を置くことを決めた。
- 会員の入会について
- 6名の入会を承認した。
- その他
- 学生会ニュースに次回学生会大会開催地、国際会議(WLRA)の記事を載せることとした。

WORLD LEISURE AND RECREATION ASSOCIATION  
のお知らせ

「WLRA 4TH WORLD CONGRESS」  
FREE TIME AND QUALITY OF LIFE  
FOR THE 21st CENTURY  
CARDIFF, WALES, UK,  
15TH-19TH JULY 1996

国際の締結日は1996年9月末です  
資料請求先 〒166 国立市富士見台4-30-1  
東京女子体育大学内  
日本レジャー・レクリエーション学会事務局

役員選挙規程についてのご意見をお寄せ下さい

役員選挙規程検討委員会委員長 前野 淳一郎

9月の小田原総会(第23回)で、この半年にわたって行なった「役員選挙規程」の検討過程等について報告をした際に、会員の皆さんからの「改善・提案等」を求めたのですが、ここで改めてこの学生会ニュースを通じて意見を申し上げたい。

選挙制度の透明化・民主化のためには、何らかの形でこの選挙制度の導入が必要と考えられます。ただ「急激な変化」「刷新・改革・改革」によって選挙運営に混乱をきたし、運営がストップしてしまうような事態は避けねばなりません。この辺りについて委員会は議論が別れ、結局「提案」を得るには至りませんでした。

実行の機軸に基づく役員選出方式(選挙で選任された「役員候補者選考委員会」によって選ばれた候補者を総会で会員に示して信任を問う、また会長推薦による理事を信任を求めるといった方式)で、どのような部分があるかを、また選挙方式そのものが抱えている問題などについても意見が別れました。

そこで会員の皆さんが、選挙制度への移行とその結果からどのような期待をもたれているか、移行の時期、選挙の方法・内容などについて、会員の皆さんからの積極的なご意見・提案を求めたいのです。選挙方式を現実的に採用している他の学生会・協会などの事例、またその問題点等についての情報の提供も歓迎します。

以上、学生会長のために、ご協力何卒宜しくお願いを申し上げます。

5年以上学生会費未納者

- 会田郁一、五十橋秀司、生田由美子、石橋 宣宏、伊藤 剛、井上 博樹、今井 健、藤田 彰、池田 浩司、庄司 龍子、清水 純己、杉浦 直樹、鈴木 定、福島幸市郎、藤田 敏彦、高橋 寛、宮下 正次、武田 正明、橋 直樹、谷内 芳秀、田村 茂樹、徳井 二子、中込 謙吉、中村 良郎、久保 賢、永前 宏実、馬場道一、久保 久保、日高 正明、郷野恵子、平本 宏亮、酒井 一夫、福島 和郎、藤本くみ子、松沢敏子、松田 淳一、松本 安梨、松本幸一、松原 茂、高橋 一歩、三上 晋三、三島真子、味方夕貴、北正 秀英、宮川 新子、松村三郎、松井 明男、前下 千雄、藤原寺和香、山内 淳一、山下 和寿、山本 龍之、山本 健久、山本 博、山本 博、山本 博、葉良 勝博、波部 平生、波部 博之、坂本 昭信

● 会員の動向

- 入会者 前 眞
- 西田千雄 東京理科大学(平塚7.1.1.東理)
- 大友 正 東亜YMCA専門学校
- 岸 正樹 福岡県伊万里市
- 藤井 千幸 共済通商社
- 杉本 晴夫 太田市
- 山内龍彦 東海大学大学院
- 藤原 武志 神戸大学大学院
- 片桐 博樹 早稲田大学大学院
- 長野 秀雄 立教大学
- 長野 秀雄 立教大学
- 藤井 隆江 立教大学 (平塚7.9.23東理)
- 岡 宏史 神戸大学大学院
- 故宮佐和子 余額閣閣研究所
- 岡 延隆 福岡県北九州市八幡区
- 藤田 浩久 余額閣閣研究所
- 藤 盛徳 ヌリコ野外教育研究所
- 池田孝太郎 東京農業大学
- 金子 忠一 東京農業大学
- 田中 幸吉 立教大学 (平塚7.10.10東理)
- 土屋 貴晴 立教大学(社会学部)
- 佐野典三郎 神奈川県立ふじのくに村
- 岡 智子 筑波技術短期大学
- 知念 勇夫 東海大学
- 知念 勇夫 東海大学

第26回 学生会大会予告

期日：平成8年11月23日(土)、24(日)

会場：奈良女子大学

〒630  
奈良市北魚屋西町

● 編集後記

12月10日(日)に総会が開催されます。そのご案内を兼ね予定を上げての発行です。総会には是非ご出席下さい。

1996年 5月

# 学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会  
(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

No.59

## 学会会長に就任して

前野 淳一郎  
代表理事・編集長

このたびご推挙を頂きまして、前会長池田大先生のお受け、任職ある日本レジャー・レクリエーション学会の会長を引き受けましたことになりました。何分にも力不足ですが精一杯努めますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、昭和40年に日本レジャー・レクリエーション研究会が発足した当初より、専ら「レジャー・レクリエーション・施設・環境」分野を研究する立場から会員として参加し、昭和60年、日本レジャー・レクリエーション学会が結成されたからは、理事、副会長として働きながらその運営に関わってまいりました。

当時アメリカ合衆国で、確固たる理念の下に運営されていた「Parks & Recreation」運動の進め方に、何回かの取材が因にもなってくるに違いない、と夢見たものもした。

その後、本学会の学会研究の対象はレジャー・レクリエーションへと拡がることになりましたが、空間・施設・環境の研究分野でも、アメリカなどであるとか景観問題、自然や歴史環境の保全問題など市民参加によるまちづくり、そしてエコロジーやリサイクル・リノベーションの問題等々、新しい

展開をみるようになっていきます。

「活動・行動/生活様式」と「空間・環境/施設・場の、相互に融合性・統合性を伴った整合性、いまや求められているところではないでしょうか。

今現在の私の夢は、「レジャー・レクリエーションによる新しい地域/まちづくり」であり、「国土/地球全体のレジャー・レクリエーション空間化」にほかなりません。

さて、お蔭をもちまして、前任役員者の皆さん方の意志ならぬご努力ご苦心により、学会の財務状況は驚く安定的方向に向かいつつあり、また事務局体制もこのころ前後に充実されつつあります。この上は、会員の皆様のご意向十分に反映させながら、平常心をもって運営することなく、学会の正常運営に専心して存じてまいります。

ついてはこの余白を通じて、21世紀に向けての学会の運営や研究の方向・あり方など、何でも結構ですので、どしどしご意見をお寄せ下さいますようお願いを申し上げます。

理事長に再び推されて

鈴木秀雄 (関東学院大学法学部教授)

去る平成8年3月30日に関東学院大学法学部において開催された理事会は役員改選期の会合であり、その際上、はからず理事長に再度推され、新たな二年間の理事長としての重責に身の引き締まる思いである。前任期の理事長としての務めでは、今までの学会の流れを整理することなく運営することに精進を怠らなかつた中で「あつ」という間に過ぎ去ってしまった感がある。

しかし思い返せば、役員改選期会合より前に理事会の将来を思慮したご指導いただいたことはもとより、事務局が置かれていた東京女子体育大学の鈴木淳一先生をはじめ、事務局を支援担当された松浦三代子先生、大橋謙二先生の献身的なご努力、そして言うまでもなく多くの役員並びに会員の皆さんのご協力により、理事長としての役割を果たすことができたことは論を待たないところである。

開催地の市民参加を実現した第24回学生会大会(注：北海道札幌短期大学)、研究実践の融合をはかるべく研究発表と実践報告を新しく取り入れた第25回学生会大会(注：関東学院大学)の開催。これらの大会では会員の交流をはかるべく懇親会にも工夫を凝らした。また学生会ニュース(NO.55号~NO.58号)の発行、「レジャー・レクリエーション」(第27号~第33号)の発行、発行は初めての記事となった「日本レジャー・レクリエーション学会の歩み(1964~1995)」(第32号)の発行、また、その力を十二分に発揮するたためには、それぞれの役割(任務)である。事務局長、事務局次長、幹事長を担当された。坂口正治東京女子体育大学教授、西田俊夫大阪大学教授、沼津達夫大阪大学助教授の三氏との連携が実効的であり、その視点からも賛同的な事務局業務の実現のため非常に効果的として関東学院大学法学部にいられたことは、人間的充実も実現している。

新役員の方々の、会員の皆さんからの変わらぬご支援、ご協力をいただき、非常に大きな力ではあります。引き続きよろしくお願い申し上げます。ご支援をお願いいたします。

日本レジャー・レクリエーション学会役員名簿(1988年度~1989年度)

会長/前野 淳一郎(東京女子体育大学)	総務 三代子(東京女子体育大学)
副会長/萩原 吉雄(福岡学院大学)	総務 津野 幸(実践女子大学)
総務 池田 信(明治大学)	理事 井 正樹(千歳大学)
事務 高橋 敏彦(福岡県福岡市)	理事 藤田 博樹(知里大学)
田中 幸吉(立教大学)	大橋 謙二(東京女子体育大学)
顧問/池田 大先生(自白学園)	小田切 毅一(奈良女子大学)
江崎 慎一郎(中央大学)	松本 雅江(藤井ロック研究所)
木下 茂樹(日本大学)	松本 文昭(福岡大学)
監事/鈴木 水樹一(東京女子体育大学)	中 島 聖徳(名古屋大学)
水 嶋 正保(東京農工大学)	芳賀 隆樹(奈良女子大学)
理事 尾崎 尚(東京女子体育大学)	藤田 博樹(知里大学)
常任幹事/荒井 秀一(筑波大学)	松本 雅夫(福岡大学)
藤田 隆江(筑波大学)	宮下 桂治(早稲田大学)
石井 秀夫(立教大学)	守 藤 誠(中央大学)
坂口 正治(東京女子体育大学)	宇田 文男(上野大学)
堀 敏彦(筑波大学)	山口 勝雄(神戸大学)
下村 孝一(関西学院大学)	藤田 博樹(知里大学)
西田 俊夫(大阪大学)	幹 事 岡 智子(筑波技術短期大学)
西野 仁(教員大学)	池 田 秀 雄(立教大学)



### 新事務局の案内

1996年度～1997年度の事務局が  
東京女子体育大学から「関東学院大学」  
に移転しました。

事務局住所：〒250 神奈川県小田原市原産  
1162-2  
関東学院大学法学部(小田原校地)体育館内  
●電話・FAX：0465-32-2617  
●郵便振替：00150-3-602353  
●事務局開設日：月・火・水  
10:00am～3:00pm

### 1995年度

#### 日本レジャー・レクリエーション学会 臨時総会〈議事録〉

■日時/1995年12月10日(日) 13:00～  
■場所/国立オリンピック記念青少年総合センター

●出席者 挨拶  
●議長及び議事録審議人の選出  
●議長……………新井淳一郎副会長  
●議事録審議人……………高橋 伸介委員(国際経営大学)  
●議事録委員……………各地学生代表(5名3学団)

●議事をすすめる前に、山崎会長(余暇国際研究所)よりその重要性が論議として提言された。学生による採決の結果、「第1号議案は必要がない」と23名、「第1号議案は必要である」と12名、「第1号議案」が6名となり、この動議は採決された。したがって、第1号議案は採決の必要がないと認められ、第2号議案から審議がすすめられた。

第2号議案 専門分科会設置に関する規定の一部改訂(本則からの読みかえ)について

間規定「1. 全則第17条の規定により…」を第18条に改訂することが承認された。  
第3号議案 理事会の運営に関する規定の一部改訂(本則からの読みかえ)について  
間規定「1. 全則第16条の規定により…」を第17条に改訂することが承認された。

### 1995年度

#### 日本レジャー・レクリエーション学会(第8回) 常任理事会〈議事録〉

■日時/1995年12月16日(日) 16:00～  
■場所/国立オリンピック記念青少年総合センター  
■出席者/浅田、高野、秋吉、高橋、鈴木(秀)、石井、辰川、寺島、松浦、松田、宮下、師岡、湯井、理事……………西田、幹事……………大庭、嶋崎、寛井

●浅田会長挨拶  
●常任理事会(第7回)及び臨時総会の承認・承認  
第1号議案 役員候補者選考委員会委員の選任について  
配布資料「役員候補者選考委員会委員(案)」に基づき、今回の委員会の構成メンバー及び委員会のあり方について説明があり、承認された。

第2号議案 理事会(第3回)開催について  
本会議後、理事会对して理事会(第3回)が開催されることと承認・承認された。

第3号議案 臨時総会(第1次)の開催について  
臨時総会(第1次)の運営・実行について下記の承認が承認・承認された。

●臨時総会(第1次)の通知は579名に発送し、出席10、委任166という結果を得ている。  
●責任者は、会則では、総会の議決に必要とされていなかったが、今回は出席者の過半数で議決を行うことと承認された。  
●総会の召集は、会長が行うということが承認された。

その他  
●新入会員の承認 (所屬)  
(既会員) 久米秀作 帝京平成大学

### 1995年度

#### 日本レジャー・レクリエーション学会 (第9回)常任理事会〈議事録〉

■日時/1996年3月30日(土) 11:00～12:00  
■場所/関東学院大学法学部小田原校地

■出席者/浅田、高野、秋吉、高橋、鈴木(秀)、石井、辰川、芳賀、松浦、松田、宮下、師岡、湯井、理事……………越智、理事……………西田、幹事……………寛井

### 1996年度

#### 日本レジャー・レクリエーション学会 理事会〈議事録〉

●浅田会長挨拶  
●常任理事会(第8回)及び臨時総会(第1次)の議事録の承認・承認  
●新役員の学術会議登録の審議通知(4月末まで)についての報告  
第1号議案 会計監査報告  
第25回学術大会決算報告  
配布資料「日本レジャー・レクリエーション学会第25回記念大会決算報告」に基づき、同大会の会計監査報告が行われ、資料訂正後、理事会にて改めて報告することと承認された。

●本部会計監査(中間)  
配布資料「1995年度会計監査中間報告書」に基づき、本部会計の中間報告が行われ、研究誌33号の完成後、最終的な決算報告を行うことと承認された。

第2号議案 新理事会への移行について  
次のイ～エの議題を、理事会及び新理事会においてはかることと承認された。

イ. No.59 学生会ニュースについて  
ロ. 第26回学術大会について  
ハ. 事務局機能について  
ニ. 学生会の運営について

その他  
●新入会員の承認 (所屬)  
東京女子体育大学  
大阪工業大学  
八王子ユニバーシティ学院  
田口範子 宇都宮女子学院(津島)

●新事務局(関東学院大学法学部)について  
所在地：〒250 小田原市原産1162-2  
関東学院大学法学部小田原校地体育館内  
TEL・FAX:0465(32)3217  
開設日時：月・火・水 10:00AM～3:00PM

●1996～1997年度役員内閣報告  
配布資料「1996～1997年度役員」に基づき、新役員が報告された。

### 1996年度

#### 日本レジャー・レクリエーション学会 (第1回)理事会〈議事録〉

■日時/1996年4月22日(月) 18:30～20:30  
■場所/国立オリンピック記念青少年総合センター  
■出席者/高野、田中、高橋、鈴木(秀)、石井、大庭、高橋、辰川、寺島、松浦、松田、宮下、師岡、湯井、理事……………高野、辰川、高野、理事……………石井、大庭、高橋、辰川、寺島、松浦、松田、宮下、師岡、湯井、幹事……………鈴木(秀)、高野、田中

### 1996年度

#### 日本レジャー・レクリエーション学会 (第1回)理事会〈議事録〉

●報告事項  
●1995年度常任理事会(第9回)、理事会(第4回)及び新理事会の議事録の承認・承認  
1. 議決事項と決定数  
2. 報告事項  
1. 平成7年度決算報告  
資料「1995年度決算報告書」に基づき、前事務局より平成7年度の決算報告があり、さらに鈴木幹事によるその監査報告がなされ、承認された。  
2. 事務局移転に伴う処理事項(会則第3条の(イ)等)事務局移転に伴う会則第3条の改正3案の採決された。  
3. 役員交代に伴う処理事項  
入会案内に新役員の名を載せることと承認された。

●事務連絡(会議通知等)の方法について  
FAXによる会議通知の方法を検討したが、かまわず郵送となる場合があることなどから、主に郵便によって通知する旨報告があった。

田中幹事  
1. 役員内閣・事務分掌について  
「資料1」により役員内閣及び事務分掌について提案があり1)常任理事、2)専門委員会の正副委員長、3)学生会推進、6)幹事は原産

り承認された。また、4)議事録担当及び5)理事候補は、協力するが公的な位置づけではないことと承認された。

2. 学生会ニュースNO.59号について  
「資料2」に基づき、学生会ニュースNO.59号の内容を下記の一～九の項目にすることで承認された。なお、本年度の学会大会は、前年度に引き続き、研究発表並びに実務報告の場をもちうることと承認された。
- (学生会ニュースNO.59号の内容)  
1. 挨拶(会長・理事長)  
2. 新役員・幹事名簿  
3. 事務局案内  
4. 総会・理事会・常任理事会報告  
5. 大会案内  
6. 大会発表手続き  
7. 新入会  
8. 会則・議定書(第3条の(新事務局、議定書の改訂))  
9. あゆみ・展望(送別別、1冊2000円)
3. 第26回学術大会発表申込に関する日程について  
上記大会の発表申込締切日を1996年6月20日、発表原稿提出締切日を7月15日とする承認された。

- IVその他  
1. 学会目標の再見について  
「資料3」に基づき、理事会として、下記の3案を審議し推薦し、会長より審議することと承認された。
- 浅田大会員 (五十名超)  
江崎副大会員  
木下次郎委員
2. 新事務局(学長)への会長挨拶  
新事務局の設置された関東学院大学へ前野会長が挨拶した。承認された。
3. 常任理事会(第1回)の日程について  
日程調整として承認された。
4. 新入会員の承認 (新入会員)  
穴戸和行 筑波大学大学院  
阿部一夫 環境農大
- ＜配布資料＞  
「日本レジャー・レクリエーション学会 役員名簿」  
「1995年度決算報告書」  
資料1「1996～1997年度役員(常任理事等)・事務局分掌(案)」  
資料2「学生会ニュースNO.59号の内容について」  
資料3「学会の顧問候補について」

## 第26回学会大会開催案内

開催期日：1996年11月23日(土)～24日(日)  
場所：奈良女子大学 〒630 奈良市北魚屋西町 ☎0742-20-3344

### ●研究発表の申込み●

1. 発表申込みの方法  
ハガキに演題、所属、氏名(共同研究または個人研究の区別)、住所、電話番号を記入の上、6月20日までに、本事務局にお申込みください。所定の原稿用紙を送付します。発表原稿(A4判2枚または4枚)の締切は7月31日(郵着)です。共同研究者も学会員に限られます。非学会員の場合は至急入会手続きをお願いいたします。
2. 申込み先(本事務局)  
〒250 神奈川県小田原市原産1162-2  
関東学院大学法学部体育館内  
日本レジャー・レクリエーション学会宛  
TEL&FAX 0465-32-2617

## 会員の動静

●新入会員 (所屬)  
高橋 繁美 東京女子体育大学  
飯坂 徳雄 八王子レクリエーション学院  
田口 範子 学習院女子高等科(非常勤)  
阿部 一夫 埼玉農業系  
穴戸 和行 筑波大学  
久米 秀作 帝京平成大学

●平成7年度退会者  
外川直志 志村秀徳 島津雄 角田真一 山本久次夫 川崎水 川崎純子 近藤美香 木村浩司 菊川直夫 森田昭子 手下一郎(死去) 西川清 門脇孝男 堀村久治

## 新専門分科会の設置

セラピューティックレクリエーション専門分科会設置された。興味・関心のある会員は本事務局へ御連絡ください。

## 編集委員会からお知らせ

「レジャー・レクリエーション」への研究論文を募集しています。投稿は、本事務局(関東学院大学)へお申込みください。多数の投稿を期待しています。

## 事務局からのお知らせ

「日本レジャー・レクリエーション学会の歩み-1984-1985-」の購入を希望する方へ  
角形3号(縦26mm×横277mm)B5判の選定用紙に380円分の切手をし、宛名を自書し「歩み」1冊分2000円(必ず80円切手で25枚)を封筒し申し込んでください。

①年会費(¥5,000)の納入は、お手数ですが、郵便振替(00150-3-602353)でお願い致します。但し、3年間年会費未納の場合は、規約第3条に基づき、会員サービスは停止させて頂く事になります。  
②W. L. R. A.(世界レジャー・レクリエーション協会)の第4回世界大会は、イギリス(ウェルズ州)のカーティフ市で7月15日～19日まで開催されます。詳細については、学会本部事務局にお問い合わせください。

## 編集後記

「10項目」のニュースは、新役員と事務局、新広報委員会による最初の学会ニュースです。学会の運営状況をより詳しく「学会ニュース」でお知らせできればと思っています。さらに、会員の皆様とのコミュニケーションをはかるために御協力の程よろしく御願い致します。

平成8年9月

# 学会ニュース

## 日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)  
発行人 鈴木 秀雄 編集 広畑伸外委員会  
事務局 〒250 神奈川県小田原市京浜1162-2  
関東学院大学法学部 (小田原校地)  
体育館内  
電話・FAX 0465-32-2617  
郵便振替 00150-3-692353

SEPTEMBER 1996  
No.60

### 第26回学会大会の開催によせて 多くの会員の皆さんのご参加を期待します

日本レジャー・レクリエーション学会  
会長 前野淳一郎

この度、千年の古都奈良で、わが国における女子の最高教育機関として由緒ある奈良女子大学のキャンパスをお借りして、第26回学会大会を開催致す運びとなりました。

多方面の分野にまたがる会員から、数多くの興味深い研究発表が行われるほか、高齢社会の到来に向けたレジャー・レクリエーション研究と実践の方向性を探るパネルディスカッションなど、多彩な行事が繰り広げられます。

年に一回、会員の皆さんがじかに触れ合い、意見交換や交流をすることのできる大事な機会です。是非とも沢山の皆様のご参加が得られますよう祈念をし、お願いを申し上げます。

## JSLRS ニュース10

- 1. 第26回の大会によせて……P.1 (前野淳一郎)
- 2. 第26回大会にあたって……P.2 (鈴木秀雄)
- 3. 大会開催のご挨拶……P.2 (小田切毅一)
- 4. 学会大会の案内……P.3
- 5. 学会大会のプログラム……P.4
- 6. 学会大会の発表演題……P.5
- 7. 第26回大会の組織・実行委員会……P.6
- 8. 常任理事会の報告……P.7
- 9. 会員の動静……P.12
- 10. 委員会・事務局からのお知らせ……P.12

## 第26回学会大会 (奈良女子大学 1996年11月23日・24日)

### 第28回学会大会の開催にあたって

日本レジャー・レクリエーション学会  
理事長 鈴木 秀雄

歴史と伝統に裏打ちされた文化が薫り、自然豊か  
な緑と公園の地において、奈良女子大学の多大な  
協力をお願いした第26回学会大会を開催すること  
となりました。

前野淳一郎新会長のもと初めての学会大会であり、  
大会テーマを昨年の「新しい時代の創造的発展」か  
らさらに「高齢社会におけるレジャー・レクリエ  
ーション研究と教育への期待」とし、特別講演  
では、本大会実行委員長で開催地でもある奈良女  
子大学の田中毅一教授より「レジャー・レクリエ  
ーションの史的変遷」についてのご講演をいただき  
ます。またテーマに沿ったパネルディスカッション  
を特別講演に引き続き開催いたします。パネルディ  
スカッションの内容は、まず主題に対する問題提起  
を受け、次にそれぞれのパネリストによる「セラビ  
ューティックレクリエーションに寄せる期待」、「介護  
福祉とレジャー・レクリエーション」そして「わ  
が国におけるレジャー・レクリエーション専門教育

成の課題」についての発題があります。学会として  
も昨年の第25回記念大会の開催に伴い、記念事業  
として学会自体の史的変遷を概観し学会活動の全体  
をまとめる意味から、32年間の足跡を踏む「日  
本レジャー・レクリエーション学会の歩み-1964  
-1995-」を渡田隆夫前会長のご指導をいただき、  
会員の皆さんのご協力を得て発行いたしました。が、  
その意味からも今回の特別講演及びパネルディスカ  
ッションは時代の要請に応えることができる内容で  
あると共に学会にとってもタイムリーなテーマによ  
る大会の開催となりました。勿論、研究発表は多分  
野にわたりそれぞれ23の演題について会員からの  
貴重な研究成果が発表されます。

さらなる研究・教育の発展を情報交換の場として、  
学会大会を活性化していきたいと考えておりますの  
で、会員皆さんの多数のご参加をお願い申し上げます。

### 第26回学会大会のご挨拶

奈良女子大学  
小田切 毅一

この秋の11月23-24日に開催されます第26回日本  
レジャー・レクリエーション学会大会を、奈良女子  
大学でお引き受けることになりました。大役を仰  
せつかり、皆様のご期待に届くことが出来るであらう  
かと、月が迫るにつれ、いささか緊張しております。  
全国各地から会員の皆様をお迎えし、学会大会を成  
功裡に終わらせるように、微力ながら最善を尽くす  
所存でございます。

奈良は申すまでもなく歴史と伝統の地であります。  
また緑と公園の地でもあります。これを機に晩秋の  
奈良に是非お出かけ下さいませ。レジャー・レク  
リエーションを研究する立場でレジャー・レクリエ

ーションを享受する立場とを同時に味わっていた  
たくことは、23日が「勤労感謝の日」であることに  
ちなみながらも、意味あることかと存じます。幸い  
大阪や京都とは交通の便も良く、奈良からの通勤・通  
学圏内にもなっております。

たいそうそこは何もできませんが、それでも奈  
良女子大学ならではの、古きや家族的規模を取り崩  
れ、僅かばかりの富裕な趣向など(?)が盛り込め  
ないものかと、たとえば参加者が全員で歌詠する機  
会を設けることも考えつづつあります。

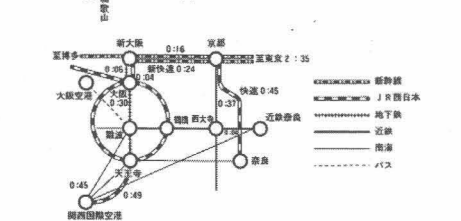
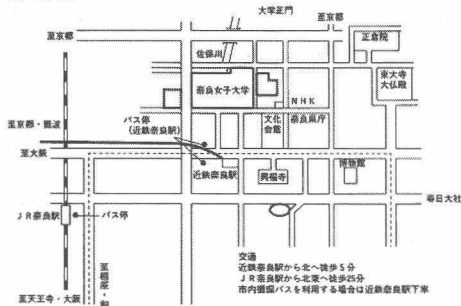
まずは奈良にて皆様にお会いできますよう、お待  
ち申し上げております。

## (奈良女子大学 1996年11月23日・24日) 第26回学会大会

### 第26回学会大会のご案内

■日 程 平成8年11月23日(出)～11月24日(出)  
■会 場 奈良女子大学

#### 案内図



理 事 会 平成8年11月23日(出)11:00～12:00 会場(文学部会議室)  
懇 親 会 平成8年11月23日(出)18:00～20:00 会場(5,000円) 会場(学生会館一生活協堂)  
総 会 平成8年11月24日(出)13:00～14:30 会場(記念館)

## 第26回学会大会 (奈良女子大学 1996年11月23日・24日)

### 大会プログラム

テーマ: 「高齢社会におけるレジャー・レクリエーション研究と教育への期待」

■日 程 第1日 11月23日(出)  
□(理事会) 11:00～12:00  
□受 付 13:00～  
□特別講演 14:00～14:40 (40分)  
「レジャー・レクリエーションの史的変遷」  
小田切毅一 奈良女子大学教授

□パネル  
ディスカッション 14:50～17:30 (160分)  
「高齢社会におけるレジャー・レクリエーション研究と教育への期待」  
問題提起(30分) 石井 九 立教大学教授  
パネリスト(各20分)

- (1) 「セラビューティックレクリエーションに寄せる期待」  
大 塚 孝 雄 東海大学教授
- (2) 「介護福祉とレジャー・レクリエーション」  
鈴 木 秀 雄 関東学院大学教授
- (3) 「わが国におけるレジャー・レクリエーション専門教育の課題」  
吉 田 圭 一 武庫川女子大学教授

※「質疑」(30分)  
司 会 下 村 彰 男 東京大学大学院助教

□懇親会 18:00～20:00

■日 程 第2日 11月24日(出)  
□受 付 9:00～  
□研究発表 9:30～11:50  
□総 会 13:00～14:30  
□研究発表 14:30～16:10  
●大会参加費 4,000円 ●懇親会費 5,000円

### 大会実行委員会から

※大会会場周辺での昼食については、食堂等に限りがありますので、11月24日(日)のお  
弁当(1,000円)の事前注文を受け付けます。返信業者で申込の上、代金を大会参加費、  
懇親会費などと共に下記宛て11月11日(月)までにお振り込みください。

振込先: 横浜銀行 小田原支店 (店番: 721) 口座番号: 1335942  
日本レジャー・レクリエーション学会事務局 (代表: 西田俊夫)

第26回学会大会 (奈良女子大学 1996年11月23日・24日)

第26回学会大会研究発表・実践報告演題

■ 研究発表 A会場

- 座 長: 石井 充 9:30~10:30
A-01 21世紀を展望したレジャー・レクリエーション運動の課題と視点-余暇能力(Lisurability)の開発と余暇化(Lisurization)の実現を中心に-
○鈴木秀雄 (関西学院大学)

- A-09 学外コース(泉島)の生涯スポーツに関する授業の取り組みについて
○上野直史 (いわか明星大学)
鈴木秀雄 (関西学院大学)
五十嵐幸一 (いわか明星大学)

- A-02 ヨハン・ホイッザルの近代文明批評のルーツに関する一考察
○杉浦 泰 (愛知教育大学)
A-03 日本人のレジャーの歴史に関する研究の試みその1. 研究の背景と目的、方法について
○西野 仁 (東海大学)
知念富史 (東海大学)
吉川麻里子 (スコーレクラブ)

- A-10 高齢者・福祉社会の新しい生涯スポーツ: バンゴルフ (BAHN GOLF)
~バンゴルフの楽しみ方(その2)~
○西田俊夫 (徳島大学)
A-11 首都圏大学生の歩行歩数量
~ペドメーターの測定による分析~
○沼津雅樹 (立教大学)
石井 充 (立教大学)
鈴木秀雄 (関西学院大学)
片岡義晴 (早稲田大学大学院)

- 座 長: 西田俊夫 10:30~11:30
A-04 日本人のレジャーの歴史に関する研究の試みその2. 中・大・高. 百年サラリマン. 大学生を対象として
○知念富史 (東海大学)
西野 仁 (東海大学)
吉川麻里子 (スコーレクラブ)

- A-12 スポーツ系専門学校生における人権観・価値観について
○奥田治久 (余暇問題研究所)
下田由香 (スポーツエデュケーションアカデミー)

- A-05 日本人のレジャーの歴史に関する研究の試みその3. 大学体育学学生を対象として
○吉川麻里子 (スコーレクラブ)
西野 仁 (東海大学)
知念富史 (東海大学)

- 座 長: 松浦三代子 9:30~10:30
B-01 冬季キャンプ経験が参加学生の感性に及ぼす効果
○針ヶ谷雅子 (明治薬科大学)

- A-06 女子大学生の日常生活場面におけるレジャー意識の検討-経路抽出法 (ISM) を用いて-
○佐藤由美 (神奈川大学)

- B-02 ネイチーフォークダンス教室の参加者について-野外活動経験と参加動機を中心に-
○野口和彦 (慶応義塾大学)
梶井泰彦 (ネイチーフォークダンス研究会)

- 座 長: 下村孝男 11:30~11:50
A-07 高校生におけるレジャーに関する実態調査
○寺嶋文代 (東京立正大学)
松浦三代子 (東京女子体育大学)

- B-03 高齢者の多様な活動に関する一考察
~1人1名の学習アンケート調査をもとに~
○片岡 麻里 (神戸YMCA情報研72444棟)
小泉勇治郎 (神戸YMCA情報研72444棟)
山下隆一郎 (神戸YMCA情報研72444棟)

- 座 長: 西野 仁 14:30~15:30
A-08 社会ダンス実施者の意識に関する研究
○竹内正雄 (鳥取大学)

第26回学会大会 (奈良女子大学 1996年11月23日・24日)

- 座 長: 沼津雅樹 10:30~11:30
B-04 WLRAとその世界会議の動向について(★)
○山崎洋子 (余暇問題研究所)
川崎妙子 (東海大学)
高橋 伸 (国際基督教大学)
栗原邦秋 (余暇問題研究所)

- B-08 震災ボランティアの社会的研究(1)
~性別による分析~
○高見 彰 (関西学院短期大学)
山口幸雄 (神戸大学)
土肥 隆 (神戸大学)
戸川俊男 (神戸YMCA)

- B-05 「楽しさ」を中心とした大学体育授業の質に関する基礎調査(★)
○高橋 伸 (国際基督教大学)

- B-09 震災ボランティアの社会的研究(2)
~参加者タイプによる分析~
○戸川俊男 (神戸YMCA)
山口幸雄 (神戸大学)
土肥 隆 (神戸大学)
高見 彰 (関西学院短期大学)

- B-06 フライングディスク競技フェスティバルブローに6巻を費す(★)-中邦にハンパについて-
○手塚麻美 (中部女子短期大学)

- 座 長: 坂口正治 15:30~16:10
B-10 キャンプに及ぼした影響
○谷戸 敏 (余暇問題研究所)
高橋和敏 (余暇問題研究所)

- 座 長: 田中伸彦 14:30~15:30
B-07 こどもの遊びに関する一考察
~教師視点をとおして~
○小泉勇治郎 (神戸YMCA情報研72444棟)
山下隆一郎 (神戸YMCA情報研72444棟)
片岡 麻里 (神戸YMCA情報研72444棟)

- B-11 現代女子学生の健康意識について
○生方 友代 (国立音楽大学)
斎藤哲也 (昭和女子大学)
藤井清江 (立教大学)

■ 第26回学会大会組織委員会

Table with 2 columns: Position (e.g., 大会会長, 大会副会長) and Name (e.g., 山本 徳郎, 野村 一郎)

Table with 2 columns: Position (e.g., 委員, 幹事) and Name (e.g., 松浦 三代子, 池田 雅博)

■ 日本レジャー・レクリエーション学会第26回大会実行委員会

Table with 2 columns: Position (e.g., 大会実行委員長, 副委員長) and Name (e.g., 小田切 寛, 石井 充)

Table with 2 columns: Position (e.g., 幹事局長, 幹事) and Name (e.g., 西田 俊夫, 高橋 伸)

1996年度 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第1回)議事録

日時: 1996年5月20日(月) 18:30~19:45
場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター 6F 602号室
出席: 高橋 伸(幹事), 池田 雅博(幹事), 石井 充(幹事), 坂口 正治(幹事), 西田 俊夫(幹事), 針ヶ谷 雅博(幹事)

● 出席委員長報告の挨拶

1. 確認事項

1996年度 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第1回) 議事録の確認

II. 報告事項

- 1. 前事務局長設置学理事長への挨拶(お礼)状送付について
事務局の移転に伴い、5月13日に前事務局長設置大学へお礼の挨拶状を送付した。
2. 前事務局移転準備完了について
事務局の移転が5月13日に現事務局に送られ、移転が完了した。
3. 現事務局設置大学への金品挨拶について
前野会長が5月16日に事務局である関西学院大学学長へ挨拶を行った。
4. 事務局の準備状況について
1) 入会案内の作成
2) 各種封筒(見本)・ゴム印の作成
3) 郵便物の発送確認(0059-3-60233-1)
4) ニュース No.59発行準備状況
5) 学大会案内・見直し依頼
6) 入会案内、ニュースNo.59の印刷の取扱いについて
各機関連絡が完了した。
7) 金品挨拶の準備状況について
8) 事務局の準備状況について
9. 学大会常任理事会の開催について
10. 事務局の準備状況について

×25枚)の切手、角型3号B5判返信封筒に郵送料¥380の切手を貼って事務局へ申し込む。

III. 審議事項

- 1. 専門委員会の役割・運営(年度計画)について
年度計画などの各専門委員会の検討事項は委員会を通じて審議するものとする。
2. 1996年度事業計画・予算(会費に占める事務局長報酬の割合)について
事務局予算について、委員会の30%の議決が得られる事を事務局で再度確認し、今年度の運営を行っていくことが承認された。
3. 学大会ニュースNo.59及びその後の発行計画について
学大会ニュースNo.59の内容については、印刷期を調整し、WLRAとの協力を加えることで承認された。

今後、年に何回発行するかについては、発行代金の予算化と共に関心委員の募集なども考慮しながら検討していくことになった。
4. レジャー・レクリエーション研究の発行年次計画について
年2回発行している学誌に関して、発行の時期、名簿掲載の取り扱い、住所変更、役員選挙等の年次活動計画を考慮して、専門委員会が検討することになった。
5. 会費の納入方法について
委員の会費の納入方法について、事務局および総務委員会で行った引き落とし等の業者委託を検討することになった。

IV. その他

- 1. 新入会員の承認 (所属) 日本体育大学
2. 新入会員は入会の承認を電話で報告することになった。
3. 次期常任理事会
1996年6月24日(月)18:30~
国立オリンピック記念青少年総合センター
\*高橋伸委員長への挨拶

1996年度 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第2回)議事録

日時: 1996年6月24日(月) 18:00~19:30
場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター 6F 804号室
出席者: 高橋 伸(幹事), 池田 雅博(幹事), 石井 充(幹事), 坂口 正治(幹事), 西田 俊夫(幹事), 針ヶ谷 雅博(幹事)

I. 確認事項

1996年度 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第2回) 議事録の確認

II. 報告事項

- 1. 入会案内の完成
日本レジャー・レクリエーション学会の新しい入会案内が完成した。
2. 第26回学会大会発表申し込み
現在まで28回の発表申し込みがあった。
3. 第26回学会大会準備状況
発表掲載順により発表会場4ヶ所と懇親会場が発表されている。
4. 事務局準備状況について
1) 郵便物の発送(0059-3-60233-1)
2) 銀行口座の設置
3) 学大会発表申し込み受付
上記の業務が完了したことが報告された。
5. 日本学術会議定款手続完了
入会案内第一号資料を追加して登録の手続きが完了した。
6. 学大会報告
編集委員会設置準備委員会報告
1. 学大会の定期発行について
2. 学大会誌の発行について
3. 学大会誌の発行について
4. 学大会誌の発行について
5. 学大会誌の発行について
6. 学大会誌の発行について
7. 学大会誌の発行について
8. 学大会誌の発行について
9. 学大会誌の発行について
10. 学大会誌の発行について

III. 議決事項

- 1. 学大会誌の発行について
2. 学大会誌の発行について
3. 学大会誌の発行について
4. 学大会誌の発行について
5. 学大会誌の発行について
6. 学大会誌の発行について
7. 学大会誌の発行について
8. 学大会誌の発行について
9. 学大会誌の発行について
10. 学大会誌の発行について

IV. 入会・退会の承認について

- 1. 新入会員の承認 (所属)
池田 雅博 日本体育大学
高橋 伸 関西学院大学
高橋 伸 関西学院大学
高橋 伸 関西学院大学
高橋 伸 関西学院大学
高橋 伸 関西学院大学
高橋 伸 関西学院大学
高橋 伸 関西学院大学
高橋 伸 関西学院大学
高橋 伸 関西学院大学

III. 議決事項

- 1. 理事の専門委員会への所属及び副会長の担当分野について
田中伸彦、杉本文四氏の就任が承認された。
2. 1996年度事業計画・予算(案)について
1996年度事業計画・予算案が承認された。
そのなかで予算案(支出の部)の関連団体費の内訳と内外学術団体交流費とする。事業計画に学術団体交流を加えることになった。
3. 学大会ニュースNo.59及びその後の発行計画について
広報誌委員会に計画をゆだねることが承認された。
4. 「レジャー・レクリエーション研究」の発行年次計画及び会員住所確認書受付について
編集委員会が検討することになった。
5. 会費の納入方法(銀行引き落とし等)調査

1996年度 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第3回)議事録

日時: 1996年7月22日(月) 18:00~19:30
場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター 6F 403号室
出席者: 高橋 伸(幹事), 池田 雅博(幹事), 石井 充(幹事), 坂口 正治(幹事), 西田 俊夫(幹事), 針ヶ谷 雅博(幹事)





平成9年1月

# 学会ニュース

## 日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

発行人 鈴木 秀雄 編集 広瀬渉伸委員  
事務局 〒250 神奈川県小田原市宮道1162-2  
関東学院大学法学部 (小田原校地)  
体育館内

JANUARY 1997  
No.61

TEL-FAIX 0465-32-2617  
郵便番号 40170-3-602253

### 新しい年を迎えて

日本レジャー・レクリエーション学会  
会長 前野 淳一郎

会員の皆様には1997年の新年をご健勝にてお迎えのこととお慶び申し上げます。  
昨年11月、良い学期と良い天候に恵まれ、素晴らしい環境・施設のおかげで多くの会員の参加により第26回の大会を開催することが出来ましたことを、たいへん有難く思っております。  
この大会では、特別講演やパネルディスカッションなど研究発表を通じ、「レジャー・レクリエーションの本質」をめぐって活発な意見交換が行われました。特に、武蔵野女子大学教授吉田圭一先生の、いまの日本に相応しい真に価値のある「レジャー・レクリエーション」の確立が急務であり、学会がそのガイドラインを示していく必要があるのではないかと、という発言が強く印象に残りました。  
こうしたことを真摯に受けとめ、学会としてもなにかしらのアクションを起こしていかなければならぬと肝に命じておる次第であります。会員各位による今後の討議への参加とご支援を心よりお願い致します。  
また、先般の総会では会則の改正と役員選出細則が承認され、より開かれた柔軟な学会運営への第一歩を踏み出すこととなりました。これを機会に心機一転、研究活動の活性化、新たな会員・仲間を獲得、他の専門分野との交流など必死の努力を怠りません。引き続き、より一層のご協力をお願い申し上げます。以上新年の御挨拶と致します。

### JSLRS ニュースB

- 1. 新しい年を迎えて (前野淳一郎)……………P.1
- 2. 奈良女子大学での第26回学会大会を開催して (鈴木秀雄)……………P.2
- 3. 第26回レジャー・レクリエーション学会大会を終えて (小田切敬一)……………P.3
- 4. 総会の報告—役員選出細則など……………P.4
- 5. 理事会・常任理事会の報告……………P.7
- 6. セラピーティックレクリエーション 専門分科報告—開催案内……………P.10
- 7. 編集委員会・事務局からのお知らせ……………P.11
- 8. 会員の動静……………P.12

## 奈良女子大学での第26回学会大会を開催して

理事長 鈴木 秀雄  
(関東学院大学法学部教授)

キャンパスの紅葉を鮮やかに引き立てる好天にも恵まれ、伝統ある奈良女子大学において第26回学会大会(平成8年11月22日～23日)が開催されました。概ね50年が経過した今日のレジャー・レクリエーションの教育と研究は、当初の目的と今日の社会ニーズとの間に少なからずギャップを生じているのではないかと懸念するべく、大会テーマを「高齢社会におけるレジャー・レクリエーション研究と教育への期待」とした。第25回記念大会の時同時に学会32年の歩み—1965—1995—を学会誌第32号として既刊しており、その延長線上にある課題として、特別講演を小田切敬一氏に「レジャー・レクリエーションの史的変遷」と題しお願いした。パネル・ディスカッションでは、下村彰男氏(東京大学大学院助教授)に司会をお願いし、「開拓提議」(石井立教大学教授)をいただくと共に同題(演者)として「セラピーティックレクリエーション」を寄稿する期待(大塚幸雄東海大学教授、「介護福祉とレジャー・レクリエーション」(筆者「鈴木秀雄」)そして「わが国におけるレジャー・レクリエーション専門学会の課題」(吉田圭一武蔵野女子大学教授)を掲げ発題開演した。大会テーマに沿ってレジャー・レクリエーションの「本質論」と「現実論」が語られ、それら二者の間に存在するギャップを「あるべき論」として提供した。理解すべき方向性や解決への方向性はそれぞれの研究者が、「特別講演」、「開拓提議」、「演題」を通して柔軟に思い描いたことと確信する。勿論、課題に対するBreaking ice的な企画であり、これを機に多くの会員による関連研究とその成果を待ち望みたい。

総会(特別事項)では、従来からの懸案である役員選出方法についても論議され、提案された役員選出細則が承認された。役員選出細則の趣旨及び役員は、「学会の活性化」と「学会の継続性」とのバランスをいかに保つかという視点であり、作成にあたり配慮した項目は次の10項目である：  
1) 理事役員の半ば以上と同一観点から、「理事総会」の半数にあたる15名を正会員による直接選挙(順位権記の5名選記による無記名投票)  
2) 改選前理事10名を、現行理事会での互選  
3) 学会運営の強化をはかるための理事長推薦理事5名以内  
4) 会長、副会長、監事は、選挙後初めての理事会で選出  
5) 会長、副会長は理事以外からの選出ができる  
6) 理事長は、新役員に選出された理事(25名)により、選挙後初めての理事会で互選  
7) 被選挙権及び選挙権の移譲を認める  
8) 役員の内訳に対し、補充選挙を行わず、全員については本則に従う  
9) 選挙管理委員会を設置し、その委員(5名)の推薦を理事会とした  
10) 学会の活性化の具体的な効果として、選挙権・被選挙権の確保により、会員の持続性の明確化をはかった(金費等手続き期日の指定)  
この役員選出細則の承認により今年制10条も「本会を運営するために、総会において正会員の中から次の役員を選出。(以下略)」から「本会を運営するために、役員選出規則により正会員の中から次の役員を選出。(以下略)」と改正され、1998—99年度役員選出は、この選挙制度の導入が実現する。選挙の導入により、正会員資格の確定が必要であり、会員の整理も重要である。「レジャー・レクリエーション研究」(第35号)の巻尾には、現任期の役員名簿及び会員名簿を掲載し、会員の(移)動による変更の持続性及び誤りの訂正等は巻首の部分に連絡用表を挿入した。第27回学会大会の開催(於：東京農業大学、期日：平成9年11月15日～16日)も第1報として案内をしたが、総会において承認され

た内容の具体化であり、会員の積極的な協力と次回学会大会への準備をお願いしたい。  
過去大会の発表趣向では、第25回記念大会の研究発表(23題)、実務発表(21題)の合計44題を除いて、20題台が15題あり、第26回大会も23題であった。発表がどのくらいというのをはなげ、会員の積極的な研究発表により次回学会大会には、過去5回記録を上回る30題台、またそれ以上の研究発表を期待するのである。  
今年大会の運営にあたっては、実行委員長であり、特別講演もお願いした小田切敬一氏並びに奈良女子

大学当局からの多大なご尽力とご支援をいただき感謝を申上げることができた。関係各位に心からの感謝を申上げると共に、役員一同責任の一端を果たすことができたことを大きな喜びとし、学会の発展には多くの課題をクリアしなければならぬが、会員諸氏の研究への熱意とご協力と、会員の学会へ寄せる熱意とご支援により、その道は必ず開けていくと信じている。  
新年にあたり、多方面に活躍の会員諸氏のご健勝とご多幸を心からお祈りし、また、平穏で良い一年であることを祈りたい。

## 第26回レジャー・レクリエーション学会大会を終えて

奈良女子大学  
小田切 敬一

去る平成8年11月24～25日、奈良女子大学におきまして、第26回レジャー・レクリエーション学会大会を開催させていただきました。第一日目の講演やパネルディスカッションから、第二日目の二会場に分かれたの縦横な研究発表へと、全国から多数の会員の皆様、が当地までご参加下さいました。予想を上回る盛況の内に終了することができましたことを、感謝申し上げます。誠にありがとうございました。  
しかしながら、古きばかりを取り柄(7)の小規模女子大学での二日間は、夢見ただけの会員の皆様には、さぞご不便をおかけしたことを思っております。唯一幸いなことは、二日間ともに天候に恵まれ、紅葉も盛りの奈良の秋の風情を楽しんでいたことではなかったか、とも思っております。  
何分にも施設や機器も不十分で、皆様の期待や要望に十分に対応できませんでした。また大会事務局の人手などが不足していた事情もありました。したがって予想通り、行き届かない点も多々発生してしまったことを、心苦しく思っております。御声お聴きいただいた会員の皆様には、何のおもてなしも出来ませんでした。それやこれやと、いろいろお許しい

たきますように、そんな中、学会本部事務局の方や役員の方々に、ひとかたならぬご協力ご協力をいただいたことにより、なんとか無事にプログラムをこなすことができたというのが、偽らざる実感となって現在に及んでおります。  
この度の研究発表など、今後の学会の発展にどのように生かされていくかにつきましては、会員の皆様方自身の真摯な対応や、学会活動への期待などとかかわってくる問題だと感じております。何れともあれ、レジャー・レクリエーションへの時代的ないしは運動的な質素も大きく変わりつつあるように思われる中で、今回の学会大会における論議が、新たな研究システムとしては研究体制づくりへの、今後の普及定ステップとなるようであれば、望外の喜びであります。  
学会大会の開催という大役を無事に果たしたことに安堵しつつ、微少なながらも日本レジャー・レクリエーション学会のお役に立てたことに、ある種の喜びを感じております。皆様方の一層ご活躍とご発展を祈りつつ、次回学会大会が無事終了したことに、お礼の挨拶に代えさせていただきます。

## 日本レジャー・レクリエーション学会 第26回学会大会総帳

### 22-1 1995年度 会計収支予算

1995年4月1日～1996年3月31日 単位：円(千)

収入の部		支出の部	
科目	収支差引	科目	収支差引
1 開催日時/平成8年11月24日(日) 13:00～14:30		1 第25回記念大会開催	
2 開催場所/奈良女子大学 記念館		2 第26回大会 平成7年度決算決算	
3 次 第		3 監査報告	
開 会		4 第3号議案 平成8年度事業報告	
挨拶		5 第4号議案 平成7年度収支決算	
議長退席		6 第5号議案 平成8年度予算(案)	
議長退席		7 第6号議案 役員選出細則(案)	
議事録署名人選出		8 第7号議案 会則第10条の改正(案)	
議 題		(7)その他	
1) 事務局移転について			
2) 第27回学会大会開催日・日程について			
3) 学会顧問の委嘱について			
閉 会			
(※以上全ての議案が承認されました。)			

### 1) 1995年度 事業報告

- 1. 事 業
- 1) 第25回記念大会開催  
期日：1995年9月23日(土)・24日(日)  
場所：関東学院大学法学部小田原校地  
議題：「レジャー・レクリエーション研究」の発行第31号(大会号)、第32号(歩み)、第33号
- 2) 学会ニュースの発行 76.57、76.58
- 3) 研究会の開催  
テーマ「自然レジャー・レクリエーション」
- 4) 学会25周年記念事業  
「日本レジャー・レクリエーション学会の歩み—1964—1995—」(第32号)の発行
- 5) 学会賞基金システム導入の設計
- 6) 役員選挙準備検討委員会の設置
- 7) 組織の充実・会員の拡充(新入会員46名、金費5年以上納入者の選出増加60名)

### 22-2 1995年度 決算報告書

1995年4月1日～1996年3月31日 単位：円(千)

収入の部		支出の部	
科目	予算	実績	増減
1 開催日時/平成8年11月24日(日) 13:00～14:30		1 第25回記念大会開催	
2 開催場所/奈良女子大学 記念館		2 第26回大会 平成7年度決算決算	
3 次 第		3 監査報告	
開 会		4 第3号議案 平成8年度事業報告	
挨拶		5 第4号議案 平成7年度収支決算	
議長退席		6 第5号議案 平成8年度予算(案)	
議長退席		7 第6号議案 役員選出細則(案)	
議事録署名人選出		8 第7号議案 会則第10条の改正(案)	
議 題			
1) 事務局移転について			
2) 第27回学会大会開催日・日程について			
3) 学会顧問の委嘱について			
閉 会			
(※以上全ての議案が承認されました。)			

③1996年度 事業計画

1. 事業  
1) 第26回学大会開催  
期日：1996年11月23日(土)・24日(日)  
場所：奈良女子大学
- 2) 機関誌「レジャー・レクリエーション研究」第34号(大金号)、第35号、第36号
- 3) 「学会ニュース」№59、№60、№61の発行
- 4) 日本レジャー・レクリエーション学会入会案内の作成
- 5) 組織の充実・学会員の拡充
- 6) 学報刊行の検討
- 7) その他
- II. 会議  
1) 学会総会の開催
- 2) 理事会
- 3) 常任理事会
- 4) その他

1996年度 各委員会事業計画

■研究会企画委員会

1. 第26回学大会テーマ及びシンポジウムの企画立案

■編集委員会

1. 「レジャー・レクリエーション研究」第34号、第35号、第36号の発行
2. 論文採録率の見直し検討
- III. 広報渉外委員会  
1. 「学会ニュース」№59、№60、№61の発行
2. 「学会ニュース」の編集方針  
①学会の運営状況をできるだけ詳しく掲載する  
②どのような記事が掲載されているか、わかりやすくするために記事の代表的なものを選び、1頁目に「ニュース10」として載せる  
③各委員、事務局からの記事の充実を図る  
④紙がよすい紙張りにする

■財務委員会

1. 会費の銀行自動振替導入
2. 賛助会員の募集

■総務委員会

1. 事務局転移に伴う諸業務
2. 年次会費・過年度会費の徴収
3. 会員住所の確認(名簿整理)

■役員選挙準備検討委員会

1. 役員選出細則の作成

④1996年度 予算

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
総務費	83,877	印刷費	1,800,000
庶務費	1,800,000	学費	98,000,000
学費	100,000,000	研究費	5,000,000
印刷費	1,800,000	出版費	1,800,000
出版費	1,800,000	広報費	100,000
広報費	100,000	雑費	5,000
雑費	5,000	その他	40,000
その他	40,000	合計	1,857,877
合計	1,857,877		

⑤日本レジャー・レクリエーション学会 役員選出細則

- 平成 8 年 11 月 24 日 制定
- (趣旨)  
第1条 この細則は、会則第12条に規定する役員を選出するに、必要な事項を定める。
- (適用の時期)  
第2条 すべて役員は選出後、その任期の前半のうちに行わなければならない。
- (選出の種類と人数)  
第3条 この細則により選出される役員の種類と人数は、会則第10条の規定により次のとおりとする。  
①会長 1名  
②副会長 若干名  
③理事 25名以上30名以内
- (資格の制限)  
第4条 選挙権、被選挙権は、選挙実施年度の12月31日までに正会員としての資格を有し、選挙実施年度の6月30日現在、当該年度の会費を収めている正会員とする。ただし、6月30

- 日以降に正会員の資格を失った者を除く。  
第9条 選挙より選出された新理事が、その就任を断念しようとする時は、通知が到着した日から5日以内に正当な理由を添付して選挙管理委員会に届け出なければならない。
- (補充選挙)  
第10条 予定途中において役員に欠員が生じても、補充選挙は行わない。
- (選挙管理委員会)  
第11条 役員(会長、副会長、監事、改選前理事長、理事長推薦理事を除く)の選挙を実施するため、選挙管理委員会(以下「委員会」という。)を置く。  
2. 委員は、5名をもって構成する。  
3. 委員の選出は、選挙人の推薦による。  
4. 委員の任期は、役員選出年度の5月1日から翌年度の4月30日までの2年間とする。  
5. 委員会は、委員長及び委員を、委員の中から互選する。委員長は、この細則に従って選挙を執行する責任と権限をもつものとする。  
6. 委員は、投票の期日、方法等選挙の1か月前に、公示しなければならない。  
7. 委員は、順位区分(1位～5位)を明らかにした氏名記入用紙を作成する。  
8. 委員は、被選挙人名簿及び投票用紙を、選挙の日以前に正会員届け出住所に送付しなければならない。  
9. 委員は、得票数が決定したと得票順位に上位30名までを一覧表を作成し確認印を押し、その結果を公示すると共に、理事会に報告する。
- (細則の改訂)  
第12条 この細則の改訂は、理事会の過半数の賛成を得て総会の議決による。  
2. この細則の変更は、会則の変更基準となる。
- 規則  
1. この細則は、平成10年度の役員改選から適用する。  
2. この細則は、平成8年11月24日から施行し、従来の役員選出規程及び申し合わせ事項は廃止する。
- ⑥日本レジャー・レクリエーション学会 会則第10条改正
- 研究会：特になし  
編集：「レジャー・レクリエーション研究」36号の特集として別紙の資料で内容が紹介された。後援規定の見直しについて検討が行われたことが報告された。
- 広報渉外：今年度の「学会ニュース」の編集方針と内容について資料を示し、学会及び会務の発刊予定について報告された。
- 財務：内容は前回の7に譲る。
- 第26回学大会準備状況について  
最終決めの段階であることが示された。
- III. 事務局  
1. 役員選挙準備検討委員会(第2回) 11/5開催  
役員選出細則の実行に伴う手続き及び必要事項について  
2. 会費の徴収について  
2. 会費の徴収について  
3. 会費の徴収について
- IV. その他  
1. 次期常任理事会(第7回)の日時について  
1996年11月11日(日) 18:30～20:30  
国立オリンピック記念青少年総合センター 研修館 8F 805室

改正  
「本会を運営するために、役員選出規則により正会員の中から次の役員を選出、理事25名以上30名以内(半数は正会員に限る。おび理事長1名)、監事2名。」

(7)その他

1. 事務局転移について  
東京女子体育大学から関東学院大学(法学部 小田原校所)へ
2. 第27回学大会開催地・日程について  
会場：東京農業大学  
(東京都豊台5丁目1-1 Tel. 03-3420-2131)  
期日：平成9年11月15日(土)・16日(日)
3. 学会顧問の委嘱について  
浅田隆夫  
横山四郎  
木下茂博  
(五十音順)

1996年度  
日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第6回) (議事録)

期日：1996年10月28日(日) 18:30～20:00  
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター 15号棟 4F 401号室

出席者：前野、田中(編)、鈴木(務)、荒井、石井、堀口、嶋崎、西田、松浦  
幹事：沼澤、杉本(文)、田中(伸)

会長の挨拶  
1. 確認事項  
1996年度日本レジャー・レクリエーション学会常任理事会(第5回) 議事録の確認

- II. 報告事項  
1. ニュース№60号の既発行・送付  
1) 大会参加向け会費乗書の送付  
2) 過年度会費請求票の送付  
2. 第26回学大会(第34号)編纂準備状況  
1) 発行・発送日程  
見本割りを回覧して、内容を確認した。今年中に発送する表紙カラーについては事務局に任することが承認された。  
2) ISSNの番号申請について  
過去に2つのISSNがあるため、当回の発行は確認することが報告された。  
3) 会誌「最新研究の整理と加筆」(投稿者)編纂と4号3月21日発行  
4) 研究誌の印刷・表現に関して  
英文委員の整理および整理表に年次月を記入することが了承された。
3. 学術誌第35号への投稿者(3名)への受理証交付
4. 各委員会報告(総務、研究会、編集、広報渉外、財務)
5. 役員選挙準備検討委員会報告  
1) 各委員会からの提案提出及びその試案前検討  
2) 委員会開催(10月23日(祝))報告  
委員会において理事25名以内5名を推薦選挙で、10名程度を現行理事から推薦することなどが委員会結果として報告された。その他、金銭納入に伴う選挙権と被選挙権の問題、選挙管理委員会などについて議論がおこなわれ、11月1日の常任理事会に向けて提案を作成する。
6. 第26回学大会(於：奈良女子大学)の宿泊案内  
1) 実行委員長より手配案について  
2) 東京観光学生会の確認(担当：山下 下野文氏：TEL 03-3462-0351)  
7. 広告料及び賛助会員の募集について  
1) 表3 (10万円) - 関東学院大学 1ページ (5万円) - 東京体育専門学校、JTB海外旅行虎ノ門第4支店、パーページ (3万円) - 丸栄丸栄、桜尾高層ホテル、フェルベス、石塚印刷、マスタッシュ  
2) パーページ (1万5千円) - 山田山ゴーツ  
2) 締切日と大会費発行の関係について  
最終判断は10月25日に行う

- III. 審議事項  
1. 第26回学大会(第34号)の編纂・発行状況について  
2. 第26回学大会時の総会運営について  
1) 執行部(議案提案者)の席順の位置について  
執行部が責任を担うこと、席順をまとめる確保するように配慮することが承認された。  
2) 各委員会の報告と委員会による提案の実行について  
次期常任理事会において提案すること  
3) 委員会資料の作成について  
次期常任理事会において提出する  
3. 役員選挙規程の第26回学大会案提案と現状について  
選挙管理委員会の設置、選挙の方法等について、委員会でも検討をおこなって次回の常任理事会で提案し審議する予定

4. 第27回学大会開催地・日程について  
(東京農業大学、11月15日(土)～16日)  
東京農業大学の承継先より資料内で上記の内訳を明記した報告があり、総会で提案することが承認された。
5. 会員の入会について  
(入会者氏名) (所属)  
前掲 明 倉敷市立短期大学  
島田道治 カルネーエチエークラブ  
松浦龍子 神戸女子大学  
鈴木雄一 名古屋文化学園保育専門学校  
(選挙者氏名) (所属)  
吉田正志 日本レクリエーション協会  
藤澤健男  
白木静枝  
徳松隆司
- VI. 他  
1. 次期常任理事会(第7回)の日時について  
1996年11月11日(日) 18:30～20:30  
国立オリンピック記念青少年総合センター 研修館 8F 805室  
2. 役員代行出席および幹事の扱いについて  
代理出席では責任を負えないため認めない

1996年度  
日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第7回) (議事録)

期日：1996年11月11日(日) 18:30～20:00  
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター 研修館 8F 805室

出席者：前野、黒川、高橋、田中(編)、鈴木(務)、荒井、石井、堀口、嶋崎、西野、松浦  
幹事：沼澤、田中(伸)

会長の挨拶  
1. 確認事項  
1996年度日本レジャー・レクリエーション学会常任理事会(第6回) 議事録の確認

- II. 報告事項  
1. 第26回大会(第34号)発行(郵送済み)について  
第26回日本レジャー・レクリエーション学会の大会号を発刊し、全員に郵送した。  
2. WLR A会費納入確認(¥8,490/104.02 CAD Rate 81.623yen/g) for a CAD  
3. 役員選挙準備検討委員会(第2回) 11/5開催  
内訳は前回の7にて譲る  
4. 各委員報告(総務・総務(議事録・新報))  
総務：大会号の見送終了
- 研究会：特になし  
編集：「レジャー・レクリエーション研究」36号の特集として別紙の資料で内容が紹介された。後援規定の見直しについて検討が行われたことが報告された。
- 広報渉外：今年度の「学会ニュース」の編集方針と内容について資料を示し、学会及び会務の発刊予定について報告された。
- 財務：内容は前回の7に譲る。
- 第26回学大会準備状況について  
最終決めの段階であることが示された。
- III. 事務局  
1. 役員選挙準備検討委員会(第2回) 11/5開催  
役員選出細則の実行に伴う手続き及び必要事項について  
2. 会費の徴収について  
2. 会費の徴収について  
3. 会費の徴収について
- IV. その他  
1. 次期常任理事会(第7回)の日時について  
1996年11月11日(日) 18:30～20:30  
国立オリンピック記念青少年総合センター 研修館 8F 805室  
2. 役員代行出席および幹事の扱いについて  
代理出席では責任を負えないため認めない

- 2) 費表紙(年日記帳)
- 3) 高表紙(英文1行)
- 6. 第35号の発刊に併せて号外への取り組みの内容について
  - 1) 第27回学大会開催地・日程の案内の第1報(大会実行委員会の決定が必要)
  - 2) 住所確認用の書写【名簿作成上正確を要すること】役員選出(選挙)に対する事項】今年度中に「学会ニュース」を発行し、その中に書写を記入する
- 7. 会費の自動振替について
  - 学費の自動振替については、予算の目安がつく、事務局の仕事が楽になるなどの報告があり、今年度中に決定する予定だったが、今後は継続して審議していくことが承認された

IV. その他

- 1. 理事会(第2回)の手続きについて
  - 会場:奈良女子大学
  - 日時:平成8年11月23日(日) 11:00am~12:00noon
- 2. 新入会員について
  - (入会者名簿) (所属)
  - 樋口雄乃 藤女子短期大学
  - 木原俊郎 関西学院大学
- 3. 次期常任理事会の予定について
  - 会場:オアシスパーク青年センター
  - 日時:平成8年12月16日(日) 18:30~19:30
  - 終了後懇親会を予定
- 4. 理事会資料を11月18日に発送するの各委員会で間に合うように事務局に郵送する

1986年度

**日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第8回)議事録**

日時:1996年12月16日(日) 18:30~19:30  
場所:国オアシスパーク記念青少年総合センター 研修館7F-702室

出席者:前野、黒田、高橋、鈴木(男)、荒井、石井、坂田、堀越、西野、松浦  
幹事一沼、杉本(文)

会長の挨拶

1. 常任理事会(第7回)議事録の確認  
理事会(第2回)議事録の読み  
第26回学大会総会開催事務の扱い(ニュースNo.61に添付予定)

II. 報告事項

- 1. 第26回学大会に関わる処理事項

- 1) 参加者数統計
  - 大会参加:98名 特別講演等:86名
  - 総集巻:34名 総会:46名
- 2) 大会開催校へのお礼
- 3) 大会号への広告掲載に対するお礼
- 4) 大会決算報告

- 1) 内部事務局で準備した文具等を会の大会総集巻について
- 2) 印刷部について
- 3) 印刷部による昼食代の取扱いについて(特別講演、パナレディスカッションのテープおとしの費用(第3号への掲載))
- 5) 発表演壇に関わるレジャー・レクリエーションの存在(内容・費)について以上、学大会関係の処理事項について報告された

2. 理事会推薦の選挙管理委員会(任期:平成9年5月1日~平成11年4月30日)のお問い合わせ

- 役員選出に伴う選挙管理委員を以下の5名にお届けする
- 東海支部:中島豊雄 近畿支部:山口麻雄 九州支部:松尾豊隆
- 常任理事:堀越 幹 理事:大森雅子
- 3. T.R.専門分科会会(平成8年11月24日学大会最終決断後)の報告
  - 1) T.R.専門分科会の今後の方向性について
  - 2) 会員のT.R.専門分科会への参加要約に關する広報について
- 4. 「ジャーナリズム」専攻(通称)の進捗状況
  - 1) 役員・会員の登録(選挙事務のための案内を含む)
  - 2) 第26回学大会報告及び第27回学大会(第1報:開催場所、期日)
  - 3) 住所確認用書写の組み込み
  - 4) 日次の新規取り付けについて
- 5) 以上を掲載して12月中旬には全員に配布されることが報告された

III. 審議事項

- 1. 第26回学大会に関わる処理事項について
  - 1) 発表の形態、座席の確認事項、発表者の変更の許可及び届け出
  - 2) 後編のレジャー・レクリエーション性(レジャー・レクリエーション的との異なり)について、次回の常任理事会に議題として提案する
- 2. 総会決定に関わる事項について
  - 1) 役員選出細則の実行に伴う手続き及び

- 必要事項について
  - ① 必選前理事(18名) 選出の続き
  - ② 会長、副会長、監事選出の続き
  - 以上について、事務局から次回常任理事会に提案する
- 3. 「学会ニュースNo.61」(新年号)について
  - 「学会ニュースNo.61」(新年号)の内容の説明があり、1月中旬に印刷予定であることが報告された
- 4. 年会費支払いによる通会者等の再入会の取扱いについて
  - 3年以上の年会費未納者は退会となっており、当該未納分を払わずに再入会することを認めないことが了承された

- 5. 第27回学大会テーマの決定について及び次大会テーマの総会発表について
  - 1) 事前決定と十分な準備期間の確保
  - 2) 学会員による特別講演・パナレディスカッション等の推進
- 6. ロゴマークの募集・制定(審定委員会の設置)について
- 7. 新入会員の承認について
  - 新入会員の承認、申し込みのあり方について検討する必要があるとの意見が出された
- IV. その他
  - 1. 次回常任理事会(第9回)の日時について
  - 1997年1月27日(日) 18:30~20:30(予定) 場所は未定

セラピューティックレクリエーション  
専門分科会報告

第26回学大会最終日の平成8年11月24日午後4時30分より午後6時まで奈良女子大学N-102教室において、多数の会員参加によって以下の活動方針などについてセラピューティックレクリエーション専門分科会が開催された。

- 1) T.R.専門分科会委員長・副委員長・事務局長・幹事について
- 2) T.R.専門分科会の今後の方向性
- 3) ワークショップ組織の設立とその関係・運営について
- 4) 事務局の決定について
- 5) 共同研究会の開催について

- 6) 学会での共同研究発表について
- 7) 学会研究誌への投稿について
- 8) 会の運営にある会員について
- 9) T.R.専門分科会報告について
- 10) 会員の大会手続きについて
- 11) 月例会について
- 12) T.R.専門分科会ニュース(タイトル・マーク・ロゴ等)について
- 13) 会員(地域・専門分野・関心分野の特定)名簿の作成について
- 14) その他

セラピューティックレクリエーション  
専門分科会研修会(第1回)の開催案内

セラピューティックレクリエーション専門分科会(以下「T.R.専門分科会」と略す)のはじめの学大会が第26回学大会(於:奈良女子大学)時に開かれ、今後、広く会員の参加を求め、研修会などの開催をしていくことが承認されました。

そこでT.R.専門分科会では、下記のとおり研修会を開催いたします。会員の参加をお待ちします。

研修会では、講演と共に、今後の専門分科会活動の内容などについても意見交換をしていきます。随省のレクリエーションあるいは福祉レクリエーションなどに限定することなく、T.R.の概念を広げ、レクリエーションの効果と個人の生活の中に取り入れ、活用していくためのものとして捉え、T.R.の正しい普及と啓蒙を図るための研修会となります。

レジャー・レクリエーションの本質論や現象論ととも、あるべき論についても積極的に論議し、レジャー・レクリエーション論の討論もすすめます。

記

内容:【T.R.専門分科会研修会(第1回)】  
とき:平成9年3月20日(木・祝日)  
午後1時30分~午後4時  
ところ:関東学院大学法学部(小田原校地)  
J日小田原駅前、大学バス約10分  
(交通機関、キャンパス内の会場の詳細については選べて参加者にお知らせします)

講師:日本におけるセラピューティックレクリエーションの方向性あり方一特にレジャー・レクリエーション

機能の拡張と進化によりその活動効果をより確実にするために~

講師:鈴木秀雄  
(学芸理事兼・関東学院大学教授)

参加費:学費2,000円、非会費2,500円  
(当日受付にて徴収します。)

申し込み方法:必ず住所確認票の必要事項を記入の上、3月5日(水)必着にて申し込んでください。①住所、②氏名、③性別、④電話番号

号、⑤所属、⑥学費、非会費の有無を明記  
お返送にも必ず、自身の宛名を明記してください。  
申し込み(問い合わせ)先:  
〒250 神奈川県小田原市原庄1162-2  
関東学院大学法学部体育館内  
「セラピューティックレクリエーション  
専門分科会研修会」係  
電話おFax 0465-32-2617

委員会・事務局からのお知らせ

役員は、常時、受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には毎週でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿して頂く。会員の皆様への積極的な投稿をお願いいたします。

編後録文送付先:  
〒250 神奈川県小田原市原庄1162-2  
関東学院大学法学部・体育館内  
「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

**事務局からのお知らせ**

「レジャー・レクリエーション研究第35号」に会員名簿が掲載されました。住所の確認をさせていただきますが、住所、所属に変更のあった場合には、速やかに事務局までご連絡下さい。また、お知り合いの会員の確認もお願致します。

●パンフナー(「あゆみ」を含む)の実費領書の値段  
1. 「あゆみ」32号は、  
1冊、¥2,000(郵送料¥390)  
※既報済み

**「役員選出細則」が承認され選挙の導入決まる**

学会の1998~1999年度(任期)からの役員選出を「役員選出細則」(規程(第7項))に基づき、進出することとなりました。また、同細則第1条の規定にない選挙管理委員会の設置が必要となっており、委員構成については、総会においても既に報告しておりますが、理事会推薦をもって下記により依頼申し上げますのでお知らせ(告知)致します。

2. 「あゆみ」を除く  
その他の研究誌(バックナンバー)は、  
1冊、¥500(送料別)  
10冊以上 20%引(送料別)  
20冊以上 30%引(送料別)

**■事務局だより■**

第26回学大会総会において、「役員選出細則」が承認され、選挙の導入に伴い選挙権及び被選挙権についても規定され、後行実施には年会費の納入についても役員選出年度の6月30日までに当該年度会費を収めていることが条件となります。

※新年度(平成9年度)は、役員改選年度にあたりますので選挙が行われ新役員が選ばれる年度でもあります。新年度になりましたら、学大会のご案内(研究発表申込の詳細)とともに、年会費の納入につきましても郵便振替によりお願い申し上げますので、期間内(6月30日まで)での納入につきましても宜しくお願いたします。

記

1. 選挙管理委員会の委員及び構成(細則第11条第2項より)  
\*5名  
大森雅子(理事)  
堀越 幹(常任理事)  
中島豊雄(理事)  
松浦 雅子(理事)  
山口麻雄(理事)  
(五十音順、敬称略)

2. 選挙管理委員会の任期(細則第11条第4項より)  
\*平成9年5月1日から  
平成11年4月30日までの2年間

3. 選挙管理委員会の委員長(細則第11条第5項より)  
\*選挙管理委員会の互選による

**次回第27回学大会は  
東京農業大学で開催**

次回学大会の開催は、下記のとおり  
東京農業大学と決定しました。

1、会期:平成9年11月15日(土)・16日(日)  
2、会場:東京農業大学  
〒156 世田谷区桜丘1の1の1  
電話 03-3420-2131

※研究発表申込等についての詳細は、ニュース第2号(次号)に知りお知らせいたしますので、ご準備ください。多くの会員からの研究発表と大会参加をお待ちしています。

会員の  
動静

- 新入会員 (所属)
- |         |                 |         |           |
|---------|-----------------|---------|-----------|
| 前 崎 明 治 | 金城市立短期大学        | 村 田 知 厚 | 鶴ラック計画研究所 |
| 島 崎 昭 治 | カル・ネイチャークラブ     | 村 井 晴 子 | 大阪女子短期大学  |
| 松 浦 雅 子 | 神戸女子大学          |         |           |
| 木 根 一 一 | 名古屋化学情報学専門学     |         |           |
| 樋 口 佳 乃 | 桜井女子短期大学        |         |           |
| 木 田 俊 博 | 関東学院大学          |         |           |
| 荒 川 昌 彦 | 埼玉大学附属義塾学校      |         |           |
| 木 村 智 幸 | 船橋浜田スポーツ俱楽部     |         |           |
| 下 田 由 香 | スポーツエデュケーションアカデ |         |           |
- 平成8年度選出者  
(平成9年1月現在)
- |         |              |
|---------|--------------|
| 吉 田 正 志 | 日本レクリエーション協会 |
| 藤 瀬 義 博 |              |
| 白 木 静 枝 |              |
| 佐 藤 隆 男 |              |

平成9年8月

# 学会ニュース

## 日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

発行人 鈴木秀雄 編集 広瀬洋外委員会  
事務局 〒250 神奈川県小田原市原宿162-2  
関東学院大学法学部 (小田原校地)  
体育館内

AUGUST 1997  
No.62

日本レジャー・レクリエーション学会  
会長 前野淳一郎

### 開かれた学会運営を目指して

昨年秋に行われた第26回(奈良女子大)大会の総会で、会則の改正と役員選出制が承認されて以来、新く活きたシステムが整い、会々選挙制度の導入が実施されたこととなりました。色々のご意見もあつたとは思いますが、ここに「開かれた学会運営への第一歩」を踏み出すことができたのと考えております。

かくして一応の「形」は整ったわけですが、これからは会員皆様のご意見を大事にしなが、目まぐるしく変化を起している社会の要請に即応して行きたいものと志しております。更なるご支援とご協力をお願い申し上げる次第です。

学会誌第36号の基幹特掲記事も掲載しておりますが、「観光」というジャンルも、レジャー・レクリエーションに関連した重要な学際分野であると思っております。当学会会員の中にも幾人かこの方面の研究者の方々が見えますが、なお一層の相互交流とクロスオーバー研究が必要ではないでしょうか。また「環境教育事業」や「まちづくり」の実践の場面で、レジャー・レクリエーションのノウハウや人材がこれらから益々求められて来るように思われてなりません。会員の皆さんのご関心が、こうした方面・分野に向けられることを祈っております。

今年の11月15日(土)・16日(日)の両日に、東京農業大学で第27回大会が開催されます。会員相互の研究交流として懇親の絶好の機会ですので、ふらつてご参加下さいませようお願い致します。又、来年の第28回大会は福岡県の福岡大学で、再来年の第29回大会は埼玉県の東海大学で、次々開催される予定です。今のうちから心がけを願ひ、内容の高い研究発表が数多く行われることを期待する次第です。

### JSLRSニュース10

1. 開かれた学会運営を目指して (前野淳一郎) …… P.1
2. 学会役員選挙制度の導入にあたって (鈴木秀雄) …… P.2
3. 「改選前理事」(10名)選出選挙の結果 …… P.3
4. 「新理事」(15名)選出選挙の実施 …… P.3
5. 学会大会のご案内(東京農業大学) …… P.4
6. 学会大会プログラム …… P.5
7. 学会大会発表演題 …… P.6
8. 常任理事会の報告 …… P.8
9. 編集委員会・事務局からのお知らせ …… P.12
10. 会員の動静 …… P.12

## 学会役員選挙制度の導入にあたって

理事長 鈴木秀雄  
(関東学院大学法学部教授)

学会総会での役員選出制制定(96年11月24日)

と共に、会則(第10条)が改正され、理事会(97年定款1回)で会長、副会長、監事、理事長、改選前理事の選出に關する各申し合わせ事項等も承認され、いよいよ実質的な選挙の段階となった。会長として本年度会費納入に伴う選挙権者・被選挙権者の確定をしてみると、全登録会員の約1/3の正会員が選挙の権利を獲得したに過ぎない結果となった。その中の投票であり会員の総意としての役員選出となるのかを考えるといささかの疑問は残る。しかし選挙の仕組みに則った形での選挙権者の限定であり、手続きそのものに問題を持つものではない。学会の民主的な運営を求めの戸に押されての役員選挙制度導入であったが、選出母体が小さくなればなるほど、恣意的な結果の可能性を強く持つことにもなる。学会の動向や経緯を理解したうえでの選挙を今しばらく求められている学会としては、選挙権を得ている会員に、影響することなく一票を投じる権利を行使して欲しいと思ふを得ない。

員選挙として、初めて行われることもあり、今回の選挙制度の実施に不備があるというのではないが、以後の選挙についても会員への広報を通じ、その理解を得ながら会員の総意としての選挙制度の進化(深化)も考えていかなければならない。

既刊の「レジャー・レクリエーション研究」(第36号、1997年5月発行)の92-91ページには、1998-1999年度期役員選出(選挙制度導入)に關する業務及びその日程：役員選出方法及びプロセス(附録)；各役員選挙投票に關する投票の概要(投票形態・投票用紙形態)；役員(新理事15名)選挙について；その告示と注意事項；選挙に關する理事報告事項；現行理事から選出される理事の選出に關する申し合わせ；選出された理事(25名)による理事長の選出に關する申し合わせ；会長、副会長、監事の選出に關する申し合わせ；学会役員選出制制定案趣意書、学会役員選出制が掲載されているので、熟読いただくと共に、役員選出(選挙)に關する議案書の理解とその日程についての確認もしていただきたいと思います。

もちろん学会運営を円滑にもめるための役員選挙であり、様々な可能性を想定しての議程による役員選挙制度の導入であるが、2年毎に実施される役員選挙として入念するための手続、研究領域の細分化と

統合との課題、役員の役割と業務、事務局機能の整備と運営に伴う課題、学際的・関連領域の研究者(会員)の獲得、資力化・指導者及び人材の認定化、大学拡大などのコースやカリキュラムの広延など、学会が問題として捉えなければならぬ領域と現在抱えている諸課題の解決など、すべきことが山積している。諸課題の検討については、現行役員5名によるワーキンググループを設置したので、まず今回の選挙を実施したのちの役員選挙制度の課題なども検討すべきであろう。既に第1回のワーキンググループの会議も7月31日に開催し諸課題の洗い直しも行っている。

今秋の学会大会時までは、新しい25名の理事が確定し、大会時に開催される新しい理事会において理事長を互選し、また新理事による、会長、副会長、監事の選挙、その結果も勘案しての理事長兼監理事(3-5名)が確定して、役員選出規程によるすべての役員選出過程を終了する。既に役員選出第一段階の、改選前理事の10名(附帯参照)の選出は、現行理事24名により選出されており、次に新理事(15名)の選挙が正会員により選出されるが、それぞれによって理事に選出された役員の内閣的かつ円滑な学会運営が期待されることは論ずるまでもない。

学会が大きく変革を目指すとする時代にあつて、会員の学会活動への意識の高揚と共に、会員個人々の積極的な学会支援と参加を、一役員としてもお願いしたい。

第27回の学会大会は東京農業大学で開催されるが、多くの学会員の参加を期待したい。

### 「改選前理事」(10名)選挙開票結果

先に行われた現行理事(投票数24回)による改選前理事の選出選挙の結果は以下のとおりとなりました。

順位	得票数	氏名
1	20	鈴木秀雄
2	19	松田義孝
3	17	坂口正治
4	17	廣藤寿
5	16	松浦三代子
6	15	森田康夫
7	13	石井光
8	13	下村彰男
9	11	西野仁
10	9	藤田健
11	9	小田切毅一
12	8	油井正昭
13	7	秋吉直樹
14	7	前野淳一郎
15	7	藤岡文男
16	6	山口泰雄
17	6	田中勲雄
18	5	宮下格治
19	5	守屋盛次
20	5	原田宗彦
21	5	寛井善子
22	5	森田信實
23	4	高橋和敏
24	3	松尾龍矢
25	3	杉尾邦江
26	2	大谷善博
27	2	中島豊雄
28	1	大森雅子
29	0	鈴木文明

### 「新理事」(15名)選出選挙の実施

学会会則第10条及び第12条役員選出規則第6条第1項、第2号、の各規程による正会員によって選出されますが投票は8月31日の消印有効となっています。

第27回学会大会(東京農業大学 1997年11月15日・16日)

## 第27回学会大会 東京農業大学で開催

1. 会期：平成9年11月15日(土)・16日(日)
2. 会場：東京農業大学  
〒156 世田谷区桜丘1の1の1  
電話 03-3420-2131
3. 最寄駅：小田急線経堂駅下車徒歩15分

### 大会実行委員会 から

11月16日(日)のお弁当(1,000円)の事前注文を受け付けます。返信書で申込の上、代金は大会参加費(4,000円)、懇親会費(5,000円)などと共に下記宛て10月31日(金)までにお振り込みください。

振込先：横浜銀行 小田原支店(店番：721) 口座番号：1335842  
日本レジャー・レクリエーション学会



第27回学会大会 (東京農業大学 1997年11月15日・16日)

# 大会プログラム

テーマ: 『レジャー・レクリエーション指導者育成と高等教育機関の役割』

趣旨 生涯学習・生涯スポーツの時代に向けての指導者育成はいかにあるべきか。学会大会は、レジャー・レクリエーションの学術研究の立場からの指導者・人材育成に関する基本理念、育成の場、例えば、大学体育の革新、大学体育会の革新、育成カリキュラム、評価システム、社会貢献の実態について、検討を加える視点から大会テーマを『レジャー・レクリエーション指導者育成と高等教育機関の役割』とし、基調講演及びパネルディスカッションを企画した。

■日程 第1日 11月15日(土)

- (理事会) 11:00~12:00
- 受付 13:00~
- 基調講演 14:00~14:50(50分)

『レジャー・レクリエーション(L/R)指導者への期待』

鈴木祐一(本学会監事・東京女子体育大学学長)

□パネルディスカッション 15:00~17:30(150分)

コーディネーター

松田義幸(本学会常任理事・実践女子大学)

【1】問題提起(各20分)

パネリスト

- (i) 大学体育の場をL/R指導者育成の機会に  
磯境 寿(本学会常任理事・筑波大学)
- (ii) L/R指導者育成カリキュラムの試案  
西野 仁(本学会常任理事・東海大学)
- (iii) L/R指導者の社会貢献イメージ  
鈴木秀雄(本学会理事長・関東学院大学)

【2】討論(60分)

□懇親会 於: グリーンアカデミー 18:00~20:00

■日程 第2日 11月16日(日)

- 受付 9:00~
- 研究発表 9:20~12:00
- 総会 13:00~14:30
- 研究発表 14:30~16:50

●大会参加費 4,000円

●懇親会費 5,000円

第27回学会大会 (東京農業大学 1997年11月15日・16日)

# 第27回学会大会(東京農業大学1997年11月15日・16日)発表演題(30題)

- 研究発表(A会場(15題)) 18号館2F1821教室
- A-08 「高齢者施設におけるレクリエーション活動とその問題点とく(と)に高齢者ホームの場合(事例報告)一」  
○上野 幸(余暇問題研究所)  
山崎律子(余暇問題研究所)
  - 座長: 嶋崎 寿 14:30~15:30
  - A-09 「青年の日常生活における多忙感と過労感についての予備調査」  
○藤本和秀(余暇問題研究所)  
浅谷佐知子(余暇問題研究所)  
山崎律子(余暇問題研究所)
  - A-10 「NRP&とその年次大会について」  
○浅谷佐知子(余暇問題研究所)  
廣田治久(余暇問題研究所)  
高橋和敏(余暇問題研究所)
  - A-11 「幼・少年期の自然体験と感性の関わり」  
○山崎律子(山梨大学大学院)  
川村裕平(山梨大学)  
永吉英記(山梨大学大学院)  
小林直孝(山梨大学大学院)
  - 座長: 寛井晋子 15:30~16:50
  - A-12 「レクリエーションゲーム前後の疲労スコアの変動〜6種類の運動を取り上げて〜」  
○服部伸一(関西福祉大学)  
前橋 明(倉敷市立短期大学)
  - A-13 「レクリエーションの効果に関する研究(II)〜レクリエーション効果のチェックリストの試案と疲労自覚尺度測定との関連〜」  
○前橋 明(倉敷市立短期大学)  
服部伸一(関西福祉大学)
  - A-14 「少年期における“相撲大会”が矯正教育に及ぼす影響」  
○山村昌代(東海大学大学院)  
大塚孝雄(東海大学)
  - A-15 「キャンプにおける水辺活動の価値」  
○細 鼓晴(札幌体育大学)
  - 座長: 石井 充 9:20~10:00
  - A-01 「レジャー・レクリエーションの新しいイメージ・スケッチ(パ) (perspective)および新しいパラダイム(paradigm)としてのマトリックス的分析〜エス・メソッドロジー(Ethnomethodology)的視点で〜」  
○鈴木秀雄(関東学院大学)
  - A-02 「レジャー教育のカリキュラム編成に関する一考察〜貴識大学社会学部社会学科レジャー社会学コースを事例として〜」  
○土屋 薫(貴識大学)  
王藤雅也(貴識大学)
  - 座長: 西野 仁 10:00~11:00
  - A-03 「A.H.バズローの自己実現概念の再検討」  
○片桐朝晴(早稲田大学大学院)
  - A-04 「民間レクリエーション団体の継続意欲に関する研究」  
○赤塚方哉(神戸大学大学院)  
山口泰雄(神戸大学)
  - A-05 「余暇福祉におけるレクリエーション援助の実態に関する研究」  
○松永敬子(一宮女子短期大学)
  - 座長: 松浦三代子 11:00~12:00
  - A-06 「余暇生活設計のためのツール開発に関する研究〜L.M.日本前夜の信頼性と妥当性に関して〜」  
○野村一浩(日本体育大学)  
李野宏明(武庫川女子大学)  
佐藤由美(神奈川女子短大)
  - A-07 「自閉症児キャンプにおける問題点一過去の実施過程から〜」  
○高垣正道(編・ユニシティ)  
高橋和敏(余暇問題研究所)

第27回学会大会 (東京農業大学 1997年11月15日・16日)

研究発表(B会場(15題)) 18号館2F1822教室

- 座長: 下村寿男 9:20~10:00
- B-01 「やま(森林)づくり塾の自然教室について」  
【実践報告】  
○嶋野美名子(東京農業大学)  
東田和弥(東京農業大学)  
藤生 恵(東京農業大学)
- B-02 「横浜市緑区中山中学校区域における花と緑の市長まわりの地域創作物」  
○若岡貴之(町田市都市建設部)  
東田和弥(東京農業大学)  
藤生 恵(東京農業大学)
- 座長: 田中伸彦 10:00~11:00
- B-03 「市民による緑地林における活動に関する研究」  
○松沢裕之(十津川毎日新聞社)  
東田和弥(東京農業大学)  
永嶋正昭(東京農業大学)
- B-04 「世界各国における自然保護地域の指定期間について」  
○嶋井正昭(千葉大学)  
古谷勝樹(千葉大学)
- B-05 「レジャー・レクリエーション環境としての公園の考案」  
○廣茂寿太郎(東京農業大学)
- 座長: 嶋井正昭 11:00~12:00
- B-06 「センターにおける公園・レクリエーションプログラムの現状分析」  
○金子忠一(東京農業大学)
- B-07 「鮮魚センターを中心とした水辺野観光の形成に関する政策的考察」  
○早川章治(株式会社 楽楽研習)  
藤本 誠(東京農業大学)  
藤田 誠(東京農業大学)
- B-08 「岡山県における農村リゾートの研究」  
○笠木秀樹(実業女子大学)
- 座長: 松田義幸 14:30~15:30
- B-09 「高齢者のスポーツ活動に関する事例研究」  
○柳津和康(北海道教育大学旭川校)  
鈴木文男(拓殖大学北海道短期大学)
- B-10 「参加型スポーツイベントの運営に関する研究〜特にトライアソン大会に対するイメージについて〜」  
○原田尚幸(鳳凰体育大学)
- B-11 「スポーツ系専門学生へのスポーツ観について〜とくに生き方・考え方、生き甲斐との比較から〜」  
○下田由香(スポーツエデュケーション・アカデミー)  
廣田治久(余暇問題研究所)
- 座長: 鈴木文男 15:30~16:50
- B-12 「スポーツ系専門学生における人権・価値観について(II)〜特に'96年度及び'97年度学生の比較を中心に〜」  
○廣田治久(余暇問題研究所)  
下田由香(スポーツエデュケーション・アカデミー)
- B-13 「体力と生き甲斐の関連性検証の試み(II)」  
○原野邦典(余暇問題研究所)  
藤本和秀(余暇問題研究所)  
川村裕平(東海大学)
- B-14 「児童の生活と加速度感度感度の関係」  
○川村裕平(山梨大学)  
永吉英記(山梨大学大学院)  
菅谷純子(山梨大学大学院)  
小林直孝(山梨大学大学院)
- B-15 「キャンプ場の質的・量的な魅力づくりに関するアンケート調査〜日本・台湾・ヨーロッパのキャンプ場の質的・量的な魅力づくり〜」  
○藤盛雄(東京農業大学)  
川村裕平(山梨大学)  
前野洋一郎(スペースコンサルタント)

1996年度

日本レジャー・レクリエーション学会

常任理事会(第9回) 議事録

日時: 1997年1月27日(月)18:30~20:30  
場所: 立教大学大田川記念館(1階第1会議室)  
出席者: 前野、高橋、秋本、菅井、石井、鈴木(男)、坂口、嶋崎、下村、西田、松浦、松田、幹事一沼澤、田中(男)

会長の挨拶

I. 確認事項

1. 1996年度日本レジャー・レクリエーション学会常任理事会(第8回) 議事録の確認
- II. 報告事項
1. 理事全権推選の選挙管理委員(任期平成9年5月1日〜平成11年4月30日)の理事会推薦依頼書及び就任承諾書送付(平成9年1月18日付)
2. 学会発刊となった『レクリエーションの方法』(1987年4月、A5版、363頁、びょうぎ発行)の印刷等の進捗について  
1) 本社圖書課(03-3571-2126) 栗原氏  
2) 杉原氏(03-5349-6615) 三枝信太郎氏(本会休職中)2000円の8%、最低保障額20000円支払い済、現在調査中  
学会の収入としての記録はないこと、学会では個人の取り込みを決定していないことが報告された
3. 学会誌第5号「生き甲斐」(別刷各30部)印刷(13万部の予定)  
■郵費等による、発行人へのサービス(経費使用)の在り方
4. TR専門分科会の開催について(3月20日: 関東学院大学での開催予定)  
■会場・日程・内容等詳細はニュース№6に掲載

III. 審議事項

1. 第27回学会大会に関する提案事項について  
1) 発表の形態、発表の議題事項  
学会常任理事会・主催者の態度を固めることが承認された
- 2) 発表の中止・発表者の変更の届け出と許可  
事前に大会委員長及び大会実行委員長への届け出とその許可を得ること、大会常任理事ニュースなどで主催者の態度を固めることが承認された
- 3) 掲載の内容について  
レジャー・レクリエーションに関する内容の意識化を図り、ニュースでその主旨の態度を固めることが承認された。発表申込の枚数200字以内の研究発表

2. 総会決定に関わる事項について  
1) 役員選挙制の実行に伴う手続き及び必要事項について  
(1) 改選前理事(10名)選出の手段  
(2) 会長、副会長、監事選出の手段  
常任理事会内に小委員会をつくり  
【(1)、(2)の選出申し合わせ】を作成する。委員に原田、鈴木(男)、松浦の3名が選出された
  3. 「学会ニュース№6」(新年号)について  
学会誌に1月30日に発定予定
  4. 年会費未払いによる退会者等の再入会の取組について  
年会費未払いによる退会者再入会については審議し、滞納年分の費用及び入会金の支払と共に入会手続きをとることが承認された
  5. 第27回学会大会テーマの決定について及び次大会テーマの最終発表について  
1) 事前決定と十分な準備期間の確保  
2) 学会員による特別協議・パネルディスカッション等の推進  
研究会常任委員会が新年度のニュース(5月)に際してのように開催することが承認された
  6. ロゴマークについて  
今年度中に広報・渉外がロゴマークについての検討を行うことが承認された
  7. 新入会員(新入会員の推薦・申込のあり方)について  
総常任委員会において新入会員の推薦・申込のあり方について検討することが承認された
  - IV. その他  
1. 新入会員、退会者の承認  
大会所属 推薦者  
○村田知郎 朝ラック計画研究所 下村彰男  
○川村裕平 大阪女子短期大学 小田敏一  
○堀川勝洋 専門教育科長兼助教授 鈴木秀雄(理事長)
- 平成9年1月27日現在新入会員総計20名  
退会者 新橋  
金子和正 東京家政学院大学  
長谷川修一 越山学院大学  
2. 次期常任理事会(第10回)の日時について  
1997年3月18日(火)18:30~20:30  
立教大学大田川記念館(1階第1会議室)

1996年度

日本レジャー・レクリエーション学会

常任理事会(第10回) 議事録

日時: 1997年3月18日(火) 18:30~20:30

編 者：立教大学大川記念館1階第1会議室  
 出版者：黒田、田中（編）、鈴木（発）、石井、坂口、  
 下村、西田  
 幹事：前野、高橋、田中（幹）、鈴木（発）、  
 石井、坂口、榎崎、西田、西野、松浦、松田、  
 油井  
 幹事一泊澤、田中（幹）

副会長の挨拶  
 I. 確認事項  
 常任理事会（第9回）議事録確認  
 II. 報告事項  
 1. ニュースNo.61の発行・発送  
 2. T.R.専門科会との関係及び参加者数等について（3月20日・関東学院大学で開催）  
 3. 学会発行となっている「レクリエーション学の方法」（1987年4月、A5版、363頁、ぎょうせい刊）の印刷の遅いについてのその後の調査経過（進捗の有無について）担当の三好氏が支払い済みの報告を受けたが、それを証明する書類等を調査中であることが報告された  
 4. 学会誌第36号の「抜き取り」（別刷30部）印刷及び発送について  
 印刷、発送は終了済みで、今後は原稿提出の段階で申込手続きを取る事が報告された  
 5. 1986年度12月締めを取る事が承認された  
 ニュースNo.62の発行状況（平成9年2月18日現在、国内541名、国外3名、団体11件）が紹介され、発表不明も含めた個人正会員の数等の確定作業中であることが報告された  
 6. 役員選出細則第6条「委員の選出方法に関する申し合わせ作成小委員会」の委員長選任について  
 黒田副会長、松浦常任理事、鈴木（発）理事等の3名で小委員会が構成されているが、その中から委員長を選出することが報告された  
 その後の審議によって鈴木（発）学理事長が委員長になることが承認された  
 7. 編集委員会からの報告  
 研究誌第36号の構成について説明があり、特長の執筆依頼、編集作業、次号特集について等の報告があった  
 III. 審議事項  
 1. 選挙管理委員（任時：平成9年5月1日～平成11年4月30日）の就任要請に伴う同委員長選任（互選）のお断りについて  
 事務局で選挙管理委員である増嶋氏と打ち合わせを行い「委員長の選任をお願いする事が了承された」  
 2. 1996年度会計中間報告について  
 1996年度の会計中間報告があり、最終的に監事の監査を受けたいと決定された

3. 1997年度事業計画（案）・予算（案）の作成  
 1997年度事業計画について委員会内で内容を審議し、4月の常任理事会で案を決定することが承認された。予算案については会費の納入が昨年年度並みであれば、賛助会員広告料の増額を見込みしかならず常任理事の賛助会員申請をお願いしてはどうか、それでもないようであれば会費の値上げを検討しなければならないのではないかという意見が出された  
 4. 会員サービスの向上という視点からの学会誌とニュースの連携について  
 選挙の導入や消費税を含む財政状況から、高学内場での効率化（ニュースを3回～2回へ）、選挙や学会案内で学会誌に載せる）をはかる方向性が示された  
 5. 第27回学大会テーマ、講演等の内容の決定  
 次回の常任理事会でテーマ、講演の内容を絞って議論することが承認された  
 6. 研究誌第36号への掲載内容について  
 1) 第27回学大会テーマ、講演等の内容  
 2) 第27回学大会発表申込（手続き）案内の掲載について  
 3) 学会費納入案内及び過年度会費の請求と返金について  
 （郵便振替用紙の案内）  
 4) 選挙管理委員会からの報告  
 上記について研究誌第36号に掲載することが承認された  
 7. 新入会員・退会者の承認  
 入会者 所屬 推薦者  
 富田久夫 東京農業大学 永嶋正信  
 竹田美智久 和光大学 鈴木秀雄  
 常高裕人 駒込ストッカー 鈴木秀雄  
 以上の3名は役員選挙細則の規定により、「98～99年度の選挙権・被選挙権はない」  
 IV. その他  
 1. 新年度の常任理事会（第1回）の開催日時について  
 1997年4月21日（月）18:30～20:30（予定）  
 立教大学大川記念館1階第1会議室  
 2. 学会誌の発行について  
 編集委員会から学会誌の編集、印刷を事務局と離れて行うことはできないかと提案があったが、現状維持で行うことが承認された。しかし、今後個別発行などを検討していくことになった  
 3. 委員会他の活性化について  
 委員会は、庶務、常任理事、幹事で構成されているが、若い世代の会員等の構成を検討して委員会の活性化を図ってはとの意見が出された

1997年度  
**日本レジャー・レクリエーション学会**  
**常任理事会（第1回）議事録**

日 時：1997年4月21日（月）18:30～20:30  
 場所：立教大学大川記念館1階第1会議室  
 出席者：前野、高橋、田中（編）、鈴木（発）、  
 石井、坂口、榎崎、西田、西野、松浦、松田、  
 油井  
 幹事一泊澤、田中（幹）

副会長の挨拶  
 I. 確認事項  
 常任理事会（1996年度第10回）議事録確認  
 II. 報告事項  
 1. 1996年度決算報告  
 2. T.R.専門科会新研究会（3月20日・関東学院大学で開催）第1回」の報告  
 3. 学会発行となっている「レクリエーション学の方法」（1987年4月、A5版、363頁、ぎょうせい刊）の印刷の遅いについてのその後の調査経過について  
 不確定要素が多いので調査継続  
 4. 選挙管理委員長について  
 委員は定選となっているが最終の選挙というところあり田中選挙官をしていくためにも、学会常任理事の増嶋氏をお願いできないかという意見となり、その方向で進めて欲しい旨の報告となった（任期1997年5月1日より2年間）  
 5. 役員選出細則第6条による委員の選出方法に関する申し合わせ作成小委員会報告  
 小委員会は以下の項目について審議し、理事会の承認を得て研究誌第36号に掲載する  
 (1) 細則第6条第1項第2号のうち改選前理事10名の選出方法（互選）について  
 (2) 細則第6条第1項第1号による会長、副会長、監事の選挙の初めの理事会での選出方法について  
 (3) 細則第6条第4項の新役員に選出された理事（25名）による初めての理事会での理事の選出方法（互選）について  
 6. 学会誌「第36号」の進捗状況について  
 年費の部込用紙を戻し込んで5月中旬に発行予定  
 7. 事務連絡（金銭出入の滞りによる通知等）の方法について  
 8. 編集委員会からの報告  
 研究誌「第36号」の構成、編集作業、「第37号」の特集についての報告があった  
 III. 審議事項  
 1. 1996年度決算（会計監査）の報告について  
 学会事務局西田氏より1996年度決算報告があり承認された  
 2. 広告掲載及び賛助会員の募集方法について  
 財務委員の西野氏より、常任理事が積極的に募集すること、賛助会員のメリットを明確にする事などを委員会で検討し、5月の理事会で提案することが報告され承認された  
 3. 1997年度事業計画・予算について  
 前回の常任理事会で承認された計画及び予算案について5月の理事会に向けてまとめていくことが承認された  
 4. 第27回学大会組織委員会・実行委員会の発足について  
 東京農業大学（衛生委員）に窓口を置くこと、今後の連絡については事務局に一任することが承認された  
 5. 役員改選時における学大会開催先の選出の明確化について  
 1) 2年先までの学大会開催先（祝）の決定について  
 2) 役員改選時における学大会開催先の選出の明確化  
 以上が承認された  
 6. 第27回学大会について  
 1) 第27回学大会テーマ、講演等の内容  
 東京農業大学と関連性をもったテーマ、内容に合ったかどうかの意見が出され研究誌第36号で検討する  
 2) 第27回学大会発表申込（手続き）の手順  
 学会誌「第36号」において申込のアンケートを行う  
 7. 役員選挙権及び被選挙権について  
 学会誌「第36号」で手取り及び日程を告知する  
 8. 理事会（第1回）の開催（5月26日（月））について  
 国立オリンピック記念青少年総合センター研修館10号室  
 9. 新入会員・退会者の承認  
 入会者 所屬 推薦者  
 山村昌代 東海大学 鈴木秀雄  
 和田研治 中部女子短期大学 鈴木秀雄  
 植田芳子 大前女子大学 鈴木秀雄  
 以上の3名は役員選挙細則の規定により、「98～99年度の選挙権・被選挙権はない」  
 IV. その他  
 1. 次回常任理事会（第2回）の開催日時について  
 1997年6月23日（月）18:30～20:30（予定）  
 国立オリンピック記念青少年総合センター

研修館702号室  
 2. 次々回常任理事会（第3回）の開催日時について  
 1997年7月14日（月）18:30～20:30（予定）  
 国立オリンピック記念青少年総合センター  
 3. WLRAの金費について  
 学会副会長の高橋氏よりWLRAの金費納入手続きについての質問があった。それを受けて学費納入より納入手続きの遅延があり、金銭的な滞り（手帳）により何回期間のない金費納入がなされていることの報告があった

2. 役員選出（選挙権及び被選挙権）の確認について  
 1) 役員（候補者選定委員会）委員の選出  
 2) 現行理事の選挙権及び被選挙権（辞退者）の事項確認（年度会費の納入状況）  
 芳賀理事が選挙権を辞退、年会費の納入状況49名の委員のうち94名/16/23日現在  
 3) 「改選理事」（10名）の選挙（印刷7/7）に関する投票用紙 [B] の送付  
 鈴木秀雄、選挙人名簿、投票用紙を配布、郵便局では受付体制にある  
 4) 改選理事選挙の期票 [7月14日開催の常任理事会（第3回）]  
 理事長より、以上の説明があり承認された  
 3. ニュース（No.62、10頁程度の手定）の発行・発送と選挙関連資料送付について  
 1) ニュースの内容：選挙制度の導入と実施について  
 2) ニュースと関連する「新理事」（15名）  
 ニュース「A/68/81」に開く必要資料（推薦人名簿、投票用紙 [B]、投票用紙封入封筒、返信用封筒）  
 3) 学大会の案内  
 4) 学会発表演題の掲載（現在1題発表演題が提出されている）  
 以上の選挙状況が報告され承認された  
 4. 議事録を添付する小委員会（ワーキンググループ）設置について  
 財政委員会から提案があったが議事録についてのワーキンググループを設置することについて事務局から原案を次回の常任理事会で提案することが承認された  
 5. 第28回学大会開催場所決定について  
 理事選出の問題等で役員改選年に2年先までの開催場所を早めに決めるために交渉を始めることについて承認された  
 6. 新入会員及び退会者の承認について  
 入会者 所屬 推薦者  
 石川幸生 名古屋女子短期大学 鈴木秀雄  
 鈴木英悟 東海大学 大塚 大樹  
 以上の2名の入会が承認された  
 IV. その他  
 1. 次回常任理事会（第3回）の開催日時について  
 1997年7月14日（月）18:30～20:30（予定）  
 国立オリンピック記念青少年総合センター  
 理事長終了後、田中幹事からレストランで懇談会（会費2000円）を予定

**事務局からのお知らせ**

1. バックナンバー（「あゆみ」を含む）の複製頒布を行っています。特に新入会員におすめします  
 ①「あゆみ」32号の複製  
 1冊¥2,000（郵送料¥390）※既販済み  
 ②「あゆみ」を除くその他の研究誌は、1冊¥1,000（送料別）  
 2. 会員の皆様のお知らせはレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へ一報下さい。  
 【申込用紙に必要事項を記入し、入会金（¥1,000）と年度会費（¥5,000）をそめて郵便振替（または現金書留でお送り下さい。）  
 3. 平成9年度の年会費（¥5,000）を収めている会員が半数以上いますので、急ぎ納入手続きをお願いします。  
 郵便振替番号 00150-3-602353

**編集委員会からのお知らせ**

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について  
 投稿は常時受付しております。また、研究論文の投稿論文送付先  
 〒505神奈川小田原駅前ビル1162-2  
 東海大学大学院・体育館内  
 皆様のご積極的な投稿をお願いいたします。  
 【日本ジャーナル・レクリエーション学会事務局】

**会員の動静**

●新入会員（所属）

谷口陽子	竹田 徹	東海大学
黒田 徹	常 松 浩 夫	駒込ストッカー
木村 裕彦	川田 知 厚	佛ラック研究所
三宅 特 彦	村 村 晴 子	大阪女子短期大学
立 木 宏 樹	近藤 九州工 学 部	石 川 田 洋
藤原 祐三子	共同消費オーク	粟 田 幸 生
平野 吉 直	信州大学教育学部	鈴木 英 悟
大 山 隆 夫	東京体育専門学校	
藤 原 浩 二	株式会社東芝	
山 村 昌 代	東海大学大学院	
和田 研 治	中部女子短期大学	
植 田 芳 子	大前女子大学	
黒 田 和 久	東京農業大学	

平成9年度選会書  
 金子 和 正 東京家政学院大学  
 長谷川 健一郎 桃山学院大学

平成10年7月

# 学会ニュース

# 日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)  
 発行人 鈴木 秀雄 編集 広報渉外委員会  
 事務局 〒133-8585 埼玉県朝霞市北野1-2-28  
 立教大学 武蔵野南校舎5階502号  
 コミュニティ福祉学部 福祉研究室内  
 電話 FAX 048-711-7358  
 郵便番号 00150-3-802353

JUL 1998  
No.63

## 学会会長に就任して

東京女子体育大学  
学長 鈴木 祐一

このたび、前会長、前野一郎先生の後任として日本レジャー・レクリエーション学会の会長を、お引受けすることになりました。

これまでの「卓越した指導力」をお持ちの歴代の会長諸先生に比して、すべてに恵られない点の多い私ではありますが、学会役員そして会員の皆さんのいっそうのご協力をいただいた、本学会の発展に尽力いたします。過去の「卓越した指導力」をお持ちの歴代の会長諸先生に比して、すべてに恵られない点の多い私ではありますが、学会役員そして会員の皆さんのいっそうのご協力をいただいた、本学会の発展に尽力いたします。

そして、「研究・活動」の対象は、昨年新しい展開が図られ、学会として広範な分野から会員のご参加を得ておりますこと、本学会の特色と再考しております。

会員の皆さんには「レジャー・レクリエーション」の心に応じ、「より明るい」、「より相互理解を深め合う」そして「みんなで、学会の研究活動の輪を広げる」努力と会員ひとり一人が、みじかな関わりから学術的貢献に至るまで幅広い研究課題に取り組まれ、学会の「より活性化」のためのご活躍を、お願い申し上げます。

### JSLRSニュース9

- |                               |                                |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1. 学会会長に就任して (鈴木祐一)<br>新会長の抱負 | 6. 平成9年度 決算報告書                 |
| 2. 理事長に三たび推されて (鈴木秀雄)         | 7. 第28回学会大会開催案内及び<br>講演・シンポジウム |
| 3. 新役員・幹事の紹介                  | 8. 会員の動静                       |
| 4. 新事務局の案内                    | 9. 委員会・事務局からのお知らせ              |
| 5. 総会・理事会・常任理事会の報告            | 10. 平成10年度 事業計画 (案)・予算 (案)     |

-1-

## 理事長に三たび推されて

鈴木秀雄 (関東学院大学法学部教授)

学会理事長に三たび推され、理事長としての職責を担う第3期、第4期(1994-1995)では第24回大会(拓殖大学北海道短期大学)、第25回記念大会(関東学院大学)の周年大会を開催。記念大会時には、研究会時代を含め学会32年の歩みをまとめた学会誌第22号「歩み」の発行を実現した。第二期目(1996-1997)は、第28回学会大会兼第24次大会第27回大会を東京農業大学で開催し、この期間を通じて、学会に初めて役員選挙を1998-1999年度の役員選出に導入し、その実行も果たし、今この選挙により選出された役員によって学会が運営されている。そして三期目の初年である今年の第28回学会大会は福岡大学(福岡県)で開催される。また今年の第28回大会は既に東京大学(第五期)での開催が決定されている。日常業務を司る学会の事務局も東京女子体育大学から関東学院大学そして立教大学へと移り現在に至っている。学会の顔でもある会長も第3代目の浅田隆夫先生(群馬大学)から会長に変わり、そして第5代鈴木祐一学長(東京女子体育大学)の下での理事長(第4期目)である。事務局長、会長の交代、あらゆる面で変化の激しい時代であったと言える。

しかしこれからの2年間は、変革してきた学会から少しでも多くの良さを引き出していく時代であろう。そんな中で学会の良質な運営を、客観的な判断に依って進めることなく現規約の枠の中で忠実に実行すると共に、時に足した学会のあり方を構築しつつ先進の軌えを引き継ぎ活動の展開をしている

が、時代の変遷、学会構成員の変化、学会の共通言語である「レジャー・レクリエーション」そのものの認識や、概念さえも、その捉え方が多様化し多岐にわたる中であるからこそ、会員相互の相互理解と充実した研究が求められているといっても過言ではない。レジャー・レクリエーションの本質はもとより、それらの認識の精緻化と新編化を志向した学術的蓄積による積極的な研究発表の場、さらに質の高い交流し得る場づくりこそが理事長に課せられた使命であると強く認識している。

他分野、多職種からの会員の増強はもとより、財源基盤の確立、学会広報機能等の充実を図り、学会が外に見えよう努力を続けていきたいと願っている。そのために多くの方からの意見を学会事務局にお寄せいただければ幸いである。役員に対する昇進の発表の場としての学会でもない。今後ますます期待されるレジャー・レクリエーション分野での情報発信としての役割を担い、時代の進展から、進んでリーダーシップの発揮が求められていくといえる。そのような学会への歩みに対して協力しては、鈴木祐一前会長の下で努力を重ねていきたい。日本レジャー・レクリエーション学会自体の本質と機能をもっと理解し、貢献を遂げたいと考えている。会員諸氏の叱咤により活動が活発化するを望む。

### 日本レジャー・レクリエーション学会役員名簿 (1998年度～1999年度)

会長/鈴木 祐一 (東京女子体育大学)	西野 仁 (東海大学)
副会長/秋井 嘉典 (福岡教育大学)	松浦 三代子 (東京女子体育大学)
石井 允 (立教大学)	嶋井 正昭 (千葉大学)
高橋 和敏 (朝倉環境問題研究所)	榎 大谷 博 (福岡大学)
松田 義幸 (筑波女子大学)	岡本 伸之 (立教大学)
顧問/浅田 隆夫 (目白学園)	小田切 一 (奈良女子大学)
江崎 慎四郎 (中京大学)	鈴木 文明 (新潟大学北越短期大学)
木下 茂徳 (日本大学)	野野 宏明 (武蔵川女子大学)
監事/藤生 恵 (東京農業大学)	寺島 正一 (明治大学)
大塚 孝雄 (東海大学)	高橋 正徳 (東京農業大学)
理事長/鈴木 秀雄 (関東学院大学)	松尾 智 矢 (福岡大学)
常任理事/荒井 子 (学習院女子大学)	宇 能 信 次 (中京大学)
新田 敏 (筑波大学)	松田 文男 (上智大学)
坂口 正治 (東洋大学短期大学)	山口 孝雄 (神戸大学)
磯 健 寿 (筑波大学)	山 崎 健 子 (朝倉環境問題研究所)
下村 彰 男 (東京大学大学院)	幹 事/沼 秀 雄 (立教大学)
西田 俊 夫 (東横学園大学)	片 桐 晴 明 (早稲田大学大学院)

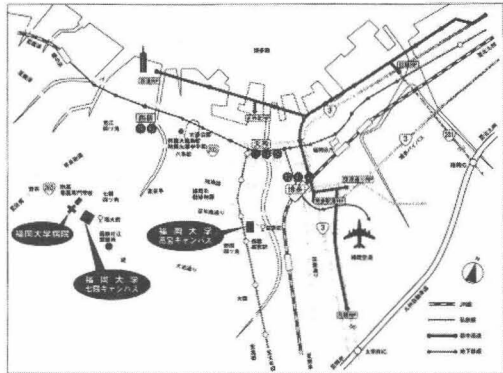
-2-

## 福岡大学 1998年11月22日・23日 第28回学会大会

### 第28回学会大会のご案内

- 日程 平成10年11月22日～11月23日(2日)
- 会場 福岡大学

### 案内図



理事会	平成10年11月22日	14:00～15:00	会場 ( )
懇親会	平成10年11月22日	19:00～19:30	金費 (5,000円) 会場 ( )
総会	平成10年11月23日	13:00～14:00	会場 ( )

-3-

## 第28回学会大会 (福岡大学 1998年11月22日・23日)

### 大会プログラム

- テーマ: 「 」
- 日程 第1日 11月22日(日)
- 受付 13:00～
  - (理事會) 14:00～15:00
  - 特別講演 15:15～15:55 (40分)

### □パネル

ディスカッション 16:00～17:45 (105分)

(パネリスト (各20分))

### 司 会

- 懇親会 18:00～19:30

### ■ 日程 第2日 11月23日(月)

- 受付 8:30～
- 研究発表 9:00～12:00
- 総 会 13:00～14:00
- 研究発表 14:20～16:40
- 大会参加費 4,000円 ● 懇親会費 5,000円

### ■ 日程 第3日 11月24日(火)

- 第29回学会大会準備委員会初会合 9:00～11:00

### 大会実行委員会から

※大会会場周辺での昼食については、食堂等に限りがありますので、11月23日 ■ のお弁当 (1,000円) の事前注文を受け付けます。返信書で申込の上、代金を大会参加費、懇親会費などと共に下記宛て10月31日 ■ 迄にお振り込みください。

振込先: 横浜銀行 小田原支店 (店番:721) 口座番号:1335942

日本レジャー・レクリエーション学会事務局 (代表:西田俊夫)

-4-

(福岡大学 1998年11月22日・23日) 第28回学会大会

第28回学会大会研究発表・実践報告演題

■ 研究発表 A会場

- 長: 9:00~10:00  
高校生「ゆとり」経験について  
(藤1期)  
-いつどんな場面ゆとりを感じて  
いるか-  
○西野 仁 (東海大学)
- 「新たなレクリエーション運動」  
展開に向けての人材養成  
-審判講習レクリエーション協会の事  
例を中心に-  
○鈴木秀雄 (関東学院大学)
- 都市における自然観察会について  
-京都市での事例-  
○塚本圭一 (北海道学院大学)
- 長: 10:00~11:00  
高校生の日常生活における多忙感と通  
居感についての調査  
○橋本朋美 (神奈川大学)  
山崎洋子 (神奈川大学)
- 「地域づくりと農村リゾー」  
-愛知県上野村久万町の事例を通して-  
○小泉英樹 (松山大学)
- レクリエーションの視点からみたマ  
チュセツ運動場の意義  
○藤田由久 (徳島大学)  
高橋和敏 (徳島大学)
- 長: 11:00~12:00  
高齢者ディナーサービスにおけるプロ  
グラミングの関連  
-特に職員の仕事を通して見た場合-  
○山崎洋子 (神奈川大学)  
上野 幸 (神奈川大学)
- スペシャルオリンピックスにおける  
ボランティア活動の意義に関する研究  
鈴木英樹 (東海大学)

- 大塚 健 (東海大学)  
西野 仁 (東海大学)  
「日常生活におけるレジャー経験の検討」  
-40~60代既婚女性を対象として-  
○佐藤由美 (神戸女子短期大学)
- 長: 13:00~14:00  
「余暇行動モデルの行動計量学的分析」  
○土屋 薫 ( )  
鎌倉秀男 ( )
- ワーキングイベント参加者の特性  
-リピーターと即参加者-  
○西村久美子 (神戸大学)  
藤原可奈子 (神戸大学)  
山口崇雄 (神戸大学)
- 長: 15:00~16:00  
スペシャルオリンピックス会員におけ  
るボランティアのイメージについて  
○藤 澤 良 (東海大学)  
大塚 健 (東海大学)  
新井昌明 (東海大学)
- 「運動によるレクリエーション効果に  
関する研究」  
■運動の不足感の解消とレスコア  
の向上  
○酒崎 明 (倉敷大学)
- 日本の医療・福祉の現場で実践される  
レクリエーションのアセスメントと評  
価の視点に関する研究  
-日本の実践に合わせたアセスメント  
評価の構築-  
○芳賀健治 (東京家政学院大学)
- 長: 18:00~  
英日のレジャーレクリエーション政  
策と国家・地方自治体の関与  
○寺島晋一 (明治大学)

(福岡大学 1998年11月22日・23日) 第28回学会大会

- スキューバダイビングの活動継続タ  
イプと満足度に関する研究  
-ダイビングに関するアンケート調査  
より-  
○千足新一 (十文字女子短期大学)  
永島秀敏 (中国環境技術協会)

- 「エコキャンプによる環境への意識  
を高める」  
○小泉紀雄 (個人研究)
- ウォーキング・イベントにおける中高  
年男性の参加に関する研究  
-なぜ一人で歩くのか-  
○赤原力哉 ( )

■ 研究発表 B会場

- 長: 9:00~10:00  
「女性の運動・スポーツ行動に対する結  
果予測について」  
-三島・沼津地域のスポーツ参加者・非  
参加者の比較-  
○小俣里加子 (日本大学)  
鈴木秀雄 (関東学院大学)  
吉本俊明 (日本大学)
- 東京湾内での釣り公園における利用に  
関する研究  
○岸井 歩 (東京農業大学)  
春日宏孝 (東京農業大学)
- 弾力運動のレクリエーション効果に関  
する研究  
○宮田朝久 (東京農業大学)  
栗田裕秀 (東京農業大学)
- 長: 10:00~11:00  
スポーツ応援行動に関する社会的研  
究  
-Jリーグにおけるアビスパ福岡サポ  
ーターを中心に-  
○立本宏樹 (福岡大学)
- パークアウト遊程に関する研究  
○大隈節子 (福岡大学)
- 子どもスポーツ組織における加賀・藤  
越・田越を規定する要因的検討  
-スポーツ少年団に着目して-  
○安田直由 (福岡大学)
- 長: 11:00~12:00  
グランドマラにおける先住民のスポ  
ーツ意識形成とスポーツ教育政策  
○山田力也 (福岡大学)

- 山口章雄 ( )
- 長: 13:00~14:00  
「グリーンツーリズムの展開」  
バイエルンにおける現状と課題  
○鈴木秀樹 (個人研究)
- 「中高年の運動満足と生活満足」  
○八木良紀
- 長: 15:00~16:00  
現代女子学生の健康意識について  
(その3)  
○生力隆代 (国立音楽大学)  
藤井隆江 (立教大学)  
堀 真子 (華山学院大学)  
松本洋子 (大妻女子大学)  
植田芳子 (大手前女子大学)
- 「Camp 0-AT-0Aにおける伝統性」  
-指導者としての参加経験をもとに-  
○高橋 伸 (国際基督教大学)  
橋本裕秀 (余暇問題研究所)  
栗田由久 (余暇問題研究所)
- 「ゆとり教育を考える」  
-ツレネ教育の視点から-  
○南津浦子 (聖学院大学)
- 長: 16:00~  
市民NPOによる緑地の利用・管理の  
参加意識調査について  
-東京都町田市の木山自然公園を  
事例に-

(福岡大学 1998年11月22日・23日) 第28回学会大会

第28回学会大会組織委員会

大会名誉会長	奈良女子大学学部長	委員
大会会長	“ ”	“ ”
大会副会長	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
監事	“ ”	“ ”
大会委員長	“ ”	“ ”
委員	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”
“ ”	“ ”	“ ”

■ 日本レジャーレクリエーション学会第28回大会実行委員会

大会実行委員長	藤 野 伸
副委員長	広 野 洋
監事	“ ”
事務局長	“ ”
総務	“ ”
事務局長幹事	“ ”
研究企画	“ ”
編集	“ ”

新事務局長の案内

1998年度・1999年度の事務局が  
関東学院大学から「立教大学」  
に移転しました。  
〒352-8558 埼玉県新座市北  
野 1-2-28  
立教大学 武蔵野新座キャンパス  
コミュニティ福祉学部 研修研究室内  
電話・FAX: 048-471-7356  
電報 伝 送 号: 00150-3-692333  
※事務局へお問い合わせは、FAXでお願します。

1997年度 日本レジャーレクリエーション学会 (第3回) 常任理事会 (議事録)

議日: 1997年7月14日 (日) 18:30~19:30  
議場: 国立オリンピック記念青少年総合センター  
研修棟 4F-403  
出席者: 前野、黒田、高橋、鈴木 (秀)、荒井、  
坂口、下村、西田、西野、松浦、松田、  
油井  
幹事-沼澤、田中 (伸)

- Ⅰ. 承認事項  
常任理事会 (第2回) 議事録承認
- Ⅱ. 決議事項  
1. 「改選前理事会」選出選挙の発覚結果について  
選出により学連理事 (30名) より24  
名から「改選前理事会」の役員があった  
2. 学連発行の「レクリエーションの方法」  
における印刷についての調査結果報告  
出版者側 (「若させい」) の対応が曖昧な  
ため継続調査  
3. 第28回学会大会について  
福岡大学より内容を聞いた
- Ⅲ. 審議事項  
1. 学会大会について  
1) テーマ「レジャーレクリエーション指  
導者の育成」  
2) 講演・パネルディスカッション  
等の内容  
① 大学一般体育の方向性  
② 体育系大学のレジャーレクリエーション  
指導者の育成

④ 社会貢献からの役割

- 以上について学連小委員会と研究会副委員長  
と検討 (学会ニュースに掲載)
- 2. 「候補者選定委員会」委員 (常任理事) の  
選出について  
学連会長、副会長、理事の候補者を選定す  
る委員として、(現) 会長、副会長、(4名、  
理事と他日常任理事が選出され承認され  
た)
- 3. 「改選前理事会」選挙の関与について  
学連理事より投票された改選前理事の関与  
を厳正に。松浦常任理事と沼澤事務局幹事と  
より行われ、以下の10名の改選前理事が  
決定した。カフコ内は投票数、次点者は  
順位順位の得票数による。  
鈴木秀雄、松田義孝、坂口正吉、堀橋孝、  
松田三代子、西田健夫、石井久、下村彰男、  
西野仁、飯田俊。次点小田切一
- 4. ニュース (No. 62、12頁程度) の予定) の発  
行・発送と選挙関連資料の送付について  
1) ニュースの内容: 選挙制度の導入と  
実施について  
2) ニュースと関連する新聞等 (15名) 選挙  
の(第8号/1) に関する必要資料  
被選挙人名簿 (改選された10名をのぞ  
く)、投票用紙 [a]、投票用紙封入封  
筒、返信用封筒  
3) 学会大会の案内  
4) 学会発表演題の掲載 (28演題/7ペ  
ジ) 非会員2名は9月入会承認予定  
5) 改選前理事 (10名) の選挙結果報告  
議事録を印刷する小委員会 (ワーキング  
グループ) の委員について  
鈴木祐一監事、松田義孝、西野仁、松浦孝  
常任理事、鈴木秀雄理事が選出され承認  
された  
6. 第28回学会大会開催場所について  
第28回学会大会は福岡大学で、第29回学  
会大会は福岡大学 (埼玉系入部、東武東上  
線みずほ台駅下車) で行なうことが承認さ  
れた  
7. 新入会員について  
氏名 所属 推薦者  
堀田 崇 作新学院大学 沼澤秀雄  
鈴木祐彦 埼玉3級短期 鈴木秀雄  
三宅裕介 埼玉短期 沼澤秀一  
立本宏樹 立教大学 秋吉啓輔  
以上4名の入会承認された  
その他  
IV. 1. 次回常任理事会 (第4回) の開催日時につ



いて  
1997年9月29日(日) 18:30~20:30(予定)  
国立オリンピック記念青少年総合センター  
2. 短距離選手から入会申込書と手数料が150円必要となる要領あり

1997年度  
日本レジャー・レクリエーション学会(第4回)  
常任理事会(議事録)

- 3. 学会発表をする前に年会費を徴収することを検討する  
開催日: 1997年9月28日(日) 18:30~20:00  
開催所: 国立オリンピック記念青少年総合センター  
研修棟 8F-804  
出席者: 前野、田中(調)、藤田、石井、鈴木(秀)、荒井、坂口、堀崎、西村、西野、松浦、神野一昭、田中(伸)、杉本

- 会員の挨拶  
I. 確認事項  
常任理事会(第3回)議事録確認  
II. 報告事項  
1. 第27回大会追加発表(2題)の承認について  
大会発表2題が追加承認され、総題が30題となった  
2. 第27回大会研究発表に際する協会のお願いについて  
3. ニュース第62号の発行について  
選手関連資料、第27回大会の案内、成績掲載等の内容で7月下旬に送付済み  
4. ワークショップ(第1回)会合について  
日本体育協会において7月31日に第1回の話し合いを行った  
5. 「新理事」選出選挙(15名)に伴う選挙権、被選挙権の一部変更について  
6. 第31回全国レクリエーション大会について  
本学会が主催後援している全国レクリエーション大会が1月1~3日に北九州で行なわれることが関係された  
III. 審議事項  
1. 「新理事」選出選挙(15名)のやり直しについて  
選挙権、被選挙権に不平等があったために、「新理事」の選挙について選挙権を行なうことになった。この再選挙に伴う経費は157票の総費49200円であるが、鈴木学会理事長の5万円の寄付により賄うことが承認された。但し、このようなことは今後の前例となることが承認された

- 2. 「候補者選定委員会」委員(常任理事)の選出について  
1) テーマ「レジャー・レクリエーションの指導者育成と高等教育機関の役割」  
2) 基調講演: パネルディスカッションの内容および議題  
ニュース第62号にて発表済み  
テーマ等について、東京農業大学で開催された特色を踏かしていないのでは、寧ろ同慶大学に合わせられない等の議論があった。また、企画委員会が協議していないのではという意見が出された  
3. 発表議題(10題)の確定(追加)及び抄録原稿の依頼について  
抄録原稿が切替の2題の議題が承認され、30題の議題で発表が行なわれる  
4. 新理事15名の選挙結果について  
候補者選定委員会より現在157票の投票があったことが報告あり、9月28日(9月29日)のたのき常任理事会へ送ることが承認された  
5. 第27回大会大誌(第37号)への広告掲載依頼について  
大会誌の広告掲載については9月29日現在8件(32.5万円)の申込みがあった。大会誌は11月初めに発行予定  
6. 会社・中継局について  
年会費の納入状況が9月29日現在で224名で事務局から建設に申しと報告があった  
7. 学術協会及び理事会(第2期)の開催について  
次回及び次々回常任理事会で学会と理事会の開催を行なう  
第27回学会大会常務会長は五十十八歳学部長に就任することが承認された。また、10月9日に東京農業大学に事務局が移向し、実行委員会に10万円の選挙費を承認することになっているとの報告があった  
8. 新入会員について  
氏名 所属 推薦者  
草山友一 関東学院大学 鈴木秀雄  
柳井和雄 法政大学大塚校 鈴木文明  
内田勇雄 埼玉学院大学 前野一昭  
平川尊博 埼玉学院大学 鈴木秀雄  
以上4名の入会が承認された  
IV. その他  
1. 次回常任理事会(第5回)の開催日時について  
1997年10月10日(日) 18:30~20:30  
国立オリンピック記念青少年総合センター

2. 次々回常任理事会(第6回)の開催日時について

1997年度  
日本レジャー・レクリエーション学会(第5回)  
常任理事会(議事録)

1997年11月10日(日) 18:30~20:30  
国立オリンピック記念青少年総合センター(予定)  
開催日: 1997年10月20日(日) 18:30~20:00  
開催所: 国立オリンピック記念青少年総合センター  
研修棟 8F-804  
出席者: 前野、黒田、田中(調)、斎藤、松尾、石井、鈴木(秀)、荒井、坂口、堀崎、西田、西野、松浦  
幹事一昭、田中(伸)

- 会員の挨拶  
I. 確認事項  
常任理事会(第4回)議事録確認  
1. 第27回学会大会選挙状況について  
1) 大会常務委員会の構成  
2) 実行委員会の構成(副委員長、石井、井上委員長)  
大会事務局は東京大を中心に構成  
2. 大会大会(第27回大会)の選挙状況について  
1) 発表論文抄録原稿(2件)の選れについて  
以上について学大会常務委員長が10月9日に東京大に面談打ち合わせを行った  
2) 広告について(広告申請15件約1万円)  
3. 東京大への挨拶と打ち合わせ  
1) 大会常務会長、実行委員長のお願い  
2) 会場の確保  
3) 大会補助金(¥200000)  
以上について学大会常務委員長が10月9日に東京大に面談打ち合わせを行った  
4. 候補者選定委員会(第1回、第2回)の開催  
5. 「新理事」選出選挙(15名)の選挙結果について  
1) 選挙管理委員会報告  
2) 選挙結果  
「きょうせい」からの学会出版部印書についてその後の報告  
学会出版部印書印について「きょうせい」からその後の報告がなく、何らかの解決策が必要  
III. 審議事項  
氏名 所属 推薦者

1. 「新理事」選出選挙(15名)の選挙結果について

投票結果(有権者157名、95名投票、有効投票94票)

1 小田切 59	11 前野 15
2 田中(調) 36	12 山崎(博) 15
3 鈴木(秀) 33	13 堀井 14
4 黒田 30	14 江村 12
5 高橋(隆) 29	15 荒井 8
6 萩 27	16 永嶋 7
7 藤田 23	18 鈴木(文) 7
8 茅野 17	19 松尾(博) 7
9 守屋 16	19 鈴木(文) 6
10 山口(伸) 18	19 浅田 6

- この結果、15名の当選者に対して以下の手続きが行なわれることが承認された。尚、幹事名が出た場合については、新理事25~30名の規定の範囲で次点を繰り上げることが承認された  
1) 被選挙権の送付  
2) 新理事会への挨拶の確保  
3) 欠席者への「会長、副会長、監事の選挙費用無償送付」  
①全員に投票用紙を送付  
②出席者は当日投票の上投票あるいは事前送付の承認の確認  
2. 第27回学会大会  
1) 期票(第2期)の印刷(11月15日)(約11,000~12,000 東京大)  
2) 新しい理事(15名)による会合  
新理事の確保に召喚する。期日や場所等未定  
○理事長の互選  
3) 新理事会(第1回)  
新理事の確保後に召喚する。期日や場所等未定  
○会長、副会長、監事の選挙  
4) 議会の決定  
1996年度決算報告、1997年度予算案、活動計画案等については事務局が、各委員会の委員長は総会報告の準備が完了することが承認された  
3. 候補者選定委員会からの推薦書についてその後の報告  
1) 会長、副会長、監事の選挙予定  
2) 会長、副会長、監事の選挙日程(投票締め切り11月5日)  
4. 会員の承認  
氏名 所属 推薦者

谷岡三三 国立工業総合専門学校 田口郎芳  
金 風一 ソウル大学校 山中伸彦  
八木高純 豊後大学 山口孝雄  
折本浩一 安田女子大学 田口郎芳  
以上4名の入会が承認された

IV. その他  
1. 次回常任理事会(第6回)の開催日時について  
1997年11月10日(日) 18:30~20:30  
国立オリンピック記念青少年総合センター  
2. 次々回常任理事会(第7回)の開催日時について

1997年度  
日本レジャー・レクリエーション学会(第6回)  
常任理事会(議事録)

1998年1月19日(日) 18:30~20:30  
国立オリンピック記念青少年総合センター(予定)  
開催日: 平成9年11月10日(日) 18:30~20:30  
開催所: 国立オリンピック記念青少年総合センター  
研修棟 8F-804  
出席者: 前野、黒田、田中(調)、石井、鈴木(秀)、荒井、坂口、堀崎、西田、西野、松浦、神野一昭、田中(伸)

- 会員の挨拶  
I. 確認事項  
常任理事会(第5回)議事録確認  
II. 報告事項  
1. 学会大会の選挙状況について  
発表予定者全員が原稿提出、参加予定者は届名  
2. 学会大会について  
年会費未納者に対して大会号送附封筒の表に未着きで通知の上、配達した  
3. 候補者選定委員会について  
第2回を開催し、学会大会での理事会終了後(11月15日)に第3回を行う  
III. 審議事項  
1. 新理事の選任承認について  
新理事に選出された15名のなかで、前野(学会会長)、黒田(学会副会長)、江村(学会顧問)の3氏の評議員職が提出され承認された  
次点の松尾、永嶋、鈴木(文)氏には繰り上げの通知が行なうことが承認された  
2. 各委員会報告について(議事録参照)  
1) 年費会計・連任委員会からの報告  
2) 役員選挙の準備と実施の支援

- 3) 第27回学会大会の準備  
4) 次期、次々回学会大会開催地の決定  
5) 常任理事会常務委員の推薦と実施に関わる要領  
6) 会員名簿の整理・発行  
7) 広告掲載に対する募集要領  
8) 学術協会連帯団体としての必要要領  
9) 事務局業務要領  
以上の内容が報告され承認された(財務委員会)  
1) 財政基盤の安定化に向けて  
2) 会員規定の見直しについて  
3) 学会の知名度を高めるために  
以上の内容が報告され承認された(編集委員会)  
1) レジャー・レクリエーション研究第38号の発行  
2) レジャー・レクリエーション研究第37号の発行  
3) レジャー・レクリエーション研究第38号の発行  
4) 研究発表原稿の戻しについて  
以上の内容が報告され承認された  
5. 新理事会 総会に向けての準備について  
東京学芸大学長が総会において平成8年度理事報告、収支決算、平成9年度予算案計国家、予算案を説明する  
6. 会員の承認  
氏名 所属 推薦者  
神崎真一 神戸市立神戸商業高等学校 田崎 太郎  
藤井秀典 国際文化短期大学 河野 隆  
中島健一 福岡大学経済学部 西田 隆  
津谷の重雄  
小杉道雄

- IV. その他  
1. 学会誌「バックナンバー」の販売価格について  
会員は¥1000(あゆみ¥2000)、非会員は¥3000(あゆみ¥3000)とする  
2. 次回常任理事会(第7回)の開催日時について

1997年度  
日本レジャー・レクリエーション学会(第2回)  
学会連帯会(議事録)

1998年1月19日(日) 18:30~20:30  
国立オリンピック記念青少年総合センター(予定)  
開催日: 平成9年11月15日(日) 11:00~12:00  
開催所: 東京農業大学17号館132教室  
出席者: 進士(大会常務会長)、前野、秋吉、黒田、

田中(調)、鈴木(秀)、永嶋、石井、鈴木(秀)、荒井、坂口、堀崎、西村、西野、田中(伸)、斎藤、松尾、大谷、大島、杉原、鈴木(文)、芳賀、松尾、守屋、前野、山口  
幹事一昭  
大会常務会長の挨拶  
I. 確認事項  
定足数の確認  
II. 報告事項  
1. 選挙管理委員会による選挙結果(新理事15名)の報告  
1) 新理事15名について  
2) 選挙結果について  
前野(学会会長)、黒田(学会副会長)、江崎(学会顧問)の3氏の評議員職が提出され、常任理事会において承認されたことが報告された  
2. 候補者選定委員会報告について  
選挙結果について(11月15日)に第3回を行う  
3. 選挙結果承認状況について  
改選前理事(10名高得票順)

新理事(15名高得票順)

1 小田切一	9 山口 泰雄
2 田中(調)	10 山崎 博
3 鈴木(秀)	11 堀井 正昭
4 高橋 隆雄	12 荒井 尊子
5 萩 富雄	13 鈴木(文)
6 前野 一昭	14 永嶋 正昭
7 茅野 宏明	15 松尾 浩夫
8 守屋 浩次	

- 5. その他  
4. 学術誌「第37号」(大会誌)について  
巻末に会員名簿を入れ、年会費未納者には郵便封筒に添付で通知したうえ配付した  
III. 審議事項  
1. 総会承認について  
2. 平成8年度決算(会計監査)報告について  
理事会(第1回)で審議済み  
3. 平成9年度理事報告について  
理事会(第1回)で審議済み  
4. 平成9年度予算について

連帯会(第1回)で審議済み  
1. 第27回学会大会  
1) 期票(第2期)の印刷(11月15日)(約11,000~12,000 東京大)  
2) 新しい理事(15名)による会合  
新理事の確保に召喚する。期日や場所等未定  
○会長、副会長、監事の選挙  
以上が承認された  
6. 役員(会長、副会長、監事)選挙手順及び日程について  
7. 新入会員の承認について  
氏名 所属 推薦者  
以上が承認された

1997年度  
日本レジャー・レクリエーション学会(第7回)  
常任理事会(議事録)

1998年1月19日(日) 18:30~20:30  
国立オリンピック記念青少年総合センター(予定)  
開催日: 平成9年11月10日(日) 18:30~20:30  
開催所: 国立オリンピック記念青少年総合センター  
研修棟 8F-804  
出席者: 前野、黒田、田中(調)、石井、鈴木(秀)、荒井、坂口、堀崎、西田、西野、松浦、神野一昭

- I. 確認事項  
常任理事会(第6回)議事録確認  
II. 報告事項  
1. 第27回学会大会結果報告について  
1) 発表論文(39題発表、1題未発表)  
2) 大会参加者(111名)  
3) 大会総額報告(現金23万円)  
4) 広告掲載料・広告料入金状況(59万) 837円入金済み、未納6万、3件)  
2. 候補者選定委員会(第3回、第4回)終了後  
選挙結果終了後に第3回、学会大会終了後に第4回を行う  
3. 会費による年会費納入状況及び会員数  
平成10年1月15日現在395名が納入  
4. 「きょうせい」からの学会出版部印書印についてその後の報告  
5. その他  
III. 審議事項  
1. 財政状況について  
1) 各常任理事による賛助会費(1件)の贈りに関する  
2) 代表者として常任理事の「あゆみ(10冊)」頒布による賛助会員の獲得分充足の件

- 賛助会員のメリットを検討することで承認
2. 年度内業績 (実績) について  
1) ニュース (No. 33): 学生会誌 (第35号) の発行に関する財政的支援  
2) 新しい理事の2回の会合 (第1回は会長の音楽による開場、第2回は第1回理事会)  
(1) 第1回の会合 (2月16日) で候補者選定委員会の意見を聴取し、理事長の互選を支援及びその後の会長、副会長、監事の選出方法の確認  
(2) 第2回の会合は第1回理事会となり会長、副会長、監事の選出方法を確認 (立教大学を予定している)
3. 候補者選定委員会の意見について  
1) 会長、副会長、監事の選出方法の運用  
① 理事会への出欠率に関わらず全理事に投票用紙を送付する件  
② 信任投票表の扱いに関わる件

1997年度  
日本ジャー・レクリエーション学会 (第9回)  
常任理事会 (議事録)

場所: 立教大学太刀川記念館 (池袋駅西口より徒歩にて7分)  
開場日: 平成10年3月15日 (日) 13:00~14:00  
開演日: 立教大学太刀川記念館第1会議室  
出席者: 前野、秋吉、高橋、田中 (幹)、石井、森木 (幹)、荒井、坂口、西田、西野、松浦、津井、津浦  
幹事: 津浦  
幹事: 津浦  
幹事: 津浦  
幹事: 津浦

会長挨拶  
1. 承認事項  
常任理事会 (第7回) 議事録承認

II. 報告事項  
1. 未納広告掲載謝礼、広告料入金状況  
2. 「ぎょうせい」からの学会出版関係印刷品についてその後の報告  
3. 事務局 (平成10・11年度) の強い  
4. 次回常任理事会 (第9回)・理事会 (第3回)・新理事会 (第1回) 会場及び日程  
5. その他

III. 審議事項  
1. 財政状況について

1. 学生会誌第35号発刊の準備状況  
1) 年会費納入のお問い合わせ (選挙権との関係) / 6月30日までの納入の確定化の件  
2) 住所・所属先等確認用はがきの取り込み  
3) 第37回学生会大会案内  
4) 年度業績報告方法案内以上が承認された
2. 平成9年度会計報告  
学生会誌第35号の発行関係費用を除き101万円の現金、407人が年会費を納入したことが報告された。未納者について通知を送付することが承認された
3. 事務局 (平成10・11年度) の強い  
副理事長から立教大学への移転が承認された
4. 会員の承認  
氏名 高橋 謙吉  
佐々木寿代 丸根工科大学 秋吉高橋
- IV. その他

1997年度  
日本ジャー・レクリエーション学会新理事  
会 (平成9・10年度) の会合 (第1回) 常任理事会 (選挙録)

1. 平成10年度第1回常任理事会について  
平成10年4月20日 (日) 18:30~20:30  
立教大学太刀川記念館第1会議室  
開場日: 平成10年2月16日 (日) 19:00~20:00  
開演日: 国立オリンピック記念青少年総合センター

研修場  
出席者: 前野、秋吉、黒田、鈴木 (幹)、永嶋、高橋、田中 (幹)、石井、津田、鈴木 (幹)、荒井、坂口、西田、西野、松浦、津井、津浦、山崎  
幹事: 津浦

会員の挨拶  
1. 承認事項  
新理事 (75名) の確認 (自己紹介)

II. 報告事項  
1. 候補者選定委員会委員長による経過報告 (選挙録参照)  
2. 事務局 (平成10・11年度) の強い (3月15日に報告)  
3. 次回常任理事会 (第9回)・理事会 (第3回)・新理事会 (第1回) 会場及び日程  
4. ワーキンググループの設置について  
ジャー・レクリエーション専門家を養成、育成するためのワーキンググループを設置する

III. 審議事項

1998年度  
常任理事会 (平成10年度、第2回) の開催  
1. 理事会 (第3回) 及び新しい理事の第2回目の会合 (第1回新理事会) の会合開催  
14:00~16:00  
開場日: 平成10年5月25日 (日) 午後6時30分~午後8時  
開演日: 立教大学 [12号館2階第3会議室]

1. 前野 (第1回、4月30日) の議事録承認  
2. 報告事項  
1) 学生会誌『第35号』の発行について  
① 第28回学生会大会案内 (再掲大学)  
② 学術発表申し込み方法案内 (締め切り6月20日)  
③ 事務局移転  
④ 会員名簿 (再掲) 連絡は引き続き  
⑤ 年会費の納入案内 (6月30日)  
⑥ 年会費未納者への機関紙等の送付停止意向  
⑦ 発刊誌再掲費の学会研究発表申込

- み案内表記  
2) 日本体育学会第30回記念大会への関連学会としての参加意思表明  
3) その他  
3. 審議事項  
1) 常任理事の職務分掌について [資料1]  
① 総務、② 財務、③ 研究企画、④ 編集、⑤ 広報渉外  
2) 学会大会の日程 (常任理事会、理事会、総会、総会等)、大会テーマ、内容  
① 開催場所の要望  
② 大会テーマの決定  
③ 作業日程及び業務内容の分担  
3) ニュース第64号について  
4) 顧問の推薦・委嘱について (前野幹一、黒田信宏、田中順徳)

1997年度 予算 (案)  
日本ジャー・レクリエーション学会  
平成10年4月1日~平成11年3月31日

I. 事業費

1) 第28回学生会大会開催  
期日: 平成10年11月22日(日)・23日(月)  
場所: 福岡大学  
2) 雑誌『ジャー・レクリエーション研究』第29号、第40号 (大会号)、第41号  
3) 「学会ニュース」No.63、No.64の発行  
4) 組織の充実に、会員の拡充  
5) 学術団体交流  
6) その他

II. 会費  
1) 総会の開催  
2) 理事会の開催  
3) 常任理事会の開催  
4) 各委員会の開催

平成9年度 決算報告書  
平成9年4月1日~平成10年3月31日  
日本ジャー・レクリエーション学会  
(単位: 円)

収入の部		
科目	予算	実績
前年度繰越金	181,784	202,734
年会費	2,108,000	2,074,000
進捗会費	200,000	46,000
入会金	37,000	6,000
賛助会費	337,000	31,000
広告料	338,000	338,000
雑収入	1,000	1,000
雑収入	40,000	40,000
合計	4,003,784	3,669,734

支出の部		
科目	予算	実績
印刷費	2,480,000	2,451,000
通信費	60,000	274,300
事務用品費	100,000	100,000
旅費交通費	400,000	174,200
印刷費	100,000	100,000
雑費	140,000	140,000
大会補助費	200,000	200,000
予備費	60,000	60,000
前年度繰越金	318,784	318,734
合計	4,083,784	3,674,234

収入の部		
科目	予算	実績
前年度繰越金	210,000	210,000
年会費	1,000,000	1,000,000
進捗会費	100,000	100,000
入会金	40,000	40,000
賛助会費	100,000	100,000
広告料	300,000	300,000
雑収入	1,000	1,000
雑収入	100,000	100,000
合計	3,474,784	3,474,734

支出の部		
科目	予算	実績
印刷費	2,480,000	2,451,000
通信費	60,000	274,300
事務用品費	100,000	100,000
旅費交通費	400,000	174,200
印刷費	100,000	100,000
雑費	140,000	140,000
大会補助費	200,000	200,000
予備費	60,000	60,000
前年度繰越金	318,784	318,734
合計	4,083,784	3,674,234

収入: 3,784,774  
支出: 3,469,474  
繰越: 315,300

監事の結算、決算報告は適正である  
と認めました。  
理事 幹事 委員長 委員 事務局長  
平成10年4月18日

収入: 3,474,734  
支出: 3,474,234

# 第28回学会大会開催案内

開催期日：1998年11月22日(日)・23日(月)  
場所：福岡大学 〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1 ☎092-871-6631内線6772

## 事務局からのお知らせ

- バックナンバー(『あゆみ』を含む)の実費頒布を行っています。特に新入会員におすすめします。  
①『あゆみ』32号の値段  
1冊¥2,000 (送料¥390) ※既報済み  
②『あゆみ』を除くその他の研究誌は、1冊¥1,000 (送料別)
- 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご連絡ください。  
①申込み時に必要事項を記入し、入会金(¥1,000)と年会費(¥5,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。
- 平成10年度の年会費(¥5,000)を納めていない会員がいましたら、至急納入手続きをお願いします。  
郵便振替番号 00150-3-602353
- 新事務局は、立教大学武蔵野新座キャンパスで、坂口正治(東洋大学短大)、西田俊夫(東海大学)、沼澤秀雄(立教大学)、片桐義昭(早稲田大学大学院)のメンバーに、会長、理事長をはじめ役員の方や会員の皆様との協力を得ながらスタートしてまいりますのでよろしくお願いいたします。

## 編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について  
投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最速でも2ヶ月程度の時間を要する点をご考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-206  
立教大学 武蔵野新座キャンパス  
コミュニティ福祉学部 沼澤研究室内  
「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

# 会員の 動静

### ●新入会員 (所属)

福田 徹	作新学院大学	金 晃一	ソウル大学校
鈴木 裕彦	東工 さがみ緑園園	八木 良紀	富士ゼロックス総合教育研究所
三宅 智介	鶴ヶ島市立 環境計画室	折本 浩一	安田女子大学
立木 宏樹	近畿大学九州工学部	渡邊 眞一	神戸市立神戸商業高等学校
草山 友一	関東学院大学	唐澤 弘英	福岡大学短期大学部 (非常勤)
駒津 和康	北海道教育大学大館	中島 弘毅	福岡大学短期大学部
内田 州昭	愛知学院大学	笠木 秀樹	
早川 章治	熊本学院	八木 秀樹	
谷岡 聖三	国立員工高専等専門学校	佐々木寿代	九州工業大学情報工学部

### ●平成10年度 退会者

小杉 道雄

平成11年1月

## 学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会  
(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)  
発行人 鈴木 秀雄 編集 沼澤秀雄委員長  
事務局 〒852-8558 埼玉県新座市北野1-2-206  
立教大学 武蔵野新座キャンパス  
コミュニティ福祉学部 沼澤研究室内  
電話 FAX 048-471-7356  
郵便振替 00150-3-602353

JANUARY, 1999  
No. 64

### 新しい年を迎えて

会長 鈴木 祐一  
(福岡女子大学名誉教授)

会員の皆様には、希望あふれる輝かしい新年1999年を、お迎えのこととお慶び申し上げます。皆様のご健康と笑み多い一年になりますよう祈っております。

会長に就任し最初の学会大会として、昨秋 福岡大学においての「国際交流時代のレジャー・レクリエーション」をテーマとする大会が、所期の成果を成功裡に終了できましたことを喜んでいます。

これもひとえに、会場として学会開催を許可くださり、大会名譽会長に就任をいただいた、福岡大学学長石田重康先生をはじめ、第28回学会大会開催委員会の皆様、そして大会運営にご尽力くださいました実行委員会委員長大谷博博先生と実行委員の方々の情熱的なご協力、そして申すまでもなく会員皆様のご理解があったからこそ、心から感謝と謝礼を申し上げます。

さて、現代社会はあらゆる局面において、予断を許さない厳しい時代であり、ひとりひとりの生き方が問われている時代でもあります。そのような中で、自身の幸福の追求はもとより、私たちがもつ「活力(エネルギー)」を自己のためだけでなく、自己実現としての社会参加や社会貢献あるいは社会還元のために他者に向けて費やしていく姿勢が必要であります。個人が、本質と機能をじょうぶに理解し質の高いレジャー・レクリエーションを生活の中で具現化していくための支援をすることもこれからの学会にとりまして一つの責務であらうと考えます。

学会の研究活動の更なる活性化とともに、学会の機能でもある会員相互の情報交換の場としての役割を果たす努力をして参りたい存じます。

今秋の第29回学会大会(総会大学)での皆様の研究成果の活発な発表を期待し、おめにかかるところを楽しみにしております。

---

### JSLRSニュース10

- 新しい年を迎えて(鈴木祐一)..... P. 1
- 福岡大学での第28回学会大会を開催して(鈴木秀雄)..... P. 2
- 第28回日本レジャー・レクリエーション学会大会を迎えて(大谷博博)..... P. 3
- 総会の報告..... P. 4
- 年度会費等の改正(値上げ)..... P. 5
- 理事会の報告..... P. 6
- 第28回学会大会研究発表申込み状況について..... P. 6
- 委員会・事務局からのお知らせ..... P. 7
- 第29回学会大会開催地決定..... P. 8
- 会員の動静..... P. 8

見事な準備と心温まる実行委員会の運営による  
第28回学会大会(於：福岡大学)  
を無事開催して、そして...

理事長 鈴木 秀雄  
(福岡大学大学院法務学専攻)

大相模九州場所の千秋夜が学会の初日となった第28回学会大会(於：福岡大学七隈キャンパス)は、福岡市内の気候と同じようにスタートからゴールまで、大会実行委員会(委員長：福岡大学スポーツ科学部大谷博博教授)の見事な準備と心温まる運営により、学会の発展が大会で実現できたといっても過言ではありません。本記事執筆も前日は福岡入りし、実行委員会との詳細な法的作業もこなし、基調講演者で福岡市市民局長佐藤部部部長スポーツ振興課長である佐藤典典氏、シンポジストで福岡教育大学教育学部三本正広教授、シンポジウムコーディネーターで大会実行委員長も兼ねる前述の大谷博博教授、さらに本学会理事で実行委員会事務局長を務められた松宮晋彦福岡大学教授の出席を得て、あらゆる角度からの基調講演やシンポジウムの実行にあたっての厳密な打ち合わせ、加えて会員皆様の受付業務、理事会、懇親会、研究発表、総会、それらに伴う会場の手配と機器備品の準備状況、開会式にあたっての石田重康(福岡大学学長)大会名譽会長挨拶に伴う式次第の確認、本学会鈴木祐一会長とご挨拶打ち合わせ等々、時間をかけての検討を行っていただきました。勿論時系列的に運営マニュアルを作成し、当日の実行委員の連携を避ける配慮も済ませ、素晴らしい会場と見事な実行委員会のチームワークで学会大会の運営が進められました。責任範囲(Span of Control)と指揮系統(Chain of Command)の明確さをももたらしたことが何回かの呼吸による心温まる運ばれた敬慕するばかりでした。

快く学会大会の開催受理をいただいた福岡大学当局、心温まる運営を助けてくださった大会実行委員の皆様には心からの感謝と謝意を申し上げます。大会そのものを組織していただいた組織委員の方々にも深く感謝申し上げます。そのうちの中、審判委員された会員の皆さんで、シンポジウム、懇親会、懇話会、総会等に参加された皆さんも、いたる所で「行き届いた運営であった」と実行委員の評価をされたのではないのでしょうか。

今回の学会大会テーマは「国際交流時代のレジャー・レクリエーション」とし、その趣旨は、これまで国際交流の推進は一般的に、外務省をはじめとする公的分野の役割であると思われてきましたが、情報と交通のグローバル・ネットワーク化により、NGO(非政府団体)、NPO(非営利組織)など私的部門の果たす役割が大きくなってきています。さきの長野オリンピックアラスダでのワールドカップにみられるように、国際交流プロジェクトは民間にあつては、市民の積極的な協力・支援がきわめて重要になってきているのです。学会大会の開催地である九州・福岡においても、1995年夏季ユニバーシアード大会開催にあつては、市民のボランティア活動(サービス)が大会の成功に大きく貢献したことが高く評価されました。レジャー・レクリエーション活動は、原則的には個別のレジャー・レクリエーション活動への参加が重要であることは言うまでもありませんが、市民が、様々な遊びでなければ、飽き難い仕事でもない、いわゆる主体的かつ創造的な社会参加型あるいは社会貢献型の活動を通して国際交流プロジェクトに関わることも、レジャー・レクリエーションに就いて意義深いものです。このような活動を経験した人たちは、一緒に異文化の相互理解、国際交流への寄与に深い喜びを感じているのです。国際交流プロジェクトは、市民にとって、「世界・異文化・国際社会」を知るよい機会であり、また「日本・地域・自己」のアイデンティティに気づくよい機会でもあります。学会大会では、九州・福岡地区の経験、世界の経験と大分高所から検討し、その成果を社会にフィードバックし、今後の国際交流プロジェクト推進の良きサポーター(地域・団体・個人)育成に学会が貢献することも重要であると考え「国際交流時代のレジャー・レクリエーション」をテーマとし、基調講演・シンポジウムを企画しました。

基調講演は「国際交流で私たちが経験し、学んだこと」と題し、佐藤典典福岡市スポーツ振興課長にお話しい、シンポジウムでは「国際交流時代のレジャー・レクリエーション」というタイトルでコーディネーターを大谷博博福岡大学教授、3名のシンポジストはそれぞれ、1、「市民支援型国際交流のあり方」三本正広(福岡教育大学教授)、2、「ユニバーシアードでも学んだ国際交流プロジェクトの効果と課題」佐藤典典(福岡市スポーツ振興課長)、3、「レジャー・レクリエーション

ンから見た国際交流におけるボランティア活動
川原正志(鹿屋実業大学教授)の各氏にお話し
しました。

学会大会第2日目(研究発表は総会を挟み、31
期がA、B会場に分かれて報告され、総会(詳細
は本ニュース資料参照)では、今後の学会の確実
な運営に向けて学会発足以来初めての年度会費の
平成11年度からの値上げ(現行の年次会費1000円、
年度会費5000円から入会金4000円、年次会費3000
円への変更)を提案として報告し、承認を醸成しま
した。平成11年度は役員選挙の年であり、平成11
年度12月31日現在会員で、平成11年6月末日まで
に平成11年度会費を納入した者が被選挙権・選挙
権獲得のためには必要となる要件を満たすことにな
ります。是非新年度の年度会費の納入についてご
協力をお願いいたします。また総会での報告事項

としては、顧問に新たに3名(前野洋一郎会長、
黒田信寛前副会長、田中鎮雄前副会長)が掲載さ
れ、第29回学会大会を継ぎ平成11年11月に
開催すること、第30回学会大会(西暦2000年開催)
を記念大会とすることをお知らせし無事総会
を閉じることができました。
今学会大会終了後直ちに、学会として初めての
試みでしたが、次期学会大会の第1回準備委員会
の編成で関係いたしました。淑徳大学国際メニ
ューテーション学部(埼玉)に於いて開催されま
す第29回学会大会開催場・日程の確認
次期大会は、淑徳大学において11月に
開催されることが報告された
関係者を代表して、西田常任理事から
挨拶を行いました。
第30回大会の記念大会について
第30回大会は、記念大会として行なう
ことが報告された

第28回日本レジャー・レクリエーション学会大会を終えて

第28回日本レジャー・レクリエーション学会大会実行委員長
大谷 善博
(福岡大学スポーツ科学部教授)

去る平成10年11月22日・23日、福岡大学において、日本レジャー・レクリエーション学会大会第28
期学会大会が開催された。九州地区での開催でもあり、参加者数安心配られたが、約100人の会員をはじめ、近
畿や福岡圏一帯のレクリエーション学会の委員、行政その他関係者を含め、200名を超える参加者を得て、活気あふれる開催となった。
本学会大会は、「国際交流時代のレジャー・レクリエーション」の大会テーマのもと、初日の基調演
講、シンポジウム、二日目の一般発表とそれぞれの会場で熱心な議論が行われた。また懇話会では、
学際的な知見の交換と交流、会員相互のネットワークの広がりがみられた。
「ホスピタリティ(hospitality)」もてなしの心。これが本学会大会の地元実行委員会の運営に関
わるコンセプトであった。

レジャー・レクリエーションは、ブレイクをその本質として、人間の本能的欲求の充足による生の
充実、クオリティ・オブ・ライフの実現に関わる。このようなレジャー・レクリエーションのアガ
ダミクス理論の発展と実践の充実をはかる学会大会であるからこそ、その運営においては、「ホスピタ
リティ」が根柢にならなければならないという思いによる。
大会開催までの約1ヶ月間は、週に約2回のペースで打ち合わせを行ない、スムーズな運営とホ
スピタリティの達成に向けた準備を進めたが、この達成は、地元のレクリエーション協会の協力と
5名の福祉レクリエーションネットワークの方々の親善的なボランティア活動を抜きには考えられない。
「受付は学会大会の場でから華やかでなければ」とボランティアの方が自ら買ってきた二鉢の菜の花
と「蒸調漬物は決まりの盛りだくさんの盛り合わせが似合います」とお持ちいただいたお漬物を持ってきた

「蒸調漬物やシンポジストの方はお疲れでしょうから」と、見事に色づいた柿の葉の茶托と抹茶。
この温かみもてなしの心こそレジャー・レクリエーションの原点かもしれない。

今回の学会大会の運営は、地元レクリエーション協会をはじめとする民間団体の協力と地元ボラン
ティアの方、大学生、学生への親善的なサポートによって何となく無事終了することができた。記して
心より厚く御礼申し上げます。また、このことが新たな民間団体と本学会の連携の契機となれば
である。

ある会員から「今回みたいにアウトホームな学会大会は初めてです。また、お会いできる日を楽し
みにしております」と言っていたのだ。ホッとすることがあった。

日本レジャー・レクリエーション学会
平成10年度 総会

式次第

- 開会の辞
会長挨拶
議案提出
議事録着名人選出
議 案

- (1)第一号議案 平成9年度事業報告
(2)第二号議案 平成9年度収支決算
監査報告
(3)第三号議案 平成10年度事業計画(案)
(4)第四号議案 平成10年度予算(案)
(5)第五号議案 学会会則の改正
(第20条、第1項、第2項、第4項)
(6)その他

- ①選挙結果に伴う新役員報告
②学会顧問の委嘱(新たに3名の追加)
前野洋一郎会長
黒田信寛前副会長
田中鎮雄前副会長

- ①立教大学への事務局移転
②第29回学会大会開催場・日程の確認
(淑徳大学・11月)
③第30回大会の記念大会について

開会の辞

(1)第一号議案

平成9年度 事業報告

I. 事 業

- 1) 第27回学会大会開催
期日：平成9年11月15日(日)・16日(月)
場所：東京農業大学
2) 機関誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行
第36号、第37号(大会号)、第38号
3) 「学会ニュース」№62の発行
4) 組織の充実・会員の成長
5) 学術団体交流
6) 日本レジャー・レクリエーション学会
役員選挙の実施
7) その他

II. 会 費

- 1) 総会の開催(東京農業大学平成9年11月16日(日))

- 2) 理事会の開催
(H.9.11.15/H.10.2/16/H.10.3/15の計3回)
3) 常任理事会の開催(計9回)
4) 各委員会の開催

(2)平成9年度 決算報告書

第二号議案に関する資料

平成9年4月1日～平成10年3月31日
日本レジャー・レクリエーション学会
(単位：円)

Table with financial data for the association, including income and expenses for various departments and committees.

総収入 1,739,274
総支出 1,648,644
繰越金 90,630

(3)第三号議案

平成10年度 事業計画(案)

I. 事 業

- 1) 第28回学会大会開催
期日：平成10年11月22日(日)・23日(月)
場所：福岡大学七隈キャンパス
2) 機関誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行
第37号(大会号)、第40号、第41号
3) 「学会ニュース」№63、№64の発行
4) 組織の充実・会員の成長
5) 学術団体交流
6) その他

II. 会 費

- 1) 総会の開催(福岡大学平成10年11月22日(日))
2) 理事会の開催
3) 常任理事会の開催
4) 各委員会の開催

(4)第四号議案

平成10年度 予算(案)

Table showing the proposed budget for the 10th fiscal year, including income and expenses.

(5)第五号議案

学会会則の改正

- 第20条 会員の会費は次の通りとする。
1. 入会金 年次額 1,000円
2. 正会費 年次額 5,000円
3. 賛助会員 年次額 20,000円以上
4. 購読会員 年次額 5,000円
第20条 会員の会費は次の通りとする。
1. 入会金 年次額 2,000円
2. 正会費 年次額 8,000円
3. 賛助会員 年次額 30,000円以上
4. 購読会員 年次額 8,000円

※上記の通り総会において平成11年度からの年度

会費等の改正(値上げ)が承認されました。宜し
く御理解の程をお願いいたします。

(6)その他

- ①選挙結果に伴う新役員報告
新役員が27名になったことが報告された
②学会顧問の委嘱
前野洋一郎前会長・黒田信寛前副会長・田
中鎮雄前副会長の3名を、新たに顧問
として委嘱することが報告された
③立教大学への事務局移転
事務局が関東学院大学から立教大学へ
と移転したことが報告された
④第29回学会大会開催場・日程の確認
次期大会は、淑徳大学において11月に
開催されることが報告された
関係者を代表して、西田常任理事から
挨拶を行いました。
⑤第30回大会の記念大会について
第30回大会は、記念大会として行なう
ことが報告された

1998年度
日本レジャー・レクリエーション学会
総会(議事録)

- 日 時：平成10年11月23日(日)午後1時～午後4時40分
場 所：福岡大学七隈キャンパス(A棟、B1会議室2)
出席者数：55名(議長を含む)
I. 開会の辞
II. 会長挨拶
III. 議長挨拶
大石正人会員が議長として選出された
IV. 議事録着名人選出
金崎真三会員、吉田豊貴会員2名が議事録着名人
として選出された
V. 議 案
(1)第1号議案 平成9年度事業報告
(2)第2号議案 平成9年度収支決算
監査報告
(3)第3号議案 平成10年度事業計画(案)
(4)第4号議案 平成10年度予算(案)
以上の議案について、拍手を持って承認された
(5)第5号議案 学会会則第20条、第1項、
第2項、第4項の改正
年次会費の値上げについて行なう事業のな
かでどう活用しているのか質問が出され
事務局から資金面で学会運営が厳しくな

ている現状の説明があり安定した運営を行
うために値上げを行なうことが確認され
た

(6)その他

- ①選挙結果に伴う新役員報告
新役員が27名になったことが報告された
②学会顧問の委嘱
前野洋一郎前会長・黒田信寛前副会長・田
中鎮雄前副会長の3名を、新たに顧問
として委嘱することが報告された
③立教大学への事務局移転
事務局が関東学院大学から立教大学へ
と移転したことが報告された
④第29回学会大会開催場・日程の確認
次期大会は、淑徳大学において11月に
開催されることが報告された
関係者を代表して、西田常任理事から
挨拶を行いました。
⑤第30回大会の記念大会について
第30回大会は、記念大会として行なう
ことが報告された

V. 閉会の辞

- (3)第3号議案 平成10年度事業計画(案)
(4)第4号議案 平成10年度予算(案)
(5)第5号議案 学会会則第20条、第1項、
第2項、第4項の改正

改正の実施は来年度からとすることが確認され
た。また、学生会員を設けてはどうか
という意見が出された。

(6)その他

- ①選挙結果に伴う新役員報告
②学会顧問の委嘱(前野、黒田、田
中の3氏)
③立教大学への事務局移転
④第29回学会大会開催場・日程
(淑徳大学・11月)の確認
⑤第30回大会の記念大会について
以上の承認された
2名の入会が承認された
秋吉吉富会長挨拶

第29回学会大会 研究発表の申込み

開催期日：平成11年7月27日(日)・28日(月)
開催場所：福岡大学7-1学生センター
〒814-0192 福岡大学七隈キャンパス
B304(旧) 福祉学履修部3号入り組151-1
☎0432-74-1511

- 1. 申込みの方法
以下の申込み書に下記の必要事項(①-④)を記入
して下さい(⑤は必ず記入)。
①所属機関名(④は必ず記入)
②発表者の連絡先(住所及び電話番号、FAX番号)
③発表題目(正確にお知らせ下さい。申込みの発表
題目の変更は原則としてできません)
2. 申込み先
以下の申込み書をお送りください。
〒814-0192 第三号議案研究発表委員会
立教大学 武蔵野看護学キャンパス
コミュニケーションセンター 国際交流センター内
電話：FAX 043-471-7358
3. 研究発表申込み書の抄録依頼の取り扱い
所定の抄録依頼用紙(A4判のものを4枚)を執筆
要項と共に平成11年7月下旬に事務局に送付し
ます。学会機関誌「学会大会」(第41号)と
して印刷の掲載上、締切り期日を遵守してく
ださい。



### 委員会・事務局からのお知らせ

#### 編集委員会からのお知らせ

#### ●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最遅でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

投稿論文送付先  
〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2の26  
立教大学 武蔵野新座キャンパス  
コミュニケーション福祉学部 沼研究室内  
「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

#### 事務局からのお知らせ

- バックナンバー(「あゆみ」を含む)の実費頒布を行っています。特に新入会員におすすめます。  
①「あゆみ」32号の値段  
1冊 ¥2,000(郵送料 ¥390)  
②「あゆみ」を除くその他の研究誌は、1冊 ¥1,000 (送料別)
  - 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご一報ください。
- 【申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。】  
平成10年度の年会費(平成10年度までは¥5,000)を収めていない会員がいますので、至急納入手続きをお願いします。  
郵便振替番号  
00150-3-602353

#### ■事務局だより■

平成11年度は役員選挙の年でもあります。その選挙権、被選挙権を有するためには、年会費の納入が6月末日迄となっていますのでご注意ください。

## 次回第29回学会大会は 淑徳大学 国際コミュニケーション学部 (みずほ台キャンパス)で開催

次回学会大会の開催は、下記のとおり淑徳大学国際コミュニケーション学部(みずほ台キャンパス)と決定しました。

1. 会期：平成11年11月27日(土)・28日(日)
2. 会場：淑徳大学  
〒354-0041  
埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1  
電話 0492-74-1511

### 会員の動静(新入会員)

大 原 英 幸	国際コミュニケーション学部	大 田 節 子	福岡大学大学院
久 保 和 之	中央大学大学院	福 岡 直 由	福岡大学大学院
久 松 謙 理	東海大学大学院	山 田 力 也	福岡大学大学院
松 本 伸 子	大手前女子大学	藤 田 信 子	第一保育短期大学
石 井 貴 里		西 村 久 美 子	神戸大学大学院
境 井 直 志	武蔵野短期大学	中 嶋 博 博	和歌山大学教育学部
荒 井 直 幸	東京農工大学	芝 誠 貴	独立系短期大学看護学部
森 田 浩 幸	岩崎産業	町 田 弘 幸	福岡短期大学
森 原 孝 幸	日本大学大学院	城 弘 子	九州ルーテル学院大
上 洗 谷 孝 秀	信州大学農学部大学院	賀 學 洋 郎	筑波大学
北 村 優 明	青森大学	山 口 有 次	早稲田大学大学院
那 池 ゆ かり	北海道女子大学短期大学部	土 井 由 紀 子	学校法人九州安達学園
水 崎 秀 敏	保谷市役所	池 田 孝 博	佐賀短期大学
	岡山大学体育研究所	井 上 弘 人	熊本学園大学

平成11年10月

## 学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会  
(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

発行人 鈴木 秀雄 編集 広瀬伸也(表紙)  
事務局 〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26  
立教大学 武蔵野新座キャンパス  
コミュニケーション福祉学部 沼研究室内  
電話:TEL 048-471-7356  
郵便振替 00150-3-602353

OCTOBER 1999  
No. 65

### 会長挨拶

日本レジャー・レクリエーション学会  
会長 鈴木 祐一

日本レジャー・レクリエーション学会の会長をお引き受けて、間もなく二期2年が終わろうとしております。この間、学会の役員として会員の皆さんのお力添えによりまして内務的な歩みをして参りましたことに、御挨拶申し上げます。「開かれた学会運営」の基盤として、「学会会報」そして学会運営に直接関係する「役員選出規則」等の改訂作業を行って学会の発展を期された、この2年間において、関係役員等の努力でその実現が図られたことと誇りしております。

昨年11月の第28回学会大会(福岡大学)の期には、すでにわが組織が、不図に揺れている折りにとも拘わらず、学会運営の発展のため「会報」の改訂が、会員の皆さんのご理解と積極的な支援によりまして、実現いたしました。

これらの経緯から、学会としての研究活動等のより活性化を図ることが目下の課題と見做します。つきましては、次期の学会活動に際しての活動をとお願ひいたします。

一つは専らでも、学会として最も重要な「研究発表、論文の発表、交流の場」これを確保確保しておくこと、折々の規定によって会員の活用に関する一助と、年1回の学会大会の機会以外に、日頃の研究の進展について会員間の交流の場を設けては如何かということであり、

二つは、学会の基盤、活動の中心となるスタッフの育成を見据えて若い会員の協力、支援を得ることとあります。この点の実現には研修会等とありますが、将来的な発展には、是非、考慮すべきと思っております。

そこで、現在の専門委員会(総務、研究企画、編集、広報・渉外、財務)の人的配分を振り、役員以外の会員に学会活動に参画を願うてはとされます。役員と若い会員の知灼・心的交流は、活動の発展に大きな原動力となるものと思っております。

三つは、関係団体とくにわが学会設立の経緯を踏まえ、主な団体の研究及び人的な交流を行うことが、この学会としての更なる発展に資するものと考えます。

さて、本年の学会大会は、来年度11月5日(日)の期は、「淑徳大学 国際コミュニケーション学部」で開催を予定し、大学ご自身の協力をお願いしているところであります。

また、次年度の学会大会は、第30回記念大会として、会報誌については、目下採稿中であります。節日の学会大会として、研究発表等大会の機会を期して、ご協力をお願いいたします。

会員の皆さんのご協賛とご研鑽の更なる推進を祈念申し上げます。

### JSLRSニュース9

1. 学会会長挨拶(鈴木祐一).....P. 1
2. 学会理事会長挨拶(鈴木秀雄).....P. 2
3. 新役員(次期理事).....P. 2
4. 第29回学会大会開催案内.....P. 3
5. 学会大会研究発表要録(27題).....P. 5
6. 常任理事会報告.....P. 7
7. 事務局からのお知らせ.....P. 10
8. 編集委員会からのお知らせ.....P. 10
9. 会員の動静.....P. 10

### 学会大会に寄せて 過去5年の学会大会のテーマを振り返りながら

理事 鈴木 秀雄  
(関東学院大学)

過去5年における学会大会テーマは、それぞれ「21世紀を生きるレジャー・レクリエーション環境」(註:新座大学北海道短期大学、第24回、1994年)、「新しい時代の創造的遊戯」(註:華信学院大学、第25回記念大会、1995年)、「福祉社会におけるレジャー・レクリエーション研究と教育への開眼」(註:奈良女子大学、第26回大会、1996年)、「レジャー・レクリエーション指導者養成と指導教育課程の役割」(註:東京農工大学、第27回大会、1997年)、「国際交流時代のレジャー・レクリエーション」(註:福岡大学、第28回大会、1998年)であった。学会の共通言語であるレジャー・レクリエーションを掲げて5年間であり、組織、教育、研究、育成、交流等それぞれに重要なキーワードを掲げての開催後や問題意識の提供を促した内容であったことは言うまでもない。

現代社会の中で、レジャー活動の身体的領域に存在するスポーツ(Physical Recreation)は、従来、単一の文化形成ではなく多領域に及ぶ複合的な存在であり、家庭、学校、地域、職業などあらゆる場面で耳に接し、また直接的、間接的な関係を開示する生活の中で何らかの存在を有している。それは見たり、聴いたり、読んだり、話したり、そして共通の話題としてその意味合いを狭く持つ存在であることと云える。スポーツが単に趣味の娯楽活動にとどまらず、多くの分野に影響を及ぼし、時には経済的側面でも捉えられ、特に社会文化センターションを成し、人の生き方考え方乃至その影響が及ぶなどの意味合いを持つ出来事と見出し出ている。

スポーツの社会的存在に大きな役割を果たしているものが「メディア」である。メディアにヒトと人間関係や人間関係が構築されるのであり、まさにレジャー・レクリエーションそのものなのである。従前の関係と異なり学会員による訂正修正の促進が期待され、多くの成果を上げた第29回学会大会各題のことを願っている。余剰性を認めない会員各位、また多くの皆さんのご協力により学会が構築されることを皆で感謝し学会の新たなページに貴重な足跡が刻まれることを会員皆さんと共に楽しみしめたいものである。西暦2000年の節目には第30回記念大会を迎える本学会であるが、更なる発展を期しながら第30回学会大会をしっかりと開催できたらと願ひを述べたい。会員の皆さんとまた共にできることを楽しみに願ひいたします。

のできない重要な領域の一部を担っている媒体機能である。そのメディアの技術革新もスポーツ映像をどう捉え、どう伝えるかというメディア側の発想の視点からと、視聴者側のニーズなどのような観客や書き明かしを担っているのにより、新しい「メディアにおけるスポーツ映像文化」が生み出されているというにも過ぎない。

そこで第29回学会大会のテーマは、「メディアとスポーツ“今年までこれか?”」と題し、西田善夫氏と沢見春生氏に講談をお願いし、演題をそれぞれ見せるためのスポーツ映像の流通へと選手側の側から見たスポーツ映像の意味への視点を中心にお話頂くこととなる。メディア・イシュー・イヤー(Issue Year)の機会と共に、明年のドナーでのオリンピックを日韓両国において開催される2002年のワールドカップもスポーツにとっても、メディアにとっても存在意義を明確にアピールするまたとない機会であり、観客を惹く(Catch)とするその広がり(Pull)は、多くの人が関与し、様々な人間関係や人間関係が構築されるのであり、まさにレジャー・レクリエーションそのものなのである。従前の関係と異なり学会員による訂正修正の促進が期待され、多くの成果を上げた第29回学会大会各題のことを願っている。余剰性を認めない会員各位、また多くの皆さんのご協力により学会が構築されることを皆で感謝し学会の新たなページに貴重な足跡が刻まれることを会員皆さんと共に楽しみしめたいものである。西暦2000年の節目には第30回記念大会を迎える本学会であるが、更なる発展を期しながら第30回学会大会をしっかりと開催できたらと願ひを述べたい。会員の皆さんとまた共にできることを楽しみに願ひいたします。

### 日本レジャー・レクリエーション学会 平成12年度～13年度の新理事25名決定(理事名簿掲載を要)

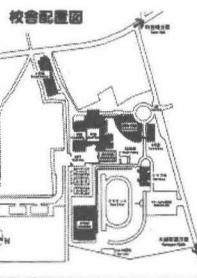
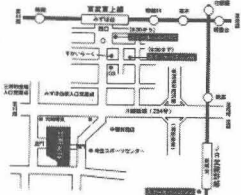
改選前理事10名(現行理事による選出)			新理事15名(正会員による選出)		
順位	氏名	所属	順位	氏名	所属
1	鈴木 祐一	関東学院大学	1	藤 岡 文 男	上智大学
2	鈴木 秀雄	立教大学	2	藤 岡 博 幸	立教大学
3	西 田 俊 夫	淑徳大学	3	寺 島 浩 一	明治大学
4	下 村 泰 男	東京大学大学院	4	高 橋 正 樹	独立系短期大学
5	坂 口 正 治	東洋大学短期大学	5	山 口 正 樹	神戸大学
6	西 野 七	東海大学	6	山 口 正 明	千葉大学
7	松 田 義 幸	筑波女子大学	7	藤 岡 博 幸	武蔵野大学
8	松 尾 三 代 子	東京大学体育大学	8	高 橋 洋 幸	学習院女子大学
9	松 原 英 夫	立教大学	9	廣 田 幸 伸	国際基督教大学
10	石 井 光	立教大学	10	山 崎 雄 子	独立系短期大学
			11	山 崎 隆 博	和歌山大学
			12	山 崎 隆 博	早稲田大学大学院
			13	藤 田 謙 徳	東京農工大学
			14	藤 田 謙 徳	筑波大学

(淑徳大学 平成11年12月4日・5日) 第29回学会大会

第29回学会大会のご案内

- 日程 平成11年12月4日(土)～12月5日(日)
- 会場 淑徳大学 みずほ台キャンパス  
〒354-0041 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1 ☎0492-74-1511

淑徳大学  
みずほ台  
キャンパス  
案内図



● 東武東上線「みずほ台駅」下車  
徒歩5分より徒歩一駅(徒歩より25分)または普通  
川越方面より徒歩一駅(川越より15分)または普通  
「みずほ台駅」前より徒歩5分(徒歩より7分)  
● 京浜東北線「東武池袋駅」下車  
「東武池袋駅」駅前よりスクールバスが運行(所要時間15分)

- 理事会 平成11年12月4日(土)12:30～14:00 会場 第一会議室
- 懇親会 平成11年12月4日(土)14:45～15:45 会場 (第一会議室、シルクロード)
- 総会 平成11年12月5日(日)13:00～14:00 会場 211号教室

第29回学会大会 (淑徳大学 平成11年12月4日・5日)

日本レジャー・レクリエーション学会 第29回大会 日程

(於: 淑徳大学みずほ台キャンパス)  
所在地: 〒354-0041 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1  
電話(0492-74-1511)

大会テーマ: メディアとスポーツ “今までとこれから”

平成11年12月4日 (土)

- 12:30～14:00 理事会 (第一会議室)
- 14:45～15:45 講演① 沢松奈生子氏 (テニスプレーヤー)  
～選手の側から見たスポーツ映像の意味～
- 16:00～17:00 講演② 西田壽夫氏 (NHK解説委員・横浜国際競技場 場長)  
～見せるためのスポーツ映像の変遷～
- 17:30～19:00 懇親会 (第一食堂 “シルクロード”)

平成11年12月5日 (日)

- 9:00～12:00 研究発表 (A会場 209号教室・B会場 210号教室)
- 13:00～14:00 総会 (211号教室)
- 14:10～16:10 研究発表 (A会場 209号教室・B会場 210号教室)

大会実行委員会から

※大会会場周辺の飲食については、食堂等がありませんので、12月5日(日)のお弁当(1,000円)の事前注文を受け付けます。返信書面を申込みの上、代金を大会参加費、懇親会費などと共に下記宛て11月20日(日)迄にお振り込みください。

振込先: 横浜銀行 小田原支店 (店番:721) 口座番号:1335942

日本レジャー・レクリエーション学会事務局 (担当: 西田俊夫)

(淑徳大学 平成11年12月4日・5日) 第29回学会大会

第29回学会大会研究発表・演題

■ 研究発表 209号教室

- 座長: 山崎博子 (余暇問題研究所) 9:00～10:00
- A-01 「コンピュータ・ネットワーク・コミュニケーション  
概念のデジタルモデル」  
～そのスコップとシークエンス～  
○鈴木秀雄 (関西学院大学)
- A-02 「レクリエーション環境化に関する研究」  
○吉田圭一 (武蔵川女子大学)
- A-03 「民間レクリエーション団体のNPO法  
定登録に関する研究」  
○志保方雄 (東北大学大学院理学部)
- 座長: 吉田圭一 (武蔵川女子大学) 10:00～11:00
- A-04 「現代高校生における自由時間活動の相手  
選択と自主決定による活動傾向について」  
○橋本和秀 (余暇問題研究所)  
○山崎博子 (余暇問題研究所)
- A-05 「高校生の、ゆとり「経験」について(第2報)  
～ゆとり経験時の心理～」  
○西野 仁 (東海大学)
- A-06 「レクリエーション “イメージ” の変遷  
について」  
～自由遊戯法による反応値の比較～  
○高橋 伸 (関東高専教員)  
○高橋和雄 (余暇問題研究所)
- 座長: 西野 仁 (東海大学) 11:00～12:00
- A-07 「余暇教育プログラム参加者の余暇意識  
の変化」  
○野野原明 (武蔵川女子大学)
- A-08 「レクリエーションから遊遊するイメージ」  
○武石直子 (和泉短期大学)
- A-09 「レジャー行動モデルの行動計量学的分析  
～青春期の事例を中心として～」  
○上原 薫 (青森大学社会学部)  
○樋谷春秀 (青森大学社会学部)
- 座長: 栗野宏明 (東北大学) 14:20～15:20
- A-10 「ポスト大衆余暇娯楽社会」における教  
育の理念  
～エリート巧大衆の権威をこえて～  
○服部百合子 (日光大学)
- A-11 「Play Day」の成立過程とその理念  
～1900年代前半のアメリカに  
女性スポーツ教育を手がかりとして～  
○荒井香子 (学習院女子大学)
- A-12 「アメリカの療法的レクリエーション専  
門職団体における立法運動の展開  
～2つの階級の理解の意義を中心に～」  
○堀田智一郎 (静学女子短期大学)
- 座長: 荒井香子 (学習院女子大学) 15:20～16:00
- A-13 「福祉施設におけるレクリエーション機  
会に関する社会学的研究」  
○立木安樹 (九州福祉短期大学)
- A-14 「高齢者施設におけるアクティビティの  
研究」  
○宮本秀樹 (岡山県立岡山高校)

(淑徳大学 平成11年12月4日・5日) 第29回学会大会

■ 研究発表 210号教室

- 座長: 堀松 寿 (筑波大学) 9:00～10:00
- B-01 「社交ダンスサークル参加者の意識調査  
について」  
○竹内正雄 (星薬科大学)
- B-02 「スケッチ・ダイバーの楽しさに関する  
調査研究」  
○千足健一 (女子学院女子短期大学)  
○大石永爾 (東京女子体育大学)
- B-03 「高校野球における “甲子園神話” の再  
生産過程  
～瀬谷前リケウラム論に依拠して～」  
○清水一巳 (福岡大学大学院)  
○大谷幹博 (福岡大学)  
○山田力也 (福岡大学)
- 座長: 下村彰男 (筑波大学) 14:20～15:20
- B-10 「地域活動と少年・少女キャンプにつ  
いての実践報告」  
～江東区少年の船の場合～  
○藤田浩久 (余暇問題研究所)  
○服部和夫 (余暇問題研究所)
- B-11 「長期・短期自然体験が参加者の達成動  
機に及ぼす効果の比較」  
○岡 智子 (筑波大学)  
○坂田 稔 (筑波大学)  
○岡村幸夫 (筑波大学)
- B-12 「自然とのふれあい活動への参加者意識  
の調査について」  
～東京都町田市かしの本山自然公園  
を事例に～」  
○塚田和秀 (東京農工大学)  
○藤 薫 (東京農工大学)
- 座長: 下村彰男 (筑波大学) 15:20～15:40
- B-13 「森林観光・レクリエーションに関する  
意識・施設の整備ポテンシャル算出  
に関する考察」  
～宮城県を対象としたケーススタディ～  
○田中伸彦 (森林総合研究所)
- 座長: 北浦三子 (筑波大学) 10:00～11:00
- B-04 「エスニシティとスポーツに関する研究」  
○山田力也 (福岡大学)  
○大谷幹博 (福岡大学)
- B-05 「レクリエーションの視点からみた地域  
テニス活動の現状と変遷」  
～千葉市テニス協会ベテラン委員会  
の事例を通して～」  
○橋 広志 (武蔵野短期大学)
- B-06 「レクリエーションの発展に関する研究 (I V)  
～活動目的の疲労度別みた  
レクリエーション活動の効果～」  
○藤原 明 (関西福祉短期大学)  
○高橋 明 (香川県立短期大学)

平成11年度(1999年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第1回) 議事録

日時:平成11年4月26日(月)  
午後6時00分～午後7時00分  
場所:立教大学池袋キャンパス太刀川記念館  
第1会議室  
出席者:鈴木(祐)、秋吉、石井、松田、藤生、  
鈴木(秀)、荒井、坂口、西田、松浦、  
油井  
幹事-沼澤、片桐  
会長挨拶

- I. 確認事項  
前回(平成10年度第9回、3月18日)の議事録確認  
→Ⅲ.審議事項に、「7)日本レジャー・レクリエーション学会の研究支援基金の充実理念・方法等については継続審議」を追加。  
II. 報告事項  
1) 年度会費の納入状況について(平成11年3月31日現在:476名、新年度の平成11年度分納額約204名)  
2) 日本体育学会第50回記念大会/体育・スポーツ関連学会大会組織委員会へのイブニングシンポジウム企画について  
→日本レジャー・レクリエーション学会が主体的に企画できるように、日本体育学会に申し入れを行うこととなった。  
3) 日本学術会議第18期学術研究団体登録について  
4) 改選理事選出選挙について  
5) 選挙管理委員会(5名)の選出について  
→松浦常任理事が選挙管理委員長として

- 選出された。  
8) その他  
III. 審議事項  
1) 平成10年度事業計画(案)について  
2) 平成10年度決算(案)について  
→原案監事から会計監査報告があり、適正であったことが報告された後、平成10年度事業計画および決算の原案が承認された。  
3) 平成11年度事業計画(案)について  
→原案(資料3)どおりとし、承認された。  
4) 平成11年度予算(案)について  
→内外学術団体交流費が平成10年度¥105,000なので平成11年も同額必要となるのではという意見や、次年度繰越金が予算案にあるのは不自然ではないかという意見が出され、内外学術団体交流費を¥110,000、予備費を¥380,000とし、次年度繰越金の項目は削除することとし、予算案が承認された。  
5) 改選理事選出(現行理事による選挙)の要項について  
→理事会にて開票を行うことが報告された。  
6) 会員の動静について  
→会員の動静については、入会者2名(①伊 健樹、②堀部百合子)  
7) その他 理事会規定の改正(案)について  
→理事会の運営に関する規定6、および8.の改正について理事長から説明があり、原案が承認され、理事会にて審議することとした。

- IV. その他  
1) 次回(第2回)常任理事会の開催は6月14日(月)と決定した。 以上

平成11年度(1999年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第2回) 議事録

日時:平成11年6月14日(月)  
午後6時30分～午後8時00分  
場所:立教大学池袋キャンパス太刀川記念館  
第1会議室  
出席者:鈴木(祐)、石井、高橋、鈴木(秀)、  
荒井、嵯峨、坂口、下村、西田、西野  
幹事-沼澤、片桐  
会長挨拶

- I. 確認事項  
前回(平成11年度第1回、4月26日)の議事録確認  
II. 報告事項  
1) 年度会費の納入状況について(平成11年6月14日現在:231名)  
2) 日本体育学会第50回記念大会について  
→会長、理事長がシンポジウムの企画・運営について日本体育学会と話し合いを行ったところ、すでにシンポジウムの企画は進んでいる他学術が底に込められていることが報告され、事前の相談が不十分であったことに對する謝罪が当該担当者からあった。シンポジウムの企画が具体化されつつあるようなので、本学会としてこの件については了承し、運営に協力を行っていくこととなった。  
3) 日本学術会議第18期学術研究団体登録に

- ついて  
→すべての手続きが完了したことが報告された。  
4) 改選理事選出選挙の結果等の報告(理事への報告)について  
→理事会(平成11年度 第1回)の審議概要を資料として各理事に郵送した。  
5) 学会『機関誌』第40号の発行について  
→7月をめどに第40号を発刊する予定。  
6) 第30回記念大会の開催会場の確定について  
→11月の3選目もしくは4選目に開催したい旨を明治大学に申し出ているが、日程等についても未定。  
7) その他  
→日本学術協力財団から、学術シンポジウムの企画募集があったが、日程等の都合もあり、今回は見送ることとした。

- III. 審議事項  
1) 第29回学会大会の「大会テーマ」等、および議題発表について  
→開催校の特徴を活かしたテーマ、現在の成果動向を踏まえてのテーマなど、いくつかの案が出され、今回の議論を踏まえながら、研究委員会と大会テーマについて審議を行うこととなった。  
2) 常任理事の追加について  
→寺島理事、松尾理事を常任理事として追加することが承認された。  
3) 会員の動静について  
→井上辰雄、花村映子、土厨守、長岡豊英、中島弘毅、本多祐一、の6名の入会が承認された。  
IV. その他  
1) 次回(第3回)常任理事会の開催は7月24日(月)と決定した。 以上

平成11年度(1999年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第3回) 議事録

日時:平成11年7月26日(月)  
午後6時30分～午後8時00分  
場所:立教大学池袋キャンパス太刀川記念館  
第1会議室  
出席者:鈴木(祐)、松田、鈴木(秀)、荒井、  
坂口、西田、西野、松浦  
幹事-沼澤、片桐  
会長挨拶

- I. 確認事項  
前回(平成11年度第2回、6月14日)の議事録確認  
II. 報告事項  
1) 年度会費の納入状況について(平成11年7月26日現在:309名)  
2) 学会『機関誌』第40号の発行について  
→学会『機関誌』第40号が、7月26日現在、2校を校正中であることが報告された。(現時点では、すでに会員に配布済み)  
3) 第29回大会開催期日の変更について  
→第29回大会開催期日が、平成11年11月27日・28日から12月4日・5日に変更になったことが報告された。なお、会員各位には40号の機関誌にて通知済み。

- レクリエーションの視点から同テーマ、30回大会を見据えながら過去4年間の大会テーマの集約・反省を中心としたテーマなど、いくつかの案が出され、議論のまとめとして「メディアとスポーツ」を大会の副テーマとして、研究委員会が固くつめを行うこととなった。また、30回大会については、これまでのレジャー・レクリエーション研究の総括をテーマとして、今後審議を行っていくこととした。  
2) 第29回学会大会議題発表の申し込み締め切り期日の延期について  
→大会開催日が変更になったため、議題発表の申し込み期日を9月28日まで延期することが承認された。(発表原稿については、10月15日締め切り。)  
3) 選挙管理委員会による平成12・13年度役員選挙の公示について  
→機関誌の40号にて、選挙管理委員会名で公示することが承認された。  
4) 会員の動静について  
→白木悦子氏の入会が承認された。

- IV. その他  
1) 次回(第4回)常任理事会の開催は9月27日(月)と決定した。 以上

事務局からのお知らせ

- 1. バックナンバー(『あゆみ』を含む)の実費頒布を行っています。特に新入会員におすすめておきます。  
①『あゆみ』32号の頒布  
1冊¥1,000(郵送料¥300) ※既報済み  
②『あゆみ』を除くその他の研究誌  
1冊¥1,000(送料別)  
2. 会員の皆様のお知らせレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご連絡ください。  
【申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥4,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。】  
3. 平成11年度の年会費(¥4,000)を納めていない会員がいましたら、至急納入手続きをお願いします。  
郵便振替番号 00150-3-60255  
4. 事務局長は、会長はじめ役員の方々と会員の皆様との協力を得ながら立教大学武蔵野新キャンパスで、鈴木秀雄理事長と坂口正治(東洋大学短期大学)、西田俊夫(東洋大学)、沼澤秀雄(立教大学)、片桐順晴(早稲田大学大学院)のメンバーにて、2年目を迎えていますのでよろしくお願いたします。

編集委員会からのお知らせ

- 「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●  
投稿は常時受付けております。また、研究論文 投稿論文送付先  
の審査、修正作業には最低でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。 立教大学 武蔵野新キャンパス  
会員の皆様は積極的に投稿をお願いします。 コミュニティ福祉学 沼澤研究室内  
『日本レジャー・レクリエーション学会事務局』

会員の動静

- 新入会員 (所属)  
尹 西儀 和光大学  
藤部百合子 京都大学  
北村 映子 京都ノートルダム女子大学  
井上 辰雄 京都ノートルダム女子大学  
本多 祐一 關上医療福祉専門学校  
高橋 雅英 武蔵野女子大学  
土厨 守 エンゼル財団  
中島 弘毅 聖徳大学  
白木 悦子 宮城学院女子大学  
藤田哲一郎 静嘉女子短期大学  
リベラルアーツ総合研究所  
前田 博子 慶應体育大学  
萬井 悠子 慈恵文化短期大学  
岡沢 哲子 甲子館短期大学  
清水 一巳 福岡大学大学院  
丸山 文子 大阪キリスト教短大  
学校法人 表敬学園 表敬福祉専門学校  
●平成10年度 退会者  
猪平 正行

学会ニュース 日本レジャー・レクリエーション学会

MARCH 2000 No. 66

学会理事長職を振り返って (1994年-1999年の3期6年)

関西学院大学法学部 教授 鈴木秀雄

いよいよ新年度は学会も二度目の役員選出選挙に基づき選出された新役員のもとで第30回の記念すべき大会を迎えるが、既に開学会50周年台祝役での前後が決定され、十分な準備と共に新たな世紀へ向けてのプロジェクトとしての躍進が期待されることである。

学会理事長職 (3期6年1994年4月-1999年3月)を振り返るにあたっては、理事長としてそれぞれ記した学会ニュース (第58号'95年11月「日本レジャー・レクリエーション学会第25回記念大会を振り返って」; 第61号'97年1月「第28回学会大会 (於: 奈良女子大学) を振り返って」; 第62号'97年8月「学会役員選出選挙制度の導入にあたって」; 第63号'98年7月「理事長に三たび振り返って」; 第64号'99年11月「見事な準備と心直った実行委員会の開催」)

まず第一期 (1994-1995) では第24回大会 (拓殖大学北海道短期大学)、第25回記念大会 (関西学院大学) の両学会大会を開催。記念大会時には、研究會時代以来の歩みをまとめた学会誌32号「歩み」の発行を実施した。第二期目 (1996-1997) は、第26回学会大会を奈良女子大学、第27回大会も東京農業大学で開催し、この間役員選出については、学会に初めて役員選挙を1998-1999年度の役員選出に導入し、その実行も果たし、今の選挙により選出された役員によって学会が運営されている。そして三期目の初年であった第28回学会大会 (福岡大学) で開催された。また第28回大会は福岡大学 (埼玉) で開催し、選挙はもとより第2次選挙についても、研究會時代以来の歩みをまとめた学会誌32号「歩み」の発行を実施した。第二期目 (1996-1997) は、第26回学会大会を奈良女子大学、第27回大会も東京農業大学で開催し、この間役員選出については、学会に初めて役員選挙を1998-1999年度の役員選出に導入し、その実行も果たし、今の選挙により選出された役員によって学会が運営されている。そして三期目の初年であった第28回学会大会 (福岡大学) で開催された。また第28回大会は福岡大学 (埼玉) で開催し、選挙はもとより第2次選挙についても、研究會時代以来の歩みをまとめた学会誌32号「歩み」の発行を実施した。第三期目 (1998-1999) は、第28回学会大会 (拓殖大学北海道短期大学)、第29回記念大会 (関西学院大学) の両学会大会を開催。記念大会時には、研究會時代以来の歩みをまとめた学会誌32号「歩み」の発行を実施した。第三期目 (1998-1999) は、第28回学会大会 (拓殖大学北海道短期大学)、第29回記念大会 (関西学院大学) の両学会大会を開催。記念大会時には、研究會時代以来の歩みをまとめた学会誌32号「歩み」の発行を実施した。第三期目 (1998-1999) は、第28回学会大会 (拓殖大学北海道短期大学)、第29回記念大会 (関西学院大学) の両学会大会を開催。記念大会時には、研究會時代以来の歩みをまとめた学会誌32号「歩み」の発行を実施した。

JSLRSニュース10

- 1. 理事長挨拶 .....P.1
2. 第30回記念大会開催案内・開催委員会のご案内 P.3
3. 第30回記念大会研究発表要旨集要項 .....P.3
4. 常任理事会・理事会報告 .....P.4
5. 新役員 (2000年度-2001年度) 紹介 .....P.8
6. 新年度 (2000年度) 会費納入のお願い P.9
7. 事務局だより .....P.9
8. 編集委員会からのお知らせ .....P.9
9. 会員の動静 .....P.10
10. 第29回学会大会報告 .....P.10

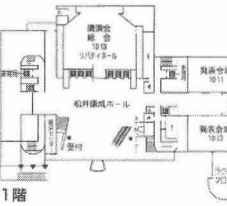
-1-

(明治大学 2000年11月25日・26日) 第30回学会記念大会

第30回学会記念大会のご案内

■日程 平成12年11月25日(土)-11月26日(日)
■会場 明治大学駿河台校舎

案内図



- 発表会場: 1011教室 1012教室 (1F)
●総会・講演会場: リハビリホール (1013教室) (1F)
●理事委員会: 研究後援室
●総幹事会議: ワロム実験 サウン (2F)

1. 研究発表申し込みの方法

質疑ハガキ (FAX形式) に願書、氏名 (共同研究または個人研究の区別および共同研究の場合は共同研究者の氏名全てを記してください)、住所 (共同研究の場合は代表者とする)、郵便番号、電話番号を記入の上、6月30日までに、本部事務局 (立教大学) に申し込み下さい。前定の郵送用紙を用紙に記入されている変更者の住所に送付します。また発表順 (A1から2校または4校) の締め切りは、9月11日 (必着期) です。共同研究者も学会員にかざられます。前委員の場合は任意入金手続きをおとりください。

2. 申し込み先 (学会事務局)

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26
立教大学 武蔵野新座キャンパス
コミュニティ福祉学部 総務研究室内
日本レジャー・レクリエーション学会事務局

-3-

としての6年間であり、事務局移転、会長交代、あらゆる面で変化の激しい時代であったといえる。

役員選挙制度によって学会の継続性に鑑み、この6年および次期の会長・理事長についても原則ではないが結果的に半数以上の賛成となり、次期は引き続き鈴木秀雄理事長が、理事長は長正正氏 (第7代) である。選挙制度の導入にあたっては、東京農業大学で開催された第27回学会大会時の総会での役員選出制決定 (94年11月24日) と共に、会則 (第10条) の改正も、理事会 (97年度第1回) において会長、副会長、監事、理事長、改選前理事長に関わる各申し合わせ事項でも承認され、実質的な選挙の導入となった。会員としての年度会費納入に伴う選挙権者も確定し、その中での役員と役員出となつた。通常の手続きに則つた形での選挙権者の確定であり、手続きそのものにも問題を持つてはならないが、学会の民主的な運営を追求する形で押しつけている役員選挙制度導入であったが、選出倍率が小さくならざるほど、意図的な結果の可能性を強く持つことにもなる。学会の中期の発展を願っていたうえでの選挙を申し込んでもらうことを求めている学会としては、選挙権を得た会員に開導することもなく一歩を後引る権利を行使して欲しいと願っている。

もちろん学会運営を円滑に進めるための役員選挙であり、様々な可能性を想定しての役員選挙制度の導入であるが、2年毎に実施される役員選挙であり、選挙制度の実施に不備があるというのではなく、以後の選挙についても会員への広報を怠り、その理解を得ないから会員の意見として選挙制度の進化 (進化) も考えなければならぬ。

既刊の『レジャー・レクリエーション研究』(第36号、1997年5月発行)の82-91ページには、役員選出 (選挙制度導入) に関わる賛成派及びその目標: 役員選出方法及びノウハウ (西野)、各役員選挙結果に関する投票の概要 (投票率等・投票用紙) 役員 (新理事15名) 選挙について; その告示と告示事項 (選挙に関する理事会報告事項・執行理事会から選出される理事の選出に関する申し合わせ); 選出された理事 (25名) による理事長の選出に関する申し合わせ; 会長、副会長、監事の選出に関する申し合わせ; 学会役員選出制関連案書、学会役員選出制が実施されているので、熟読しただくと共に、役員選出 (選挙導入) に関わる諸業務の理解とその内容についてのご意見を伺いたいと考えている。

過去6年における学会大会テーマは、それぞれ、「21世紀を拓くレジャー・レクリエーション環境」(於: 拓殖大学北海道短期大学、第24回、1994年); 「新しい時代の創造的余暇」(於: 拓殖大学、第25回記念大会、1995年); 「高齢社会におけるレジャー・レクリエーション研究と教育」(於: 奈良女子大学、第26回大会、1996年); 「レジャー・レクリエーション指導者養成と高等教育機関の役割」(於: 東京農業大学、第27回大会、1997年); 「国際交流時代のレジャー・レクリエーション」(於: 福岡大学、第28回大会、1998年) そして昨年「メディアとスポーツ」(今まではどこか) と題し、西野田氏と沢松孝生子氏に講演をお願いし、披露をそれぞれ見せるためのスポーツ映像の企画も、一歩の踏切りからスポーツ映像の意味も、からの視点を中心にお話頂いた (於: 京都大学、第29回大会、1999年) もであった。学会の共同目標であるレジャー・レクリエーション (於: 福岡大学) であるが、環境、教育、研究、普及、実践、情報化などそれぞれに重要なキーワードを用いた問題意識を共有する機会を有する点も注目の点であった。

学会設立以来長年、会費負担を減らされてきたが、福岡大学での第28回大会時の総会 (1998年) では、学会の自主的かつ積極的な運営を実現することを目指す理由に入会金 (¥2,000) および学会年会費 (¥8,000) の値上げも承認された。現在の行得で健全な財政運営が保たれている。会員の数やその存在の質的把握と共に会員名簿の徹底刷新と普及が実現し、その前も高まり日本学術会議登録団体としても確かな存在となっている。

今後、実を成すとして的的中と期待されなければならない。学会の運営について「今後を工夫すべき点」を求められれば、原則正々も既に存在している理事以外の幅広い多くの会員からの意見による各専門委員会の活性化である、また学会そのものの存在を一番意識していくことについて「今後強化すべき点」は、学会機関誌および学会大会そのものの充実と、関係団体並に国際機関との連携をいかに進めていくかであろう。しかし本質的には学会の発展には会員さんごとの熱意による活気に違いない。西野2009年の節目に第30回記念大会 (於: 明治大学) を迎える本年であるが、さらなる成長を願いながら記念大会の企画委員も立ち上げた。素晴らしい大会が開催できたら誠に嬉しい限りである。前掲の意向向上を求めて、会員の皆様の積極的な力と多くの研究発表の成果をお持ち頂きたいと願っている。木曜ながら、多くの皆さんを支えたと感謝により3期6年における理事長としての責任を大満ち満たすことのできたこと心からの感謝とお礼を申し上げます。

-2-

1999年度 日本レジャー・レクリエーション学会 (第4回) 常任理事会 (理事會)

■日時: 平成11年9月27日(月)
午後0時30分〜午後0時40分
■場所: 立教大学池袋キャンパス ミッテェル館 2F 会議室
出席者: 鈴木(会)、石井、高橋、鈴木(常)、荒井、植松、坂口、寺島、西田、松岡、植松、幹事・沼澤、片桐

- 会長挨拶
I. 確認事項
前回 (平成11年度第3回、7月28日) の議事録 確認
II. 報告事項
1) 年度会費の納入状況について (平成11年9月27日現在: 455名)
2) 学会「機関誌」第40号の発行について
一、会員への配布作業を終了したことが報告された。
3) 平成12・13年度役員 (新理事15名) 選出選挙について
一、投票受付中であることが報告された。
4) 第28回学会大会発表申し込み締め切り前日の延期に伴う新発表者募集について
一、平成11年9月27日現在で、37件の発表申し込みがあることが報告された。
5) 第29回学会大会の開催 (関東) について
一、西野田氏と沢松孝生子氏に決定したことが報告された。
6) その他
一、日本学術会議法に基づき第18期学術研究団体としての登録申請を、平成11年9月14日付で行ったことが報告された。

1999年度 日本レジャー・レクリエーション学会 (第5回) 常任理事会 (理事會)

は、11月15日(日)決定した。
■日時: 平成11年10月25日(日)
午後0時30分〜午後0時40分
■場所: 立教大学池袋キャンパス 5F 特別 第1会議室
出席者: 鈴木(会)、石井、鈴木(常)、荒井、植松、坂口、寺島、西田、松岡、植松、幹事・沼澤、片桐

- 会長挨拶
I. 確認事項
前回 (平成11年度 第4回、9月27日) の議事録 確認
II. 報告事項
1) 候補者選定委員会 (会長、副会長、監事の選出に関する申し合わせ、第2条第1項による) 委員の選出について
一、事務局から議付常任理事者が報告され、承認された。
2) 常・新理事による拡大理事會 (平成11年11月15日) について
(1) 執行理事會への選考管理委員による選挙権者の報告
(2) 新理事による理事長の選出
3) 会員の動静について

一丸文字氏の入会 1件、また、藤町伸正氏、村松節子氏、村藤浩次氏、清水勝之氏、桑原潤朗研究家の5件の選出が承認された。

- 4) その他
(1) 第30回体育学会記念大会において、当学会が運営に協力しているシボリズムが10月17日15:30の予定で開催される。
(2) 幹事 (編輯委員会) について
一、田中幹事長、現職員委員、荒井幹事副委員長、現職員委員から推薦され、承認された。また、学会「機関誌」第42号の特集企画として、「大学教育に見るレジャー・レクリエーション (の枠組み)」というテーマが編集委員会から提案され、承認された。特集を巡りに当たり、各大学のアンケート調査の実施、必要に応じて役員と提携を結び、今回の議論を踏まえながら編集委員会で審議を行っていただくことになった。
(3) ニューズランドワイク大及び東京農業大学の国際交流に関する学会の後援の件
一、提案書より詳細について説明を受けた後承認することとした。

- IV. その他
1) 次回 (第5回) 常任理事会の開催は、10月25日(日)決定した。
2) 拡大理事會 (現・新理事會) の開催

-4-

- 1) 年度会費の納入状況について (前回の常任理事会以降の会費納入はなし)
  - 2) 学会「機関誌」第41号 (学会大会号) の発行について  
→現在印刷中であり、11月中旬には配布予定であることが報告された。
  - 3) ニュース「第85号」(学会参加希望調査ハガキの受付を含む) について  
→現在校正中であり、10月中旬配布予定であることが報告された。
  - 4) 平成12・13年度役員選出選挙投票 (9月30日印刷予定) の結果について  
→松浦選挙管理委員会委員長より選出結果が報告された。
  - 5) 第30回学会大会発表申込みへの発表抄録原稿の送付と受理状況について  
→順調に作業が進んでいることが報告された。
  - 6) 候補者選定委員会の審議経過について  
→幹会長より、実質的な会合に先立ち委員長が構成し、個別に各委員に意見をうかがいながら調整を行ない、以下の候補者の選定されたことが報告された。また、副会長については、第30回記念大会の役員に選出されたこと、8名の選定がなされたことが報告された。
- 会 長：鈴木 (祐)  
副会長：秋吉、石井、高橋、松田  
監 事：小田切、永嶋 (正)  
7) その他 (特になし)

Ⅲ. 審議事項

1. 学会大会の行方・日程の繰返及び組織構成  
1) 第1日：理事会 (第2回)、講演、懇話会 (参加者の確認)  
2) 第2日：発表 (原長のお祝い)、総会  
3) 組織委員会、実行委員会の構成  
→組織委員会を学術系は筑波大学から選出することが提案され、承認された。また、大会当日の日程については、学会ニュースで会員に報告することとなった。
2. 現行理事による新理事選出 (平成11年11月15日) について  
1) 現行理事会への選挙管理委員会による新理事15名の選挙結果の報告  
2) 新理事15名への就任承認書と共に会長、副会長、監事の選挙投票用紙の同時送付  
3) 新理事による新理事長の選出 (互選)  
→執行理事会の組織 (案) によって、幹会長補選により幹会長選挙の予定が取り消され、承認された。また、新役員の出発方法についても説明があり、承認された。
3. 会長、副会長、監事の選挙 (投票の締め切りは11月15日) について  
1) 候補者の選出等の方法について (候補者選定委員会の提案)  
2) 新理事への選出による投票方法について (候補者選定委員会の提案)  
上記2点について説明があり、承認された。
4. 会員の動向について  
→次期副会長 (リベラルアーツ総合研究所)、新田第一郎氏 (熱帯女子短期大学) の入会が承認された。
5. その他  
→出井常任理事より、学会「機関誌」の質的向上を図るために、また学会の歴史を記録する意味でも、大会の議定書を掲載し会員に周知することが提案された。議定書では既に記載してしまっているため、「機関誌」としての性質を考慮して学会ニュースに掲載してはどうかという意見が出され、掲載方法については今後検討することをし、まじあたり掲載するには何らかの形で内容を再編することについて内諾を得ることとなった。

1999年度  
**日本レジャー・レクリエーション学会 (第1回) 理事選出 (選挙事務)**  
(於：立教大学太刀川記念館第3会議室) と決定した。  
■日時：平成11年4月2日(日)  
午後7時00分～午後8時30分  
■場所：立教大学池袋キャンパス太刀川記念館

- 1) 第1会議室  
出席者：理事・鈴木 (祐)、秋吉、石井、松田、鈴木 (秀)、寛井、坂口、寺嶋、西田、松尾、松浦、藤野、山口、池井  
幹事・藤生  
幹事・高橋、片桐  
幹事・寺嶋、萩原、伊藤、大塚、田村、下村、小田切、永嶋、西野、山崎、西井  
幹事・山崎、藤野、藤生、高橋、松田、西野、山口、(監事・大塚)  
欠席者：健嶋
- 会長挨拶  
【議題】  
I. 総務事項  
1) 定足数の確認 (現在出席者 27名中、出席者 14名、委任状提出者 13名、欠席 1名)  
II. 報告事項  
1) 前年度年度会費の納入状況について (平成11年3月31日現在：478名、平成11年度定員総数204名)  
2) 日本学術会議第18期学術研究団体事務局については、理事委員の藤生選挙事務の整理をしているところで、期限内の5月中旬の届け出を予定している  
3) その他  
III. 選挙事項  
1) 改選新理事選出選挙 (現行理事による選挙) の開票および改選結果選挙事務の整理について  
2) 選挙事務の整理  
3) その他  
IV. 報告事項  
1) 改選新理事選出選挙 (現行理事による選挙) の開票および改選結果選挙事務の整理については、理事委員の藤生選挙事務の整理をしているところで、期限内の5月中旬の届け出を予定している  
2) 選挙管理委員会 (5名) の選出について

1999年度  
**日本レジャー・レクリエーション学会 (現行理事選出第2回、新理事選出第1回) 擴大理事選出 (選挙事務)**  
■日時：平成11年11月15日(日)  
午後8時30分～午後8時00分  
■場所：立教大学池袋キャンパス 太刀川記念館  
出席者：鈴木 (祐)、石井、高橋 (祐)、鈴木 (秀)、寛井、藤嶋、坂口、下村、高橋 (祐)、西野、山口、(監事・大塚) 藤生、高橋、松浦、藤野、山口、池井  
幹事・高橋、片桐

順位	得票数	順位差	氏名
1	20	14.6	鈴木 祐一
2	20	14.2	鈴木 秀雄
3	18		西田 俊夫
4	14	9.3	下村 修男
5	14	9.0	坂口 正樹
6	14	6.5	西野 仁
7	14	6.3	松田 善孝
8	12	4.9	松浦 三代子
9	12	4.4	松嶋 哲夫
10	11	9.3	石井 充
次点	11	5.1	寺嶋 勇一

- 3) ニュース「第85号」(学会参加希望調査ハガキの受付を含む) について  
→学会への配布が完了したことが報告された。
  - 4) 第30回学会大会発表申込みへの発表抄録原稿の送付と受理状況について  
→発表抄録原稿の送付と受理について、以下のような報告者の変更があったことが報告された。  
発表中止：三浦田力也、遊龍：芝原、共研研究希望：木下、秋吉(高橋)
  - 5) 候補者選定委員会の審議経過について  
→幹会長より、実質的な会合は開けなかったため、委員長が構成し、文書でのやりとりや個別に各委員に意見をうかがいながら調整を行ない、以下の候補者の選定されたことが報告された。また、副会長については、現行では若干名となっているが、30回記念大会が構入していることもあり、8名選定されたことが報告された。
  - 会 長：鈴木 (祐)  
副会長：秋吉、石井、高橋、松田  
監 事：小田切、永嶋 (正)  
7) その他  
→第30回記念大会の開催日について、開催予定校の明治大学の都合により、まだ日程が確定していないこと。当学会としては第1案として11月25・26日、第2案として11月18・19日を開催していることが報告された。来年1月開催は確定する予定。
- 結果として上記30名が報告された。
3. 就任承認書の確認と新理事による新理事長の選出 (互選)  
→新理事15名から就任承認書が提出されたことが報告された。また、候補者選定委員より、新理事長として坂口常任理事が候補としてあげられていることが報告され、互選の結果、坂口常任理事が新理事長として選出された。
  4. 会長、副会長、監事の選挙の経過について  
→以下の選挙結果が報告され、全員選出された。また、幹会長の任期は1年未満と承認された。
  5. 会員の動向について  
→竹田正樹氏、横内剛典氏、三浦修子氏、松井外務氏、後藤芳子氏、小山祐三氏、川井昭氏、青山南英氏の入会が承認された。
  6. その他  
組織委員会より、43号、43号の特集企画について協議があり、掲載の声を取り入れていくのが、道順・風光・福祉等を全体構成で取り上げること、学問と資格認定をめぐる問題を取り上げること、「大学教育」より「高等教育」という表現の方が好ましい、といった議論がなされ、これを踏まえて編集委員会での発行となった。  
西野常任理事より、ニュージャーランドワイカト大学と東海大学との共同企画で「ジャーナル・レクリエーション」に関する国際会議をやりとり予定であり、当学会への挨拶依頼があり、承認された。

1999年度  
**日本レジャー・レクリエーション学会 (第3回) 理事選出 (選挙事務)**  
■日時：平成11年12月4日(日)  
午後12時00分～午後14時00分  
■場所：立教大学池袋キャンパス第3会議室

Ⅲ. 審議事項

1. 学会大会の行方・日程の繰返及び組織構成  
1) 第1日：理事会 (第2回)、講演、懇話会 (参加者の確認)  
2) 第2日：発表 (原長のお祝い)、総会  
3) 組織委員会、実行委員会の構成  
→組織委員会を学術系は筑波大学から選出することが提案され、承認された。また、大会当日の日程については、学会ニュースで会員に報告することとなった。
2. 現行理事による新理事選出 (平成11年11月15日) について  
1) 現行理事会への選挙管理委員会による新理事15名の選挙結果の報告  
2) 新理事15名への就任承認書と共に会長、副会長、監事の選挙投票用紙の同時送付  
3) 新理事による新理事長の選出 (互選)  
→執行理事会の組織 (案) によって、幹会長補選により幹会長選挙の予定が取り消され、承認された。また、新役員の出発方法についても説明があり、承認された。
3. 会長、副会長、監事の選挙 (投票の締め切りは11月15日) について  
1) 候補者の選出等の方法について (候補者選定委員会の提案)  
2) 新理事への選出による投票方法について (候補者選定委員会の提案)  
上記2点について説明があり、承認された。
4. 会員の動向について  
→次期副会長 (リベラルアーツ総合研究所)、新田第一郎氏 (熱帯女子短期大学) の入会が承認された。
5. その他  
→出井常任理事より、学会「機関誌」の質的向上を図るために、また学会の歴史を記録する意味でも、大会の議定書を掲載し会員に周知することが提案された。議定書では既に記載してしまっているため、「機関誌」としての性質を考慮して学会ニュースに掲載してはどうかという意見が出され、掲載方法については今後検討することをし、まじあたり掲載するには何らかの形で内容を再編することについて内諾を得ることとなった。

- 3) 学会大会・懇話会の参加希望者数について  
→はがきでの回答では、大会参加予定者は83名、懇話会参加予定者は30名であることが報告された。
- 4) その他  
→特になし
- Ⅲ. 審議事項  
1) 議会に対する準備について  
議定書 (案)  
第1号議案 平成11年度度費報告  
第2号議案 平成11年度度収支決算  
監査報告  
第3号議案 平成11年度度予算 (案)  
第4号議案 平成11年度度予算 (案) 報告 (案)  
①役員選挙結果及び選挙の互選に伴う新員の問題  
②第30回記念大会開催地・日程 (於：明治大学、期日：平成12年11月25・26日)  
→以上の案が、審議の結果承認された。
- 2) その他 (会員の動向について)  
→岡崎分氏、小池和幸氏、磯津隆子氏の入会が承認された。

1. 平成12年度～平成13年度新役員紹介

会 長	鈴木 祐一 (再任)	石井 允 (再任)
副 会 長	秋吉 高 寛 (再任)	松田 善 孝 (再任)
	高橋 和 敏 (再任)	鈴木 秀 雄 (新任)
	池井 正 昭 (新任)	
監 事	小田切 毅 一 (新任)	永嶋 正 郁 (新任)
理 事 長	坂口 正 治 (新任)	
理 事	藤生 希 恵 (新任)	下村 彰 勇 (再任)
	坂井 晋 子 (再任)	茅野 宏 明 (再任)
	荒川 裕 信 (再任)	西野 俊 夫 (再任)
	片桐 義 晴 (新任)	松浦 秀 雄 (新任)
	松嶋 寿 将 (再任)	松浦 三代子 (再任)
	高橋 伸 伸 (新任)	山口 泰 雄 (再任)
	寺嶋 勇 一 (再任)	大谷 孝 博 (再任) 兼
	西野 伸 仁 (再任)	岡本 和 之 (再任) 兼
	小野寺 裕 三 (再任) 兼	其川 武 次 (新任) 兼
	松尾 文 男 (再任)	守 健 次 (再任) 兼
	松嶋 哲 夫 (再任)	
	山崎 修 一 (再任)	

(※印5名は理事長補選理事)



会員の皆様へ

新年度（2000年度）会費納入のお願い

2000年度会費を別添振込用紙にてお振込下さい。

事務局からのお知らせ

- 1. バックナンバー(「あゆみ」を含む)の実費販売を行っています。特に新入会員におすすめます。
①「あゆみ」32号の値段
1冊¥2,000(郵送料¥300) ※既報済み
②「あゆみ」を除くその他の研究誌は、
1冊¥1,000(送料別)
2. 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご一報ください。
(申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年度会費(¥8,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。)
3. 平成11年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員がいましたら、至急納入手続きをお願いします。
郵便振替番号 00150-3-802353

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業は最速でも2ヶ月程度の日数を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

会員の動静

●新入会員 (○数字は今年度内入会者の通算番号)

- ◎竹田 正樹 飯小 池津 和幸
◎横内 晴典 瀧津 幸子
◎三浦 惠子 堀石 俊也
◎松井 外喜子 柳枝 元色
◎後藤 藤芳 灰一 内島 夏雄
◎小山 山井 三 橋坂 金子
◎川井 清 藤 謙其
◎山崎 清 高 功
◎阿部 潤 功

●退会者

- 金明問題研究所
町 加藤 江子
村 松 隆二
村 藤 晋次
清水 勝之

日本レジャー・レクリエーション学会
第29回大会終了

日本レジャー・レクリエーション学会第29回大会が平成12年12月4日・5日の両日京都テマみずほ台キャンパス1号館で開催された。参加者は約220名。大会テーマは「メディアとスポーツ “今までとこれから”」で、講師は、沢松奈生子氏(テニスプレーヤー)と西田晋夫氏(NHK解説委員)でした。2日目は、会員による27演題の研究発表があり、実行委員会の働きはもとより、学生による手づくりの学会も目ざした今学会は成功裏に終わりました。協力して頂いた実行委員会各委員、そして107名の学生には、心から感謝いたします。

(西田晋夫 第29回学会大会実行委員長・本学会常任理事)

平成12年7月
学会ニュース
日本レジャー・レクリエーション学会
(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)
発行人 坂口 正治 編集 広徳伸外委員会
事務局 〒532-8558 埼玉県新座市北野1-2-26
立教大学 武蔵野新座キャンパス
コミュニティ福祉学部 松尾研究室内
電話・FAX 048-471-7345
郵便振替 00150-3-802353

新年度を迎えて

日本レジャー・レクリエーション学会は、歴代の会員をはじめ役員の方々のご努力と、会員の皆さんのご協力により、着実に歩みを進め、本年11月に「第30回記念学会大会」を迎えることとなりました。また、先般、学会役員選出の手續を経て、2000-2001年度の役員が決定し活動を開始し、今後、学会として、より研究・組織的発展の機運を回っておりたいと思います。

学会理事長に就任して

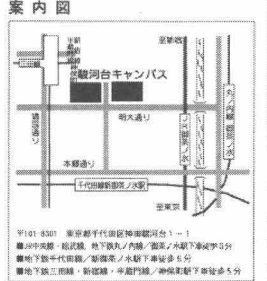
この度、前理事長の鈴木勇雄先生の後任として、日本レジャー・レクリエーション学会の理事職をお引き受けすることになりました。これまで長きにわたり理事長として学会の運営にあたりご尽力いただきました鈴木勇雄先生には深く感謝申し上げます。先立のご指導のもとで事務職をお手伝いさせて頂いたことを申しあげます。至らない点ばかりの程ではありますが、鈴木一會長をはじめ、役員の皆様方のご指導と会員の皆様のおかげで以上のご協力いただきながら、本学会の発展のために微力ではありますが努力していく所です。

JSLRSニュース11
1. 会長挨拶 P.1
2. 新理事長挨拶 P.1
3. 第30回記念大会のご案内 P.2
4. 平成11年度事業報告 P.3
5. 平成11年度決算報告 P.3
6. 平成12年度事業計画(案) P.4
7. 平成12年度予算(案) P.4
8. 常任理事會・理事會報告 P.5
9. 事務局からのお知らせ P.8
10. 編集委員会からのお知らせ P.8
11. 会員の動静 P.8

(明治大学 2000年11月25日・26日) 第30回学会記念大会

第30回学会記念大会のご案内

■日程 平成12年11月25日(土)~11月26日(日)
■会場 明治大学駿河台校舎



- 発表会場: 1011教室 1012教室 (1F)
●総会・講演会場: リハリオール (101教室) (1F)
●理事會会場: 研究會議室
●懇親會会場: カラオケ館 カラオケ (3F)

- 1. 研究発表申し込みの方法
発表ハガキ(FAAX不)に講演、氏名(共同研究または個人研究の区別および共同研究の場合は共同研究者の氏名全てを記してください)、住所(共同研究の場合は代表者とする)、郵便番号、電話番号を記入の上、8月15日(火)まで締切を過ぎましたので、本部事務局(立教大学)にお申し込み下さい。所定の封筒に封筒用紙を申し込み書に記されている発表者の住所に送付します。また発表原稿(A4用紙2枚または4枚)の締め切りは、9月30日(日)(必着順)です。※共同研究者も学会員にカウントされます。非会員の場合は至急入会手続きをおとりください。
2. 申し込み先(学会事務局)
〒532-8558 埼玉県新座市北野1-2-26 立教大学 武蔵野新座キャンパス
コミュニティ福祉学部 松尾研究室内
日本レジャー・レクリエーション学会事務局
大会テーマとシンポジウムについて
①大会テーマ「新しい時代とあそびの思考」
②記念講演は作家の井上ひさしさんを予定しています。
③シンポジウムとシンポジスト
1. あそびの文化 藤浦 徳夫(東京教育大学)
2. あそびと空間 瀬田 五十八先生(東京農工大学)
3. あそびとライフスタイル 東村 敏子先生(江戸川大学)
総会は、本学会常任理事・理事會(立教大学)、記念大会の開催は、次回のニュース88号でお知らせします。

日本レジャー・レクリエーション学会  
平成11年度 事業報告

- 1. 事業
1) 第29回学会大会開催
期日：平成11年11月27日(土)～28日(日)(後に、12月4日～5日に変更)
場所：東海大学国際コミュニケーション学部(みずほ台キャンパス)
2) 機関誌『レジャー・レクリエーション研究』の発行
第40号 第41号(大会号) 第42号(未刊)
3) 『学会ニュース』No.87 No.88
4) 役員選挙
5) 組織の充実および学会員の拡充
・新入会員30名
6) 学術団体交流
7) 第30回記念大会は明治大学駿河台校舎に決定
8) その他
II. 会議
1) 総会の開催(東海大学みずほ台キャンパス 平成11年12月5日)
2) 理事会の開催
3) 常任理事会の開催
4) 各委員会の開催

平成11年度決算報告書

日本レジャー・レクリエーション学会 平成11年4月1日～平成12年3月31日(単位：円)

Table with financial data for 1999 fiscal year. Columns include items, budget, actual, and balance. Total income is 5,000,000 and total expenditure is 4,979,464.

総収入：4,979,464  
総支出：3,350,008  
剰：1,649,396

監事 大塚 孝雄  
監事 藤田 正

平成12年4月17日

日本レジャー・レクリエーション学会平成12年度 事業計画(案)

- I. 事業
1) 第30回学会記念大会開催
期日：平成12年11月25日(土)～11月28日(日) 場所：明治大学駿河台校舎
2) 機関誌『レジャー・レクリエーション研究』の発行 (第42号、第43号、第44号(大会号)、第45号)
3) 『学会ニュース』No.87 No.88 No.89
4) 組織の拡充および活動の充実
5) 学術団体交流
6) 第31回大会開催準備
7) その他
II. 会議
1) 学会会の開催
2) 理事会の開催
3) 常任理事会の開催
4) 各専門委員会の開催
5) その他

日本レジャー・レクリエーション学会  
平成12年度 予算(案)

平成12年4月1日～平成13年3月31日(単位：円)

Table with financial data for 2000 fiscal year. Columns include items, budget, and actual. Total income is 5,000,000 and total expenditure is 4,979,464.

総収入：5,000,000  
総支出：4,979,464  
剰：20,536

監事 大塚 孝雄  
監事 藤田 正

1999年度  
日本レジャー・レクリエーション学会(第6回)  
常任理事会(議事録)

日時：平成12年2月25日(月)  
午後6時30分～午後8時00分  
場所：立教大学池袋キャンパス  
太刀川記念館 第1会議室  
出席者：鈴木(祐)、石井、高橋(和)、荒井、塚崎、坂口、西野、松浦、浦井

- I. 議事事項
前回(平成11年度 第5回、10月25日)の議事録確認
II. 報告事項
1) 年会費の納入状況について
→2月25日現在、482名(会員の96.4%)が納入済み
2) 学会 機関誌『第42号』について
→1月29日に『大学教育』にみるレジャー・レクリエーション、というテーマで座談会を行なった。第42号は同じテーマの特集号となる予定。
3) 第29回学会大会計画報告
→大会実行委員会の務務(藤島)は、1/6、015であることが報告された。
4) その他
→学会ニュース第66号は予定通り本年度内発行予定。
第30回学会記念大会の日程(平成12年11月25日～28日)等について報告があった。

- III. 審議事項
1. 財務状況について
2. 学会ニュース(第66号)の発行時期(年度末)について
3. 第30回記念大会について
4. 次期会長、常任理事、大会実行委員会を中心とした企画委員会の設置
5. 大会実行委員長の選出
→上記2点については説明があり、1については承認され、大会実行委員長として寺嶋浩一常任理事が選出された。

- 4. 会員の動向について
→石井晶子氏、秋元恵氏、一色守氏、坂内夏子氏、桑原健也氏の入会が承認された。
5. その他
→第31回学会大会の会場校選定に取りかかることが報告され、日程については大学の推薦入試試験の日程等を考慮しながら決定することが確認された。
IV. その他
1. 拡大理事会(現行理事会第4回、新理事会第1回)は、3月28日(火)18:30(除：立教大学太刀川記念館)と決定した。以上

1999年度  
日本レジャー・レクリエーション学会(現行理事会第4回、新理事会第2回) 拡大理事会(議事録)

日時：平成12年3月28日(火)  
午後5時30分～午後8時30分  
場所：立教大学池袋キャンパス  
太刀川記念館 第1および第2会議室  
出席者：鈴木(祐)、石井、高橋(和)、松田、鈴木、坂口、塚崎、高橋(和)、水嶋、西田、松浦、山崎、監事-藤生；幹事-田原、片桐

- 会長挨拶
I. 審議事項
1) 報告事項
それぞれその定足数の確認
現行理事会-27名中12名出席、委任13名、合計25名
新理事会-25名中16名出席、委任8名、合計24名
→両理事会とも定足数を満たしていることが確認された。
2) 報告事項
1) 会費の納入状況について
→予算計上の納入者数300名の内、平成12年3月28日現在、483名納入。また、未納者には学会ニュース第66号発行時までに通知することが報告された。
2) 学会 機関誌『第42号』について
→第42号の特集号として、産業界(大学におけるレジャー・レクリエーション教育のあり方と動向)が東大農学部において開催されたことが報告された。また、第42号は現在発行準備中であることが報告された。

- 3) 第29回学会大会計画報告
→大会への参加報告は、収入¥848,000、支出¥747,985、残高¥100,015であることが報告された。
4) 日本レジャー・レクリエーション協会会長の選定
→3月8日に鈴木武氏(日本レクリエーション協会会長)と協議し、レクリエーション行政の在り方などを見聞しながら日本レクリエーション協会との連携を深めたい旨を伝え、この件については日本レクリエーション協会会長から了承されたことが報告された。また、日本レクリエーション協会から専任理事として武川武氏を理事として迎えることが報告された。
5) その他
→第31回学会大会開催会場について、審議事項であわせて報告された。

- II. 審議事項
1. 財務状況について
→理事会承認報告で、学会ニュース66号や『機関誌』第42号が未発行のため平成11年度の正式決算はまだ未定であるが、2月24日現在借入金¥932,123であることが報告された。また、別添資料として平成11年度決算報告書が配布され、決算報告書について西田常任理事より説明があり、監事等から監査報告があった。
2. 学会ニュース(第66号)の発行時期(年度末)について
①広報内容の検討(幹事員紹介、記念大会の開催案内、開催案内、研究発表事項の提示)
②年度会費未納者に対する納入促進(送付封筒への添付)
③新年会費納入にも対応し、取返用紙の封入(送付封筒への添付)
→以上の点について、鈴木理事長より説明があり、承認された。

- 3. 第30回記念大会について
①次期会長、常任理事、大会実行委員長を中心とした企画委員会の設置
②大会実行委員長の選出(寺嶋浩一常任理事)
→先般会費納入にも対応済みであること、企画委員会新常任理事が快く申し込んだ前回大会と同様の形式で構成する予定であることが説明され、鈴木会長の提案で企画委員中心ではなく専任委員として運営していくことが承認された。
4. 会員の動向について

- 武川武氏(財団法人 日本レクリエーション協会)の入会が承認された。
5. 理事会常任理事の選任
→現任常任理事から、小野や松三氏(東北福祉大学)、大谷善博氏(信州大学)、岡本寿之氏(立教大学)、寺嶋浩次氏(中央大学)、武川武氏(日本レクリエーション協会)の各氏を理事会常任理事として提案があり、承認された。
6. 常任理事-専門委員会の構成員として一部協賛料が配布され、鈴木会長から11名新常任理事として推薦され、承認された。また、鈴木会長から専門委員会の構成についても説明があり、常任理事だけでなく理事も適宜参加してもらいたい各専門委員会を運営していくことが承認された。
7. 第31回学会大会開催会場について
→東京福祉大学から、2001年11月10日・11日の日程で開催可能という返事があったことが報告され、承認された。
8. 開催会場からの理事推薦(事後承認)について
→第31回大会開催校が本理事会で決定したため、省略。

- IV. その他
1) 次回の会議開催について
→次期理事会は、4月24日(月)18:30と、決定した。以上

2000年度  
日本レジャー・レクリエーション学会(第3回) 理事会(議事録)

日時：平成12年4月24日(月)  
午後6時30分～午後8時00分  
場所：立教大学池袋キャンパス  
出席者：鈴木(祐)、石井、高橋(和)、松田、鈴木(幹)、坂口、西野、塚崎、高橋(和)、水嶋、荒井、下村、西野、岡崎  
会長挨拶
I. 議事事項
1. 定足数の確認
2. 前回(平成11年度 現行理事会第4回、新

理事会第2回)の議事録補綴

Ⅱ. 審議内容

1. 理事の専門委員会への所属について  
→前回の理事会で鈴木会長から提案のあった専門委員会の運営について、種々な理事の参加が必要であることから専門委員会への各理事の所属については、本回の常任委員会にて各委員長から提案を行なったこととなった。
2. 平成12年度事業計画(案)について  
→平成12年度事業計画(案)が提案され、審議の後、原案通り承認された。
3. 平成12年度予算(案)について  
→平成12年度予算(案)が提案され、審議の後、原案通り承認された。
4. その他
  - ・第31回学大会について、東北福祉大学から種数の事情により大会開催を引き受けることができない旨の申し出があった。同大学からは、平成15年度であれば引き受け可能という申し出もあったが、この点については「聞き取」こととした。また、第31回大会の会場については白根に直し、次回の常任理事会までに事務局で検討することとなった。
  - ・学術会議より、当学会より委員を推薦してほしいという話があり、鈴木前理事長と坂口理事長を推薦したが、事務局より報告された。推薦の締め切りが理事会開催前というところもあり、事後承認ではあったが承認された。
  - ・鈴木会長より、江崎朝樹四氏が今年80歳を迎えられ、関係13団体が発起人となった祝賀会を開催する予定であることが報告された。また、招待状を発送する関係で、当学理事と若干名のリストを表行委員へ通知したところについて説明があった。
  - ・下村編集委員会委員長より、編集委員会の今後の運営について説明があった。現在候補にあがっている委員のリストが資料として配布されるとともに、若い委員を委員として推薦してほしいという旨の話があった。

以上

2000年度  
日本レジャー・レクリエーション学会(第1回)常任理事会(議事録)

- 開催日時:平成12年5月29日(月) 18:30~20:30  
開催場所:立教大学池袋キャンパス  
太刀川記念館第1会議室  
出席者:鈴木(祐)、松田、鈴木(秀)、寺島、荒井、坂口、盛岡、松尾、山崎、池井、沼澤  
会長の挨拶
1. 報告事項
    - ・前回理事会(第2回)の議事録の確認
    - ・報告事項
      1. 各専門委員会の構成メンバーについて  
→資料により、総務、財務、研究企画、編集、広報渉外の委員メンバーが報告された。
      2. 入会案内の作成について  
→今年度の入会案内を作成したことが報告された。
      3. 学会「種別誌」第41号の進捗状況について  
→一稿づかの原稿が書き次第発送されるということが報告された。
      4. 会費の納入状況について(5月28日現在、19名)
  - Ⅲ. 審議事項
    1. 第30回学大会のテーマについて  
明治大学の寺島常任理事より、井上ひさし氏による特別講演会の提案があり、テーマとの関連性を考えながら検討していくことで承認された。  
テーマについては第30回大会に相応しいものということで、社会に向けてアピールできるもの、市民参加型の学会、21世紀に向けてのレジャー・レクリエーションの在り方などが意見として出された。そのなかで「遊び」をテーマにする案を検討することになり、最終承認となった。
    2. その他  
入退会の承認なし
  - Ⅳ. その他
    1. 山崎常任理事よりWLRRAのスピン(ピルバオ7月3~7日)での学大会の紹介があった。
    2. 次期常任理事会(第2回)の開催日時について  
2000年6月28日(月) 18:30~20:30  
立教大学池袋キャンパス太刀川記念館第1会議室

事務局からのお知らせ

1. バックナンバー(「あゆみ」を含む)の複製頒布を行っています。特に新入会員におすすめです。
  - ①「あゆみ」32号の複製  
1冊¥2,000(郵送料¥300) 郵配送料込み
  - ②「あゆみ」を除くその他の研究誌は、1冊¥1,000(送料別)
2. 会員の皆様のお知らせレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご相談ください。  
【申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年度会費(¥8,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。】
3. 平成12年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員がいましたら、差支納入手続きをお願いいたします。  
郵便振替番号 00150-3-602353
4. 事務局は、会長はじめ役員の方々や会員の皆様の御協力を得ながら立教大学武蔵野新座キャンパスで、坂口正治理事長のもと西田俊夫(敬徳大学)、松尾智夫(立教大学)、沼澤秀雄(立教大学)、片桐義博(新都区障害者身体連絡協議会)、上村都賀給(株式会社アイメディア)のメンバーでスタートしてまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最遅でも2ヶ月程度の間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

投稿論文送付先  
〒352-8558 埼玉県新座市北野1の2の28  
立教大学 武蔵野新座キャンパス コミュニティ福祉学部 松尾研究室  
『日本レジャー・レクリエーション学会事務局』

会員の動静

●新入会員 (所属) ●新刊、特約執筆の依頼

- 新入 保子 梅光女学院大学短期大学部
- 野田 実光 聖カタリナ女子大学
- 竹田 隆行 東京都スポーツ産業団体連合会
- 藤原 崇崇 国立台北科技大学

●平成12年度 退会者

- 鈴木 信吾
- 松本 一文
- 鈴木 良雄
- 高橋 規
- 二宮 浩希
- 藤原 裕二

平成12年10月

## 学会ニュース

OCTOBER 2000  
No. 68

### 学会記念大会への誘い

日本レジャー・レクリエーション学会  
会長 鈴木 祐一

日本レジャー・レクリエーション学会では、本年度の学大会を「第30回学会記念大会」として開催いたします。

すでに、学会ニュース68号・67号でお知らせ申し上げておりますが、この大会は、明治大学のご協力により、明治大学駿河台キャンパス内の「リパティール」等を会場としております。

大会内容につきましては、第30回学会記念大会実行委員会企画・立案されました。

「新しい時代とあそびの再考」を大会テーマに

- 記念講演は作家の 井上ひさし氏
- シンポジウムは「あそびと文化」、「あそびと空間」、「あそびとライフスタイル」について、三人のシンポジストにお話をいただくこととしております。

今回のシンポジウムは、時間的ゆとりをもって、ご参加の方々とシンポジストとの交流をより図ることとしております。

この記念大会を機会に、レジャー・レクリエーション学会の活動のいっそうの活性化と会員の皆さんの身近かな研究組織となりますよう、願っております。

多くの皆さんのお喜びをお待ちしています。

---

JSLRSニュース7

1. 学会会長挨拶(鈴木祐一) …… P. 1
2. 第30回学会記念大会のご案内 P. 2
3. 学大会研究発表要録(29題) P. 4
4. 常任理事会報告 …… P. 6
5. 事務局からのお知らせ …… P. 10
6. 編集委員会からのお知らせ …… P. 10
7. 会員の動静 …… P. 10

第30回学会記念大会(明治大学 2000年11月25日・26日)

### 第30回学会記念大会のご案内

■日程 平成12年11月25日(土)~11月26日(日)  
■会場 明治大学駿河台校舎

駿河台キャンパス  
明大通り  
本郷通り  
千代田線新原駅・池袋駅  
丸の内線御茶ノ水駅  
丸の内線三軒茶屋駅  
丸の内線茗荷谷駅

〒101-8301  
東京都千代田区  
神田駿河台1-1

- JR中央線・総武線  
地下鉄丸ノ内線/  
御茶ノ水駅下車徒歩3分
- 地下鉄千代田線/  
新原駅/水戸下車  
徒歩5分
- 地下鉄三田線/  
新橋駅・半蔵門線/  
神保町駅下車徒歩5分

1階

- 発表会場 1011教室 1012教室 (1F)
- 総会・講演会場  
リパティール (1013教室) (1F)
- 理事会会場・研究協議室  
松井棟成ホール
- 懇親会場  
サロン 楽園 (23F)

理 事 会 平成12年11月25日 12:00~13:30 会場 研究棟会議室  
懇 親 会 平成12年11月25日 18:15~19:45 会場 5,000円 会場 サロン楽園・サロン 楽園 (23F)  
総 会 平成12年11月26日 13:00~14:00 会場 リパティール1013教室 (1F)

(明治大学 2000年11月25日・26日) 第30回学会記念大会

日本レジャー・レクリエーション学会  
第30回学会記念大会開催要領

“新しい時代とあそび再考”

- 主催：日本レジャー・レクリエーション学会
- 主管：日本レジャー・レクリエーション学会第30回学会記念大会実行委員会
- 期日：平成12年11月25日(土)・26日(日)
- 会場：明治大学 駿河台校舎

- 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1
5. 日程：[11月25日(土)]
- 12:00～ 受付 ホール [1F]
  - 12:00～13:30 総会 研究員集議室
  - 13:30～13:45 開会挨拶 学会会長 鈴木拓一氏・明治大学学長 山田重一氏
  - 13:45～15:15 記念講演 井上さし氏 (作家)
  - リパティホール1013教室 [1F]
  - 15:30～18:00 シンポジウム リパティホール1013教室 [1F]
  - コーディネーター 嵯峨 寿氏 (筑波大学)
  - 「あそび」と文化 杉浦 泰氏 (愛知教育大学)
  - 「あそび」と空間 藤生 邦氏 (東京農業大学)
  - 「あそび」とライフスタイル 末村恭子氏 (江戸川大学)
- 18:15～19:45 懇談会 サロン楽園 サロン “園” (2F)
- [11月26日(日)]
- 8:30～ 受付 ホール [1F]
  - 9:00～12:00 研究発表 A会場1011教室 [1F]
  - B会場1012教室 [1F]
  - 13:00～14:00 総会 リパティホール1013教室 [1F]
  - 14:20～16:20 研究発表 A教室1011教室 [1F]
  - B教室1012教室 [1F]

大会実行委員会から

発表形態は

- ① コンピュータによるスクリーンプレゼンテーション
- ② スライド
- ③ O. H. P.
- ④ ビデオ

学会発表者でご利用の方は、同封の返信書面にてお知らせ下さい。  
 ※11月26日(日)の昼食については、お弁当(1,000円)の事前注文を受け付けます。返信書面でお申込みの上、代金を大会参加費、懇談会費などと共に11月15日迄迄にお振り込みください。

振込先： 横浜銀行 小田原支店 (店番:721) 口座番号：1335942  
 日本レジャー・レクリエーション学会事務局 (担当：西田俊夫)

第30回学会記念大会 (明治大学 2000年11月25日・26日)

第30回学会記念大会研究発表・演題

■ 研究発表 A会場1011教室

- 座長：高橋 伸 (国語学教育大学) 9:00～10:00
- A-01 「余暇教育の視点から見た啓蒙活動～玄倉川水難事故後の野外活動に対する啓蒙活動を中心に～」  
□鈴木秀雄 (国東学院大学) □鈴木英徳 (東海大学非常勤講師)
- A-02 「フランスの余暇～コードジールの子どもを中心に～」  
□藤澤通子 (聖学院大学)
- A-03 「レジャー行動とストレスコーピング」  
□土屋 進 (青森大学) □浦谷孝夫 (明治大学)
- 座長：荒井裕子 (伊藤女子学) 10:00～11:00
- A-04 「高齢者O氏、D氏の余暇活動について～高齢者における異質化と高齢者に対するレクリエーション援助方法の確立にむけての事例研究～」  
□山崎 幸 (余暇問題研究所) □上野 祥 (余暇問題研究所) □高橋和歌 (余暇問題研究所)
- A-05 「レクリエーションカウンセリング・「余暇カウンセリング」：余暇教育の進展～The best of the Therapeutic Recreation Journal: Leisure Education (1988)を手がかりとして～」  
□堀田賢一郎 (静女子短期大学)
- A-06 「マクロ的視点からみるセラピューティックレクリエーション～玄倉川水難から生まれた啓蒙活動を中心に～」  
□鈴木英徳 (東海大学非常勤講師)
- 座長：下村彰男 (東京大学大学院) 11:00～12:00
- A-07 「組織キャンプにおけるカウンセラーの意識変化に関する研究」  
□廣田敏久 (余暇問題研究所) □黒原和歌 (余暇問題研究所)
- A-08 「A S Eを導入した体育授業が女子普通学生の友達つきあいに及ぼす効果」  
□岡崎泰斗 (筑波大学大学院)
- A-09 「日本における公園運動とレクリエーション運動の統合の必要性について～アメリカにおける先行事例に学んで～」  
□山崎裕子 (余暇問題研究所) □高橋和歌 (余暇問題研究所)
- 座長：藤原 寿 (筑波大学) 14:20～15:20
- A-10 「教養知」についての人間論的考察～ホモ・サピエンスとホモ・ルーデンス～」  
□藤原百合子 (拓光大学)
- A-11 「ヨハン・ホイジンガ研究の動向～近代文明批評に焦点をあてて～」  
□杉浦 泰 (愛知教育大学)
- A-12 「近代日本における「初期」レクリエーション論の検討～福田俊之助を手がかりに～」  
□坂内夏子 (早稲田大学)
- 座長：山田力也 (福岡大学) 15:20～16:00
- A-13 「高齢者におけるレクリエーションの位置づけ～日本とオーストラリアの比較～」  
□芳賀賢治 (東京家政学院大学)
- A-14 「民間レクリエーション団体のNPO法受容過程に関する研究～」  
□赤堀方典 (横浜国立大学大学院)

(明治大学 2000年11月25日・26日) 第30回学会記念大会

■ 研究発表 B会場1012教室

- 座長：松浦三代子 (徳島大学) 9:00～10:00
- B-01 「ニュースポーツの発育過程に関する研究I～ニュースポーツの制度化と競技者内の視点から～」  
□山口勇一 (国領法人短期大学) □山田力也 (福岡大学) □谷口勇一 (国領法人短期大学)
- B-02 「ニュースポーツの発育過程に関する研究II～ニュースポーツ発育者のスポーツ価値意識を中心に～」  
□山田力也 (福岡大学) □谷口勇一 (国領法人短期大学)
- B-03 「レクリエーション・スポーツクラブの活動状況と意識に関する事例研究～クラブ活動への意識変化と個人状況による意識の違いについて～」  
□長岡美菜 (武蔵川女子大学) □永松昌樹 (大阪教育大学) □宮崎千枝 (大阪体育大学大学院)
- 座長：山口勇一 (国領法人短期大学) 10:00～11:00
- B-04 「自給体の生涯スポーツイベント開催までの経緯に関する一考察」  
□竹田隆行 (スポーツ産業総合研究所) □松永敬子 (文政大学)
- B-05 「大学スノーボード集中実践におけるフロンティアと視察評価」  
□千足輝一 (付文字女子短期大学) □川田信博 (国立大学体育学部)
- B-06 「XCスキーとウォーキングスキー(歩くスキー)」  
□藤原 寿
- 座長：岡生 恵 (東京農業大学) 11:00～12:00
- B-07 「レクリエーション活動におけるニュースポーツとしての「エコベース」の検討」  
□高橋仁美 (同志社大学非常勤) □藤田千鶴子 (親ガハコネット) □長沢邦子 (奈良女子大学非常勤) □藤村紀代子 (京都女子大学) □丹羽尚樹 (国領法人短期大学)
- B-08 「レクリエーション活動を用いた育児支援プログラム～親子運動プログラムと母親のレスポンス～」  
□芝 誠哉 (広島学院短期大学) □前嶋 昭 (倉敷市立短期大学)
- B-09 「レクリエーションの発展に関する研究V～高校生への体育授業を通して～」  
□原部伸一 (関西福祉大学) □前嶋 昭 (倉敷市立短期大学)
- 座長：山崎裕子 (余暇問題研究所) 14:20～15:20
- B-10 「B S Mデータを用いた特性としての内発的動機づけ傾向 (autotelic personality) に関する検討～“autotelic persons”の日常行動・経験パターンの特徴」  
□佐橋由美 (静女子短期大学)
- B-11 「母体的価値」と「父長的価値」からみる現代スポーツの価値」  
□島津優子 (東海大学大学院) □西野 仁 (東海大学)
- B-12 「尾瀬山の鼻・見聞湖の木道から眺める景観の価値」  
□池井正昭 (千葉大学)
- 座長：佐橋由美 (静女子短期大学) 15:20～16:20
- B-13 「西四国観光ネットワーク「ルールボケット」に関する一考察」  
□小泉勇治郎 (松山東雲女子大学)
- B-14 「都市部公共自給体のジュニアリーダー～一般市民世代少年女にける友人関係意識の比較」  
□横本和秀 (余暇問題研究所) □山崎裕子 (余暇問題研究所)
- B-15 「ナイキC区にみるスポーツの遊戯性とrecreationalism」  
□嵯峨 寿 (筑波大学)

平成12年度(2000年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会 (第2回) 議事録

- 日時：平成12年6月26日(月)  
午後6時30分～午後8時30分
- 場所：立教大学池袋キャンパス太刀川記念館 第1会議室
- 出席者：鈴木(祐)、松井、坂口、藤生、荒井、嵯峨、寺島、西田、西野、松浦、松尾、山崎、理事-沼澤、片桐、幹事-上村
- Ⅰ. 議題事項  
前回常任理事会(平成12年5月29日)議事録の確認
- Ⅱ. 報告事項  
1) 入会案内の配布について  
→坂口理事から学会入会案内が配られ、入会希望者に配布のお願いがあった。また石井副会長から学会事務局の送付先について、沼澤理事から松尾常任理事の研究室宛付になることが確認された。  
2) 学会「機関誌」第42号の送付状況について  
→「機関誌」第42号に掲載予定の内容について坂口理事から報告があり、詳細については編集委員会の常任理事より説明があった。現段階では、東大農学部庶務課の内容(大学におけるレジャー・レクリエーション教育の在り方と趣向)の要旨と、第29回学会大会の議決要旨、レギュラーの投稿論文を確認する予定。  
3) 会費納入状況について  
→平成12年6月28日現在：304名
- Ⅲ. 審議事項  
1) 第30回学会大会のテーマの決定  
→第30回学会大会について関係資料が配布され、大会のテーマ、議題、シンポジウムの企画、演題について話し合った。その結果、テーマは「新しい時代とあそびの再考」とし、議題は井上さし氏に依頼。また、シンポジウムの司会進行は嵯峨常任理事にお話し、内容・シンポジストについては次回決定することとした。  
2) 第30回記念大会広告料の確認について  
→第30回記念大会広告料について、関係資料が配布され、1/4ページの組合の広告料が15,000円から30,000円に変更されることが承認された。  
3) その他  
→第30回記念大会で、これまでの学会の貢献者へ感謝状を贈ることについて松尾副会長より提案があった。これについては一応承認を得たが、内容についてはさらに検討し審議していくことになった。  
→新入会員の勧誘について  
①坂口理事、②矢野宏光、③竹田隆行、④藤原泰の4名が承認された。

平成12年度(2000年)  
**日教レジャー・レクリエーション学会**  
**常任理事会(第3回) 議事録**

日時:平成12年7月28日(月)  
 午後6時30分～午後8時30分  
 場所:立教大学池袋キャンパス太刀川記念館  
 第1会議室

出席者:鈴木(祐)、高橋(和)、松田、坂口、  
 荒井、堀越、下村、西田、佐藤、松尾、  
 山崎  
 幹事-上村  
 傍聴-片桐、多田(寺崎常任理事代理)

会長挨拶

Ⅰ. 確認事項  
 前回常任理事会(第2回)の議事録確認  
 →Ⅱ. 報告事項2)の内容を訂正。訂正後の文書は以下の通り。「機関誌」第42号に掲載予定の内容について坂口理事長から報告があり、詳細については編集委員会の堀越常任理事より説明があった。現段階では、大学におけるレジャー・レクリエーション教育の在り方と動向に関する座談会の要旨と、第29回学会大会の講演要旨、投稿論文を掲載する予定。」

Ⅱ. 報告事項  
 1) 学会「機関誌」第42号の送付状況について  
 →下村常任理事より、最終編集が終了し8月中には発行予定であること、審査済みの投稿論文が3本、その他に4本の論文

が現在編集委員会にあること、「機関誌」第43号もしくは第44号において前回大会の講演者の原稿を掲載予定であることが報告された。  
 また、編集委員会が十分に機能していない現状があるため、委員会を充実させるために各常任理事に委員の推薦をお願いしたいという申し出が、下村常任理事からあった。  
 2) 学会ニュース7月号の発送について  
 →坂口理事より会員への発送が完了したことが報告された。  
 3) 会費納入状況について  
 →坂口理事より325名が会費納入済みであることが報告された。  
 4) その他  
 →高橋副会長、山崎常任理事より、スペインで行われたW.L.R.A大会の報告があった。1200～1300名前後の参加者があり、2ヶ所の会場で行われ、全体的にわかりやすいとした雰囲気であったことが報告された。

Ⅲ. 審議事項  
 1) 第30回学会記念大会の日程について  
 2) 第30回学会記念大会シンポジウムについて(シンポジストの決定と内容の確認について)  
 →上記2点について、坂口理事より別途配布された「第30回学会記念大会開催要綱(案)」にしたがって説明があった。開催要綱(案)については、学会功勞者への感謝状贈呈をどのように位置づけ、また大会当日にはどのように

執り行うか、記念講演の選考方法について、シンポジウムの時間が十分に取れないのではないかと、などの質疑があった。現段階では感謝状贈呈は総会時のほうが適切であること、記念講演のあり方としてフアワーとの質疑応答を行うことはあまりなじまないこと、シンポジウムを充実したものにするためにもしっかりと時間をとった方がよいことなどが議論され、感謝状贈呈は2日目の総会時に行なうこととなった。記念講演とシンポジウムの運営については大会実行委員である寺崎常任理事が欠席のため、常任理事会での議論の内容を伝えて再度検討を行なうことが承認された。なお、次回大会の開催として、大会テーマの掲げ方(大会テーマと研究報告の関連、シンポジウムのテーマ設定など)について議論を行っていくことが確認された。

3) その他  
 →休会希望が事務局に寄せられたが、学会としては制度として入・退会しかないことを伝え、本人の意思を再度確認することとなった。  
 →事務局より、各委員会の連絡等を電子メールで行いたいという提案があり、今後メールにて連絡をすること、またフアックスにて委任状を送付することも承認された。  
 →事務局より、「機関誌」大会号への広告掲載を再度お願いしたいとの申し出があった。

平成12年度(2000年)  
**日教レジャー・レクリエーション学会**  
**常任理事会(第4回) 議事録**

日時:平成12年9月28日(火)  
 午後6時30分～午後8時30分  
 場所:立教大学池袋キャンパス太刀川記念館  
 第1会議室

出席者:鈴木(祐)、高橋(和)、石井、鈴木(秀)、  
 油井、坂口、麻生、荒井、堀越、松尾、  
 山崎  
 幹事-上村

会長挨拶

Ⅰ. 確認事項  
 前回常任理事会(第3回) 議事録の確認

Ⅱ. 報告事項  
 1) 学会「機関誌」第42号の発行について  
 →坂口理事より、「機関誌」第42号の会員への発送が完了したことが報告された。  
 2) 第30回学会記念大会発表の申込状況について  
 →坂口理事より、現在31本の申し込みがあったこと、抄録編の締め切りは今月末であること、現在2名の提出が確認済みであることが報告された。  
 3) 会費納入状況について  
 →坂口理事より434名の会費納入済みであることが報告された。  
 4) その他  
 →第42号「機関誌」の掲載記事の中で、

事務局からのお知らせ

1. バックナンバー(「あゆみ」を含む)の実費徴収を行っています。特に新入会員にお願いします。  
 ①「あゆみ」32号の送料  
 1冊¥2,000 (郵送料¥300) ※既済済み  
 ②「あゆみ」を除くその他の研究誌は、  
 1冊¥1,000 (送料別)

2. 会員の皆様のお知らせでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご連絡ください。

[申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年度会費(¥8,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。]  
 3. 平成12年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員がいましたら、緊急納入手続きをお願いします。  
 郵便振替番号 00150-5-602353

題目の英語表記にスペルミスがあったことが指摘された。

Ⅲ. 審議事項  
 1) 第30回学会記念大会の開催について  
 →大会の開催について別途資料が配布された最終審議がなされた。その結果、受付開始は12:00、開会挨拶は13:30からとなった。また、1時間の予定であった井上ひさし氏の講演は、13:45から1時間半に延長された。理事会は12:00から13:30の予定。  
 2) 第30回学会記念大会シンポジウムについて  
 シンポジストの決定と内容の確認について  
 →当初シンポジストを依頼していた進士先生が出席できなくなったため、代わりに藤生先生にお願いする旨が報告された。また、2時間30分をわたるシンポジウムを有意義なものとするため、堀越先生にコーディネートを依頼することが再確認された。  
 3) その他  
 →明治大学の学生、教職員、千代田区民などの無料参加が認められた。また、人数制限を設けることや事前に整理券を配るなどの策を講じる必要性について話し合った。  
 →第31回学会大会の会場について、鈴木祐一会長から千葉大学に依頼したいという申し出があり承認された。千葉大学の藤井先生には会長から別途お願いすることとなった。

以上

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最長でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。  
 会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。  
 「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

お詫びと訂正

●「レジャー・レクリエーション研究」第42号P13の英文タイトルのところでスペルのまちがいがございましたのでお詫びして訂正いたします。  
 Education-Education.

事務局からのお知らせ

[申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年度会費(¥8,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。]  
 3. 平成12年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員がいましたら、緊急納入手続きをお願いします。  
 郵便振替番号 00150-5-602353

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最長でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。  
 会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。  
 「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

お詫びと訂正

●「レジャー・レクリエーション研究」第42号P13の英文タイトルのところでスペルのまちがいがございましたのでお詫びして訂正いたします。  
 Education-Education.

会員の動静

●新入会員 (所属) ○転任、\*増減した人の部数  
 ①鈴木 勇一 福岡県市体育協会  
 ②奈良 義之 日本文学  
 ③長塚 裕子 同志社大学福祉講師  
 ④藤村紀代子 京都女子大学  
 ⑤藤田千鶴子 奈良女子大学非常勤講師  
 ⑥高橋 仁美 同志社大学福祉講師  
 ⑦大野 文彦 近江八幡市立八幡小学校  
 ⑧金 富希 千葉大学大学院  
 ⑨岸田 圭世 大阪大学

●平成12年度 退会者  
 田中 幸吉 松下 三郎  
 西沢加津枝 高森 辰男  
 横山 一郎 藤田 匡内  
 高倉 正治 山本 和裕  
 松木 幹子  
 東京海大学短期大学部

以下の会員の住所が不詳です。御存じの方からご方角を「宝塚」または「事務局」まで御一報下さい。  
 ①渡辺在知子  
 ②荒川 東洋  
 ③伊 龍廣  
 ④藤原裕美子  
 ⑤宝塚 宝塚  
 ⑥堀 延雄  
 ⑦瀬本 文昭  
 ⑧山村 昌代  
 ⑨若林 裕子



# 学会ニュース

平成13年3月

MARCH 2001  
No. 69

## 日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)  
発行人 坂口 正典 編集 広嶋伸也委員長  
事務局 〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26  
立教大学 武蔵野新座キャンパス  
コミュニティ福祉学部 松尾研究室内  
電話 048-471-7345  
郵便番号 40152-3-69233

### 新たな世紀を迎えて

日本レジャー・レクリエーション学会  
会長 鈴木 祐一

日本レジャー・レクリエーション学会の第30回学会記念大会は、20世紀最後の2000年11月25、26日の両日、明治大学駿河台キャンパスの「リパティール」等を会場に開催しました。

明治大学のご協力と大会実行委員会（寺島善一委員長）委員のご配慮とご尽力によって、明るい・こころあふまる記念大会として無事終了することができ、関係の方々には厚く御礼を申し上げます。

「新しい時代とあそびの再考」を大会テーマに、井上ひさし先生の記念講演「日本人とレジャー」は、その中で参加者ひとりひとりが先生との接点が得られ、ふれあいのある記念講演であったと考えられています。

一方、2時間30分のシンポジウムは、「あそびと文化」、「あそびとライフスタイル」、「あそびと空間」のそれぞれについて3名のシンポジストとのゆとりある交流をめざした企画も、多くの成果を現したものと確信しております。さらに、第2日目は、2会場で行われた研究発表が行われました。この記念大会を契機に、さらには新たな世紀を迎えるための平素の学会活動が、各委員の組織的活動によって、より活力ある学会の「あゆみ」となりますよう努力したいと存じます。

さて、2001年度は、次期（2002～2003年度）学会の新役員を選出の間もなく行われます。

会員の皆さんが学会活動に対する深いご理解のもと、役員選出にいろいろのご協力をお願いいたします。

### JSLRSニュース10

- |                        |           |                           |            |
|------------------------|-----------|---------------------------|------------|
| 1. 会長挨拶                | .....P. 1 | 6. 定例研究会のご案内              | .....P. 9  |
| 2. 第31回学会大会開催案内・開催のご案内 | P. 2      | 7. 2001年度(平成13年度)会費納入のお願い | .....P. 9  |
| 3. 第31回学会大会研究発表論文の募集要項 | .....P. 2 | 8. 事務局からのお知らせ             | .....P. 10 |
| 4. 第30回学会記念大会を終えて      | .....P. 3 | 9. 編集委員会からのお知らせ           | .....P. 10 |
| 5. 常任理事会・理事会の報告        | .....P. 4 | 10. 会員の動静                 | .....P. 10 |

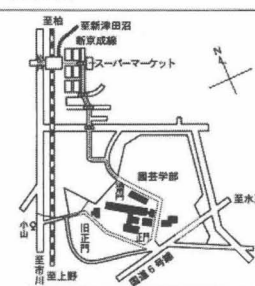
-1-

## (千葉大学 2001年12月1日・2日) 第31回学会大会

### 第31回学会大会のご案内

- 日程 平成13年12月1日(土)～12月2日(日)
- 会場 千葉大学園芸学部松戸キャンパス

### 案内図



〒271-8510  
千葉県松戸市松戸648番地  
TEL 047-308-8704 FAX 047-308-8720

### (選考)

- JR常磐線 上野駅から  
JR常磐線松戸駅まで約20分
- JR常磐線(地下鉄千代田線)  
又は新成線松戸駅下車東口から  
徒歩約15分
- JR総武線市川駅から京成バス松戸  
東行(園台経由)を利用約35分、  
小山下車徒歩約5分

### 1. 研究発表申し込みの方法

官製ハガキ（FAX不可）に敬願、氏名（共同研究または個人研究の区別および共同研究の場合は共同研究者の氏名全てを記してください）、住所（共同研究の場合は代表者とする）、郵便番号、電話番号を記入の上、8月30日までに、本事務局（立教大学）にお申し込み下さい。所定の抄録原稿用紙を申し込み書に記載されている発表者の住所に送付して下さい。

また発表原稿（A4判2枚または4枚）の締め切りは、9月30日（必着厳守）です。  
※共同研究者も学会員にながざらぬ。非会員の場合には至急入会手続きをおとりください。

### 2. 申し込み先（学会事務局）

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26 立教大学 武蔵野新座キャンパス  
コミュニティ福祉学部 松尾研究室内 日本レジャー・レクリエーション学会事務局

第31回学会大会の発表抄録原稿は8月下旬に送付させていただきますのでご準備よろしくお願いたします。尚、原稿の〆切は9月30日(日)までといたします。

-2-

## 第30回記念大会を終えて

実行委員長・明治大学 寺島 善一

記念すべき第30回大会の開催役をお引き受けし、無事終了したことで、はっとしているところです。わが明治大学は第13型大学として生き残りをかけて、23階建のハイテク装置を完備した校舎を設立したのは1988年であった。それ以来、各方面の学会からの依頼により頻りに学会大会が開催されてきました。それら、先に経験された諸学会実行委員の同僚にノウハウを教わりながらの準備であった。その準備期間に、ご丁寧に、鈴木会長、坂口理事長には何回も、明治大学の経緯関係に頭を下げて頂きました。恐縮なほどでございます。この書面をお借りして厚くお礼申し上げます。

学会の第30回記念大会にふさわしいプログラム作りを考え、敬願、荒井、藤生常任理事を中心として、「テーマ」「シンポジウム」「基調講演」などの内容を決定する作業にたがった。この中で、私は基調講演の撰者として、井上ひさし先生を強く推薦致しました。井上先生は作家として、人間の本质を見つめる時、「人間における遊び・芸術の重要性」を強調されていたから。わが学会の研究が、レジャー・レクリエーションの「方法」に強く傾斜している現状を見つめた時、井上ひさし先生から、その「方法」を導き出す、「原理・本質・理想」をお伺いすることは、大変重要であると考えたからです。商業資本を中心とした施設、プログラムに陥らされる愚かしさを指摘され、「良質」な自由時間構成の重要性について、種々のケースを紹介して頂きながら、力説されました。

大会準備する中で、年に1回、学会の仲間とじっくり旧交を暖め、研究・教育について協議をする場である「懇話会」にも一寸と工夫をこらしました。本学の交際委員の仲から松本四重奏を編成し、「良質な時間」を通して頂くために、バックグラウンド・ミュージックとして演奏をさせました。

最後に、次回からの大会のために、1つ一言を呈したいと思います。実行委員会からは、各種印刷物やニュースで、発表者の方々にその方法（スライド、O・H・P、CDROMなどの使用の有無）についてお伺いしました。がしかし事務局・実行委員会に何の連絡もなく、当日、急に持ち込まれた発表者の方が何人かおられ、実行委員会を慌てさせた。その結果、発表時間帯を乱すことになりました。参加者の皆様にはその不始末についてお詫言申し上げますとともに、不届きな発表者の方々に注意を申し上げたいと思います。

-3-

### 平成12年度(2000年)

## 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会（第5回）議事録

■ 日時：平成12年10月23日(月)

午後6時30分～午後8時30分

■ 場所：立教大学池袋キャンパス

5号館 第2会議室

出席者：鈴木（祐）、石井、鈴木（勇）、池井、

坂口、寺島、松尾、山崎、松浦、西田、

下村、理事・総務：幹事・上村

### 会長挨拶

### I. 確認事項

- ・前回常任理事会（第4回）議事録の確認

### II. 報告事項

- 1) 第30回学会記念大会発表抄録原稿の届着状況について  
→坂口理事長より、9月末の締め切り時で29編の申し込みがあったことが報告された。
- 2) 第30回学会記念大会シンポジウムの打ち合わせ状況について  
→大会コーディネーターの櫻嶋常任理事が欠席のため、省略された。
- 3) 学会ニュースの進捗状況について  
→坂口理事長より、学会ニュースが10月末に発送されることが報告された。
- 4) 会費納入状況について  
→坂口理事長より452名が会費納入済みであることが報告された。
- 5) その他  
→坂口理事長より、日本学術会議から、第18期体育・スポーツ科学研究連絡委員会の委員を学会から推薦してほしい

という要請があったこと、鈴木（祐）会長と総務で相談した結果、2名を推薦したことが報告された。

### III. 審議事項

- 1) 日本レジャー・レクリエーション学会第31回大会の日程について  
→第31回大会について別途資料が配布され、会場と日程について話し合った。その結果、会場は千葉大学園芸学部(松戸)に決定した。また、日程については、第一案として12月1日、2日、第二案として11月17日、18日を候補にあげ、池井副会長に、再度大学に確認していただき最終決定することとなった。
- 2) 感謝状贈呈者の人選について  
→別途資料が配られ、候補者の中から感謝状贈呈者を選出した。その結果、現職はのぞくこと、会長を継続していることを考慮基準として江崎氏、浅田氏、前野氏の3名に感謝状を贈呈することが決まった。本人には、理事長より連絡することになった。  
→新入会員の動静について  
岸田 圭代氏の1名の入会が承認された。  
以上

### 平成12年度(2000年)

## 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会（第6回）議事録

■ 日時：平成12年11月30日(月)

午後6時30分～午後8時30分

■ 場所：立教大学池袋キャンパス

5号館 第2会議室

出席者：鈴木（祐）、石井、鈴木（勇）、高橋（和）、松田、池井、坂口、荒井、藤生、櫻嶋、

-4-

寺嶋、西田、松浦、山崎：柳野一沼、片桐、多田（明治大学）

会長挨拶

I. 確認事項

・前回常任理事会（第5回）の議事録確認

II. 報告事項

- 1) 感謝状贈呈者への案内状の発送及び感謝状の準備について  
→坂口理事長より、感謝状贈呈者への案内状が発送済みであること、感謝状が完成し事務局で保管していることが報告された。
- 2) 第30回学会記念大会の準備状況について  
→寺嶋常任理事より、大会当日はゼミの入庫手続などがあり会場付近で学生の出入りがあること、記念講演を依頼している井上ひさし氏と打ち合わせを行っていること、記念講演には50名程度の一般の参加者が予定されていることが報告された。
- 3) 第30回学会記念大会シンポジウムの準備状況について  
→嶋崎常任理事より、シンポジウムの進め方として、まず3名のシンポジストから話をしてもらい（一人30分を予定）、その後フロアーから20分～30分の質疑応答を行う予定であることが報告された。また、テブ除音からシンポジウムの内容をおし学会誌に掲載することを検討していることが報告された。
- 4) 学会誌（大会号）の発送について  
→坂口理事長より、学会誌第43号の発送作業の完了したことが報告された。
- 5) 広告の協力について

→坂口理事長より、7社からの広告掲載の申し込みがあったことが報告された。

6) 会費納入状況について

→坂口理事長より、462名が納入済みであることが報告された。また、西田常任理事より、学会大会の参加費について62名が納入済みであること、懇親会には25名が参加予定であることが報告された。

7) その他

→油井副会長より、学会誌の大会号については、目次をつけるかどうかという提案があり、次大会より目次をつけていくことになった。

III. 審議事項

- 1) 第30回学会記念大会総会について  
→総会で配布予定の資料が配布され、資料にしたがって坂口理事長より説明があった。審議の前提、資料1の「機関誌」を「学会誌」に訂正すること、資料3の「平成11年11月25日（土）・26日（日）」を「平成12年11月25日（土）・26日（日）」に、また、「第43号、第44号（大会号）、第45号」を「第43号（大会号）、第44号、第45号」に訂正し、その他については原案通り承認された。また、油井副会長より、感謝状は額に入れて贈呈したがよいのではないかという提案があり、事務局で額を廃棄することになった。懇親委員会開催状況については、総会当日に口頭で報告することとなった。
- 2) 第31回学会大会の日程について  
→油井副会長より、大学に確認したところ平成13年12月1日、2日は行事等が入っていないことを確認したことが報

告された。また、千原大学では会場として使用するにあたり若干の費用負担が必要になると、懇親会場がまだ未定で検討中であることが報告された。

3) その他

→鈴木（勇）副会長より、学内所属の長崎があるためこれまで保管していた学会誌のバックナンバーを東徳大学へ移したいという提案があり、承認された。また、鈴木（勇）副会長より、バックナンバーを消化するために割引の検討や会員への周知のために目次の配布を行ってもよいのではないかとという提案があり、今後検討していくこととなった。

→会員の動静について

北畠朝氏、柳野孝子氏、木全吉巳氏、在久本博代氏、竹田直弘氏の入会が承認された。以上

平成12年度(2000年) 日本レジャー・レクリエーション学会 理事會 (第4回) 議事録

■日時：平成12年11月25日（土）  
午後12時00分～午後14時00分  
■場所：明治大学駿河台校舎  
リハビリタワ 第1会議室  
出席者：鈴木（勉）、石井、秋吉、高橋、鈴木（勇）、坂口、西野、藤生、山崎、松浦、嶋崎、寺嶋、荒井、松尾、理事＝長嶋、大谷、高橋（真）；幹事＝上村

会長挨拶

I. 確認事項

- 1) 定足数確認
- 2) 前回理事会（第3回）の議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 感謝状贈呈者への案内状の発送及び感謝状の準備について  
→坂口理事長より感謝状の贈呈について、常任理事会で審議・承認された3名（江崎氏、浅田氏・前野氏）に前もって案内状を発送し、11月21日に電話で確認をとったこと、前者2名はすでに用事があり不参加、前野氏から参加の意思をいただいたこと、第30回学会記念大会の総会前に、前野一平先生に感謝状を渡すことが確認された。
- 2) 第30回学会記念大会の準備状況について  
→寺嶋常任理事のご尽力のもと、無事明治大学で第30回の記念大会が開催できる運びとなったことが、坂口理事長より報告された。
- 3) 第30回学会記念大会シンポジウムの準備状況について  
→坂口理事長より、シンポジウムの準備状況が報告された。講演者3名のコーディネートのもと十分打ち合わせがされており、嶋崎常任理事からはフロアからの質問時間もあるので大いに盛り上げてほしいとのコメントがあった。
- 4) 学会誌（大会号）の発送について  
→坂口理事長より大会号の学会誌の発送が完了したことが報告された。
- 5) 広告の協力について  
→坂口理事長より、広告の協力をいただいた会社名が報告された。今回、協力をいただいた会社は以下7社。Assica、JTBサンパソン、JTB丸ノ目、東家体育専門学校、まだらお高橋ホテル、石橋

印刷、マナー&リゾート。

会長挨拶

- 6) 会費納入状況について  
→坂口理事長より本日付けで473名が会費納入済みであることが報告された。
- 7) その他  
→西田常任理事より、今回の大会には65名が参加表明をしていること、シンポジウム後は懇親会が開催されることが報告された。

III. 審議事項

- 1) 第30回学会記念大会総会について  
→坂口理事長より別途資料が渡され、総会の議事録等について確認、承認された。
- 2) 第31回大会の日程について  
→第31回大会について別途資料が配布され、会場と日程について報告があった。会場は千葉大学園芸学部（松戸）、日程は12月1日～2日と決まった。
- 3) その他  
→新入会員の動静について  
岸田 圭代氏の1名の入会が承認された。以上

平成12年度(2000年) 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事會 (第7回) 議事録

■日時：平成13年1月22日（月）  
午後6時30分～午後8時30分  
■場所：立教大学池袋キャンパス セントポールズ会館  
出席者：鈴木（勉）、高橋（真）、石井、鈴木（勇）、坂口、西野、松浦、荒井、山崎、嶋崎、寺嶋、松尾、山崎、松浦、西田、幹事＝上村

のものを使用。特に費用は発生していない。

II) 理事会当日の昼食会の取り扱いについて：事務局より支払い。

III) 記念講演・シンポジウムのテブ

おし（研究誌に掲載）費用については、従来常任理事より、シンポジウムのテブおしは必ず、シンポジストの先生方に再度執筆をお願いすること、その理由は以下の3つ、費用が高額であること、テーマが充たないつくされなかったこと、シンポジストから書き直しの要望があったこと、そこで再度同じテーマで執筆を依頼し、第45号に掲載予定であることが報告された。一方、記念講演のほうはテブおしことが準備中であることが西田常任理事より報告された。また、寺嶋常任理事より講演テブをダビングして販売する案が出されたため、著作権問題をあわせて検討することが確認された。

(5) 感謝状の送付について

→坂口理事長より、江崎氏、浅田氏に感謝状を宅急便で送ったことが報告された。

2) 『レジャー・レクリエーション研究第44号』の進捗状況について

→嶋崎常任理事より、第44号が編集作業中であること、第29回学会大会の講演録2編と原書論文5編の計7編が掲載予定であること、第45号も同時進行で動いていること、今大会シンポジウムの内容の他に投稿論文がないため、「あそび」のテーマを中心に投稿を促してほしいことが報告された。また、坂口理

事長からは、①選挙準備のため、第44号に平成12年12月現在の役員・会員名簿を掲載すること、②第30回学会記念大会の報告及び第31回学会大会の第1報を載せること、③住所確認用の葉書を組み込むこと、が報告された。

3) その他

→山崎常任理事より、今学会の反省と次回回の検討事項として以下3点が報告された。①今回使用したストップウォッチがソーラーシステムだったため、スライド使用中に文字盤が見えなくなるというハプニングが生じた。②発表及び印刷の形式が所長の判断に任されたため、二つの会場で発表時間がそれぞれ異なり、会員がもたどっていた。③会場との適合性をはかっていく必要はないが、④常任理事が全員壇上にはがるといふのは、今後参加人数によって変更してほしい。⑤に対しては坂口理事長より、今回は総会参加者が全部で35名と少人数であったこと、次回工夫したいという説明があった。→寺嶋常任理事より、ニュース等で発表の際は前もって連絡するように掲載されていたにもかかわらず、当日突然AV機器を使用の申し入れがあり、その準備のため時間が遅れた。発表者にきちんとした参加の仕方を望みたい。

III. 審議事項

- 1) 各種委員会について  
→総務：西田常任理事より、①次回69号ニュースは2月中旬から3月の下旬にかけて発行予定、②改選に向けて会員名簿を整理中、③関東学院大学に保管しているバックナンバーを東徳大学へ

移すための準備をしている。

- 財務：西野常任理事より、財務としての仕事はほとんどしてこなかったが、今後何をしたらよいか、またそもそもその委員会が必要なのかを考えた。
- 常任理事より、月例研究会がまとまった。
- 編集：櫻岡常任理事より、課題は研究誌を定期的に出すこと、第44号の発行が遅れているので第45号を5月頃に出して遅れを取り戻したい。
- 広報渉外：松浦常任理事より、総務の①と同じ。

2) 選挙について

→坂口理事長より、3月の理事会で選挙管理委員会を設立することが確認された。また鈴木(秀)副会長より、別冊資料が配布されそれをもとに選挙のやり方についての説明があった。

3) その他

- 新入会員の動静について  
聖学院大学総合図書館の入会と、井村仁、上田征一、長田麗明、吉田穂穂、佐野美三雄、増良子、田口鏡子の退会が承認された。
- 西野常任理事より、学会に対して、2002年に開催される東南大学とワイカト大学（ニュージーランド）共催の環太平洋レジャー会議への後援申し出があった。これは特に金銭面ではなく、ニューズレターや大会号などの宣伝面での協力を要請したいということで、依頼文の取扱い、承認された。その旨は東南大学学部長宛てに文書で連絡することが確認された。

以上

定例研究会「多摩丘陵における市民によるあそび空間（遊歩道ネットワークづくり）（現地見学会）のご案内（研究会委員企画主催）

日時：平成13年5月19日(日) 午前10時集合、午後4時頃解散  
集合場所：小田急多摩線鶴川駅改札口前（新宿より新百合ヶ丘乗換で約40分）  
内容：「レジャー・レクリエーション研究」第44号をご参観下さい。  
申込み：参加者それぞれの①住所（連絡先）、②氏名、③所属（勤務先等）を明記の上、5月10日までにてハガキ、ファクスまたは電メールで下記までお申し込み下さい。  
〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1 東京農業大学造園科学科  
栗田和 研（研究会委員企画）まで  
FAX: 03-5477-2625 E-MAIL: sashi@nodai.ac.jp

2001年度会費納入のお願い

平成13年度は役員選挙の年でもあります。その選挙権、被選挙権を有するためには、年度会費の納入が6月末日までとなっていますのでご留意ください。

事務局からのお知らせ

- バックナンバー「歩み」を含むの実費頒布を行っています。特に新入会員におすすしします。
  - ①「歩み」32号の値段  
1冊¥2,000（送料別）※既報済み
  - ②「歩み」を除くその他の研究誌は、1冊¥1,000〜¥500になります。（送料別）
- 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご連絡ください。
- 平成12年度の年会費（¥8,000）を納めていない会員がいまして、至急納入手続きをお願いします。  
郵便振替番号 00150-3-002353

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、校正作業には短延でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いします。  
投稿論文送付先  
〒352-8558 埼玉県新都市北野1の2の26  
立教大学 武蔵野新都市キャンパス  
コミュニティ福祉学部 松尾研究室内  
「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

レジャー・レクリエーション研究(バックナンバー)掲載数

バックナンバー	掲載数	バックナンバー	掲載数
第1号	71	第37号	147
第2号	71	第38号	159
第3号	172	第39号	112
第4号	139	第40号	150
第5号	18	第41号	150
第6号	512	第42号	160
第7号	18	第43号	137
第8号	18	第44号	63
第9号	227	第45号	49
第10号	21	第46号	8
第11号	20	第47号	8
第12号	20	第48号	1
第13号	143	第49号	12
第14号	130	第50号	168
第15号	45	第51号	168
第16号	58	第52号	168
第17号	165	第53号	168
第18号	124	第54号	168
第19号	75	第55号	168
第20号	210	第56号	168
第21号	202	第57号	168
第22号	9	第58号	158
第23号	299	第59号	168
第24号		第60号	168

※平成13年度は、特別に1冊500円(歩み)は除くので掲載を行います。  
送料は着払いとさせていただきます。  
テーマなどは「歩み」をご覧ください。

会員の動静

●新入会員 (所属) ○付は、4名増(1名退会)

- ◎竹田 貴広 早稲田大学商学部
- ◎北 穂 朝 東海大学大学院
- ◎御野 敦子 東北福祉大学
- ◎久木 忠己 九州保健福祉大学
- ◎藤学院大学総合図書館
- ◎田島 英文 大阪保健福祉専門学校

●平成12年度 退会者

- 井村 仁 佐野美三雄
- 上田 征一 増 良子
- 長田 麗明 田口 鏡子
- 吉田 穂穂

平成13年7月

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)  
発行人 坂口 正治 編集 広報渉外委員会  
印刷所 〒352-8558 埼玉県新都市北野1-2-26  
立教大学 武蔵野新都市キャンパス  
コミュニティ福祉学部 松尾研究室内  
電話 FAX 048-471-7345  
郵便振替 00150-3-002353

JULY 2001  
No. 70

holidayの語源のプレゼントを!!

日本レジャー・レクリエーション学会  
副会長 松田 義幸

私は、学生たちに夏休みに入る前にちょっとしたプレゼントをしておきたいと思いました。

「みなさんはholidayの意味をどうおぼえていますか」  
「offの日」です。workdayが、onの日「です」  
「では、onの日の方が、offの日よりも大切な日ということですか」  
「そういっていいと思います」  
このやりとりから私は学生たちが、holidayの語源からいはいはしかり知って、夏休みを祝えてもらいたいと思い、原稿をばって10分足らずの説明してみました。

holidayは古英語ではhæligdægといっていました。holidayはholyl plus dayの合成語なわけですが、古英語のhæligはhail, whole, heal, hallにも派生したものです。hæligdægはドイツ語から英語になったものですが、そのドイツ語のheilをみると、「健全、健全な、健康な、平和な、幸運な、幸福な」とあります。今でも働かなければ生きていくことができないわけですから、1週間の5日がworkdayなのですが、だからといって2日のholidayが、workdayに匹敵する単なる。offの日「ではないのです。

人生にとっては、onの日「そいってよいのではないのでしょうか。学生たちは、すっかり消化してしまったholidayの元の意味に、初めて気づいて

「そなんだ」  
と、目を細かせてくれました。日本語の学会の会員の皆さんにも、このようにしたヒントを学生たちに、仲間にプレゼントしていただきたいと思います。

JSLRSニュース 11

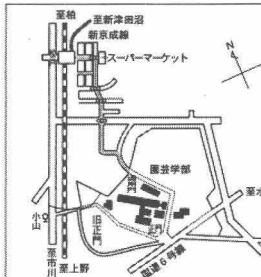
- 1. 学会副会長挨拶 ..... P. 1
- 2. 第13回定例会の開催と第13号の出版 ..... P. 2
- 3. 平成12年度事業報告(案) ..... P. 3
- 4. 平成12年度決算報告(案) ..... P. 3
- 5. 平成13年度事業計画(案) ..... P. 4
- 6. 平成13年度予算(案) ..... P. 4
- 7. 常任理事会・理事会報告 ..... P. 5
- 8. ピシカクがいつの間にか消えた ..... P. 10
- 9. 編集委員会からのお知らせ ..... P. 11
- 10. 事務局からのお知らせ ..... P. 11
- 11. 会員の動静 ..... P. 11

(千葉大学 2001年12月1日・2日) 第31回学会大会

第31回学会大会のご案内

- 日程 平成13年12月1日(土)〜12月2日(日)
- 会場 千葉大学薬学部松戸キャンパス

案内図



〒271-8510  
千葉県松戸市松戸648番地  
TEL 047-308-8704 FAX 047-308-8720

(道順)

- JR常磐線 上野駅から約20分
- JR常磐線 松戸駅下車 徒歩約15分
- JR常磐線(地下鉄千代田線) 又は新成成線 松戸駅下車 徒歩約15分
- JR総武線 川口駅から京成バス 松戸駅行(国府台経由)を利用 徒歩約35分
- 小山下車 徒歩約5分

1. 研究発表申し込みの方法

官製ハガキ（FAX不可）に職種、氏名（共同研究または個人研究の区別および共同研究の場合は共同研究者の氏名を全て記してください）、住所（共同研究の場合は代表者とする）、郵便番号、電話番号を記入の上、8月15日までに「研究発表申し込み書」を事務局（立教大学）にお申し込み下さい。所定の抄録原稿用紙を申し込み書に記載されている発表者の住所に送付します。また発表原稿（A4判2枚または4枚）の締め切りは、9月29日(必着)です。共同研究者も学会員にかけられます。非会員の場合は至急入会手続きをおとってください。

2. 申し込み先(学会事務局)

〒352-8558 埼玉県新都市北野1-2-26 立教大学 武蔵野新都市キャンパス  
コミュニティ福祉学部 松尾研究室内 日本レジャー・レクリエーション学会事務局

第31回学会大会の発表抄録用原稿は随時事務局に送付させていただきますのでご準備よろしくお願います。尚、原稿の〆切は9月29日(土)までといたします。

総会・会報 審議概要報告

日本レジャー・レクリエーション学会  
平成12年度 事業報告 (高)

- 1) 第30回学会記念大会開催
期日：平成12年11月25日(土)・26日(日)
場所：明治大学駿河台校舎
2) 機関誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行
第43号、第44号(大会号)、第45号、第46号
3) 「学会ニュース」№67、№68、№69の発行
4) 組織の拡充および活動の充実
3月31日現在 入会者20名(平成12年度会費納入者498名)
5) 学術団体交流
6) 第31回大会開催費確保
開催期日：平成13年12月1日(土)・2日(日)
開催会場：千歳大学園芸学部(松戸校舎)
7) その他
II 会報
1) 学会総会の開催
平成12年11月25日(日) 明治大学駿河台校舎
5回
2) 理事会の開催
3) 常任理事会の開催
4) 各種専門委員会の開催
5) その他

平成12年度決算報告書 (高)

日本レジャー・レクリエーション学会 平成12年4月1日～平成13年3月31日 (単位：円)

Table with columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減, 備考. It details income and expenses for the fiscal year 2000.

編入：6,880,416
編出：4,629,349
残高：2,251,067

監事の結算、決算報告は適正であると認めます。
監事 小田切 徹一
監事 永嶋 正徳

平成12年4月11日

総会・会報 審議概要報告(つづき)

日本レジャー・レクリエーション学会平成13年度 事業計画 (高)

- I 事業
1) 第31回学会大会開催
期日：平成13年12月1日(土)・2日(日) 場所：千歳大学園芸学部(松戸校舎)
2) 機関誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行
第45号、第46号(大会号)、第47号、第48号
3) 「学会ニュース」№70、№71、№72の発行
4) 組織の拡充および活動の充実
5) 学術団体交流
6) 定評研究会の開催
7) 第32回学会大会開催費確保
8) その他(学会の目的に関わる事項)
II 会報
1) 学会総会の開催
2) 理事会の開催
3) 常任理事会の開催
4) 各種専門委員会の開催
5) その他(学会の目的に関わる事項)

日本レジャー・レクリエーション学会  
平成13年度 予算 (高)

平成13年4月1日～平成14年3月31日 (単位：円)

Table with columns: 科目, 本年予算, 前年度予算, 増減, 備考. It details the budget for the fiscal year 2001.

編入：7,000,000
編出：6,850,000
残高：149,000

平成12年度(2000年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
理事会(第5回) 議事録

■日時：平成13年3月28日(月)
午後6時30分～午後7時00分
■場所：立教大学池袋キャンパス
太刀川記念館第1会議室
出席者：鈴木(祐)、高橋(祐)、石井、鈴木(秀)、
坂口、藤生、荒井、嵯峨、西田、松浦、
師岡、山崎、柚井；理事一沼澤；幹事一上村
会長挨拶

- I. 確認事項
・定足数の確認
・前回の理事会(第4回)議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 平成12年度の会費納入状況について
一坂口理事より、3月24日現在で496名が会費納入済みであることが報告された。
2) 平成12年度会費納入の確認について(1月22日承認分まで)
一坂口理事より、平成12年度会費納入について、住所不明者と退会者を除き、現在名簿で確認できている数は556名であることが報告された。
3) レジャー・レクリエーション研究第44号の進捗状況について
一坂口理事より、1月22日承認分までの役員・会員名簿と第31回学会大会の第1報(開催会場・期日)を掲載すること、住所確認の票書を組み込むことが報告された。

4) 研究会委員会等の定例研究会企画(高)

一森生常任理事より提示された研究会企画委員会の定例研究会に関し、常任理事会の審議事項の項目で審議された。その結果、この研究会を学会でも支援をしていくこと、活動等はニュースや学会誌で案内していくことが承認されたと報告された。

III. 審議事項

- 1) 選挙について
1) 日程
一坂口理事より選挙の日程について報告があり、6月末までに会費納入を済ませた会員に役員選挙の投票権が与えられること、7月末に投票用紙を交付し、8月末に必着締め、9月の常任理事会で開議されることが承認された。
2) 改選前理事(10名)選出の手續き
一選挙の日程と選出手続きについて常任理事会で承認され、4/2(月)投票用紙発送、4/18(水)必着締め、4/23(月)の常任理事会で開議されることが報告された。
3) 選挙管理委員会(委員の選出について)
一荒井善子と、小田切徹一、松浦三代子、事務局から西田俊夫と松尾賢矢の5名に選挙管理委員会委員をお願いすることが報告された。
2) その他
一坂口理事より、現在事務局に保管している研究誌と残票について、在庫の(ない)第1号は余暇期間研究所の研究誌をコピーさせてもらうこと、在庫があるものは送料着払いで「多み」一部二千元、他は一部五百円で販売すること、会員にはニュースで連絡すること、常任理事会で決定したことが報告された。
一新入会員の動向について、田島宗文の加入が承認された。

と、会員にはニュースで連絡すること、常任理事会で決定したことが報告された。
一新入会員の動向について、田島宗文の加入が承認された。

平成12年度(2000年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第8回) 議事録

■日時：平成13年3月28日(月)
午後5時00分～午後6時00分
■場所：立教大学池袋キャンパス
太刀川記念館第1会議室
出席者：鈴木(祐)、高橋(祐)、石井、鈴木(秀)、
坂口、藤生、嵯峨、西田、松浦、師岡、
山崎、柚井；理事(オブザーバー)一沼澤；幹事一上村
会長挨拶

- I. 確認事項
・前回の常任理事会(第7回)議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 平成12年度の会費納入状況について
一坂口理事より、3月24日現在で496名が会費納入済みであることが報告された。
2) 平成12年度会費納入の確認について(1月22日承認分まで)
一坂口理事より、平成12年度会費納入について、住所不明者と退会者を除き、現在名簿で確認できている数は556名であることが報告された。
3) レジャー・レクリエーション研究第44号の進捗状況について
一坂口理事より、1月22日承認分までの役員・会員名簿と第31回学会大会の第1報(開催会場・期日)を掲載すること、住所確認の票書を組み込むことが報告された。

一沼澤常任理事より研究誌第44号の進捗状況について、第31回学会大会の議決第2報と原書論文5編が掲載予定であること、選挙等の事務関連を載せることの報告があった。また坂口理事より、1月22日承認分までの役員・会員名簿と第31回学会大会の第1報(開催会場・期日)を掲載すること、住所確認の票書を組み込むことが報告された。

III. 審議事項

- 1) 選挙について
1) 日程
2) 改選前理事(10名)選出の手續き
一選挙の日程と選出手続きについて、4/2(月)に投票用紙を発送、4/18(水)必着締め、4/23(月)の常任理事会で開議されることが承認された。
3) 選挙管理委員会(委員の選出について)
一坂口理事より、事務局に保管している研究誌と残票について、別添資料が配られた説明があった。そして、在庫の(ない)第1号は余暇期間研究所の研究誌をコピーさせてもらうこと、在庫のあるものについては送料着払いで「多み」を一部二千元、他は一部五百円で販売すること、会員にはニュースで連絡することが審議のうえ、承認された。

- た。
- 2) その他  
→専任常任理事より研究会委員会の定例研究会企画(案)に関する資料が配られ、研究会発足の意義とテーマ、今後の活動方針などについての報告があった。「あそび」を基本テーマに研究会やフィールドワークを開催し、その様子は学会誌等へ報告するというところをうけて、この研究会企画を学会でも支援していくこと、活動等はニュースや学会誌で案内していくことなどが審議のうえ、承認された。

以上

**平成13年度(2001年)**  
**日本レジャー・レクリエーション学会**  
**理事會(第1回) 議事録**

■日時:平成13年4月23日(月)  
午後6時30分～午後8時00分  
■場所:立教大学池袋キャンパス  
太刀川記念館第1会議室  
出席者:鈴木(祐)、石井、鈴木(秀)、坂口、麻生、荒井、片桐、嵯峨、西田、西野、松浦、松田、師岡、油井|監査一永嶋;幹事一上村

会長挨拶

- I. 確認事項  
・定足数の確認  
・前回の理事会(平成12年度第5回)議事録及び常任理事會(平成12年度第8回)議事録の確認
- II. 報告事項  
1) 年度会費の納入状況について(平成13

- 3月31日現在及び平成13年度分)  
→坂口理事長より平成12年度会費の納入状況について、平成13年3月31日現在488名が納入済みであること、また平成13年度会費については平成13年4月14日現在84名が納入済みであることが報告された。
- 2) 学会「機関誌」第44号の発行について  
→嵯峨常任理事よりレジャー・レクリエーション研究第44号が発刊されたことに関して、その報告とお礼の言葉があった。また、現在選れている第45号についてはできるだけ早く発行したいとの報告があった。
- 3) 学会ニュース No.68号の発送について  
→西田常任理事より学会ニュース68号が出されたことについて報告があった。

III. 審議事項

- 1) 平成14年(2002)～平成15年(2003)度役員選挙の期票について  
→次年度役員選挙の期票が行われ、嵯峨常任理事と松尾常任理事によって期票された。期票結果については別紙のとおり。(別紙で郵送済)
- 2) 平成12年度事業報告(案)  
→坂口理事長より、平成12年度事業報告(案)について配布された資料をもとに確認され、審議の結果承認された。
- 3) 平成12年度決算報告(案)及び会計監査の報告について  
→平成12年度決算報告(案)及び会計監査の報告について、配布された資料をもとに西田常任理事より説明があった。監査の永嶋理事からは概ね適正に処理されているとの報告があった。幾高が多いとの意見がしたが、これについて

—7—

は本来2年度に出版される予定であった発行物が出されていないためとの説明があった。以上審議の結果承認された。

- 4) 平成13年度事業計画(案)について  
→平成13年度事業計画(案)について、配布された資料をもとに坂口理事長より説明があった。前年度と特に大きな変化はなく審議のうえ承認された。また、今年度は前年度よりも活発な学会活動と充実した会員サービスをめざすことで意見の一致をみた。
- 5) 平成13年度予算(案)について  
→平成13年度予算(案)について、配布された資料をもとに西田常任理事から説明があった。特に通信費や印刷費、手摺費などに関しての話し合いが活発に行われ、承認された。また、松尾常任理事より学会のホームページの立ち上げについて提案があり、これについては、まず事務局を中心に委員会を作り具体的に検討していくこととなった。
- 6) 第31回学会大会のテーマについて  
→坂口理事長より承認された第31回学会大会のテーマについて、多くの理事の方から意見を寄せてほしいとのお願いがあった。
- 7) 専門委員会について  
→専任常任理事より別途資料の配布と定例研究会の開催等についての報告があった。研究会開催後は、レポートなどで話題を提供し議論を深めていきたいとの話があった。  
→鈴木秀雄副会長より、第26回奈良女子大学での学会時に承認されたセラピューティックレクリエーションの専門分科会を、今後活性化させていきたいとの報告があり、近く研修会を開催する旨

の表明があった。

8) その他  
→新入会員の動静について、新入会員、藤井秀樹、左近健平、金子静司、西山清子、木村隆之の5名と、退会者、角田孝子、増田慧、菊地宝、橋本保彦、上田任一の5名が承認された。  
→次回常任理事會は5月28日(月)18:30から、立教大学で行う。

以上

**平成13年度(2001年)**  
**日本レジャー・レクリエーション学会**  
**理事會(第2回) 議事録**

■日時:平成13年5月28日(月)  
午後6時30分～午後8時00分  
■場所:立教大学池袋キャンパス  
5号館第1会議室  
出席者:鈴木(祐)、高橋、鈴木(秀)、坂口、麻生、荒井、片桐、嵯峨、岩澤、松田、山崎、松尾;幹事一上村

- 会長挨拶
- I. 確認事項  
・定足数の確認  
・前回の理事会(平成13年度第1回)議事録の確認
- II. 報告事項  
1) 年度会費の納入状況について  
→坂口理事長より平成13年度会費納入状況に関して報告があり、平成13年5月28日現在39名が会費を納入済みであることが確認された。
- 2) 平成12年度事業報告について  
3) 平成12年度決算報告について

—8—

- 4) 平成13年度事業計画(案)について  
5) 平成13年度予算(案)について  
→前回常任理事會で採択された審議を訂正した資料が配布され、確認のうえ承認された。
- 6) 第31回学会大会会場(千葉大学圖書館)への挨拶について  
鈴木会長と坂口理事長が千葉大学図書館学芸部に赴き、第31回学会大会の学校使用に關し同校に挨拶と御禮いをされたこと、油井副会長の案内で学内を視察したことが報告された。
- 7) その他  
→専任常任理事より5月19日に開催した第1回定例研究会について報告がなされた。

以上

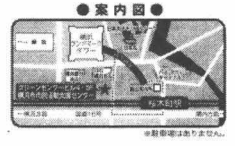
III. 審議事項

- 1) 第31回学会大会テーマについて  
→過去7年間の学会テーマが資料で示され、それに基づき活発な意見の交換が行われた。油井副会長や会員からの意見も取り入れたうえで、7月中にテーマの決定を下すことで意見の一致をみた。
- 2) 第31回学会大会の広告料の確認について  
→前年度同様、全頁掲載5万円、1/2頁掲載3万円、1/4頁掲載2万円が承認された。
- 3) 第32回学会大会開催会場について  
→坂口理事長より、いくつかの会場候補を候補として検討しているが、他にもよい場所があれば提案してほしいとの依頼があった。
- 4) その他  
→鈴木会長より、より多くの人たちに、もっと学会に興味を持ち自主的に参加

—9—

**日本レジャー・レクリエーション学会(JSLRS)**  
**平成13年度セラピューティックレクリエーション専門分科会(第1回)研修會**

日 時:平成13年9月7日(金) 18:00～30:30  
場 所:横浜市市民活動支援センター 4階  
研修室1及び研修室2  
(坂木町駅から徒歩5分。坂木町駅(JR・東急東横線)改札口を出て右側の国道16号線を横浜方面へ進み、紅葉坂交差点を渡り右折。ランドマークタワー方面に歩き5分程度歩くと左横、剛クリーンセンター4階)



テ マ:セラピューティックレクリエーションの理解とその解き明かし  
～特に日本におけるセラピューティックレクリエーション協会の組織化及びセラピューティックレクリエーションの資格化に向けて～

話題提供:鈴木秀雄  
(本学会副会長、関東学院女子短期大学幼児教育科教授 Ph.D.)

内 容:セラピューティックレクリエーションの概念理解から組織化の必要性や専門職としての資格化について具体的に提案し、日本におけるセラピューティックレクリエーションのあるべき方向性を探る。特に、1983年(昭和58年)1月22日(土)に、東京YMCA本館において開催された日本セラピューティックレクリエーション協会及び日本セラピューティックレクリエーション研究会共催によるシンポジウム「セラピューティックレクリエーション運動の展開」に基き、(後援:日本スペシャルオリンピック委員会、朝日本スポーツクラブ協会、朝日本軟体文化振興会、日本キャンプ協会、(社)日本放物不自由児協会、東京YMCA、朝日本レクリエーション協会)についても普及し、日本におけるセラピューティックレクリエーションの制度化の道筋を探る。

参加申込み:学会員及び非会員ともに、官製はがきに、郵便番号、住所、氏名、性別、所属を記し、申し込む。(会場の都合により参加者は70名とします)。

申込み先:P236-8503 横浜市金沢区六浦町4834  
関東学院女子短期大学幼児教育科  
鈴木秀雄研究室(緊急連絡先:090-2627-4183)

申込締切:8月31日(金)必着

参加費:1,000円(資料代、連絡通信費等)、当日会場受付で徴収致します。

—10—



事務局からのお知らせ

1. バックナンバー(『歩み』を含む)の実費頒布を行っています。特に新入会員におすめしです。
- ① 『歩み』32号の値段  
1冊¥1,000(郵送料¥300) ※紙版のみ  
② 『歩み』を除くその他の研究誌は  
1冊¥1,000~¥500になります。(送料別)
2. 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご連絡ください。
- 【申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。】
3. 平成13年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員がいましたら、至急納入手続きをお願いします。
- 郵便振替番号 09150-3-802353

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最遅でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

投稿論文送付先  
〒352-8558 埼玉県新座市北野1の2の28  
立教大学 武蔵新座キャンパス  
コミュニティ福祉学部 転写研究室  
「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

レジャー・レクリエーション研究「バックナンバー」掲載表

バックナンバー	掲載数	バックナンバー	掲載数
第1号	第25号	第31号	177
第2号	第26号	第32号	147
第3号	第27号	第33号	159
第4号	第28号	第34号	112
第5号	第29号	第35号	150
第6号	第30号	第36号	184
第7号	第31号	第37号	149
第8号	第32号(歩み)	第38号	127
第9号	第33号	第39号	82
第10号	第34号	第40号	92
第11号	第35号	第41号	2
第12号	第36号	第42号	1
第13号	第37号	第43号	12
第14号	第38号	第44号	1
第15号	第39号	第45号	1
第16号	第40号	第46号	1
第17号	第41号	第47号	1
第18号	第42号	第48号	1
第19号	第43号	第49号	1
第20号	第44号	第50号	1
第21号	第45号	第51号	1
第22号	第46号	第52号	1
第23号	第47号	第53号	1
第24号	第48号	第54号	1
第25号	第49号	第55号	1
第26号	第50号	第56号	1
第27号	第51号	第57号	1
第28号	第52号	第58号	1
第29号	第53号	第59号	1
第30号	第54号	第60号	1

※平成13年度は、特別に1冊500円(『歩み』は除く)で頒布を行います。  
送料は着払いとさせていただきます。  
テーマなどは『歩み』をご覧になって選んで下さい。

会員の動静

●新入会員 (所属) 〇〇社、〇〇大学、〇〇会

- 塩倉井 秀樹 京橋文芸短期大学
- 鈴木近 慎司 北杜学園仙台健康福祉専門学校
- 鈴木金 藤子
- 紙西山 清子 〃
- 境木村 隆之 横浜国立大学大学院

●平成13年度 退会者

- 角田 亨子 堀尾 保彦
- 増田 豊 上田 征一
- 菊地 宝

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)  
発行 柴口 正浩 編集 広野孝典  
事務局 〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-28  
立教大学 武蔵新座キャンパス  
コミュニティ福祉学部 転写研究室内  
電話-FAX 048-471-7345  
郵便番号 09150-3-802353

NOVEMBER 2001 No. 71

第31回全国大会の意義

第31回学会大会実行委員長 油井 正昭 (本学会副会長)

近年、余暇時間の増加、身近な場所での自然の減少、自然環境への関心の深まりなどを背景に、「自然とのふれあい」ニーズが激増に高まっている。自然環境のすぐれた場所や自然体験、ハイキング、キャンプなどを行うことは、年齢を問わず楽しい時間であり、健康な心身を育むことができる。

日本レジャー・レクリエーション学会の多くは、こうしたレジャー・レクリエーション空間の整備、自然環境の保全、レジャー・レクリエーション活動の指導・普及に多大な貢献を果たし、また、レジャー・レクリエーションの評価や活動がもたらす効果を研究し、レジャー・レクリエーションの発展に寄与してきた。

21世紀に入り、20世紀の開発型国土づくりから、自然環境を保全しつつ持続可能な国土づくり、循環型社会の構築へと社会の考え方が大きく変化している中で、自然とのふれあいの能力が認識されていくと考えられ、21世紀のレジャー・レクリエーションの健全な発展に向けて、日本レジャー・レクリエーション学会はこれまでに超えて社会貢献をしていく必要がある。

そこで、21世紀初頭に開催する第31回全国大会では、「レジャー・レクリエーションから見た自然環境」をテーマに設定し、基調講演、シンポジウムを行い、この大会を契機に一層のレジャー・レクリエーション学会の発展につなげたい。

大会が開催される千葉大学園芸学部のキャンパスは、80年を超える歴史豊かな環境に在り、このテーマを討議するのに相応しい場所であり、是非多数の会員の皆様をお招き致します。

JSLRSニュース10

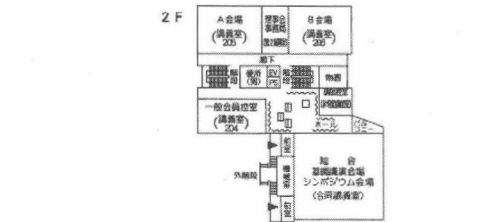
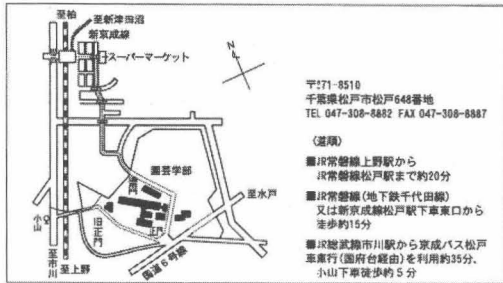
- 1. 学会大会実行委員長挨拶(油井正昭)……………P. 1
- 2. 第31回学会大会開催案内……………P. 2
- 3. 学会大会研究発表要録(7編)……………P. 4
- 4. カラ・ア・ソ・レ・クリエーション部門別……………P. 6
- 5. 第3回研究会企画……………P. 7
- 6. 新役員(次期理事)……………P. 7
- 7. 常任理事会報告……………P. 8
- 8. 事務局からのお知らせ……………P. 10
- 9. 編集委員会からのお知らせ……………P. 10
- 10. 会員の動静……………P. 10

第31回学会大会 (千葉大学 2001年12月1日・2日)

第31回学会大会のご案内

- 日程 平成13年12月1日(土)~12月2日(日)
- 会場 千葉大学園芸学部松戸キャンパス

案内図



- 理事会 平成13年12月1日(土) 11:00~12:00 会場 第2演習室
- 懇親会 平成13年12月1日(土) 17:00~19:00 会場 懇親会能化(生協食堂)
- 総会 平成13年12月2日(日) 13:00~14:00 会場 合同講義室

(千葉大学 2001年12月1日・2日) 第31回学会大会

日本レジャー・レクリエーション学会 第31回学会大会開催要領

大会テーマ「レジャー・レクリエーションから見た自然環境」

- 1. 主催: 日本レジャー・レクリエーション学会
- 2. 主管: 日本レジャー・レクリエーション学会第31回学会大会実行委員会
- 3. 期日: 平成13年12月1日(土)・2日(日)
- 4. 会場: 千葉大学園芸学部 (松戸キャンパス)  
〒271-8510 千葉県松戸市松戸648番地
- 5. 日程: [12月1日(土)]  
11:00~12:00 理事会(第2演習室)  
12:00~13:00 受付(E棟1F入口ホール)  
13:00~13:15 開会挨拶  
13:15~14:15 基調講演(合同講義室)  
14:30~17:00 シンポジウム(合同講義室)  
コーディネーター 油井正昭氏(千葉大学園芸学部教授)  
シンポジスト 親泊美子氏(江戸川大学教授)  
加治 隆氏(財)国民休暇村協会常務理事  
下村彰氏(東京大学大学院教授)  
田嶋成寿氏(財)日本自然保護協会理事  
17:15~19:00 懇親会(懇親会能化2F)

- [12月2日(日)]  
8:30~ 受付(E棟1F入口ホール)  
9:00~11:40 研究発表 A会場(205) B会場(206)  
11:40~12:30 昼食  
12:30~13:00 校内エクスカーション(植物見学会)  
13:00~14:00 総会(合同講義室)  
14:20~17:20 研究発表 A会場・B会場

連絡先は 千葉大学園芸学部(松戸校舎) 油井研究室 TEL 047(308)8882 FAX 047(308)8887

大会実行委員会から

- 発表形態は (振込先が変更になりました)
  - ① スライド
  - ② O. H. P.
  - ③ 液晶プロジェクター (パソコン持参者のみ)
- 学会発表者でご利用の方は、同封の返信票書にてお知らせ下さい。  
※大会会場周辺には、食費等がありませんので、12月2日(日)のお弁当(1000円)の事前注文を受け付けます。返信票書で申込みの上、代金を大会参加費、懇親会費などと共に下記宛に11月20日(火)迄にお振り込みください。  
振込先: 富士銀行 成増支店 (店舗: 239) 口座番号2103127  
日本レジャー・レクリエーション学会事務局 (担当: 西田俊夫)

第31回学会大会 (千葉大学 2001年12月1日・2日)

第31回学会大会研究発表・演題

- 研究発表 A会場205教室
  - 座長: 藤田百合子 (日光大学) 9:00~10:00
  - A-01 高齢者の余暇活動について③
    - ~高齢者における健康化と高齢者に対するレクリエーション援助方法の確立に向けての事例研究~
    - 上野 幸 (余暇問題研究所) 山崎綾子 (余暇問題研究所) 高橋和雄 (余暇問題研究所)
  - A-02 セラピューティックレクリエーションモデルの実践に関する研究①
    - ~アセスメントとプログラム計画(AE)シートの試案~
    - 宇野玄明 (武庫川女子大学)
  - A-03 社会福祉地域からみたレクリエーション・余暇
    - ~ホームヘルパー養成講座受講者と福祉ボランティア実践者の事例から~
    - 山本 存 (甲南女子大学)
  - 座長: 茅野宏明 (武庫川女子大学) 10:00~11:00
  - A-04 スポーツと芸術におけるアロー体験の特性について
    - 遠 俊道 (福島市立大学)
  - A-05 レクリエーション概念の歴史的精考
    - ~社会教育研究の視点から~
    - 坂内清 (早稲田大学)
  - A-06 現代イスラーム社会における女性のスポーツ行動におけるレクリエーション性
    - 高井啓子 (学習院女子大学)
  - 座長: 山崎綾子 (余暇問題研究所) 11:00~11:40
  - A-07 教員教育としてのレジャー・レクリエーション
    - ~大学における研究・教育・学習の自由の観点から~
    - 藤田百合子 (東北大学教育学部)
  - A-08 スポーツイベント開催に対する地元住民の評価
    - 藤田典幸 (鹿屋体育大学)
  - 座長: 藤生 惠 (京東農業大学) 14:20~15:20
  - A-09 郷土館における草原景観の興味対象に関する研究
    - 服部雅博 (千葉大学経済学部) 古谷静則 (千葉大学経済学部) 橋井正昭 (千葉大学経済学部)
  - A-10 日光国立公園那須郡那賀における自動車の利用規制について
    - 古谷静則 (千葉大学経済学部) 橋井正昭 (千葉大学経済学部)
  - A-11 磐梯湖国立公園磐梯湖高層の眺望景観特性
    - 橋井正昭 (千葉大学経済学部)
  - 座長: 西野 仁 (東海大学) 15:20~16:00
  - A-12 景観が人間の生理・心理に与える影響
    - ~自然の景観と人工的景観の比較~
    - 多田 光 (千葉大学経済学部)
  - A-13 NPRAのレクリエーション運動ビジョンに関する研究
    - ~"Vision 2000 A Strategic Plan for NPRA's Future"を中心に~
    - 三宅恭子 (徳島大学)
  - A-14 NPRAレジャー研究シンポジウム抄録に見るレジャー・レクリエーション研究動向 (1999~2000年)
    - 東原厚秋 (余暇問題研究所) 高橋 伸 (国際基督教大学)

(千葉大学 2001年12月1日・2日) 第31回学会大会

- 高橋和雄 (余暇問題研究所) □ 座長: 磯崎 幸 (筑波大学) 11:00~11:40
- 研究発表 B会場206教室 B-07 中学生の「ゆとり」経験について①
  - ~いつ、どんな場面でも「ゆとり」を感じ、その時の気分はどうか~
  - 西野 仁 (東海大学)
- 座長: 谷口勇一 (次分大) 9:00~10:00
- B-01 レクリエーション活動における「エコペス」の検討
  - ~年代別にみて~
  - 高橋仁美 (青森大学) 藤田千恵子 (鹿児島大学) 竹田正樹 (同志社大学)
- B-02 キンボールに関する研究①
  - ~調査参加者の意識調査~
  - 後藤太之 (和歌山大学) 山田 真 (鹿野学園短期大学) 三浦恵子 (梅花女子大学) 松井寿子 (梅花女子大学) 藤其理子 (北陸大学)
- B-03 キンボールに関する研究②
  - ~心拍数を教材としての検討~
  - 藤其理子 (北陸大学) 三浦恵子 (梅花女子大学) 後藤寿子 (梅花女子大学) 松井寿子 (梅花女子大学) 前山 直 (鹿野学園短期大学) 後藤太之 (和歌山大学)
- 座長: 高橋 伸 (国際基督教大学) 10:00~11:00
- B-04 「総合的な学習」における地域との連携および学習者の必要性について
  - 藤原昌樹 (川村学園女子大学)
- B-05 レクリエーションへのイメージの変化をねらったレクリエーション理論の授業実践
  - 岡澤晋子 (甲子園短期大学)
- B-06 都市における余暇意識の特性
  - 土屋 真 (青森大学) 鎌谷泰秀 (青森大学)
- 座長: 磯崎 幸 (筑波大学) 11:00~11:40
- B-07 中学生の「ゆとり」経験について②
  - ~いつ、どんな場面でも「ゆとり」を感じ、その時の気分はどうか~
  - 西野 仁 (東海大学)
- B-08 ボランティア体験学習の教育効果に関する研究
  - 成瀬友美 (新潟大学)
- 座長: 松浦三代子 (筑波大学) 14:20~15:20
- B-09 ジュニアリーダーセミナーへの参加理由について
  - 橋本和秀 (余暇問題研究所) 山崎綾子 (余暇問題研究所)
- B-10 児童の自由時間における遊びに関する事例研究
  - ~自然学校における自由時間の行動について~
  - 長尾美美 (武庫川女子大学) 永松昌樹 (大阪教育大学) 森 知香 (株式会社メンベル)
- B-11 社寺参詣と「歩き」の効果
  - 北 鑑朗 (東海大学大学院) 西野 仁 (東海大学)
- 座長: 荒井啓子 (学習院女子大学) 15:20~16:00
- B-12 区主催親子キャンプ参加者による地域青少年育成への認識変化について
  - 奥田治久 (余暇問題研究所) 橋本和秀 (余暇問題研究所)
- B-13 職員のセルフメント(事業)におけるキャンプ活動について
  - 高橋 伸 (国際基督教大学)

日本レジャー・レクリエーション学会 (JSLRS)

平成13年度 セラピューティックレクリエーション専門分科会 (第2回) 研修会

日 時: 平成13年12月3日 (月) 18:00~20:30  
 場 所: 横浜市市民活動支援センター 4階 研修室1及び研修室2



テ ー マ: セラピューティックレクリエーションの理解を深めるために  
 ~そのポイントを知る~

話 題 提 供: 鈴木秀雄 (日本レジャー・レクリエーション学会副会長、関東学院女子短期大学幼児教育科教授、Ph.D.)

内 容: セラピューティックレクリエーションの理解を深めるために、明にも暗にもレクリエーションそのものの正しい理解が必要である。第1(第1回)研修会において推進し提案した。レクリエーションの現状が把握された上で進んでいく必要がある。その中で、全国的にセラピューティックレクリエーションを普及させるには、今後の研究(第2回)として、むしろエノメロドロジー法(monothodorical)の観点で、即ち社会学という人々の方法)として、日常と異なる視点でセラピューティックレクリエーションを捉え、セラピューティックレクリエーションの価値性、プログラム提供にあたっての工夫やプログラムと関係とのバランス、そして日常生活や健康、精神的健康や福祉、生活実用(健康と福祉)と結びつける価値の質(質)の向上と個人の生活の喜び(質)の獲得に向けて、セラピューティックレクリエーションを、利用し、活用していくべきかというポイントを明確にする。

当然、プログラムの中に存在する「楽し」や「おもしろさ」の具体的・論理的な理解も重要。多岐にわたる実践化される価値を有するセラピューティックレクリエーションプログラムのサービスの中に、楽しさやおもしろさをどの程度どう組み込んでいくべきかを提案する。

また、12月8日(月)午後には開催されるシンポジウム「ノーマライゼーションの推進におけるレクリエーションの果たす役割」(参照:P.7)についても、そのコーディネーターの立場から言及する。

参加申込み 学会員及び非会員ともに、必ず登録が必要に、会員・非会員の別、郵便番号、住所、氏名、性別、所属を明記し、「[印刷]」研修会へ参加希望と記して申し込む。(会場の都合により参加者は40名とします。)

申込み先: 〒236-8503 横浜市南区六浦4丁目10番11号  
 関東学院女子短期大学幼児教育科 鈴木秀雄研究室 (電話: 045-927-4133)  
 E-mail: hidedsk@shonan.citfaijssu.ac.jp

申込締切: 平成13年11月25日 (申込申込み・当日での申込みを厳守してください。)

参加費: 1,000円 (送料代、連絡返信料等)。当日会場の場で徴収します。

第3回研究会企画 江戸・東京の「遊び」を体験する

江戸時代、庶民は隅田川および隅田川周辺の海濱、向島といつて芝居町遊びの場としていた。当時の「遊び」は、遊び場へ向かう過程(プロセス)を重視していた。そこで本企画では、江戸時代の遊びの場を再現し、当時の「遊び」にちなみ体験することにより、現代の都市におけるレジャー・レクリエーションのあり方を考える。

日 時: 平成13年12月15日 (土) 10:00~17:00  
 開催場所: 向島花見台 正門前 福田東亜ビル3-10-3 東京東亜ビル徒歩6分  
 内 容: 向島花見台一帯の歴史や向島周辺の歴史や遊園地一帯を一度にバスツアー一日訪問ツアー  
 江戸時代を再現した、当時の遊びの場を再現し、「遊び」にちなみ体験することにより、現代の都市におけるレジャー・レクリエーションのあり方を考える。

費 用: 参加費別途。申し込み後、当日は別途。

※参加料は別途。申し込み後、当日は別途。  
 ※申し込み、問い合わせ先: 研 究 会 (東京農業大学経済学部経済学(遊園地学))  
 電話: 03-5477-2428 E-mail: ayumi@ccsai.ac.jp

日本レジャー・レクリエーション学会 平成14年度~15年度期の新理事25名決定 (増長理事を除く)

改選前理事10名 (執行理事による選出)			新理事15名 (正会員の選出による選出)		
順 位	氏 名	所属及び役職関係領域	順 位	氏 名	所属及び役職関係領域
1	鈴木 浩一	前東京女子体育大学学長	2	西野 仁	東海大学
2	坂口 正治	東洋大学	3	茅野 宏明	余暇問題研究所
3	松尾 智矢	立教大学	4	藤 生 惠	武庫川女子大学
4	鈴木 秀雄	関東学院大学	5	小田 昭一	立教大学
5	田中 俊夫	鶴岡学院	6	藤 生 惠	余暇問題研究所
6	松浦 三代子	東京女子体育大学	7	山崎 綾子	国際基督教大学
7	橋 嶋 寿	筑波大学	8	高 橋 伸	立教大学
8	藤 生 惠	東国女子大学	9	西 井 光	立教大学
9	橋 井 正昭	千葉大学	10	山崎 綾子	余暇問題研究所
10	荒 井 啓子	学習院女子大学	11	藤 生 惠	国際基督教大学
			12	片 岡 義	新潟県立物産総合センター
			13	山 崎 綾子	余暇問題研究所
			14	藤 生 惠	立教大学
			15	小 池 和幸	信州大学

横浜市ノーマライゼーション推進委員会(シンポジウム)

- 1 主 題: ノーマライゼーションの推進におけるレクリエーションの果たす役割
- 2 主 題: 社会福祉法人人間教育自立支援センター理事長、シドニーオリンピック日本選手団スタッフ、立教大学学長、特別レクリエーション推進員、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会
- 3 主 題: 特別レクリエーション推進員、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会
- 4 主 題: 特別レクリエーション推進員、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会
- 5 主 題: 特別レクリエーション推進員、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会
- 6 主 題: 特別レクリエーション推進員、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会
- 7 主 題: 特別レクリエーション推進員、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会
- 8 主 題: 特別レクリエーション推進員、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会
- 9 主 題: 特別レクリエーション推進員、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会
- 10 主 題: 特別レクリエーション推進員、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会、1998年アジア大会

平成13年度(2001年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第3回)議事録

日時：平成13年6月23日(月)18:30-20:00  
場所：立教大学池袋キャンパス5号館第2会議室  
出席者：鈴木(勉)、石井、鈴木(秀)、高橋、服部、藤原、西田、西野、松原、山崎、柳生、上村

会長挨拶

- 1. 総務事項
- 定足数の確認
- 前回の常任理事会(平成13年度第2回)議事録の確認
2. 報告事項
- 1) 年会費の納入状況について
- 2) 大学評議員会専門委員候補者の推薦について
3. その他

- 2. 第31回学大会の広告の依頼について
3. 第32回学大会開催の準備について
4. その他

平成13年度(2001年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第4回)議事録

日時：平成13年7月30日(月)17:30-18:30  
場所：立教大学池袋キャンパス5号館第2会議室  
出席者：鈴木(勉)、石井、鈴木(秀)、高橋、服部、坂口、西田、西野、松原、松尾

会長挨拶

- 1. 総務事項
- 定足数の確認
- 前回の常任理事会(平成13年度第3回)議事録の確認
2. 報告事項
- 1) 年会費の納入状況について
- 2) 第31回学大会の開催について
- 3) 「レジャー・レクリエーション」誌の発行について
- 4) 機関紙「レジャー・レクリエーション」研究の進捗状況について
- 5) 第32回学大会開催の準備について

- 5) 学会発表の申し込み状況について
6) その他

平成13年度(2001年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第5回)議事録

日時：平成13年9月17日(月)18:30-20:00  
場所：立教大学池袋キャンパス5号館第2会議室  
出席者：鈴木(勉)、鈴木(秀)、高橋、服部、坂口、西田、西野、松原、松尾

会長挨拶

- 1. 総務事項
- 定足数の確認
- 前回の常任理事会(平成13年度第4回)議事録の確認
2. 報告事項
- 1) 学会「機関紙」第45号の発刊状況について
- 2) 第32回学大会の開催について
- 3) 第33回学大会の開催について

事務局からのお知らせ
1. バックナンバー(「あゆみ」を含む)の実費販売を行っています。
2. 会員の皆様のお知らせについてレジャー・レクリエーション学会に心のある方は事務局へご連絡ください。

学会ニュース
MARCH 2002
No. 72
さらなる充実学会を目指して

編集委員会からのお知らせ
「レジャー・レクリエーション」研究 投稿募集について
投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最遅でも2ヶ月程度の時間を要する点をご考慮して、投稿してください。

高橋和敏
本学会は、創設以来著実に歴史を刻み、レジャー・レクリエーションに関して日本では唯一の学会としての力を付けてきました。これは会員一人一人の地道な努力と学会への大きな貢献の賜だと思います。しかし社会は高橋転変。変わる社会状況に対してダイナミックに対応しながら、新しい時代に向かってチャレンジする勇氣が必要です。次にこの力を起こしましょう。

会員の動静
●新入会員 (所属)
●平成13年度 退会者
長川 武

JSLRSニュース10
1. 学会副会長挨拶 (高橋和敏)
2. 第32回学大会開催案内
3. 第33回学大会開催案内
4. 第31回学大会報告
5. 常任理事会・理事会の報告



平成13年度(2001年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第7回) 議事録

■日時:平成13年11月19日  
午後7時15分~7時45分  
■場所:立教大学池袋キャンパス12号館  
第3会議室  
出席者:鈴木(祐)、高橋、石井、鈴木(秀)、荒井、坂口、嵯峨、西山、西野、松浦、松尾、阿部、油井、山崎、沼澤(理事)

会長挨拶

I. 確認事項  
前回(平成13年度第6回、10月29日(月))の議事録確認  
→第1回太平洋レジャー教育会を第1回東太平洋レジャー教育会に訂正

II. 報告事項

1) 会長・副会長・監事候補者選定について  
一般補者選定委員委員長の鈴木秀雄学  
会常任理事より、会長・副会長・監事候補者選定の進捗を行い  
会長 松田道雄  
副会長 油井正昭 鈴木秀雄  
監事 寺島晋一 水嶋正信  
以上のような結果になったことが報告された。

2) 第31回学会大会について

平成13年12月1日(土)、2日(日)  
千葉大学国際学部で第31回学会大会が行われる。現在(11月19日)までは学会大会参加費の振込みが90名あり、例年の傾向から110~120名の参加者になるのではないかと見込みであることが事務局から報告された。主な日程は以下の通り。  
12月1日(土)  
11:00~12:00 理事会  
13:15~14:15 基調講演  
14:30~17:00 シンポジウム  
17:15~19:00 懇親会  
12月2日(日)  
9:00~11:40 研究発表  
13:00~13:00 校内エクスカーション(植物見学)  
13:00~14:00 総会  
14:20~17:20 研究発表

3) 学会誌学会大会の進捗状況について  
一学会発表の抄録をまとめた大会号発表表取り消しなどがあられているが、11月21日には発送予定であることが報告された。

4) 第32回学会大会について  
一開催費である大分大学から第32回学会大会を2002年11月23日(土)~24日(日)に行う実施案が出されたことが事務局から報告された。この日程について何人かの理事から秋入試と重なる大学が多いのではないかと意見が出され、今後検討していくことになった。

III. 審議事項

1) 新入会員について  
吉原さち夫 東海大学大学院  
森 知香 株式会社モンベル  
以上2名の入会が承認された。

IV. その他

1) 次回(平成13年12月1日(土))の日時:  
11:00~12:00  
場所:千葉大学国際学部(松戸キャンパス)第2演習室  
947(308)8882(油井研究室)

平成13年度(2001年)  
日本レジャー・レクリエーション学会  
総大会(第2回) 議事録

■日時:平成13年11月19日(月)  
午後7時45分~8時30分  
■場所:立教大学池袋キャンパス12号館  
第4会議室

出席者:鈴木(祐)、高橋、石井、鈴木(秀)、荒井、坂口、嵯峨、西山、西野、松浦、松尾、阿部、油井、山崎、沼澤(理事)

会長挨拶

I. 確認事項  
前回(平成13年度第6回、10月29日(月))の議事録確認  
→第1回太平洋レジャー教育会を第1回東太平洋レジャー教育会に訂正

II. 報告事項

1) 会長・副会長・監事候補者選定について

一般補者選定委員委員長の鈴木秀雄学  
会副会長より、会長・副会長・監事候補者選定の進捗を行い  
会長 松田道雄  
副会長 油井正昭 鈴木秀雄  
監事 寺島晋一 水嶋正信  
以上のような結果になったことが報告された。

2) 第31回学会大会について

平成13年12月1日(土)、2日(日)  
千葉大学国際学部で第31回学会大会が行われる。現在(11月19日)までに学会大会参加費の振込みが90名あり、例年の傾向から110~120名の参加者になるのではないかと見込みであることが事務局から報告された。主な日程は以下の通り。  
12月1日(土)  
11:00~12:00 理事会  
13:15~14:15 基調講演  
14:30~17:00 シンポジウム  
17:15~19:00 懇親会  
12月2日(日)  
9:00~11:40 研究発表  
12:30~13:00 校内エクスカーション(植物見学)  
13:00~14:00 総会  
14:20~17:20 研究発表

3) 学会誌(学会大会)の進捗状況について  
一学会発表の抄録をまとめた大会号は発表取り消しなどがあられているが、11月21日には発送予定であることが報告された。

4) 第32回学会大会について

一開催費である大分大学から第32回学会大会を2002年11月23日(土)~24日(日)の両日ではどうかという実施案が出されたことが事務局から報告された。この日程について何人かの理事から秋入試と重なる大学が多いのではないかと意見が出され、今後検討していくことになった。

III. 審議事項

1) 支部の活動および会員サービスの向上について  
研究会が東京を中心に行われているが全国を網羅すべき学会であるため、支部活動を充実して行くために何らかの対応が必要ではないかと意見が出され、今後の現状では支部活動に関しては学会側

の定でなく、各支部が必ずあるという意見が出された。さらに会員のサービスの向上に関してホームページの立ち上げや学会大会や研究会の開催時期や場所の検討を含めサービスの向上の必要性が議論された。

2) 新入会員について

吉原さち夫 東海大学大学院  
森 知香 株式会社モンベル  
以上2名の入会が承認された。

IV. その他

1) 次回(平成13年12月1日(土))の日時:  
11:00~12:00  
場所:千葉大学国際学部(松戸キャンパス)第2演習室  
947(308)8882(油井研究室)

平成13年度(2001年)  
日本レジャー・レクリエーション学会  
総会 議事録

■日時:平成13年12月2日(日) 13:00~18:00  
■場所:千葉大学国際学部 合同演習室  
出席者:学会会員  
次席 学会会長挨拶  
議長選出 小野寺浩三

議事録署名人選出 上野紀雄 横内増典

議題  
① 第1号議案 平成12年度事業報告  
平成12年度事業報告が承認された  
② 第2号議案 平成12年度収支決算  
平成12年度収支決算が承認された

監査報告 水嶋正信監事より会計監査報告があった

③ 第3号議案 平成13年度事業計画(案)  
平成13年度事業計画(案)が承認された  
④ 第4号議案 平成13年度予算(案)  
平成13年度予算(案)が承認された  
⑤ その他  
役員選挙結果及び理事の互選に伴う新役員報告  
役員選挙結果及び理事の互選に伴う新役員報告があった  
⑥ 第32回大会開催について

会場:大分大学  
期日:平成14年11月23日~24日  
以上の学会開催内容及び日程が承認された

平成13年度(2001年)  
日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第8回) 議事録

■日時:平成14年1月28日(月) 午後6時~7時  
■場所:立教大学池袋キャンパスセントポールズ  
会館2階

出席者:鈴木(祐)、石井、鈴木(秀)、松田、油井、荒井、坂口、西山、松浦、松尾、山崎、沼澤

会長挨拶

I. 確認事項  
1) 前回の常任理事会(平成13年度第7回、11月19日(土))の議事録確認  
2) 平成13年度(平成13年12月2日(日))総会議事録の確認

II. 報告事項

1) 第31回学会大会開催の進捗事項  
① 参加費数 一油井副会長より  
大会両日を過ぎ約110名の参加者数があったことが報告された。  
② 大会開催費のお礼 一坂口理事より  
大会翌日に開催費である千葉大学国際学部学部長宛に、本学会会長名で礼状をいたしましたことが報告された。  
③ 大会号の広告掲載に対するお礼 一坂口理事より  
協賛各社に対して大会号と礼状を送ったことが報告された。  
④ 大会決算報告一油井副会長より  
I) 収支  
● 総収入 847,000円  
 学費収入 628,000円  
 雑収入 219,000円  
● 総支出 827,878円  
 印刷費 100,000円  
 雑費 727,878円  
● 残金 219,124円  
よって、残金を学会に返納した。  
II) 理事会当日の昼食代を取り扱い  
理事22名の出席があり、当日

の昼食代は事務局より別途支払われた。  
III) 基調講演・シンポジウムのテープ  
基調講演・シンポジウムについてはテープ起こしを行ない、機関誌への掲載を考えていることが報告された。

III. その他

1) 第31回学会大会の開催にあたり一鈴木副会長より  
日本レジャー・レクリエーション学会大会(第32回)が大分で開催されるにあたり、大分大学では協力をおこなないという申し出があった。学会としてはタイムル・テーマなど決定した上で、早め各方面にお願いをすることが望ましいこと。また、大分大学を中心として進めていくことになるが、他方面からの協力も得られるように考えていくことが報告された。  
2) 日本学術会議体育学・スポーツ科学分科会研究団体における研究題目について一鈴木副会長より  
平成13年9月上旬、提議の件について文部科学省が提出された。それに対して平成13年9月下旬、日本学術会議体育学・スポーツ科学研究連合会より日本学術会議に対し、修正要求書が提出された。平成14年1月、日本学術会議より修正案が提出された。体育学・スポーツ科学研究連合会より各研究団体に対して修正要求書が提出された。それに対して本学会としてこの修正案を承認し、その旨を委員長に伝えた。承認した修正案(提議)は、以下の通りである。分野【総合領域】 分科【健康・スポーツ科学】 題目【応用健康科学】 キーワード【レジャー・レクリエーション】  
3) 学会誌 一坂口理事より  
第47号の学会誌は、第30回学会大会の井上ひさし氏演説のテープ起こしを完了していること。次号にシンポジウムとともに掲載を予定していることが報告された。  
4) 第3回研究例会企画報告一坂口理事より  
平成13年12月15日(土)に実施された第3回研究例会「江戸・東京の「遊び」を体験する」について、参加者16名に実施

された。  
5) 平成13年度セラピューティックレクリエーション専門分科会(第2回)研究会 一鈴木副会長より  
平成13年12月3日(日)に第2回セラピューティックレクリエーション専門分科会が参加者27名にて実施された。できれば今年度内にもう1回の開催をしたいとの希望がある。高齢者などように思うかあるいはどのようにソフトを開発するかを考えていきたいと報告された。

6) 学会ニュース 一西田常任理事より

学会ニュース72号を3月上旬に発売。第31回学会大会、新編収の報告、第32回学会大会の案内等を掲載する。

7) 会員の動向一坂口理事より

① 退会希望者 11名  
② 入会希望者 京都ノートルダム女子大学附属図書館 推薦者:坂口正志 退会希望者、入会希望者が承認された。

「江戸・東京の「遊び」を体験する」  
(第3回研究例会一平成13年12月15日一)に参加して  
和光大学 服部 百合子  
東京に生まれ育ったものでも、「下町」を訪れると、いわゆる「東京人」が知らない成熟した遊び文化の気配にわくわくしてしまう。今回の研究例会に参加して、改めてそのことを実感した。  
スケジュールは、向島百花園に集合。東京農大の服部先生にレクチャーを受けながら百花園を見学。百花園から白鷺神社へ、長命寺で早餅のおやつ、三田神社、牛嶋神社から芸術橋を渡って浅草へ、昼食後浅草橋から上野公園を散策し、両国客の寺で再び芸術橋を渡って浅草へ来た。散策の件について、推薦者から「浅草橋を渡ると、浅草の文化の一端を知ることができる」という話を聞いた。浅草橋を渡ると、浅草の文化の一端を知ることができる。浅草橋を渡ると、浅草の文化の一端を知ることができる。  
推薦者は持参の庭園。百花園は富永町人の庭園。建設あるいは経営の主体の身分階級は異なり、規模もまったく違うけれども、共通するのはゆとりとした時間の流れとともに育まれたらう遊びの精神である。とりわけふかされたのは規模としてはじじいまりとした百花園だった。立派な枝がのび、風情、水を引き込んだ池泉、精緻など、スケールの大きな庭園とは比べるべくもない。庭園に風情と並んで盛りだごったへびうやほほほほほ、酒席を感じさせるし、喜やつわぶき、やぶがきなどの山歩きをさげらげに配した植栽は、特で酒飲めを感ぜさせた。  
それにしても、百花園の最寄り駅「東向島」の改称などは……、「誘の風気との声の中に」一抜のぬいを見た「園楽調」の世界もまた、江戸からかつての東京に遡る遊び文化の一面面をなすものとして、この日の経験を整理してみたい。

会員の皆様へ  
新年度(2002年度)会費納入のお願い  
2002年度会費を別添派込用紙にてお振込下さい。



編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最長でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。

投稿論文送付先 〒352-8558 埼玉県新都市北野1-2の26 立教大学 武蔵野新座キャンパス コミュニティ福祉学部 応用研究室内 「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

事務局からのお知らせ

1. バックナンバー(『歩み』を含む)の実売価額を定めています。特に新入会員におすすしします。

①『歩み』32号の値段

1冊¥2,000 (送料¥350) ※紙報済み ②『歩み』を除くその他の研究誌は、1冊¥1,000→¥900になります。(送料別)

2. 会員の皆様のお知らせでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご連絡ください。

〔申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年度会費(¥9,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。〕

3. 平成13年度の年会費(¥9,000)を納めていない会員がいましたら、至急納入手続きをお願いします。

郵便振替番号 00150-3-602353

会員の動静

●新入会員 (所属) ○学位 学歴(学歴) 専攻科

- ◎大河 亮 平成福祉教育専門学校
◎原原 雅博 千葉大学大学院
藤森 知香 駒工メンベル
沼宮さちえ 東海大学大学院生
東京都ノートルダム女子大学附属図書館

●平成13年度 退会者

- 桑井 利男 加藤 正史
倉倉 千絵 藤辺 清
西尾 亮造 増山 剛子
渡川 一枝 貴山 清英
吉村 正 藤村紀代子
浦田 憲二

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

Japan Society of Leisure and Recreation Studies
発行人 坂口 正祐 編集 広瀬渉外委員会
事務局 〒352-8558 埼玉県新都市北野1-2-26
立教大学 武蔵野新座キャンパス
コミュニティ福祉学部 応用研究室内
電話 FAX 048-471-1345
郵便番号 00150-3-602353

AUGUST 2002 No. 73

鈴木祐一先生からのアドバイス

日本レジャー・レクリエーション学会 会長 松田 雅幸

かつて、私たちの学会がちょっとした手続きミスで、日本学術会議から離れたことがあります。もう一度ゼロから始めなければならなかったのです。学術学会にふさわしい研究交流と教育交流の実績をつつて、再び申請しようということになったのです。

引き継ぐにあたり、先生からいろいろアドバイスをいただきました。その中でまずより大切にすべきことは、学会員の期待に応えることのできる学術的・研究交流、教育交流の活動を活発にすることだ、そのために学会の役員と事務局スタッフに汗をかいて欲しいということでした。

JSLRSニュース 10

- 1. 学会会長挨拶 ..... P. 1
2. 総務部大会について(次分大) ..... P. 2
3. 野原雅博の「レジャー」観 ..... P. 3
4. 平成13年度事業報告(案) ..... P. 5
5. 平成13年度決算報告(案) ..... P. 5
6. 平成14年度事業計画(案) ..... P. 6
7. 平成14年度予算(案) ..... P. 6
8. 常任理事会・理事会報告 ..... P. 7
9. 事務局のお知らせ ..... P. 13
10. 会員の動静 ..... P. 13

(大分大学 2002年11月23日・24日) 第32回学会大会

第32回学会大会のご案内

■日程 平成14年11月23日(日)~11月24日(月)
■会場 大分大学
大分大学位置図



●交通アクセス

大分(大分) 大分駅(大分駅)から
大分(大分) 大分駅(大分駅)から
大分(大分) 大分駅(大分駅)から
大分(大分) 大分駅(大分駅)から

研究発表の申込みを延長しました。

- 1. 研究発表申し込みの方法
2. 申し込み先(学会事務局)
〒352-8558 埼玉県新都市北野1-2-26 立教大学 武蔵野新座キャンパス
コミュニティ福祉学部 応用研究室内 日本レジャー・レクリエーション学会事務局

第32回学会大会の発表録用紙類は随時発表者に送付させていただきますのでご準備よろしく申し上げます。尚、原稿のメットは10月1日(火)までといたします。

第32回学会大会「ワークショップ企画」のお知らせ

ワークショップ全体コーディネーター 鈴木 秀雄

第32回学会大会(会場:大分大学)では、研究交流および教育交流の活動を活発にする試みとして、初めて学会開催時に、ワークショップを開催することになりました。今年大会では以下の3つのワークショップが企画されました:

セラピューティックレクリエーション

コーディネーター 鈴木秀雄 (関東学院大学人間発達学教授)
書籍・造園・環境系
コーディネーター 廣生 重 (東京農業大学教授)
レジャー・レクリエーション産業
コーディネーター 嶋崎 寿 (筑波大学助教授)

初日(11月23日)の基調講演(13:10~14:00)、シンポジウム(14:10~15:30)に引き続き、ワークショップ(15:45~17:45)が開催されます。このワークショップは、3つのグループに分かれ、それぞれのワークショップが同時並行で2時間行なわれて実施されます。

ワークショップ「セラピューティックレクリエーション」

- テーマ:『それぞれの専門領域からスポーツをどう捉えるか』
開催 旨:
医療の領域であるリハビリテーションと自費的・自主的な高質としての領域に位置するスポーツとの間にどのような形態でセラピューティックレクリエーションが位置しているのか?
また、リハビリテーションとスポーツとの連携、セラピューティックレクリエーションとスポーツとの連携はどのように理解すべきかを提示したい。この座談により、それぞれの領域の本質的な外延と内包の範囲について論議する機会を提供したい。
15:45~16:15 (30分)
議題提供:『整形外科医が見るリハビリテーションとスポーツ』
医療法人 恵愛会 大分中村病院院長 中村太郎
16:15~16:45 (30分)
議題提供:『レジャー・レクリエーションの研究者・専門家が見えるセラピューティックレクリエーションとスポーツ』
関東学院大学人間発達学教授 鈴木秀雄
16:45~17:15 (30分)
座 談: 中村太郎 鈴木秀雄
17:15~17:45 (30分)
意見交換: フロアートの質疑応答

ワークショップ 《景観・造園・環境系》  
テーマ：『地域のアウトドア・レクリエーションと資源空間の管理』  
コーディネーター：麻生 東（東京農業大学地域環境科学部教授）

新しい国土総合計画において「多自然住（田園居住）」「ガーデンアイランド構想」が提唱されるなど、21世紀を迎えて国土（地方、地域）に対する国民の意識やそこでのライフスタイルが大きく変わろうとしている。地域が保有する美しい景観や自然環境、歴史的遺産などに囲まれて、心豊かに生活するという新しいライフスタイルが志向されてきたといえる。一方で、第一次産業の衰退などにより、自然環境を中心とする対象空間の状況も著しく変化しつつあり、その管理問題が顕在化するようになった。また、それらを市民（ユーザー）自身がボランティア活動などで管理を行うという動きも見られるようになった。

そこで、大分県あるいは大分県という空間を意識しながら、地域資源としてのレクリエーション空間の状況（問題点や課題）を点検すると同時に、新しいライフスタイルの中でレクリエーションを満した空間と人との関わりやこれからの方向性、レクリエーション資源空間研究の進展について議論してみたい。

ワークショップ 《レジャー・レクリエーション産業》  
テーマ：『ワールドカップを機軸とする』  
コーディネーター：嵯峨 寿（京滋大大学助教授）

余暇時間の増大が確保されつつある現在、健康主義、QOL志向、レジャー中心の生活、コミュニティ化や人的交流などを求めて、レジャー・レクリエーションへの関心は、この不況下にあっても依然高い。また先のサッカーワールドカップは、これまであまりサッカーというスポーツに関心なかった人々にもたくさん観戦を促し、開催地・キャンプ地のみならず、周辺の人々を惹きつけた。人々自身の余暇活動としてスタジアムやテレビのメディアで世界最高のプレイを目の当たりにし、そのすばらしさを感服した。→→月という期間であったが、若者男女を問わず多くの人が感服した身体性とゆたかなサッカー文化に関心を寄せ、注目したことは事実である。本来、レジャー・レクリエーションは我々の生活をより豊かに、よりよく生きることに寄与すべきものである。スポーツもその任を果したに相応しいものでなくてはならない。しかし、日本においてはスポーツイベントが経済マーケットになり得て、一過性の現象で市民文化として定着していないという現実を考えると、我が国におけるスポーツの文化としての成熟度は低いとわらざるを得ない。これからの社会が経済中心の社会から文化中心のものに移行していくことを考えれば、スポーツの文化性を確認する意義は高く、その試みとしてワールドカップにレジャー・レクリエーションとしてのスポーツの本質を見極めることは、現代社会が持つスポーツの文化性を知るよい機会でもある。

そこで本ワークショップでは、レジャー・レクリエーションの視点からワールドカップを捉え、文化としてのスポーツが醸成していくための土壌はどのようなものかを明らかにしていきたい。そのことはこれまでのワーク中心の社会に対してレジャーの意義を再考させる一つのモデルにもなり得るのではないかと考える。

総会・会議 審議概要報告  
日本レジャー・レクリエーション学会  
平成13年度 事業報告（第）

- I. 事業  
1) 第31回学会大会開催  
期日：平成13年12月1日（土）・2日（日）  
場所：千歳大学図書館（松戸校舎）  
2) 機関誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行  
第45号、第48号（大会号）  
3) 『学会ニュース』No.70、No.71、No.72の発行  
4) 編集の拡充および啓蒙の充実  
5) 学術団体交流  
6) 定例研究会の開催  
7) 第32回学会大会開催準備  
8) その他（学会の目的に関わる事項）  
II. 会議  
1) 学会総会の開催  
2) 理事会の開催  
3) 常任理事会の開催  
4) 各専門委員会の開催  
5) その他（学会の目的に関わる事項）

平成13年度決算報告書

日本レジャー・レクリエーション学会 平成13年4月1日～平成14年3月31日  
（単位：円）

科目	予算	決算	増減	備 考
前年度繰越金	2,251,087	2,251,087	0	
年度会費	4,000,000	2,664,000	1,336,000	8,000×50名（新入会員24名を含む）
運営費	240,000	48,000	192,000	8,000×6名
入会金	80,000	48,000	32,000	2,000×24名
年会費	22,000	0	22,000	
出版物	300,000	200,000	100,000	
預金利息	1,000	0	1,000	
雑収入	125,333	454,041	-328,708	第31回学会大会（千歳大）より218,124円 学会誌等
合 計	7,000,000	5,789,108	1,210,892	
支 出 の 部				
印刷費	4,200,000	2,780,100	1,419,900	学会ニュース(70-71-72号) 学会誌(46-48号)、長3・角3封筒等
通信費	800,000	573,080	226,920	学会ニュース(3回)、学会誌(2回)、会議通知等
事務用品費	70,000	13,950	56,050	文具、コピー用紙等
事務経費	400,000	270,000	130,000	交通費・アルバイト代等
各専門委員会費	500,000	63,225	436,775	各専門委員会費
運営管理費	250,000	244,500	5,500	運営用印刷品・発送費
内外学術団体交流費	100,000	68,470	34,530	関係学術団体合併
会議費	200,000	157,540	42,460	理事会・常任理事会会議費
大会補助費	200,000	200,000	-	第31回学会大会（千歳大）へ
予備費	280,000	0	280,000	
次年度繰越金	0	1,459,814	-1,459,814	
合 計	7,000,000	6,789,108	-2,120,892	

監算の結果、決算報告は適正であると認めらる。

総収入：5,789,108  
経支出：4,328,294  
高 高：1,459,814  
監事 小畑 誠一  
監事 北島 正徳

平成14年4月11日

総会・会議 審議概要報告(つづき)  
日本レジャー・レクリエーション学会 平成14年度 事業計画（第）

- I. 事業  
1) 第32回学会大会開催  
期日：平成14年11月23日（土）・24日（日） 場所：大分大学  
2) 機関誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行  
第47号、第48号、第49号（大会号）、第50号  
3) 『学会ニュース』No.73、No.74、No.75の発行  
4) 編集の拡充および啓蒙の充実  
5) 学術団体交流  
6) 定例研究会の開催  
7) 第33回学会大会開催準備  
8) その他（学会の目的に関わる事項）  
II. 会議  
1) 学会総会の開催  
2) 理事会の開催  
3) 常任理事会の開催  
4) 各専門委員会の開催  
5) その他（学会の目的に関わる事項）

日本レジャー・レクリエーション学会  
平成14年度 決算報告書

平成14年4月1日～平成15年3月31日（単位：円）

科目	本年度予算	前年度実績	増減	備 考
前年度繰越金	1,459,814	2,251,087	-791,273	
年度会費	4,000,000	4,000,000	0	8,000×500名
運営費	240,000	240,000	0	8,000×30名
入会金	80,000	80,000	0	2,000×40名
年会費	22,000	0	22,000	7,000×1円（7名含む）
出版物	300,000	300,000	0	
預金利息	1,000	0	1,000	
雑収入	418,166	125,333	292,833	学会誌等
合 計	5,500,000	7,000,000	-1,500,000	
支 出 の 部				
印刷費	4,200,000	4,200,000	0	学会ニュース(73-74-75号) 学会誌(49-50号)、長3・角3封筒等
通信費	800,000	800,000	0	学会ニュース、学会誌、会議通知等
事務用品費	70,000	70,000	0	文具、コピー用紙、トナー等
事務経費	350,000	400,000	-50,000	交通費・アルバイト代等
各専門委員会費	500,000	500,000	0	各専門委員会費
運営管理費	0	250,000	-250,000	運営用印刷品・発送費
内外学術団体交流費	100,000	100,000	0	関係学術団体合併
会議費	200,000	200,000	0	理事会・常任理事会会議費
大会補助費	200,000	200,000	0	第32回学会大会（大分大）
予備費	280,000	280,000	0	
合 計	5,500,000	7,000,000	-1,500,000	

平成13年度(2001年)  
日本レジャー・レクリエーション学会  
理事會（第3回）議事録

日 時：平成13年12月1日（土）  
午 前11時～12時  
場 所：千歳大学図書館（松戸キャンパス）  
第2演習室  
出席者：鈴木（祐）、秋吉、石井、鈴木（実）、高橋（和）、松田、曲井、麻生、荒井、嵯峨、西田、西野、松浦、松尾、藤岡、山崎、高橋（伸）、茅野、鈴木（薫）、水嶋  
会長挨拶  
後12時30分より校内エクスカッション（植物見学会）を行う予定。  
また校舎は公開講座・集中講義・研究会で使用されており、持ち物は注意していただきたい。  
3) 学会誌（大会号）の発送  
→坂口理事長  
第48号学会大会号がお手元に届いたと思われる。期限を過ぎて発表の取り消しがあり、入稿が遅れたため、大会号の発送が遅れた。  
第45号は、近々お手元に届く予定。  
4) 広告の協力  
→坂口理事長  
大会号には6社から広告の協力があり、この大会終了後、礼状、大会号を送ることとした。  
5) 会費納入状況  
→坂口理事長  
現在153名が会費納入をしている。ニュースなどで督促しているがあまり増えない状況。  
6) その他  
→西田常任理事より  
本日の大会参加について、業書での返信203名、参加者が述べ123名。親睦会には32名の出席となっている。また研究発表に際してOPP、プロジェクト使用の確認をしている。

I. 確認事項

- 1) 定款確認  
2) 前回理事会（第2回）の議事録確認  
III 審議事項 2) の内容訂正 新入会員推薦 松永尚樹→水嶋昌高

II. 報告事項

- 1) 第31回学会大会の準備状況  
→抽井副会長より  
2) 第31回学会大会シンポジウム準備状況について  
→抽井副会長より、204号教室～休憩室  
205号室～A会場 206号室～B会場 合同協議室～基調講演・シンポジウム会場として今日・明日と使用できる。明日は204号室に隣接も用意する。  
・この後12時より進士先生をはじめシンポジストの方々と昼食をとりながら打ち合わせをする。午後1時より会長の挨拶で閉会の予定。その後は基調講演・シンポジウムを実施。詳しい内容についてはグリーン色表紙の配布物にある。また明日は午

III. 審議事項

- 1) 第31回学会大会総会  
→坂口理事長、西田常任理事より  
別途資料が送られ、総会の議事録等について確認・承認された。  
2) 第32回学会大会の日程について  
→坂口理事長より

会場：大分大学 期日：平成14年11月23日(土)・24日(日)

3) その他

1) 支部活動について
一秋吉副会長より 理事会で支部活動が新顔になっていく。我々の力が足りないと思いが東京が中心になっている。もう一度この学会が全国的な組織であるのを見直してほしい。たとえば、理事会の開催が月曜日となると、地方からはなかなか出席しにくい。また、学会大会が地方で開催されると関東からの出席者が少ない。

一幹木副会長より 支部について、新しい規約では支部は整理された形になっており、また、支部から役員を選ぶことになっていない。そのへんの流れを整理してから、支部についてや会員の活性化について話していくことが大事であると思う。

一師岡常任理事より 規約の第6章では、支部は置けるようになっており置くということになっていない。

(2) 会員増強について
一西田常任理事より 皆様の周りの方でレジャー・レクリエーションに興味のある方に積極的に声を掛けてほしい。

一池井副会長より 今日、受付に学会の入会案内を置いて呼び掛けてほしい。以上

平成13年度(2001年)
日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第9回)議事録

■日時：平成14年3月4日(月)
午後6時30分～8時
■場所：立教大学池袋キャンパス12号館
第4会議室

出席者：幹木(祐)、石井、幹木(秀)、高橋、松田、藤生、寛井、坂口、壁橋、西田、松尾、松浦、山崎

会長挨拶

I. 確認事項
1) 前回常任理事会(第8回)の議事録の確認

II. 報告事項
1) 平成13年度会費納入状況
一坂口理事より
3月4日現在で316名、例年に比べると連絡をしているのだが納入状況が良くない。昨年度は同じ時期で500名程度であった。

一研究社、ニュースレターなどを年度内に発送する予定なので督促をしたい。

2) レジャー・レクリエーション研究第47号の進行状況について
一堀根常任理事より
第47号は3月末に発行予定。主な内容は原著論文(1編)、第30回学会大会の井上ひさし講演、シンポジウム、月例研究会の報告となる。

今後、学会大会の報告をまとめるにあたり、次の点を考慮してほしい。

・テーマおこしを急いでやってほしい。

・大会関係者の方にもある程度担当していただきたい。原稿を編集者に渡してほしい。

この点について坂口理事より学会事務局も努力すると表明があった。

3) 学会ニュースNo.72の進行状況について
一西田理事より
3月15日前後に発送予定。11項目の内容で第32回学会大会案内、第31回学会大会誌、2002年、2003年度新役員の見分等。

4) 学会のホームページについて
一松尾常任理事より
学会の規約、役員構成、入会申し込み等を掲載する作業に入っており今月中には出来ると予定で、4月中旬ぐらいには立ち上げる。

5) その他
① 各委員会からの今年度の振り廻り
一師岡常任理事より
選挙を無事終了することができた。

・各種専門委員会で作成を取り、プログラムを進行しているが予算があまり使用されていない。もっと利用してほしい。

・収入が少なくなっているなかで、運営費、事務用品費等の節約を行っている。

・会費の納入をきちんとしてもらうよう努力したい。

財源一担当の西野常任理事が欠席のため次回へ

研究企画一藤生常任理事より
第1回 5月19日(土)「多摩丘陵における市民による遊び空間(遊歩道ネットワーク)」
第2回 6月22日(金)「ボランティア

のレクリエーション」
第3回 12月15日(土)江戸・東京の「遊び」を体験する

今年度は当初4回の実施を予定していた。実際は3回の実施となった。結果的には良かったと思う。

空間を中心に実施してきたので、来年度は遊びを中心に考えていきたい。

一堀根常任理事より
定期的にレジャー・レクリエーション研究を出せない原因が次のように考えられ、改善していくことが求められる。

・事務との間で論文を発送で送っているためメタな時間がかかる。

・印刷会社とも交渉でやり取りしている。投稿が少ない

広報・渉外一西田常任理事より
ニュースは70号・71号と出し、72号も3月中旬には発送できる。

学会誌は45号・46号(大会号)・47号3月下旬発行予定となっている。

III 審議事項
1) 平成13年度会計(中間)報告について
一西田常任理事より
2月28日現在では収入が約5,040,000円、支出が約3,800,000円となり、約1,250,000円が繰越金となる予定。

詳しくは監査を終了してから4月には会計報告が出る。

問題としては、今年度の会費未納者が3月までに納入してくれるか心配している。

2) 理事長推薦理事について
一坂口理事より
・小野寺浩三(東北福祉大学)
・古城 健一(大分大学)
・幹木 重志 朝日本レクリエーション協会

・田中 伸彦(独立行政法人森林総合研究所)
・横内 靖典(城西大学)
以上5名の報告があった。以上

平成14年度(2002年)
日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第10回)議事録

■日時：平成14年4月22日(月)
午後6時00分～午後8時00分
■場所：立教大学池袋キャンパス5号館1階
第一会議室

出席者：松田、幹木(秀)、藤生、寛井、片桐、坂口、田中、西田、松浦、松尾、山崎、小塚、小野寺、高橋(祐)、横内、永島

会長挨拶

I. 確認事項
1) 前回(平成13年第3回)の議事録の確認

II. 報告事項について
1) 平成13年度会費納入状況
一坂口理事より
平成14年3月31日現在、会費納入者 351名
14年度になってからの13年度の納入者 23名

14年度の会費納入者 110名

2) レジャー・レクリエーション研究第47号について一田中理事より
特別講演の井上ひさし先生からの講演録も了承いただき印刷に入り、近々発送できる予定

3) 学会ニュースNo.72号の発送について
一坂口理事より
3月末に会費納入状況の最終チェックを行ない4月初旬に会員に届ける

4) 学会のホームページ開設について
一松尾常任理事より
アドレスを決定、学会の規約、役員構成等を掲載したい。次回の常任理事会で報告・検討していただき、学会ニュースで会員に報告したい。

会員からは学会誌の内容を掲載してほしいとの声が出ている。

5) その他
一坂口理事より
理事長推薦理事3名が承認された

・田中 伸彦 独立行政法人森林総合研究所
・小野寺浩三 東北福祉大学
・古城 健一 大分大学

III. 審議事項
1) 平成13年度事業報告(案)について
一坂口理事より
平成13年度事業報告(案)について、配布された資料をもとに確認され、審議の結果承認された。

2) 平成13年度決算報告(案)及び会計監査の報告について
一西田常任理事より
平成13年度決算報告(案)及び会計監査の報告について配布された資料をもとに説明があった。監査の永島監事からは適正に処理されているとの報告があり、さらに今後に向けて適切・有効に使用されるようとの要請があった。

3) 平成14年度事業計画(案)について
一坂口理事より
平成14年度事業計画(案)について配布された資料をもとに説明があった。学術団体交流については日本学術会議をはじめ学術学会との交流を継続していきたい

の意見が述べられた。

4) 平成14年度予算(案)について
一西田常任理事より
平成14年度予算(案)について配布された資料をもとに説明があった。会費納入について呼びかけを連絡に実施していくこと、銀行振込による納入を再度検討する必要性があるという意見が出された。

5) 第32回学会大会テーマについて
一坂口理事より
学会大会の担当者を決定したうえで第32回学会大会開催視、大分大学の意向などを反映して決定していく方向で進めていくことが提案された。

6) 選任を申し出た役員の数について
一松田会長より
高橋・石井副会長より次のような内容の手紙をいただいている。両氏とも、若い方々に活躍の場を広げたい、今後は会員として輪軸させていただきたいとの文面である。そこで両氏を顧問に推薦し、今まで閉鎖のサービースを受けていた。また秋吉副会長も同様に顧問に推薦する。幹木副会長は理事として残ります。

高橋・石井・秋吉の3氏には、会長より手紙を出すとのことであった。

7) 常任理事の人数について
一坂口理事より
会長・副会長・理事長の3役に一任することが承認された。

8) その他
(1) 会員の動向について
一坂口理事より
退会者 5名
入会希望者 高橋久穂 トハノ瀬野隆吉 加藤 肇 埼玉大学
鹿屋体育大学特別顧問

退会者、入会希望者が承認された

(2) 日本学術会議の登録について
日本学術会議第19期学術研究団体登録に際して理事役員の名簿の提出が必要となるので、役員カードに必要事項を記入のうえ4月30日(火)までに提出。5月をはじめに郵送する。以上

平成14年度(2002年)
日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第10回)議事録

■日時：平成14年5月27日(月)
午後6時30分～8時00分
■場所：立教大学池袋キャンパス12号館地下1階
第3会議室

出席者：松田、幹木(秀)、藤生、寛井、片桐、坂口、田中、西田、西野、沼沢、松浦、松尾、山崎、小塚

会長挨拶

I. 確認事項
1) 前回理事会(平成13年度第9回)の議事録の確認

II. 報告事項
1) 各専門委員会の構成メンバーについて
一坂口理事より
資料 専門委員会の構成(案)より報告された。さらに委員会を活性化するために、ご協力をしていただき先生方の紹介や地方の先生方にはメール等のご協力を考えていきたい。

2) 入会案内の作成準備状況について
一坂口理事より
役員変更(新役員)に伴い入会案内を

作成する。作成に伴い、入会案内を1000部作成し、理事を始め預金員にも配布し学会の宣伝に協力をお願いする。

・学会の新設員(2002年度～2003年度)の選出。

3) レジャー・レクリエーション研究第41号について
→田中常任理事より
平成14年度分の発行につき奥付を平成14年度3月31日とし会員に郵送した。

4) 会費納入状況について
→西田常任理事より
5月20日現在 207名が会費を納入。学会ニュースで再度督促の予定。
5) 日本学術会議団体登録について
→松尾常任理事より
5月20日に最終チェックを行ない、本日24日に登録にて郵送。

6) 日本レジャー・レクリエーション学会ホームページについて
→松尾常任理事より
学会のホームページを作成した。会員には次の学会ニュースで発表し、新しいニュースを会員に積極的に届ける予定。

7) その他
(1) 財務専門委員会について
→西野常任理事より
財務専門委員会の報告および今後についての要請があった。
要請については、理事長より今後の検討事項としたい旨回答があった。

Ⅲ. 審議事項

1) 第32回学会大会のテーマについて
→坂口理事長より
学会として方向性を検討し、権限の枠に

ついて大分大学と早急に連絡をとりたい旨要請された。討議の結果、次回の常任理事会で再度検討しテーマを決定することとなった。

2) その他

- (1) 会員の動向について
→坂口理事長より
退会者 春日光章 木吉光彦 以上2名
入会希望者 横山 誠
→大分レクリエーション協会
→肥後伊国商店 神戸営業部
南條正人 仙台大学大学院生
以上3名
退会者、入会希望者が承認された。

事務局からのお知らせ

- ◆学会ホームページが立ち上がりました!!
現在、学会の使命として学会員に対する情報サービスをいかに充実させていくかが重要な課題となっております。その一環として学会ホームページの立ち上げが急務でありました。立ち上げ及びメンテナンスに関して、業者に委託することが考えられますが、経費的な負担がかなり大きくなるのが予測され、その点が問題点として挙げられていました。しかしながら、その度、事務局のおかれている立教大学の関係者により、大学の情報システムを利用してホームページを立ち上げることが可能になりました。ここに立教大学に謝意を申し上げるとともに会員の皆様におかれましては、学会のホームページが立ち上がったのは是非一度見てみて下さい。今後、コンテンツの充実をはかっていきたいと思っております。ご意見等ございましたらご連絡までお寄せください。
◆日本レジャー・レクリエーション学会ホームページアドレス
http://www.rilkyo.ne.jp/or/jslrs/
◆2002年度の新しい入会案内が完成しました。
本学会活性化のため、新入会員をご紹介下さい。

編集委員会からのお知らせ

・「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について・

投稿は常時受付であります。また、研究論文 投稿論文送付先
の審査、修正作業には最速でも2ヶ月程度の時 〒852-8558 埼玉県新都市北野1の2の20
間を要する点を考慮して、投稿して下さい。 立教大学 武蔵野新産キャンパス
会員の皆様は積極的な投稿をお願いいたします。 コミュニティ福祉学部 松尾研究室内
「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

会員の動静

- 新入会員 (所属) ○新刊刊 今年初めての会誌掲載 ●平成14年度 退会者
派 (平成13年度) 山本孔一 愛媛女子短期大学 前田 健二
① (平成14年度) 高橋久雄 徳トーハン 小林 浩人
加藤 肇 埼玉薬立大学 横次 聖子
③ 鹿屋体育大学附属図書館 成瀬 久美
④ 横山 誠 大阪府レクリエーション協会 春日 章彦
⑤ 肥後伊国商店神戸営業部 木吉 光彦
⑥ 南條正人 仙台大学大学院生 本田 弘子
⑦ 阿部一彦 東北福祉大学 赤川 義英
⑧ 和久宗利 岡山学院短期大学 藤田 基行
⑨ 岡田千砂 坂ヶ丘病院 岸 正晴
⑩ 田中 光 東京リゾート&スポーツ専門学校 久保水 優

平成14年10月
学会ニュース 日本レジャー・レクリエーション学会
(OCTOBER 2002 No. 74)

失業者か、失業者か

会長 松田 義幸

1970年代の2度の石油危機の後に、大失業者の世界不況が起きてしまった。日本はこの不況を軽微短小の産業技術の革新で、四、五年後に脱出することができたが、現実には長い大失業者時代を迎えたのである。財政政策、金融政策、労働政策のいろいろ手を尽くしたが、効果をおぼろげであった。その時に社会科学者たちから、対応策として、時間予算配分政策の考え方が出されたのである。
アドラー・カールソンは、石油危機に起因して起きた失業問題を解決するには、労働時間を短縮し、自由時間を増大させ、それにより雇用機会をつくり出すワークシェアリングを提唱された。国単位の国民生活時間の縮減を提案したのである。現代人はすでに生存欲望を充足しており、それなのにまだ物の欲望を拡大し、それを充足する所得を得るために、労働にのめり込もうとしている。従来は経済学の考え方に従えば、働きたくても働かないことを、失業者のアンエンプティメントと表現したが、石油危機以後の不況は、現代人が自由時間を充実して生きる能力を身につけていないことに起因した失業者の問題なのではないか。つまり失業者のアンエンプティメント unemployment に陥っているから起きた不況だと、アルファベットのoをiに替えて、時間予算配分政策に関心を集めたのである。

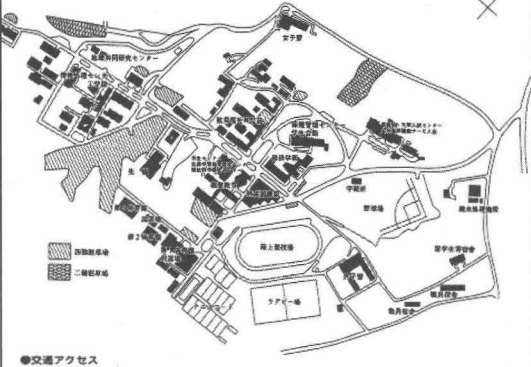
国民生活時間の縮減を、生涯生活時間のリニア型からリカレント型への縮減替えは、教育制度、労働制度の構造改革につながるわけで、学習社会の受け皿づくりが、失業問題と失業者問題を解決する方法だという夢のある政策を提案したのである。
この提案は実現せず今日に至っているが、日本が直面する経済不況に対して、この時間予算配分政策は十分、検討してみる価値があるのではないかと、国民はこの不況の中にあっても、物よりも心豊かさを重視・追求したいと考えており、学ぶ機会と働く機会と人生を楽しむ機会を、豊かに選択できる学習社会を期待しているからだ。ピンチはまさにチャンスなのだ。本学会も、日本の社会の構造改革に本質的な問題解決提案を提案していきたい。

JSLRSニュース9

- 1. 学会会長の挨拶 ..... P. 1
2. 第32回学会大会のご案内 ..... P. 2
3. 大会実行委員長(大分大学)挨拶 ..... P. 3
4. 第32回学会大会開催要項 ..... P. 4
5. 学会大会研究発表要録 ..... P. 6
6. 常任理事会報告 ..... P. 8
7. 事務局からのお知らせ ..... P. 10
8. 編集委員会からのお知らせ ..... P. 10
9. 会員の動静 ..... P. 10

第32回学会大会(大分大学 2002年11月23日・24日)

第32回学会大会のご案内
日程 平成14年11月23日(土)～11月24日(日)
会場 大分大学 〒870-1192 大分県大分市大分野原700番地
大分大学 学内図



●交通アクセス
バス利用
①大分駅南口から
②大分駅南口から
③大分駅南口から
④大分駅南口から
⑤大分駅南口から

理事会 平成14年11月23日(土) 11:00～12:00 会場 教養教育棟21号教室
総会 平成14年11月24日(日) 13:00～14:00 会場 教養教育棟2号講義室

**第32回学会大会 (大分大学 2002年11月23日・24日)**

	11月23日	11月24日	
1階	11時開会 12時開演 13時開演 14時開演 15時開演 16時開演 17時開演 18時開演 19時開演 20時開演 21時開演 22時開演 23時開演 24時開演	11時開会 12時開演 13時開演 14時開演 15時開演 16時開演 17時開演 18時開演 19時開演 20時開演 21時開演 22時開演 23時開演 24時開演	11時開会 12時開演 13時開演 14時開演 15時開演 16時開演 17時開演 18時開演 19時開演 20時開演 21時開演 22時開演 23時開演 24時開演

**2階**

	11月23日	11月24日	
1階	11時開会 12時開演 13時開演 14時開演 15時開演 16時開演 17時開演 18時開演 19時開演 20時開演 21時開演 22時開演 23時開演 24時開演	11時開会 12時開演 13時開演 14時開演 15時開演 16時開演 17時開演 18時開演 19時開演 20時開演 21時開演 22時開演 23時開演 24時開演	11時開会 12時開演 13時開演 14時開演 15時開演 16時開演 17時開演 18時開演 19時開演 20時開演 21時開演 22時開演 23時開演 24時開演

**たくさんきちよくれ大分へ**

第32回大会実行委員長 古城建一

11月の大分はなかなかにも驚き深いものがあります。九州の賑わい、久住のやまなみはまばらばらばらの紅葉期を迎えているはず。放浪の俳人、横田山園次は、大分の温泉をこよなく愛された方。毎年この時期には湯布院の奥座敷、鶴平(ゆのひら)温泉に長期滞在しておられたと聞いています。自然豊かな大分は、我々の親しい心をくぐらさず何かな不思議な力を持っているのかも。さて、去る10月30日には毎年恒例の「大分国際福祉科学祭」が開催されました。今ではすっかり秋の風物詩になっておりますが、この大会も大分の誇りの一つ。大会開催にあたっては関係者の大変なご努力と熱意がありました。「障害者スポーツの発信地は大分である」という自負も当然持っております。そういった土地柄でもございます。今回の学会大会では、「障害者スポーツ」について皆さんと一緒に考えさせていただくことにいたしました。

学会員2名という状態で、何と不行き届きがあるかと思いますが、本学学生ともども「おもてなしの心」でお迎えさせていただき存じます。皆様方のお越しを心よりお待ちしております。たくさんきちよくれ、大分へ!

**第32回学会大会 (大分大学 2002年11月23日・24日)**

**日本レジャー・レクリエーション学会  
第32回学会大会開催要項**

1. 主催  
日本レジャー・レクリエーション学会
2. 主管  
日本レジャー・レクリエーション学会第32回学会大会実行委員会
3. 期日  
平成14年11月23日(土)・24日(日)
4. 会場  
大分大学 (〒870-1192 大分県大分市旦野原700番地)
5. 日程

第一日目 11月23日(土)

11:00~12:00 理事会 (教養教育棟21号教室)  
 12:00~13:00 受付 (教養教育棟第一大講義室前)  
 13:00~13:10 開会挨拶  
 13:10~14:10 基調講演 (教養教育棟第二大講義室)  
 「障害者スポーツからのメッセージ  
 ～太陽の家37年の歩みを通して～」  
 吉永栄治氏 (社会福祉法人太陽の家事務局長)  
 シンポジウム (教養教育棟第二大講義室)  
 コーディネーター  
 古城建一氏 (大分大学教育福祉科学部教授)  
 シンポジスト  
 堀川裕二氏 (社会福祉法人太陽の家厚生部訓練課長)  
 麻生和江氏 (大分大学教育福祉科学部教授)  
 橋 祐二氏 (長崎国際大学人間科学部助教授)

14:15~15:35  
 15:45~17:45 ワークショップ  
 ①セラピューティック・レクリエーション (教養教育棟11号教室)  
 テーマ:「それぞれの専門領域からスポーツをどう捉えるか」  
 コーディネーター 鈴木秀雄氏 (関東学院大学人間環境学部教授)

【座談】  
 「整形外科医が見るリハビリテーションとスポーツ」  
 中村太郎氏 (医療法人 恵愛会 大分中村病院長)  
 「レジャー・レクリエーションの研究者・専門家が見るセラピューティックレクリエーションとスポーツ」  
 鈴木秀雄氏 (関東学院大学人間環境学部教授)

**第32回学会大会 (大分大学 2002年11月23日・24日)**

②景観・造園・環境 (教養教育棟12号教室)  
 テーマ:「地域のアウトドア・レクリエーションと資源空間の管理」  
 コーディネーター 麻生 忠氏 (東京農業大学教授)  
 「地域資源としてのレクリエーション空間の状況、その変化と課題」  
 田中 神彦氏 (独立行政法人森林総合研究所)  
 「地域の生活と地域住民によるレクリエーション資源・空間の管理」  
 栗田 和弥氏 (東京農業大学地域環境科学部講師)  
 「都市住民による二次自然の管理行動  
 ～阿蘇くじゅう国立公園における野焼き支援ボランティアの実践から～」  
 上野 裕治氏 (朝日ハイランドパーク)

③レジャー・レクリエーション産業 (教養教育棟23号教室)  
 テーマ:「世界杯の競球回遊-ビジネスとライフスタイルに新しい動向を探る」  
 コーディネーター 遊藤 勇氏 (筑波大学助教授)  
 話題提供者:石川 富治氏 (日本オリンピック委員会)  
 大塚潤一郎氏 (リベラルアーツ研究所)  
 柳澤 佳子氏 (湖南国際女子短期大学)  
 加藤 優氏 (埼玉国立大学) ほか

18:00~19:30 懇親会 (大分大学 生協2階)

第二日目 11月24日(日)

9:00~ 受付 (教養教育棟第一大講義室前)  
 10:00~10:40 研究発表 A会場 (教養教育棟11号教室)  
 B会場 (教養教育棟12号教室)  
 10:40~10:50 休憩 (教養教育棟22号教室)  
 10:50~11:50 研究発表 A会場・B会場  
 11:50~13:00 昼食  
 13:00~14:00 総会 (教養教育棟第二大講義室)  
 14:10~14:50 研究発表 A会場・B会場  
 14:50~15:00 休憩 (教養教育棟22号教室)  
 15:00~15:40 研究発表 A会場・B会場

**第32回学会大会 (大分大学 2002年11月23日・24日)**

**第32回学会大会研究発表・演題**

■ 研究発表 A会場 (教養教育棟11号教室)

<p>□ 座長: 金崎良三 (佐賀大学) 10:00~10:40                  A-01 話動員とレジャー意識                  ～小学生時代の野外活動経験の有無による比較～                  ○吉藤さち恵 (東海大学大学院生)                  西野 仁 (東海大学)</p> <p>A-02 中学生の「ゆとり」経験について②                  ～「ゆとり」感とそれを感じている経路に対する考え～                  ○西野 仁 (東海大学)</p> <p>質疑応答</p> <p>□ 座長: 西野 仁 (東海大学) 10:50~11:50                  A-03 都市部における余暇満足度の特性                  ○土屋 恵 (青森大学)                  鎌谷泰秀 (青森大学)</p> <p>A-04 余暇意識と生活充実感の構造研究                  ○米村惠子 (江戸川大学社会学部)</p> <p>A-05 レジャー・レクリエーションの教育と「学習の自由」                  ～自由のアリアを越えて～                  ○藤原百合子 (大分大学)</p> <p>質疑応答</p>	<p>□ 座長: 茅野史明 (武蔵川女子大学) 14:10~14:50                  A-06 スポーツ競技者の身体感覚とアイデンティティ                  ○大隈節子 (九州大学大学院)</p> <p>A-07 ニュースポーツの受容過程に関する研究⑤                  ～受容に伴う支援団体間の有組織連携の可能性～                  ○谷口勇一 (大分大学)</p> <p>質疑応答</p> <p>□ 座長: 山田力也 (西九州大学) 15:00~15:20                  A-08 幼児期の運動あそびの意識と役割                  ～体運動との関係からの考察～                  ○前橋 明 (倉敷市立短期大学)</p> <p>質疑応答</p>
--	--



第32回学会大会 (大分大学 2002年11月23日・24日)

■ 研究発表 B会場 (教養教育棟12号教室)

□ 座長: 藤 信 医一第3病室 10:00~10:40

B-01 長期療養型病棟におけるTRの実際  
○榎木康子 (東前病院)

B-02 長期療養型病棟におけるTRの記録・評価用紙の作成と発展  
○百間尚美 (東前病院)

質疑応答

□ 座長: 山崎博子 (赤松園研究) 10:50~11:50

B-03 老人病院におけるレクリエーションサービスとレクリエーションワーカーのスキルについての考慮  
~K老人病院におけるリハビリテーションとレクリエーションの取り組みより~  
○小池和幸 (仙台大)

B-04 慢性性老人専用デイサービスセンター利用者の承認欲求を高める個別援助技術に関する考察  
~福祉レクリエーション援助の視点より~  
○滝口 真 (九州大看護福祉学部)

B-05 老人ホームにおけるセラピューティックレクリエーションサービスの整備に関する考察  
~A特別養護老人ホームのケース~  
○茅野宏明 (東川女子大)

質疑応答

□ 座長: 田中伸彦 (独立行政法人森林総合研究所) 14:10~14:50

B-06 地質街景法による河原の草取草履に関する地域住民の認識構造についての研究  
○佐藤芳郎 (筑波大環境科学研究) 須藤伸子 (筑波大環境科学研究)

B-07 グリーン・ツーリズム運動と市民農園  
○小泉勇治郎 (松山東雲女子大)

質疑応答

□ 座長: 井上弘人 (熊本学園大) 15:00~15:40

B-08 「レクリエーション」に関するイメージの研究  
~とくに「遊び」の事例比較を中心に~  
○高橋 伸 (国領基督教大)

B-09 高齢者の余暇活動について  
~質的手法の試みによる高齢者の類型化とレクリエーション支援方法の確立に向けての事例研究4~  
○山崎博子 (赤松園研究) 上野 幸 (赤松園研究) 高橋和敏 (赤松園研究)

質疑応答

平成14年度(2002年)

日本レジャー・レクリエーション学会

常任理事会 (第2回) 議事録

日時: 平成14年6月24日 (月) 午後6時30分~8時30分  
場所: 立教大学池袋キャンパス12号館地下1階 第4会議室

出席者: 松田、鈴木(青)、森生、荒井、藤城、田中、西田、松尾、鈴木(亮)、小塚

会長挨拶

I. 議事事項  
1) 前回常任理事会 (平成14年度第1回) の議事録の確認

II. 報告事項

1) 入会案内について  
~取口理事長より  
・1000部を作成。コピーをして使用できるよう配属した。  
・今回の学会ニュース郵送時に入会案内も同封する。  
以上の報告があり、今後の新会員の勧誘・発掘に協力して頂きたい旨の演説があった。

2) 会費の納入状況について  
~取口理事長より  
・2002年6月10日現在、356名が納入済。  
学会ニュースで再啓発の予定。

III. 審議事項

1) 第32回学会大会 (秋、大分大学) のテーマについて  
~取口理事長より  
・原稿の件について大分大学 (古城先生) と連絡を取った。学会の高橋謙二、シンポジウムテーマとして「障害者の大分県・レクリエーション」(仮)が大分大学より提案された。

常任理事会での討議の結果、次の事項を問題視し検討された。  
・学会の主体性を出し、充実したシンポジウムの開催をする。  
・福祉などの他分野も関連させ、スポーツ・レジャー・レクリエーションをテーマとみては、

常任理事会で以下のような提案がなされ、再度大分大学に連絡を取り検討していただくようお願いをする。  
(1) 大分大学が提案した基調講演とシンポジウムを一体として、大会本部企画シンポジウムとして初日の午後開催してはどうか。  
(2) 上記(1)が終了した後、以下の三つのワークショップを試行的実施として開催する。

A会場 セラピューティック・レクリエーション  
B会場 景観・造園・環境  
C会場 レジャー・レクリエーション

・ワークショップは学会及び大会の充実を考え、今後は一層の組織・学際的な連携を促し、また他に幾つかのワークショップも作っていく、という方向性が示された。

・学会員が自主的にワークショップを立ち上げたい場合は、学会事務局へ申し出て、学会ニュース等でアウタウンスしてはどうか、との意見が出された。

・大会本部企画シンポジウムは討議の結果、基調講演者、パネリストを3名3つという提案がなされた。

・第32回学会大会では、「大会全体テーマ」は掲げないことが提案され、承認された。

・第32回学会大会誌広告料の確保について  
~取口理事長より  
・前年を参考にすることが確認された。

・学会会号は学会の研究誌の一種であることから、今後は大会号の広告掲載について検討が必要であるという意見が出された。

3) 第33回学会大会 (2005年開催) 会場校について  
~取口理事長より  
・東北福祉大学に学会として打診済みであり、承認された。

4) その他  
・会員の勧誘について  
~取口理事長より  
退会者 本田 弘子 以上2名 春日 隆英 以上2名

入会希望者 阿部 一彦 (東北福祉大) 以上2名 和久 実利 (鳳川学院短期大) 以上2名

以上の退会者、入会希望者が承認された。

・次回常任理事会の開催  
~取口理事長より  
・本回は「理事会 (第2回)」として以下の予定で開催。尚、その後に懇話会を開催することが承認された。

日時: 平成14年7月28日 (月) 18:00~19:00  
【懇話会 19:00~20:30迄】

場所: 立教大学池袋キャンパス・セントポールズ会館

平成14年度(2002年)

日本レジャー・レクリエーション学会

常任理事会 (第3回) 議事録

日時: 平成14年9月30日 (月) 18:30~20:30  
場所: 立教大学池袋キャンパス12号館地下1階 第4会議室

出席者: 松田、鈴木(青)、森生、荒井、坂口、藤城、下村、田中、松尾、松尾、山崎、鈴木(亮)、沼澤、小塚

会長挨拶

I. 議事事項  
1) 定款確認  
2) 前回常任理事会 (第2回) 議事録の確認  
3) その他  
~取口理事長より  
(1) 9月18日付で第19期日本学術会議会員として、本学会が承認された。

(2) 日本シミュレーション&ゲーム研究学会において、本学会の「各機後援」の期間について承認された。

(3) エコグリーンテック2003年度において本学会の「協賛」について承認された。

(4) 第日本スポーツクラブ協会、第4回スポーツクラブセミナーに対する本学会の「各機後援」に対し、礼状が届いた。

II. 報告事項

1) 学会「機関誌」第48号の送付状況について  
~取口理事長より  
・原稿論文1編、研究資料1題と昨年度の学会大会の講演・シンポジウムの記録を掲載し、10月中には発送したい。

なお、11月期には大会号を発送する。第32回学会大会の発表申し込み状況について  
~取口理事長より  
・11期の発表申し込みがあった。

3) 会費納入について  
~取口理事長より  
・9月30日現在、324名会費納入済。  
平成11・12・13年度の3年間会費未納者が存在しているとの報告があった。

この点について、連絡のとれなかった期間の会費を納入しよう督促し、連絡が取れない場合は次回から「機関誌」等の発送を中止することが了承された。

4) その他

・会員勧誘について  
~取口理事長より  
退会者 芳賀昭昭 芳賀昭明 芳賀昭博 芳賀昭博 以上4名

入会希望者 加賀谷真紀 青森県立保健大 神原 正子 神奈川工科大学 佐々木明男 芝浦工業大 以上3名

以上のように退会者、入会希望者が承認された。

III. 審議事項

1) 第32回学会大会の開催の確約について  
~取口理事長より  
・開催の確約。2日目の発表演題を調整してセッションの間に休むのをめいなど、十分に調整できるような調整を組み合わせ、次回に再確認を行うことになった。

2) 第32回学会大会ワークショップの内容の確認について  
(1) セラピューティック・レクリエーション  
~鈴木副会長より  
・本日のパラリンピックなどでもレジャーが関係となった。報告を持っていくのがスポーツをすることの意義等も考えてみたい。

ワークショップの形態は「座談」形式でなろう。

(2) 景観・造園・環境  
~森生常任理事より  
今までに4回研究会を実施しているが、この日も景観・造園、空間の意義等が抽出され、今後、検討を進めていくこととなった。

(3) レジャー・レクリエーション産業  
~藤城常任理事より  
ワールドカップを素材にしたが今回のワークショップで起こった諸現象をレジャー・レクリエーションの観点から考えたい。

4) その他  
(1) 「レジャー・レクリエーション研究」  
原稿作成依頼について  
~下村常任理事より  
「レジャー・レクリエーション研究」の原稿作成依頼の状況について報告が提出され、今後、検討を進めていくこととなった。

(2) 「レジャー・レクリエーション研究」  
投稿制度について  
~田中常任理事より  
投稿制度について投稿資格、原稿の種別、明確化、費用等の項目について改訂案が提出され、今後検討を進めていくこととなった。

事務局からのお知らせ

1. バックナンバー(「歩み」を含む)の実質発表を行って頂きます。特に新入会員におすすしませます。

①「歩み」32号の送料  
1冊¥2,000 (郵便送料¥380) ※既納済み  
②「歩み」を除くその他の研究誌は、  
1冊¥1,000~¥500の予定です。(送料別)

2. 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーション学会に関心のある方は事務局へ一報ください。  
(申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥1,000)と年会費(¥8,000)を罪状で郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。)

3. 平成14年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員がいましたら、至急納入手続きをお願いいたします。  
郵便振替番号 00150-3-602353

4. 学会ホームページで学会大会案内がご覧いただけます。是非一度ご覧下さい。  
<http://www.rikkyo.ne.jp/gsr/jsr/sr/>

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最遅でも2ヶ月程度の間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様は積極的に投稿をお願いいたします。  
投稿論文送付先 投稿論文送付先  
〒352-8558 埼玉県新座市北野1の2の28 立教大学 武蔵野新座キャンパス  
〒100-8302 東京都千代田区千代田 立教大学 武蔵野新座キャンパス  
〒100-8302 東京都千代田区千代田 立教大学 武蔵野新座キャンパス  
【日本レジャー・レクリエーション学会事務局】

会員の動静

●新入会員 (所属) ○転入・特任職員の連絡先  
①加賀谷真紀 青森県立保健大  
②神原 正子 神奈川工科大学  
③佐々木明男 芝浦工業大  
④中村 太郎 医療法人恵愛会大分中村病院  
⑤松尾 芳郎 東京工業大  
⑥高橋 武 神奈川野外活動協会

●平成14年度 退会者  
木田 弘子  
春日 隆英  
丹羽 昭昭  
丹羽 昭明  
芳賀 健治  
嶋井 晋  
野山 健

# 学会ニュース

## 日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)  
 発行人 江口 正雄 編集 広瀬俊彦編集委員会  
 〒332-8558 埼玉県新都市北野1-2-26  
 立教大学 武蔵野新キャンパス  
 コミュニティ福祉学部 松尾研究室内  
 電話 048-471-7345  
 郵便番号 00150-3-002353

MARCH 2003  
 No. 75

### 日本レジャー・レクリエーション学会のこれから ～その「志願」と「理想」～

副会長 鈴木秀雄  
 関東学院大学人間福祉学教授

日本レジャー・レクリエーション学会は、約7年間の研究時代から数え、今年が30年目である。通常、学会としての具備すべき周知の基準・条件は、(1)学術分野の進歩発展を図ることを目的とし、普及を目的としない団体、(2)主たる構成員が研究者であって、全国にまたがっている、(3)事務局および定款・規約等を有し、(4)年1回以上、会員の研究発展を主目的とする学術上の各種集会を定期的に開催し、(5)定期として年1回以上、機関誌・報告書や学術的な定期刊行物を発行している、ことである。また、学会の形成過程は、既存の専門分野のみか、あるいはその周辺で、新しいパラダイム、すなわち画期的な概念や方法論が提唱されれば、そのパラダイムに即して研究を進める集団が形成され、そのパラダイムが非常に有力であれば、見えざる大学 (invisible college) と呼ばれることがある (visible) 存在となる。即ち、学会の設立のほか、研究所の設置、大学における新学系・コースの設置などがこれにあたる。従って、学問上の革新が続くかぎり、新しい専門分野が誕生し、新しく学会が設立される、といえるのである。

本学会も、即上の足跡を踏むもので、その原動力を日本体育学会に持ち、レクリエーションの理論的枠組み (paradigm) は、身体文化や身体領域とごまらなことから、「見えざる大学」から新しい学会である「目に見える存在」として現在に現れている。

本学会としてあるべき「志願」は、学会の共通言語がレジャー・レクリエーションへと変遷しながらも設立当初からしっかりと受け継がれ、基幹条件を構えた学会として足跡が踏まれ、本学会は日本学術会議連合学会として確立にその歩み続けている。

加えて、大学のなかにも関係科目の設置がみられ、専任だが、筆者が所属する関東学院大学人間福祉学部人間福祉学科に在りて、レジャー・レクリエーション論、セラピューティックレクリエーション論、レジャー・レクリエーション指導実習などが専門科目群として設置され、専門分野としてのパラダイムは認知されてきている。

しかしながら高等教育機関での専門教育が確立したにもかかわらず、次代に求められるもの、高等教育機関で指導者養成がなされ、研究者・指導者の輩出され、整備されていくことになる。学会が生まれ40年にならうとすると、会員(研究者)が増え、学会そのものの社会的認知度を向上させることほもとより、レジャー・レクリエーションのパラダイムの再構築を迫る動きが必要である。学会としての「志願」は明らかにならないうち、個人の主体的研究にだけ依拠するのではなく、時代の流れ、学問の発展、社会の変化により、学術集団・研究集団としての学会の有り様も「理想」することが求められている。

専門領域としてのパラダイムは、社会からの認知が求められるのであるから、「社会一般のレジャー・レクリエーションの行動やイメージ」と「学会が認める専門的なパラダイム」との間に乖離が生じていくべきか、あるいはその乖離をどう埋めていくのか、どのように社会一般の先行イメージを浸透させていくべきか、あるいは専門集団が認めるパラダイムの理解をどう一般社会のそれに合致したものにしていくべきか、そのすり合わせ作業を学会が積極的に行うことも重要であると「理想」するのである。学会員の皆が留意を願うべきである。

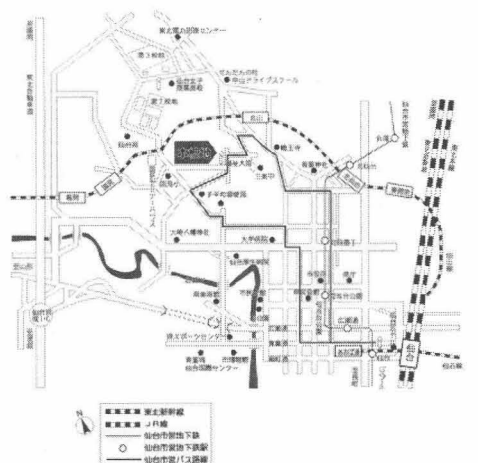
JSLRS	
1. 学会副会長挨拶 (鈴木秀雄) …… P. 1	5. 常任理事会・理事会の報告 …… P. 5
2. 第32回学会大会開催案内・開催会場のご案内 …… P. 2	6. 2003年度(平成15年度)会費納入のお願い …… P. 6
3. 第32回学会大会研究発表論文の募集事項 …… P. 3	7. 編集委員会・事務局のお知らせ …… P. 7
4. 第32回学会大会報告 …… P. 4	8. 会員の動静 …… P. 7

### (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日) 第33回学会大会

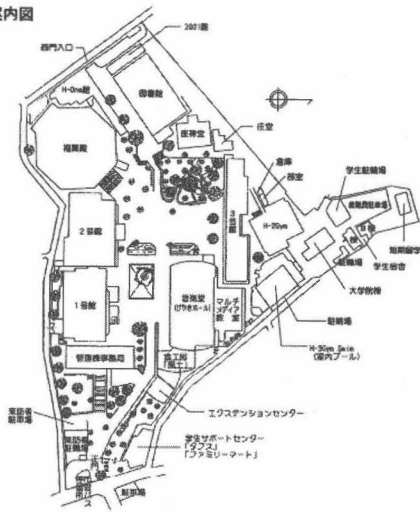
#### 第33回学会大会のご案内 (第1報)

※学会では11月7日(金) 福祉1  
 日程 平成15年11月7日(金)～11月9日(日)  
 会場 東北福祉大学  
 〒981-0943 仙台市青葉区国境1-8-1  
 観覧・造園・環境：レジャー産業：  
 文化：地域研究プログラムが組ま  
 れています。  
 (詳細にて詳細をお知らせします。)

#### 東北福祉大学位置図



#### 学内案内図



1. 研究発表申し込みの方法  
 官製ハガキ (A4×24) に演題、氏名および所属 (共同研究または個人研究の区別および共同研究の場合は共同研究者の氏名を記してください)、住所 (共同研究の場合は代表者とする)、郵便番号、電話番号を記入の上、5月30日までに、本部事務局 (立教大学) にお申し込み下さい。所定の抄録原稿用紙を申し込み書に記されている発表者の住所に付します。  
 また発表原稿 (A4判2枚または4枚) の納め切りは、9月19日届 (必着) です。  
 ※共同研究者が学会員にかぎられません。非会員の場合には至急入会手続きをおとりください。
2. 申し込み先 (学会事務局)  
 〒332-8558 埼玉県新都市北野1-2-26 立教大学 武蔵野新キャンパス  
 コミュニティ福祉学部 松尾研究室内  
 日本レジャー・レクリエーション学会事務局

#### 第32回学会大会報告

### 日本レジャー・レクリエーション学会第32回学会大会を終えて

学会大会実行委員長  
 古城 建一  
 (大分大学教授)

第32回学会大会は、平成14年11月23日(土)・24日(日)の両日にわたって行われた。前年度学会大会の総会において次期開催当大学をお引き受けし、以来、試行錯誤を重ねながら準備を進めてきたが無事終了することができてホッとしている。会員の皆様、事務局の皆様方さらには学会大会の開催に当たりご尽力いただいた関係者の方々に厚くお礼申し上げます。以下に第32回学会大会の概要を紹介し、終了報告とする。

学会大会の第一日目は「障害者スポーツからのメッセージ」をテーマとする基調講演とシンポジウム、3セッションに分かれたワークショップ(①セラピューティック・レクリエーション; ②景観・造園・環境; ③レジャー・レクリエーション産業)、懇親会と行事が進められた。基調講演は、太陽の家事務局長の吉永栄治氏より「障害者スポーツからのメッセージ～太陽の家 37年の歩みを通して～」と題して行われた。講演に引き続いて、福川裕二氏 (太陽の家副理事長)、康生和江氏 (大分大学)、橋本二氏 (長崎国際大学) の三氏を報告者とするシンポジウムが行われた。三氏からは、それぞれの分野における貴重な実践と研究成果の報告があった。基調講演は参加者に感動を与え、シンポジウムでは、フロアからの質問や貴重な意見が提出し盛況であった。なお、基調講演・シンポジウムには学会員他、一般市民14名、学生100名余りが参加した。シンポジウムに続いて行われたワークショップにおいても、予め設定した教室 (どの教室も50～60人収容可) に入りきれないほどの参加者があり、予定時間ギリギリまで研究討論が行われるほどの様子を呈した。二日目は、報告を以て、終日一般研究発表が行われた。残念ながら学会員の参加者数は65名とやや少なかつたが、二会場に分かれて行われた研究討論は熱帯を帯びたものであった。

以上の報告に添えて、学会大会が無事になし終えた当番大学としての今の心境を述べたい。大分大学の主体性で企画した基調講演とシンポジウムに北山の方々のご参加をいただいたこと、そして活発な質疑応答や意見交換がなされたことに対して、演者ならびにご参加くださった先生方へから感謝申し上げます。また、準備過程での事務局の適切な指導に対して感謝申し上げます。最後に手前味噌のご批判を受けることは覚悟の上、補助員として学会大会の円滑な運営に献身的に働いてくれた本学の学生諸君にありかと上言。ともあれ、第32回学会大会にかかわってくださったすべての皆様方に対し、無事終えることができたことを感謝し、学会大会終了のご報告とす。

平成14年度(2002年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第4回) 議事録

■日時:平成14年10月21日(月)  
午後6時30分~午後7時30分  
■場所:立教大学池袋キャンパス5号館1階  
第2会議室  
出席者:佐田、柚井、鈴木(男)、坂口、原生、田中、西田、西野、沼澤、松浦、松尾、小坂  
会長挨拶

I. 議事事項 一坂口理事長

- 1) 定数確認
- 2) 前回常任理事会(平成14年度第3回)の議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 第32回学会大会発表抄録原稿の入稿状況について 一坂口理事長  
・現在17題の発表抄録原稿が入稿している報告がなされた。
- 2) 第33回学会大会シンポジウム、ワークショップ打合せ状況について  
・松尾常任理事より大分大学からの連絡で、タイトル及びシンポジウムは正式決定を要することも報告された。  
・春ワークショップのコーディネーターより、依頼しているパネリストとの打合せ状況について報告があった。今月下旬まで本部事務局へ正式決定したタイトル名、パネリスト名を提出する旨が要請された。
- 3) 学会ニュースNo.74の進捗状況について 一坂口常任理事  
・現在、記載事項の大半はできており、詳細部分についてまとめている途中であると報告された。
- 4) 会費納入状況について 一坂口理事長  
・10月21日現在、322名が納入済み。会費未納者には引き続き会費納入の督促をすることが報告された。  
・「復讐年の未納期間(平成11、12、13年度)がある会費未納者には、会費納入の督促を行うことと、学会としての対応を検討することが報告された。

III. 審議事項

- 1) 第32回学会大会の開催の確約について 一坂口理事長  
・今後の内容について報告があった。議題数を考慮し、時程案を組立てた。また学会大会の時程を全会員へ早急に書面連絡をするため、大会号を11月上旬に発行予定ということが確認された。
- 2) 編集委員会から技術規定の改訂文の掲載遅延について 一坂口常任理事より  
・学会研究機関「レジャー・レクリエーション研究」49号(10月末発行予定)に掲載。以後、修正事項が生じた場合は訂正し、随時誌に掲載していくことが確認された。
- 3) 次回常任理事会(第5回)の開催日 一坂口理事長  
・理事長に一任することに決断された。
- 4) その他  
・会員の動向について 一坂口理事長以下のように退会者、入会希望者が承認された。

退会者(1名)

山本 健

入会希望者(3名)

中村 太郎 (医) 京愛会大分中村病院  
佐藤 芳郎 東京農業大学研究生  
藤持 武 神奈川県野野外活動協会

平成14年度(2002年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第5回) 議事録

■日時:平成14年11月20日(月) 18:00~19:00  
■場所:立教大学池袋キャンパスセントホールズ会館2階「すずかけ」  
出席者:佐田、柚井、鈴木(男)、原生、荒井、坂口、榎岡、西田、沼沢、松浦、松尾、山崎、小坂  
会長挨拶

I. 議事事項 一坂口理事長

- 1) 前回常任理事会(第4回)の議事録の確認
- 2) 平成14年度総会決議の確認

II. 報告事項

- 1) 第32回学会大会に関する事項 一坂口理事長  
(1)参加者数について  
大会2日を通過して既に約200名の参加者があった。学生や市民の参加もあつたと報告された。  
(2)大会開催地への御礼  
開催地である大分大学教育福祉科学部学部長大城誠先生  
今大会実行委員長 古城雄一先生  
(3)大会月への広告掲載に対する御礼  
協賛4社に対して大会号と礼状を送ったことが報告された。  
(4)大会決算報告(古城先生から裏送された資料をもとに)  
●総収入 833,600円  
(学会補助費、大会参加費、懇親会費、弁当代、市民参加費、資料代など)  
●総支出 863,851円  
(会場費用、講師謝礼金、事務費、懇親会費、弁当代など)  
●残金 19,749円  
よって、残金が学会に返納された。

- 2) 会費納入状況について 一坂口理事長  
平成15年11月19日(日)現在、前回以降3名の納入があり、計353名が会費納入済みと報告された。
- 3) その他 一坂口理事長  
(1)日本学術会議で7月27日に公開講座  
(2)日本スポーツクラブ協会より協賛に対する礼状が送られてきた。  
(3)日本レジャー・レクリエーション学会協賛よりレクリエーション大会協賛に対する礼状が送られてきた。  
(4)会員動向について  
退会希望者(1名)  
入会希望者(4名)  
榎林美佐 福寿院厚生年金病院  
加藤 隆 (財)休村研協会  
藤田清美 東北文化学園専門学校  
三井 律子 余暇開発研究所

以上のように退会者、入会希望者が承認された。 以上

会員の皆様へ

2003年度会費納入のお願い  
2003年度会費を同封の振込用紙にてお振込下さい。

[注意]

2003年度は役員改選に伴う選挙が実施されます。選挙権、被選挙権共に、「選挙実施前年の12月31日までに正会員としての資格を有し選挙実施年の5月30日現在、当該年度の会費を納めている正会員とする」となっています。早めに会費の納入をお願いいたします。

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最低でも2ヶ月程度の時間を要する点をご考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

事務局からのお知らせ

- 1. パックナンバー「歩み」を含む)の裏紙頒布を行っています。特に新入会員におすすめます。  
①「歩み」32号の頒布  
1冊¥2,000(送料¥390) ※縦紙頒布のみ  
②「歩み」を除くその他の研究誌  
1冊¥1,000~¥500になります。(送料別)
- 2. 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へご連絡ください。
- 3. 平成14年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員がいます。と急納入手続きをお願いします。  
郵便振替番号 00150-3-002353
- 4. 学会のホームページをご覧ください。  
<http://www.rikkyo.ac.jp/erp/jslrs>

会員の動静

- 新入会員 (所属) ○記号は、今年加入した新入会者時  
◎関部さやか 東北福祉大学 (社)大友短期障害者育成会  
◎池田 良弘 新潟福祉医療専門学校  
◎榎林 美佐 福寿院厚生年金病院  
◎加藤 隆 (財)休村研協会  
◎藤田 清美 東北文化学園専門学校  
◎三井 律子 余暇開発研究所

●平成14年度 退会者

- 小島 哲子  
高橋 恵美  
野田 文子

平成15年10月

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)  
発行人 坂口 正治  
〒352-8558 埼玉県蕨市北野1-2-26  
立教大学 武蔵野新産キャンパス  
〒352-8558 埼玉県蕨市北野1-2-26  
立教大学 武蔵野新産キャンパス  
〒352-8558 埼玉県蕨市北野1-2-26  
立教大学 武蔵野新産キャンパス  
〒352-8558 埼玉県蕨市北野1-2-26  
立教大学 武蔵野新産キャンパス

OCTOBER 2003  
No. 76

学会の発展を願って

理事長 坂口 正治

今、日本レジャー・レクリエーション学会では、33回目の学会大会の準備を進めています。学会が今日に至るまでには、多くの緒先覚の方のご努力とご協力を得て今日に至るまでです。また、会員の皆さんのご支援とご協力なくして今日には至りませんでした。あらためて感謝申し上げます。

さて、私が理事長に就任して、はやく4年が過ぎようとしています。この間、学会運営が十分に出来たとは思ってはいませんが、手足不中であつて事務局を中心に無我夢中でやってきたような気がしました。しかし、会員の皆さんからはお叱りやら運動をいただいたが何となく今日まで乗り切れたような気がしました。

時の流れは実に早く、21世紀を迎え、レジャー・レクリエーション活動に対する社会の要求も多岐にわたる、変わり行く社会の中での対応が求められているところで、そこで本学会も時代の要請に応えるべく研究活動の充実と他の専門分野との連携など学際的な研究が重要になって来ていると思います。

また、会員の皆さんに出来るだけ新鮮な情報を提供すると同時に、会員の皆さんからの情報も集める様にこの配慮から平成14年度より学会のホームページを開発いたしました。まだ十分とは言えませんが、徐々に充実して行きたいと思っています。さらに、昨年の第32回学会大会(大分大学)からワークショップを催し、会員の皆さんの生の声で反映できる機会を作りました。これは会員相互の交流と研鑽を深めることが出来たように思います。こうした積み重ねが今後の研究活動の一助となつて行くことを期待してやみません。

尚、今年は東北福祉大学におきまして、第33回学会大会が11月7日、8日、9日の3日間にわたり開催されます。レジャー・レクリエーション学会に相応しいプログラムとして、7日には地域研究を開催します。会員が相互交流をすすめるが研究を深める機会になるのではないかと期待しております。会員の皆さんのご参加をお待ちしております。

JSLRS

1	学会理事長の挨拶(坂口正治)……………P. 1	9	平成14年度決算報告(案)……………P. 12
2	新役員(次期理事)の紹介……………P. 2	10	平成15年度事業計画(案)……………P. 13
3	第33回学会大会のご案内……………P. 3	11	平成15年度予算(案)……………P. 13
4	東北福祉大学で研究会を招き入れたこと……………P. 5	12	理事会・常任理事会の報告……………P. 14
5	第33回学会大会の開催要項……………P. 6	13	事務局からのお知らせ……………P. 18
6	第33回学会大会ワークショップのご案内……………P. 8	14	編纂委員会からのお知らせ……………P. 18
7	学会大会の研究発表要綱……………P. 10	15	平成14年度事業報告(案)……………P. 18
8	平成14年度事業報告(案)……………P. 12	15	会員の動静……………P. 18

2004年度・2005年度期 新理事一覧

改選前理事10名(現行理事による選出)

順位	氏名	所属及び役職関係領域
1位	松尾 哲 矢	立教大学
2位	坂口 正 治	東洋大学
3位	鈴木 秀 雄	関東学院大学
4位	西田 俊 夫	淑徳大学
5位	小田 切 敏	奈良女子大学
6位	麻生 志 恵	東京農業大学
7位	嵯峨 寿 寿	筑波大学
8位	沼澤 秀 雄	立教大学
9位	松田 義 幸	実践女子大学
10位	片桐 義 晴	(社)新都区障害福祉協会

新理事15名(正会員の選挙による)

順位	氏名	所属及び役職関係領域
1位	池井 正 昭	創価学園横浜大学
2位	師岡 文 男	上智大学
3位	茅野 宏 明	武蔵川女子大学
4位	西野 仁 仁	東海大学
5位	小 椋 一 也	国際医療福祉大学大学院
6位	小野寺 浩 三	東北福祉大学
7位	横内 晴 典	城西大学
8位	古城 達 一	大分大学
9位	田中 伸 彦	(銀行)森林総合研究所
10位	松浦 三 代子	東京女子体育大学
11位	高橋 祐 伸	国際基督教大学
12位	荒井 茜 子	学習院女子大学
13位	千 葉 和 夫	日本社会事業大学
14位	野村 一 路	日本体育大学
15位	田 中 祥 子	津田塾大学

第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

第33回学会大会のご案内

■日 程 平成15年11月7日(金)～11月9日(日)  
 ■会 場 東北福祉大学  
 〒981-8572 仙台市青葉区国界1-1  
 TEL 022-233-3111

※今学会では11月7日(金)〔福祉：景観・造園・環境〕レジャー産業：文化・地域研究〕プログラムが組まれていきます。

東北福祉大学位置図



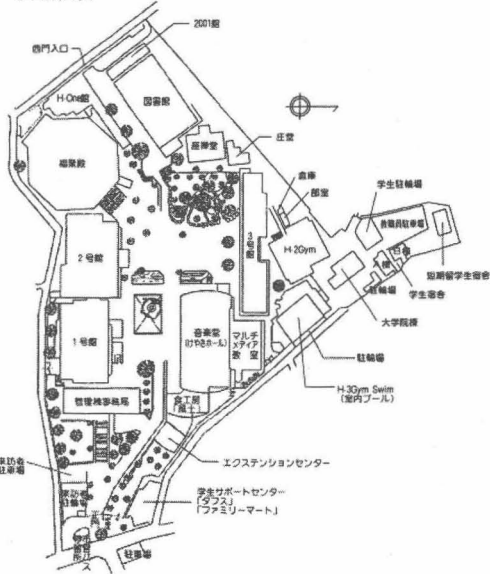
●交通アクセス

<バス利用> 「仙台青葉」(仙台市青葉区)24番「大森」より乗車  
 「字野町福山」(仙台市青葉区)の路線「大森」11分(バス)乗車 「福祉大学前」下車 (約30分)220円  
 「仙台エール東葉ホテル利用」の場合 「ホテルより徒歩5分、徒歩約15分、徒歩約20分」バス停より乗車  
 「字野町福山」の路線「大森」の路線「福祉大学前」下車 (約15分)220円  
 <片利用> 「JR仙台線」(北山駅)下車 (仙台駅より約6分)190円、徒歩10分  
 <タクシー利用> 仙台駅より東北福祉大学まで、約300円程度  
 <仙台空港から仙台駅までのアクセス> JR山形線(約40分)910円

開会式 平成15年11月8日(土) 11:00～12:00 (仙台エール会議室)  
 結 束 平成15年11月9日(日) 13:00～14:00 (仙台エール)

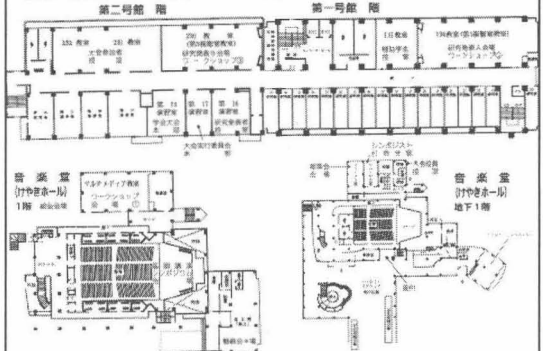
第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

学内案内図



第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

第33回日本レジャー・レクリエーション学会々々場案内図



東北福祉大学で学会大会を迎えるにあたって!!

第33回学会大会実行委員長  
 東北福祉大学教員 小野寺 浩 三

昨年、大分大学で学会員に挨拶してから早いもので、第33回学会大会がやってきます。5名の学会員でスタートした御禮も、今は17名(新会員7名)の学会員と新編編・仙台市レクリエーション学会の協力を得て22名のスタッフで迎える準備を進めています。大会実行委員長は名ばかりで、素直に11月学会員の先生方とレクリエーション協会の方々とお会いすることがあります。

会場が東北福祉大学ということで、「福祉」を考慮し提案していただいたテーマや若手高年齢社会が中心で中高年齢者や高齢者のレジャー・レクリエーションについても多く取り上げていただき、最終的に本部との協議により「レジャー・レクリエーションと地域文化」をメインテーマとし、実行サブテーマとして「世代間交流にみる諸活動」に決ま。基調講演者、シンポジストの発表、収録に奔走したのも東の原の出来事のように感じています。

唯一、この第33回学会大会において、実行委員会として「こたわった」ことは「世代(generation)」という内容です。親子・孫の世代、若年・中年・高年の年齢層、また、生まれてから30年を1区切りとするならば、7区切りも区切りもあり、この「世代」が一掃に意向できるのがレジャー・レクリエーションの強みではないでしょうか。

この地の学会員の理解と協力、そして本部の後押しもあり次第に整理され、何とかなる学会員を迎えることができる状況が整いつつあります。実行委員会、学会員、レクリエーション学会の皆さんと笑顔で迎えたいと思っています。是非、第33回学会大会に足を運んでいただければ幸いです。

第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

日本レジャー・レクリエーション学会  
第33回学会大会開催要項

- 主 催：日本レジャー・レクリエーション学会
- 主 管：日本レジャー・レクリエーション学会第33回学会大会実行委員会
- 期 日：平成15年11月7日(金)・8日(土)・9日(日)
- 会 場：東北福祉大学 キャンパス  
〒981-8522 仙台市青葉区国見1-8-1

5. 日 程
- 第1日目 11月7日(金)
- 11:30~12:30 受付(けやきホール入り口)
  - 12:30~12:40 開会挨拶 松田善幸(日本レジャー・レクリエーション学会会長)
  - 12:40~16:20 地域研究
    - ① 特別講演(けやきホール)
      - 「独眼竜政宗-伊達若しい最後」 逸見英夫氏(仙台郷土研究会副会長)
      - ② フィールドスタディ「仙台城址」 福祉大(現)-瑞宝館-仙台城址-仙台市博物館-福祉大(著)
- 第2日目 11月8日(土)
- 11:00~12:00 理事会
  - 12:00~ 受付
  - 13:00~13:10 挨拶 萩野浩基氏(東北福祉大学学長)
  - 13:10~14:10 基調講演(けやきホール)
    - 「レジャー・レクリエーションと地域文化」 大村慶一氏(宮城大学教育研究担当副学長 専攻学部長)
  - 14:20~15:40 シンポジウム(けやきホール)
    - 「世代間交流にみる諸活動」 コーディネーター 仲野隆士氏(仙台大学体育学部助教)
    - シンポジスト 行政の立場から 嶋崎 渉氏(仙台市泉区副区長)
    - 仙台・青葉まつり(すずめ通り)における地域文化と世代間交流の立場から 平賀ノブ氏(BRIDAL PLANNER STAGE 代表取締役 青葉組踊り部会長)
    - 英国のレジャー・レクリエーション政策研究の立場から 寺島善一氏(明治大学教授)

第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

- 15:50~17:50 ワークショップ
- ①セラピューティック・レクリエーション(マルチメディア教室)
    - 「新しい視点から見たセラピューティック・レクリエーションの活用と課題」(15分)
    - コーディネーター：鈴木秀雄(宮城県人権啓発推進員)
    - 話題提供1 「大学における授業での障害者に対する取り組みから」 学会副副会長 石井 九(立教大学名誉教授)
    - 話題提供2 「障害者福祉協会における取り組みから」 学会常任理事 片桐義典(社団法人 仙台市障害者福祉協会)
  - ②景観・造園・環境(130教室)
    - 「地域のアウトドア・レクリエーションと資源空間の管理」 コーディネーター：麻生 恵(東京農工大学教授)
    - 話題提供 「イギリスのカントリーライフとアウトドア・レクリエーション」 荒井 歩(東京農工大学地域環境科学部助手)
  - ・ワークショップ
    - ファシリテーター：栗田 和赤(東京農工大学地域環境科学部講師)
    - 編 集 麻生 恵(東京農工大学教授)
  - ③レジャー・レクリエーション産業(230教室)
    - 「東京ディズニーランドの成功から見えてくるもの・学べること」 コーディネーター：嵯峨 寿(筑波大学助教授)
    - キーマント：上野 昇(オリエントランド副社長)
    - コメントーター：栗田 和赤(宮城大学)
    - 大塚潤一郎(実践女子大学)
    - 坂田 信久(国士館大学)
- 18:00~19:30 懇談会(食工房「風土」)

- 第3日目 11月9日(日)
- 8:30~ 受付
  - 9:00~9:40 研究発表 A会場(130教室) <2題> B会場(230教室) <2題>
  - 9:50~10:50 研究発表 A会場(130教室) <3題> B会場(230教室) <3題>
  - 11:00~12:00 研究発表 A会場(130教室) <3題> B会場(230教室) <3題>
  - 12:00~13:00 昼 食
  - 13:00~14:00 総 会(けやきホール)
  - 14:00~15:00 研究発表 A会場(130教室) <3題> B会場(230教室) <3題>
  - 15:10~16:10 研究発表 A会場(130教室) <3題> B会場(230教室) <2題>

第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

第33回学会大会「ワークショップ企画 ~その2~」のお知らせ

ワークショップコーディネーター  
鈴木秀雄

昨年の第32回学会大会(会場：大分大学)で、初めて研究交流および教育実践活動を活用する試みとして学会大会期間と共に、3つのワークショップ(①セラピューティック・レクリエーション部門分科会、②景観・造園・環境、③レジャー・レクリエーション産業)が企画されました。各々のテーマは①「それぞれの専門領域からスポーツをどう捉えるか」、②「地域のアウトドア・レクリエーションと資源空間の管理」、③「ワールドカップを機軸とする」という内容でした。学会大会時に初めて企画されたワークショップでしたが、多くの会員の熱心な参加により、いずれのワークショップも盛況で、多くの意見交換や情報交換がなされ、十分な研究成果をあげ、成功裡に開催されました。

活性化を促進して企画された昨年年初めのワークショップでしたが、学会関係の一貫を担う形態へと昇華するねらいから、第33回学会大会(会場：東北福祉大学)では学会新企画の地域研究を加え、引き続きこれらの3つのワークショップも開催される運びとなりました。昨年と同様ダグランドコーディネーター及びセラピューティック・レクリエーション分科会コーディネーターとして学会副副会長の鈴木秀雄(東京農工大学人間環境学部教授)が、②景観・造園・環境系は、学会常任理事の麻生恵(東京農工大学地域環境科学部教授)が、③レジャー・レクリエーション産業系は、同様に、学会常任理事の嵯峨寿(筑波大学助教授)がコーディネーターを務めます。

第2日目の11月8日(土)の基調講演(13:10~14:10)、シンポジウム(14:20~15:40)の後、これらのワークショップ(15:50~17:50)が開催されます。このワークショップは、3つのグループに分科され、それぞれのワークショップが同時進行で2時間行われます。

ワークショップ ①(セラピューティック・レクリエーション)

■テーマ：「新しい視点から見たセラピューティック・レクリエーションに関する内容や課題はどのように位置づけられるか」

■趣 旨：  
科学的な効果を実証的に求める治療、療育、療法の領域であるセラピーと余暇における自発的で自主的・能動的な活動・状態としての種様に位置するレクリエーションが、それぞれ異なる変容性や有しているものの並列的な形態で共存するものがセラピューティック・レクリエーションである。

「過去のセラピューティック・レクリエーション(療育)分野では、研究として「日本におけるセラピューティック・レクリエーションの方向性」とあり方、特にセラピューティック・レクリエーション機能の拡張化と産業化によりその活動の効果をより確実にするために」(平成9年3月20日(水)13:30~16:00、場所：関東学院大学法学部演習室)や、「セラピューティック・レクリエーションの理解とその解明」→「特に日本におけるセラピューティック・レクリエーション学会の組織及びセラピューティック・レクリエーションの活性化に向けて」(平成13年9月7日(日)18:00~20:30、場所：横浜市市民運動室第2研修室)→そして、昨年、第32回学会大会ワークショップでは「それぞれの専門領域からスポーツをどう捉えるか」をテーマにしてハビリテーションとスポーツとの関連、セラピューティック・レクリエーションとスポーツとの関連はどのように理解すべきかを提示する試みにより、それぞれの領域の本質的な外延と内容の相違について議論した。特に「整形外科医が関与するハビリテーションとスポーツ」(分科会特別発表 甲中太郎氏)、 「レジャー・レクリエーションの研究者・専門家が見るセラピューティック・レクリエーションとスポーツ」(関東学院大学人間環境学部教授 鈴木秀雄) について切実な視点から話題提供を行った。

今回のワークショップでは、セラピューティック・レクリエーションの概念が日本に導入される以前からその場の問題を抱えて行われてきた活動の領域が、新しい視点としての「セラピューティック・レクリエーション」の、そのあり方に「位置づけられるのか」、あるいは「位置づけられるべきなのか」、また「位置づけられるべきか」を議論し、「セラピューティック・レクリエーション」として捉えられている内容についての課題、概念の整理についても議論する。

- 話題提供1 「大学における授業での障害者に対する取り組みから」 石井 九(立教大学名誉教授)
- 話題提供2 「障害者福祉協会における取り組みから」 片桐 義典(社団法人 仙台市障害者福祉協会)
- コーディネーター および編集

第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

ワークショップ ②(景観・造園・環境)

■テーマ：「地域のアウトドア・レクリエーションと資源空間の管理」

■趣旨説明 麻生 恵氏(東京農工大学地域環境科学部教授) 「ガーデンアイランド景観」が愛護されるなど、21世紀を迎えて国土(地方、地域)に対する意識やそこで暮らすライフスタイルが大きく変わろうとしている。地域が保有する美しい景観や自然環境、歴史的遺産などに磨かれて、心豊かに生活するという新しいライフスタイルが志向されてきたといえる。一方で、最先端の管理手法により、自然環境を中心とする対象空間の状況も著しく変化しつつあり、その管理機能が阻害化はするようになった。また、それらを市民(ユーザー)自身もボランティア活動などで管理を行うという動きも見られるようになった。

昨年の大分大学のワークショップでは、景観を対象とした地域資源としてのレクリエーション空間の状況(開閉点と課題)を整理し、さらに開閉の基準に対する好意をボランティアや東京近郊の事例を中心に議論したが、時間的な制約もあり、十分な議論が出来なかった。そこで、今回はイギリスの田園地域におけるアウトドア・レクリエーションの事例紹介も新たに加えながら、この問題の議論を深めたい。

■話 題 提供 イギリスのカントリーライフとアウトドア・レクリエーション  
荒井 歩(東京農工大学地域環境科学部助手)

■ワークショップ ファシリテーター：栗田 和赤(東京農工大学地域環境科学部講師)  
○参加者全員で議論し、今後の方向性や研究課題などについてまとめる。

■編 集 麻生 恵(東京農工大学教授)

ワークショップ ③(レジャー・レクリエーション産業)

■テーマ：「東京ディズニーランドの成功から見えてくるもの・学べること」

人生80年代はすでに現実となり、昔からの基準はモノから心へ、所有から存在へとシフトし、レジャー社会への転換の必要が顕著に示されている。しかし、産業社会のレジャーサービスは、はたしてそうした人々の価値観やライフスタイルの変化に及び切れているのだろうか。喜劇に人気のあるスター・スノーボードも、リフト待ちの長蛇の列は通達の感と、スキー場は経営危機に直面している。また80年代を中心に全国各地に林立したテーマパークも経営破綻が次いでいる。こうした現象は、これまでのレジャー産業のあり方の見直しを迫っているのではないだろうか。その一方で、唯一安定した実業力を維持し、「とり勝ち」のテーマパークがある。東京ディズニーランド(DL)である。

多くのテーマパークが閉鎖し、各種レジャー・レクリエーション関連施設が方向転換を迫られる中、なぜDLだけが今なお進化を遂げているのだろうか。「顧客満足と最先端したサービス提供の経済価値追求」や「DL」という旧来のあり方では、その価値は容易に奪取されるのではないかと、夢を奪われ、人々の心を奪われてしまっているのではないか、とそれを見出す発想や工夫のなか、真のレジャーライフの創造・享受することが可能なヒントを見出すことができるのではないかと。

本ワークショップでは、DLの成功した学ぶことを通して、人々のレジャーライフの新たな発想を促すとともに、他のレジャー・レクリエーション産業分野の活性化などについて議論してみようと考えている。

- キーマント 上野 昇(オリエントランド副社長)
- コメントーター 栗田 和赤(宮城大学)
- 大塚潤一郎(実践女子大学)
- 坂田 信久(国士館大学)



第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

第33回学会大会研究発表・演題

■ 研究発表 A会場 (130番教室)

- 座長: 沼澤秀雄 (立教大学) 9:00~9:40  
A-01 福祉サービス利用者の自助意識とボランティアの継続性  
○左近慎平 (富山県医療福祉専門学校)
- A-02 ホームヘルパーの余暇・レクリエーションに関する研究  
~ホームヘルパー養成講習受講者との比較から~  
○山本 存 (甲南女子大学)
- 質疑応答
- 座長: 山崎孝子 (徳島大学) 9:50~10:50  
A-03 福祉施設における福祉レクリエーション・ワークの専門性向上と成立条件の整理  
○小嶋和幸 (山梨大学)
- A-04 デイサービスにおけるITサービスの実際  
○榎木麻子 (東海大学)
- A-05 セラピューティックレクリエーション・サービス・モデル  
○茅野宏明 (武庫川女子大学)
- 質疑応答
- 座長: 茅野宏明 (武庫川女子大学) 11:00~12:00  
A-06 レジャーにおけるフロー理論の再検証  
○佐藤由美 (大阪府立女子大学)
- A-07 「ボストン大衆化」段階の大学教育における「教員」と「自由」  
~労働づけ理論の再検証を通して~  
○藤野百合子 (旭光大学)
- A-08 高齢者の余暇活動について(5)  
~主にコロナ期における余暇活動の現状~  
○上野 幸 (余暇問題研究所)  
山崎孝子 (余暇問題研究所)  
高橋裕樹 (余暇問題研究所)
- 質疑応答
- 座長: 佐藤由美 (旭光大学) 14:00~15:00  
A-09 高齢者デザインサービスにおけるレクリエーションプログラムについての事例研究  
○廣田治久 (余暇問題研究所)  
上野 幸 (余暇問題研究所)  
山崎孝子 (余暇問題研究所)
- A-10 初期療養高齢者に対するレクリエーション療法の試み  
~個人の状態に応じたプログラムの選択と展開~  
○草壁孝治 (青柳園友会・ゆりの木クラブ)
- A-11 車いすダンスの心と体に及ぼす影響  
○野野 教子 (東北福祉大学)  
小野寺治三 (東北福祉大学)  
岡部 一彦 (東北福祉大学)
- 質疑応答
- 座長: 原部百合子 (旭光大学) 15:10~16:10  
A-12 ライフデザインとしての福祉の方向性  
~歩行機能を強化するための運動(転倒防止)を中心に~  
○小嶋一也 (国際医療福祉大学)  
鈴木美智 (東海大学体育学部)  
田中 光 (長崎県立大学体育学部)  
坂口正治 (東洋大学社会学部)  
鈴木秀雄 (清泉学院大学人間学部)
- A-13 ライフデザインとしての生涯スポーツ  
~その概念の特定化~  
○鈴木美智 (東海大学体育学部)  
田中 光 (長崎県立大学体育学部)  
小嶋一也 (国際医療福祉大学)  
坂口正治 (東洋大学社会学部)  
鈴木秀雄 (清泉学院大学人間学部)
- A-14 幼児期のライフデザイン  
~幼児体育における運動を中心に~  
○田中 光 (長崎県立大学体育学部)  
小嶋一也 (国際医療福祉大学)  
鈴木美智 (東海大学体育学部)  
坂口正治 (東洋大学社会学部)  
鈴木秀雄 (清泉学院大学人間学部)
- 質疑応答

第33回学会大会 (東北福祉大学 2003年11月7日・8日・9日)

■ 研究発表 B会場 (230番教室)

- 座長: 田中伸彦 (徳島大学) 9:00~9:40  
B-01 中学生の休日の過ごし方  
~連休日数にどうかわるのか~  
○飯塚智子 (東海大学)  
西野 仁 (東海大学)
- B-02 ゆりのの構造化に向けて(1)  
~言葉と概念の整理~  
○西野 仁 (東海大学)
- 質疑応答
- 座長: 荒井啓子 (学習院女子大学) 9:50~10:50  
B-03 子どもの歌の組織的キャンプ経験と現在の野外活動観  
○吉原さちえ (東海大学)  
西野 仁 (東海大学)
- B-04 八重山諸島における要事とゆとり  
○阿部 眞流 (東海大学)  
吉原さちえ (東海大学)  
根 嘉史夫 (東海大学)
- B-05 地域社会における神楽の社会的学研究  
○沼 健造 (広島県立大学)
- 質疑応答
- 座長: 西野 仁 (東海大学) 11:00~12:00  
B-06 余暇活動としてのボランティア学習に対する福祉施設での役割と課題  
○外岡真高 (日本大学大学院)
- B-07 福祉施設領域の専攻学生におけるレクリエーション教育のあり方  
○森田清美 (東北文化学園専門学校)
- B-08 障害者スポーツボランティアの意識調査に関する研究  
~ボランティアの役割構造に着目して~  
○山田力也 (西九州大学)
- 質疑応答
- 座長: 山田力也 (西九州大学) 14:00~15:00  
B-09 武蔵における町田場の現状  
○高橋 健 (東海大学大学院)  
西野 仁 (東海大学)
- B-10 ドイツのゴールデンプランの展開とベルリンのスポーツ施設  
○久保内智子 (東海大学大学院)  
西野 仁 (東海大学)
- B-11 総合型地域スポーツクラブ推進事業におけるレクリエーション概念の適用  
~W市における試みについて~  
○高橋 伸 (国際基督教大学)
- 質疑応答
- 座長: 高橋 伸 (国際基督教大学) 15:10~15:50  
B-12 精神障害者におけるレクリエーションプログラムの構造と効果  
○山村昌代 (東海大学体育学部)  
阿部眞流 (東海大学体育学部)
- B-13 空間環境と運動時の心理・心理過程について  
○高橋百恵 (東海大学大学院)  
西野 仁 (東海大学)
- 質疑応答

総会・会議 審議概要報告

日本レジャー・レクリエーション学会 平成14年度 事業報告(要)

- 1) 第33回学会大会開催  
期日:平成14年11月23日(土)・24日(日)  
場所:大分大学
  - 2) 機関誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行  
第47号、第48号、第49号(大金号)、第50号
  - 3) 「学会ニュース」No.73、No.74、No.75の発行
  - 4) 組織の拡充および活動の充実
  - 5) 学術団体交流
  - 6) 定例研究会の開催
  - 7) 第33回学会大会開催準備
  - 8) その他(学会の目的に関わる事項)
- 1) 学会総会の開催
  - 2) 理事会の開催
  - 3) 常任理事会の開催
  - 4) 各専門委員会開催
  - 5) その他(学会の目的に関わる事項)

平成14年度決算報告書(要)

日本レジャー・レクリエーション学会 平成14年4月1日~平成15年3月31日 (単位:円)

科目	予算額	収入の部		繰越
		決算額	予算超過(△)不足	
前年度繰越金	1,458,814	1,458,814	0	
年度会費	4,000,000	2,928,000	1,072,000	8,000×365名(納入回数22名分を含む)
通年会費	240,000	376,000	△136,000	8,000×47名
入会費	60,000	46,000	14,000	2,000×23名
賛助会費	0	22,000	0	4件
広告費	300,000	120,000	180,000	
雑収入	0	0	0	
雑収入	418,188	88,338	332,848	第33回学会大会(大分大)より19,749円、学会誌等
合計	6,500,000	5,015,152	1,484,848	
支出の部				
印刷費	4,200,000	3,204,875	995,125	学会ニュース(771-79回) 学会誌(47-48号・49号)・第33回理事報告
通信費	800,000	312,686	487,314	学会ニュース(3冊)、学会誌(3冊)、会議通知等
事務用品費	70,000	28,850	41,150	文房具、コピー用紙等
事務用運賃費	350,000	311,696	38,304	交通費、アルバイト代等
各専門委員会経費	500,000	68,430	431,570	各委員会会議費
選挙管理費	0	0	0	
内外関係経費	100,000	65,420	34,580	関係学術団体会議費
会議費	200,000	138,092	60,908	理事会・常任理事会会議費
大会補助費	201,000	200,630	370	第33回学会大会(大分大)へ
雑費	78,000	0	78,000	
次年度繰越金	0	682,563	-682,563	
合計	8,500,000	5,015,152	1,484,848	

繰入金: 5,015,152  
繰入金: 4,321,589  
雑入: 693,563

監事 佐島 正徳  
監事 寺島 新一

平成14年4月10日

総会・会議 審議概要報告(つづき)

日本レジャー・レクリエーション学会 平成15年度 事業計画(要)

- 1) 第33回学会大会開催  
期日:平成15年11月7日(金)・8日(土)・9日(日)  
場所:東北福祉大学
  - 2) 機関誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行  
第51号(大金号)、第52号、第53号
  - 3) 「学会ニュース」No.76、No.77、No.78の発行
  - 4) 組織の拡充および活動の充実
  - 5) 学術団体交流
  - 6) 定例研究会の開催
  - 7) 第34回学会大会開催準備
  - 8) その他(学会の目的に関わる事項)
- 1) 学会総会の開催
  - 2) 理事会の開催
  - 3) 常任理事会の開催
  - 4) 各専門委員会開催
  - 5) その他(学会の目的に関わる事項)

日本レジャー・レクリエーション学会 平成15年度 予算(要)

平成15年4月1日~平成16年3月31日 (単位:円)

科目	前年度予算額	収入の部		繰越
		本年予算額	増減(△)減	
前年度繰越金	683,563	1,458,814	-775,251	
年度会費	4,000,000	4,000,000	0	8,000×500名
通年会費	240,000	240,000	0	8,000×30名
入会費	60,000	60,000	0	2,000×30名
賛助会費	22,000	22,000	0	22,000×1件(入会金含む)
広告料	300,000	300,000	0	
雑収入	294,437	418,188	-123,751	学会誌等
合計	5,500,000	6,500,000	-1,000,000	
支出の部				
印刷費	3,700,000	4,200,000	-500,000	学会ニュース(79-80回) 学会誌(49-50号)・第34回理事報告
通信費	550,000	800,000	-250,000	学会ニュース、学会誌、会議通知等
事務用品費	70,000	70,000	0	文房具、コピー用紙、トナー等
事務用運賃費	350,000	350,000	0	交通費、アルバイト代等
各専門委員会経費	100,000	500,000	-400,000	各委員会会議費、委員会通信費等
選挙管理費	250,000	0	250,000	選挙用DM郵送・発送費
内外関係経費	100,000	100,000	0	関係学術団体会議費
会議費	150,000	200,000	-50,000	理事会・常任理事会会議費
大会補助費	201,000	201,000	0	第34回学会大会(東北福祉大)
雑費	50,000	0	50,000	
予備費	78,000	78,000	0	
合計	5,000,000	6,500,000	-1,500,000	

平成14年度(2002年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
理事会(第3回) 議事録

開催日:平成14年11月23日(土)  
午前11時04分~午後1時00分  
開催場所:立教大学池袋キャンパス5号館11会議室  
出席者:松田、池井(幹)、坂口、小野寺、片桐、嶋崎、高橋、田中(幹)、田中(幹)、夢野、寺島、西田、佐藤、松原、橋本、小原

会長挨拶

1. 報告事項  
1) 定足数の確認  
2) 前回理事会(第2回)の議事録確認

II. 報告事項

- 1) 第3回学会大会の準備状況について  
2) 第3回学会大会シンポジウムの準備状況について

1)とあわせて古川理事より  
予備11時04分~午後1時00分  
開催場所:立教大学池袋キャンパス5号館11会議室  
出席者:松田、池井(幹)、坂口、小野寺、片桐、嶋崎、高橋、田中(幹)、田中(幹)、夢野、寺島、西田、佐藤、松原、橋本、小原

平成14年度(2002年)  
日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第6回) 議事録

開催日:平成14年3月3日(日)  
18:00~20:30  
開催場所:立教大学池袋キャンパス12号館地下1階第3会議室  
出席者:松田、池井、藤本、東井、坂口、嶋崎、田中、西田、佐藤、松原、橋本、小原

会長挨拶

- I. 報告事項  
1) 前口頭理事  
2) 前回理事会(第5回)の議事録確認

II. 報告事項

- 1) 平成14年度の会費納入状況について  
2) レジャー・レクリエーション研究第50号の送付状況について

- 3) 学会ニュース№75号の送付状況について  
4) 定足数の確認  
5) 会費納入状況について  
6) 会費納入状況について  
7) 予備11時04分~午後1時00分  
開催場所:立教大学池袋キャンパス5号館11会議室  
出席者:松田、池井、藤本、東井、坂口、嶋崎、田中、西田、佐藤、松原、橋本、小原

III. 審議内容

- 1) 第3回学会大会総会について  
2) 第3回学会大会の日程について

平成15年度(2003年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
理事会(第1回) 議事録

開催日:平成15年5月19日(月)  
18:00~20:30  
開催場所:立教大学池袋キャンパス5号館11会議室  
出席者:松田、池井(幹)、夢野、嶋崎、高橋、田中、西田、佐藤、松原、橋本、小原

会長挨拶

- I. 報告事項  
1) 定足数の確認  
2) 前回理事会(平成14年度第3回)の議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 平成14年度準備報告(第1回)について  
2) 平成14年度準備報告(第2回)について

1)とあわせて古川理事より  
予備11時04分~午後1時00分  
開催場所:立教大学池袋キャンパス5号館11会議室  
出席者:松田、池井(幹)、坂口、小野寺、片桐、嶋崎、高橋、田中(幹)、田中(幹)、夢野、寺島、西田、佐藤、松原、橋本、小原

平成15年度(2003年)  
日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第2回) 議事録

開催日:平成15年7月23日(日)  
18:30~20:30  
開催場所:立教大学池袋キャンパス12号館地下1階第3会議室  
出席者:松田、池井、藤本、東井、坂口、嶋崎、田中、西田、佐藤、松原、橋本、小原

会長挨拶

- I. 報告事項  
1) 前口頭理事  
2) 前回理事会(第1回)の議事録確認

II. 報告事項

- 1) 平成15年度の会費納入状況について  
2) レジャー・レクリエーション研究第51号の送付状況について

- 3) 学会ニュース№76号の送付状況について  
4) 定足数の確認  
5) 会費納入状況について  
6) 会費納入状況について  
7) 予備11時04分~午後1時00分  
開催場所:立教大学池袋キャンパス5号館11会議室  
出席者:松田、池井、藤本、東井、坂口、嶋崎、田中、西田、佐藤、松原、橋本、小原

III. 審議内容

- 1) 第3回学会大会総会について  
2) 第3回学会大会の日程について

平成14年度(2002年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第1回) 議事録

開催日:平成14年6月8日(月)  
18:00~20:30  
開催場所:立教大学池袋キャンパス5号館2会議室  
出席者:松田、池井、藤本、東井、坂口、嶋崎、田中、西田、佐藤、松原、橋本、小原

会長挨拶

- I. 報告事項  
1) 前口頭理事  
2) 前回理事会(第1回)の議事録確認

II. 報告事項

- 1) 平成14年度の会費納入状況について  
2) レジャー・レクリエーション研究第50号の送付状況について

- 3) 学会ニュース№75号の送付状況について  
4) 定足数の確認  
5) 会費納入状況について  
6) 会費納入状況について  
7) 予備11時04分~午後1時00分  
開催場所:立教大学池袋キャンパス5号館11会議室  
出席者:松田、池井、藤本、東井、坂口、嶋崎、田中、西田、佐藤、松原、橋本、小原

III. 審議内容

- 1) 第3回学会大会総会について  
2) 第3回学会大会の日程について

平成15年度(2003年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第2回) 議事録

開催日:平成15年7月23日(日)  
18:30~20:30  
開催場所:立教大学池袋キャンパス12号館地下1階第3会議室  
出席者:松田、池井、藤本、東井、坂口、嶋崎、田中、西田、佐藤、松原、橋本、小原

会長挨拶

- I. 報告事項  
1) 前口頭理事  
2) 前回理事会(第1回)の議事録確認

II. 報告事項

- 1) 平成15年度の会費納入状況について  
2) レジャー・レクリエーション研究第51号の送付状況について

- 3) 学会ニュース№76号の送付状況について  
4) 定足数の確認  
5) 会費納入状況について  
6) 会費納入状況について  
7) 予備11時04分~午後1時00分  
開催場所:立教大学池袋キャンパス5号館11会議室  
出席者:松田、池井、藤本、東井、坂口、嶋崎、田中、西田、佐藤、松原、橋本、小原

III. 審議内容

- 1) 第3回学会大会総会について  
2) 第3回学会大会の日程について

事務局からのお知らせ

- バックナンバー(『歩み』を含む)の複製部を行って頂きます。特に新入会員におすすめします。
  - 1冊¥1,000 (郵送料¥300) ※既報済み
  - 2冊¥1,000を除くその他の研究誌は、1冊¥1,000~¥500になります。(送料別)
- 会員の皆様のお問い合わせはレジャー・レクリエーションに関する方は事務局へご連絡ください。

【申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年度会費(¥5,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。】  
 平成14年度の年会費(¥5,000)を納めていない会員がいましたら、至急納入手続きをお願いします。  
 郵便振替番号 00150-3-602353

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

- 投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最速でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いします。
- 投稿論文送付先  
 〒352-8528 埼玉県新城市北野12の28  
 立教大学 武蔵野新島キャンパス  
 コミュニティ福祉学部 松見研究室内  
 『日本レジャー・レクリエーション学会事務局』

会員の動静

●新入会員 (所属)

1. 草野 李治 (医療法人社団徳成会看護専門学校) 16. 奥山 靖彦 (関東学院大非常勤)
2. 大森 宗一 (関西保育福祉専門学校) 17. 池野 三義 (鎌倉女子大学)
3. 大島 博人 (名古屋女子文化短期大学) 18. 中野 彩 (総合医療福祉専門学校非常勤講師)
4. 土井 真悠 (愛智短期大学) 19. 千原佳生 (総合医療福祉専門学校)
5. 早田 厚 (静岡福祉短期大学) 20. 外島 真直 (日本大学大学院)
6. 福山 正樹 (和歌山短期大学短期大学校) 21. 菊池 伸子 (東京理科大学大学院)
7. 山下 陽子 (日本女子大学) 22. 海野 泰徳 (仙台福祉専門学校)
8. 松田 祐雄 (筑波大学) 23. 大塚 剛人 (公立藤田総合病院放射線療法)
9. 藤見 好実 (賢明女子大学短期大学部) 24. 小崎 治信 (東北福祉大学)
10. 飯塚 裕子 (東海大学大学院生) 25. 阿部 真直 (東海大学体育学部教授)
11. 久保内智子 (東海大学大学院生) 26. 岡本 伸英 (愛知新城大付短期大学講師)
12. 森崎 百恵 (東海大学大学院生) 27. 赤羽 克子 (聖徳大学短期大学部保育学科講師)
13. 高橋 舞 (東海大学大学院生) 28. ウォーレ 寛子 (聖徳大学大学院文化学専攻准講師)
14. 遠藤 晃弘 (東海大学大学院生) 29. 河西 敏幸 (聖徳大学大学院文化学専攻准講師)
15. 仲 真衣子 (東海大学大学院生) 30. 正野 知基 (別府大学短期大学部助教授)

●平成15年度 退会者

- 長谷川峰男、石井 雄也、吉川 義子、駒子美代子、前田 登、坂本 圭一、野村 賢一、春日 忠也、加藤 恵子、高橋 皇、山下一郎、伊藤 優太、塚本 晃彦、長岡 勇、榎本 健一、藤本 智、山崎 浩二、森田 正、石原 昌弘、鈴木 昌一、藤 豊隆、藤田 明、富永、小山 泰、中西 親司、岡友 室孝、松本あづさ、本田 勝一、藤本 伸之、藤 康雄、藤田 明、富永、小山 泰、中西 親司、岡友 室孝、松本あづさ、村元 任信、前坂 誠哉、渡辺 由美、学校法人聖心学院西武池袋専門学校

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会

(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)  
 発行人 飯口 正樹 編集 広報渉外委員会  
 事務局 〒352-8528 埼玉県新城市北野1-2-26  
 立教大学 武蔵野新島キャンパス  
 コミュニティ福祉学部 松見研究室内  
 電話 048-471-7345  
 郵便振替 00150-3-602353

MARCH 2004  
No. 77

清水幾太郎先生のアドバイス

会長 松田 義幸

この3月で学会の会長を辭し、油井正昭先生にバトンタッチしていただくことになりました。2年という期間、いや本学会に再入会してから20年の近くがあつたという間に過ぎてしまいました。この間に、一度手続ミスで学術会議登録から離れてしまったというハプニングがありました。二度の登録に向けて、研究・教育交流の活性化を図ることになったのです。また事務局もすっかり立て直すことになったのです。幸い会員の皆さんの協力を得て再登録を果たすことができました。本当にホッといたしました。このうなできごとがあつたために、あつという間に過ぎてしまった気分になったのだと思います。

のシンクタンクの財団法人余暇開発センターでの研究の理想論にとりかろうと思っています。実は一部はすでに実践女子大学生生活文化学科のホームページ上にSAJ onlineとして掲載されているのですが、この仕事を力を入れようと思っています。というのは、2003年9月に余暇開発センターが解散してしまいましたので、設立から関係していた一人として、レジャー研究の自史をまとめたかったと思ったのです。本学会の会員の皆さんからのご批判もいただきましたと考えております。(http://campus.jissen.ac.jp/seibun) 実は1972年に余暇開発センターが設立されてからもない頃、現代レジャーの研究に関して、社

(次ページへつづく)

JSLRS

1. 清水幾太郎先生のアドバイス(特別企画 松田義幸) …… P. 1	5. 常任理事會・理事會の報告 …… P. 5
2. 桜花とレクリエーション(伊田勉 湯沢正司) …… P. 2	6. 2004年度(平成15年度)会費納入のお願ひ …… P. 8
3. 第34回学会大会開催案内(第1報) …… P. 3	7. 事務局・編集委員会のお知らせ …… P. 8
4. 第34回学会大会研究発表論文の募集要項 …… P. 4	8. 会員の動静 …… P. 8

(前ページよりつづく)

会学者の清水幾太郎先生から、とても意義深いアドバイスや言葉をいただいた。そろそろ清水先生に宿願のレポートを提出しなければと勝手に思ったことも、回想録を書くきっかけになっていた。

「レジャー問題はエレベイトに頼るだけ登るようなものだ。それくらい哲学も実際も難しい問題なのだ。直ぐレジャー産業振興政策の立案に

入るのではなく、レジャーとはなにか、レジャーはいかにあるべきかの本質に取り組みなさい」この清水先生のアドバイスはなにも余暇開発センターだけでなく、21世紀を迎えた本学会の追求すべき課題でもあると思います。会長を辞すにあたり、この課題もバトンタッチさせていただきます。

桜花とレクリエーション

— 次期会長を引き受けて —

副会長 油井 正昭 (桐蔭横浜大学)

桜花の季節です。会員の皆様には日々をご健勝でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

平成18年度は役員交代年度に当たり、事前に会員による選挙で選任されている次期役員が4月から2年間、学会運営に当たることになります。松田義幸会長から私バトンを引き継ぐことになっていて、後学非才のため引き継ぎます。専門分野が造園学です。自然環境とレクリエーション、野外レクリエーション地の風景計画などレクリエーションの立地や計画調の研究・教育を行ってきました。

学会運営には、役員の方たちをはじめ、広く会員の方々からご意見をいただき、学会発展を志向した活動を進めることができると考えています。会員の英知を集め、活力のある学会を目指したいと思います。

桜花爛漫の季節は、春の代表的なレクリエーションである花見があります。日本人のサクラ観賞は古くから行われていたようですが、一般に普及したのは江戸時代です。サクラは現在300種を超える品種があります。品種による開花時期と北海道の北端から沖縄島の南端まで、3,000kmを超える南北に長い日本列島の季節差を組み合わせてサクラ開花旅を作ると、かなり長期の間日本どこかで花見ができ、サクラを追いかけれる旅行も魅力的なレクリエーション行動です。花見だけでなくサクラは日本の文化に深く関わっている植物であり、サクラとレジャー・レクリエーションをテーマにしたフォーラムを行いたいと思います。桜花の風景の中で学会発展の方向を考え4月1日を迎えます。

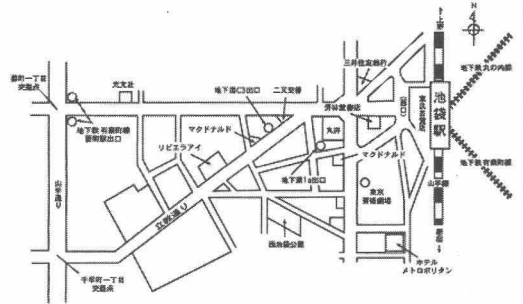
会員の皆様には、種々お世話になります。よろしくお願いします。

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3・4・5日)

第34回学会大会のご案内 (第1報)

■日 程 平成16年12月3日(金)~12月5日(日)  
 ■会 場 立教大学池袋キャンパス  
 〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

立教大学池袋キャンパス位置図



●交通アクセス

JR山手線・埼京線・埼京線、東武東上線、東武池袋線  
 地下鉄丸の内線、有楽町線「池袋駅」下車 西口より徒歩約7分

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

立教大学池袋キャンパス案内図



1. 研究発表申し込みの方法

官製ハガキ (FAX不可) に撰題、氏名および所属 (先期研究または個人研究の区別および共同研究の場合は共同研究の氏名全てを記してください)...

2. 申し込み用紙 (学会事務局)

〒355-8558 埼玉県新座市北野1-2-28 立教大学 武蔵野新キャンパス コミュニティ福祉学部 松野研究室内 日本レジャー・レクリエーション学会事務局

平成15年度(2003年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会 (第3回) 議事録

開催日: 平成15年9月18日(木) 13:00-13:30
開催場所: 立教大学池袋キャンパス13号館4会議室
出席者: 鈴木(男), 池井, 坂口, 栗井, 磯崎, 田中, 相澤, 佐藤, 西野, 山崎, 小松

- 議題
1. 前回の常任理事会 (平成15年度第2回) の議事録の確認
2. 報告事項
3. 議事事項
4. 平成15年度役員選挙結果について

平成15年度(2003年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会 (第4回) 議事録

開催日: 平成15年9月18日(木) 17:30-18:30
開催場所: 立教大学池袋キャンパス13号館4会議室
出席者: 鈴木(男), 池井, 坂口, 栗井, 磯崎, 田中, 相澤, 佐藤, 西野, 山崎, 小松

- 議題
1. 前回の常任理事会 (平成15年度第3回) の議事録の確認
2. 報告事項
3. 議事事項
4. 平成16年度役員選挙結果について

- 13位 荒井 孝子 10票
12位 大野 雅夫 10票
14位 野村 一穂 9票
15位 松田 裕子 8票
役員選定委員会は開き決めます。選挙委員は、池井副会長、鈴木本会長、坂口理事長、松野常任理事、松野常任理事、西田常任理事以上7名が該当することが承認された。

平成15年度(2003年) 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会 (第2回) 議事録

開催日: 平成15年10月30日(木) 09:00-10:30
開催場所: 立教大学池袋キャンパス13号館4会議室
出席者: 池田, 池井, 鈴木(男), 永田, 坂口, 磯崎, 尾花, 小野, 西野, 佐藤, 相澤, 松野, 佐藤, 小松

- 議題
1. 定款事項
2. 前回の常任理事会 (平成15年度第3回) の議事録の確認
3. 報告事項
4. 議事事項

- 在までの準備、選挙収収の報告がなされた。貸出に該当する報告がなされた。
議事事項
1. 平成14年度事務報告について
2. 平成14年度役員選挙について
3. 平成14年度事務報告 (議) について
4. 平成14年度事務報告 (議) の確認について
5. 次回の常任理事会開催について

平成15年度(2003年) 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会 (第1回) 議事録

開催日: 平成15年10月30日(木) 10:00-11:30
開催場所: 立教大学池袋キャンパス13号館4会議室
出席者: 松田, 池井, 鈴木(男), 坂口, 永田, 磯崎, 尾花, 小野, 西野, 佐藤, 相澤, 松野, 佐藤, 小松

- 議題
1. 定款事項
2. 前回の常任理事会 (第2回) の議事録の確認
3. 報告事項
4. 議事事項

- 議題
1. 定款事項
2. 前回の常任理事会 (第3回) の議事録の確認
3. 報告事項
4. 議事事項

平成15年度(2003年) 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会 (第3回) 議事録

開催日: 平成15年11月8日(日) 11:00-12:00
開催場所: 東北福祉大学(中野キャンパス)

- 議題
1. 定款事項
2. 前回の常任理事会 (第2回) の議事録の確認
3. 報告事項
4. 議事事項

- 議題
1. 定款事項
2. 前回の常任理事会 (第3回) の議事録の確認
3. 報告事項
4. 議事事項

平成15年度(2003年) 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会 (第4回) 議事録

開催日: 平成15年11月12日(水) 17:30-18:30
開催場所: 立教大学池袋キャンパス13号館4会議室

- 議題
1. 定款事項
2. 前回の常任理事会 (第3回) の議事録の確認
3. 報告事項
4. 議事事項

### 会員の皆様へ

2004年度会費納入のお願い

2004年度会費を同封の振込用紙にてお振込ください。

### 事務局からのお知らせ

- バックナンバー(「歩み」を含む)の実費頒布を行っています。特に新入会員におすすめます。  
①「歩み」32号の価格  
1冊 ¥2,000 (郵送料 ¥300)  
②「歩み」を除くその他の研究誌は、50・51号1冊 ¥1,000  
49号まで1冊 ¥1,000+¥500になります。(送料別)
- 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーションに関心のある方は事務局へ一報ください。
- 申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年度会費(¥8,000)を振込して郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。
- 平成15年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員は、至急納入手続きをお願いします。  
郵便振替番号 00150-3-802353
- 学会のホームページをご覧ください。  
<http://www.rikyoo.ac.jp/erp/jalrs>

### 編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付です。また、研究論文の審査、修正作業には最短でも2ヶ月程度の間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いします。

投稿論文送付先  
〒352-8585 埼玉県新都市北野1の2の28  
立教大学 武蔵野新産キャンパス  
コミュニティ福祉学部 松尾研究室内  
「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

## 会員の動静

- 新入会員 (所属)
1. 服部 宏治 (広島国際大学保健医療学部専任講師)
  2. 佐藤 達子 (医療法人協善会 東前病院)
  3. 三橋 正幸 (財団法人日本レクリエーション協会)
- 平成15年度 退会者
- 鈴木 明 神崎 清一

## 学会ニュース

## 日本レジャー・レクリエーション学会

AUGUST 2004 No. 78

事務局 〒352-8585 埼玉県新都市北野1-2-28 立教大学 武蔵野新産キャンパスコミュニティ福祉学部 松尾研究室内  
電話/FAX 048-471-7345 郵便振替 00150-3-802353

### 「レジャー・レクリエーションの知られざる力」の認識

～「要介護予防運動指導者」制度の  
開発に産長として関わって～ 学会副会長 鈴木秀雄  
(関東学院大学人間学専任講師)

日本人の寿命が平均60歳となり、長寿化による生活習慣病は、さらに余暇生活の質へと直結している。国のスポーツ振興基本計画が平成12年9月に発表され、同年4月には介護保険法も施行された。前者の目標達成年度は平成22年度で、明年初見直しの中間年である。我々も明年を見直しの年と当初から法的に規定している。さらに地方自治法第244条の改正(平成15年9月施行)により、民間ベースの指定管理者による公共のスポーツ・福祉・文化施設の管理運営を可能とし、行政の効率化、住民サービスの質的向上、雇用の拡大(民間雇用の創出)、経済の活性化が期待されている。これらは、長寿社会における余暇そのものの豊かな活用と深く関係性を持っている。なかならず身体活動の日常生活化・生活習慣化が、豊かな生活の維持に重要であるからだ。国のスポーツ振興基本計画で、成人の1週間1回のスポーツ実施率を告示時の37.3%から、目標達成年度には50%にすることを施策の一つとしている。運動・スポーツに興味や興味もなく、今まで実行できなかった人が今後とも増やさないならば、成人の運動実施率50%の実現に至るであろう。

介護保険の見直しでは、厚労省は本年8月「介護予防重点推進対策本部」を管内に設置し、身体が衰えだしたきりにする事態を防ぎ、介護保険サービス利用者の急増による保険財政の悪化を防ぎ、軽度(要支援と要介護1)の適用者向けのサービスの効率化から身体衰えを防ぐ介護予防サービスを普及させ、介護に必要なサービス種を減らし、家事援助利用の前に介護予防を推進する動きである。これは自然に体を動かす機会を増やすことで要介護

度が増すことを防ぐ効果が期待できるからだ。要介護の起因でもある生活習慣病を予防・回避するには、「栄養」としての食を見直し、「体操」の質を向上を図り、栄養や体操とは異なるその必要性が生理的には起こらずに肉体的な嗜好、興味、関心として起こる状況に強く依存する「運動」を、意識して生活に取り込むことが重要である。自身の身体能力や機能が下がっているライフステージにある時にこそ、何れ、要介護にいたらないよう、人生80年の三分の一にも及ぶ余暇を主体的活動(Sedentary activities)で費やさない努力と工夫が大切である。要介護予防の運動を単にスポーツと結びつける。積極的に日常生活と心から関わりたい生き方を求めることで、運動そのものから「科学的効果と自覚的効果」をしっかりと得ていくレジャー・レクリエーションの充実が何よりも大切である。

(財)日本スポーツクラブ協会がすすめる要介護予防運動指導者制度の開発と実行にプロジェクトの産長として関わり、モテにマーケティングエクササイズ(参加)、「要介護予防運動指導者養成プログラムの開発」(編著)立教大学「人間福祉学会紀要」第2号、2004年7月号)を編纂すると共に、そのコンセプトを基に手塚で開催した第1回指導者養成講習会で詳述し、「生活習慣の工夫により余暇を機能させ(=Leisurability=余暇力)、余暇を活用して生活習慣を転換する(=Leisurability=余暇力)の必要性を説いた。計化記の日本において、健康で豊かな生活をしていくには、個々がいかにレジャー・レクリエーションの知られざる力をどう積極的に認識できるかにかかっていると目も適言ではない。

### JSLRS

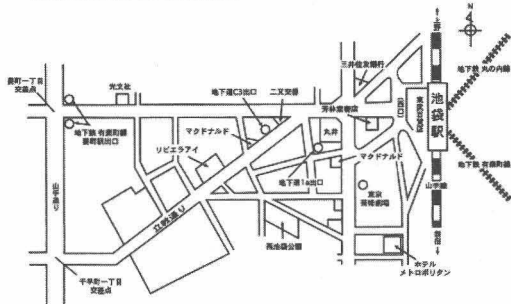
1. 学会副会長挨拶(鈴木秀雄)..... P.1	8. 平成16年度 事業計画(案)..... P.9
2. 第34回学会大会開催案内(第2報)..... P.2	9. 平成16年度 予算..... P.9
3. 秋の特別大会「歩み」のご案内..... P.10	10. 平成16年度 役員..... P.10
4. 学会大会開催研究への参加募集..... P.6	11. 事務局長からのお知らせ..... P.12
5. 新役員(2004年度～2005年度)紹介..... P.7	12. 編集委員会からのお知らせ..... P.12
6. 平成15年度 報告書(案)..... P.8	13. 会員の動静..... P.12
7. 平成15年度 決算報告(案)..... P.8	

### 第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

#### 第34回学会大会開催のご案内 (第2報)

開催日程 平成16年12月3日(金)～12月5日(日)  
開催会場 立教大学池袋キャンパス  
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

#### 立教大学池袋キャンパス位置図

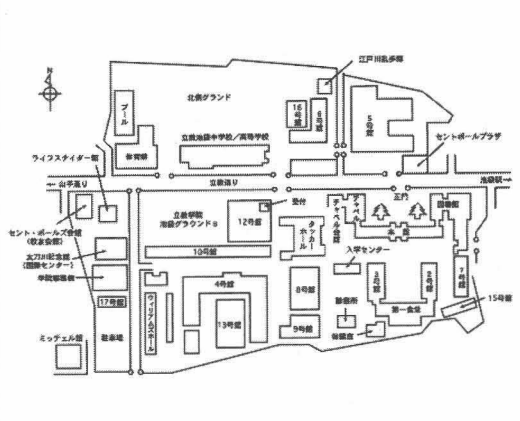


#### ●交通アクセス

JR 山手線、埼京線、埼京線・東北本線、東武東上線、西武池袋線  
地下鉄丸の内線、有楽町線(池袋駅)下車 西口より徒歩約7分

### 第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

#### 立教大学池袋キャンパス案内





## 日本レジャー・レクリエーション学会 第34回 学会大会

12月3日(金)、4日(土)、5日(日)、立教大学において開催されます第34回学会大会の実行委員会が結成され、実行委員会を開催するとともに総務、研究、渉外、広報の各部会毎に役割分担をし、鋭意作業を行っております。

そこで現在のところまで決定している内容についてご報告します。

日本レジャー・レクリエーション学会第34回大会テーマ

### 「21世紀グローバル社会に向けた学会発展のビジョンと戦略を考える」

21世紀の安定成熟社会を迎えて、少子高齢社会や国土の管理問題など新たな課題が顕在化すると同時に、レジャー・レクリエーションに対する社会の期待やニーズはこれまでになく高まっています。

また、社会のグローバル化が進み、企業や行政をはじめとする様々な組織は、社会との連携や役割、社会的責任が求められる時代となってきました。組織の存立意義、社会ニーズとの関係が問われ、また、具体的な成果や実績が公開され、厳しい競争にさらされる時代となっています。

こうした動きへの対応は、大学間などの組織を結んだ研究(教育)活動の中心たる「学会」においても、これからの発展を目指す上で避けて避れないものとなりつつあります。

そこで先ず、わが国の21世紀レジャー・レクリエーションの動向や課題を整理した上で、ビジョンの必要性や学会の役割などについて共通認識を深めたいと思います。

さらに本学会の現状を点検し、今後の学会活動の新たな発展・展開にむけた将来ビジョンを展望したいと思えます。

#### 第一部

##### ■特別講演

『21世紀のレジャー・レクリエーションと将来ビジョン』

講演者：佐藤中

#### 第二部

##### ■基調講演

『21世紀グローバル社会と学会に求められる役割・ビジョン』(仮題)

斎藤寿太郎(東京農業大学副学長(改革推進担当)、日本造園学会副会長)

##### ■パネルディスカッション

『21世紀グローバル社会に向けた学会発展のビジョンと戦略を考える』

## 第34回学会大会ワークショップのご案内

### 公募について

学会大会の第一日目にワークショップを予定しております。第34回学会大会(立教大学)実行委員会に於いてワークショップについては、2年前から継続して開催しております「セラピューティックレクリエーション専門分科会」及び「娯楽・遊園・環境」領域、「レジャー・レクリエーション産業」領域の3つのワークショップに加え、会員の皆様からワークショップ企画を公募することとなりました。

つきましては、ワークショップの企画を希望される会員は、以下の様式にてお申込みください。なお、応募いただきましたワークショップの企画に関しては、実行委員会に諮り、本学会大会のテーマや既存の専門分科会・ワークショップの内容との関連、応募数、施設的使用等の観点から検討させていただきます。本学会大会での開催の可否について決定させていただきます。

#### 1. 提出期限

9月27日(月)17:00迄

#### 2. 提出方法

学会事務局にメールかファックスにてお送りください。

E-mail: matsuo@rikkyo.ac.jp Fax: 048-471-7345

#### 3. 企画内容

1) 企画立案者氏名・所属

2) テーマ

3) 目的・趣旨

4) 具体的な内容及び進め方

5) 登壇者及びコーディネーター

6) 必要な施設的使用

7) その他必要と思われること

以上に関して項目毎にご記入ください。

※なお、当日の時間は2時間程度、会場の規模をいたしまして30~50名程度、また当日のワークショップの内容に関しましては必要により報告(学会誌等)いただくこととなりますのでお含みください。

※ご不明な点等ございましたら上記、学会事務局にEメールもしくはファックスにてご連絡ください。

## 【学会大会地域研究】への参加募集

本学会大会では、昨年にひきつづき大会初日に「地域研究」を実施することになりました。

テーマを「都市レジャーの今昔」とし、江戸から東京へという時代の流れのなかで都市空間におけるレジャーはどのように考えられ、どのような意味を持ち続けてきたのかについて体験的に考究したいと考えています。会員の皆さん、ご一緒に都市レジャー空間を築く地域研究にふるってご参加ください。

1) 日 時：平成16年12月3日(金)13:00~17:00

2) テーマ：『都市レジャーの今昔』

#### 3) 時 程

13:00 東京駅前集合

13:30~15:00 都市レジャー空間の現在(六本木ヒルズ)

ウォーキングガイドのあと特別許可を得て会員朝のラウンジでのサロンミーティングを行います。

15:30~17:00 都市レジャーの昔(江戸東京博物館)

博物館で江戸の生活・余暇についてのレクチャーを受けそのあと、博物館内を自由見学。

4) 費 用：一人約6,500~7,000円程度(参加者数によって多少異なる。)

5) 参加予定数：30名以上、55名程度

〔参考〕希望者(10名程度)には別料金で、両国のちゃんこ屋さん等への案内も可能です。※詳細は、次頁にてご案内します。

## 日本レジャー・レクリエーション学会 役員名簿

(2004年度~2005年度)

- 改選前理事会選出による理事
- 会員選挙による選出理事
- △ 理事長推せんによる理事

会 長	○ 池 井 正 昭 (桐蔭横浜大学)
副 会 長	○ 坂 口 正 裕 (東洋大学)
	○ 鈴 木 秀 雄 (関東学院大学)
	○ 松 浦 三代子 (東京女子体育大学)
監 事	大 谷 善 博 (福岡大学)
	寺 島 善 一 (明治大学)
理 事 長	○ 西 田 俊 夫 (立教大学)
常 任 理 事	○ 藤 生 恵 (東京農業大学)
	○ 小 椋 一 也 (国際医療福祉大学大学院)
	○ 片 桐 義 晴 (社協) 新宿区障害者福祉協会)
	○ 榎 嶋 寿 (筑波大学)
	△ 下 村 彰 男 (東京大学大学院)
	○ 田 中 伸 彦 (独立行政法人森林総合研究所)
	○ 西 野 仁 (東海大学)
	○ 沼 澤 秀 雄 (立教大学)
	○ 松 尾 哲 矢 (立教大学)
	△ 山 崎 律 子 (剰余取戻問題研究所)
	○ 横 内 博 典 (城西大学)
理 事	○ 籠 井 杏 子 (学習院女子大学)
	○ 小 田 切 毅 一 (奈良女子大学)
	○ 小 野 寺 浩 三 (東北福祉大学)
	△ 上 村 郷 貴 隆 (ヒルサイドビュー-矯正歯科)
	△ 京 野 誠 子 (秋田桂城短期大学)
	○ 古 城 一 (大分大学)
	○ 鈴木 憲 志 (日本レクリエーション協会)
	○ 高 橋 伸 (国際基督教大学)
	○ 田 中 祥 子 (津田塾大学)
	○ 茅 野 宏 明 (武蔵川女子大学)
	○ 千 葉 和 夫 (日本社会事業大学)
	○ 野 村 一 路 (日本体育大学)
	○ 郎 岡 文 男 (上智大学)

総会・会議 審議報告書

日本レジャー・レクリエーション学会  
平成15年度 事業報告書(高)

I. 事業

- 1) 第33回学会大会開催  
期日：平成15年11月7日(金)・8日(土)・9日(日)  
場所：東北福祉大学
- 2) 学会誌『レジャー・レクリエーション研究』の発行  
第51号(大分号)、第52号
- 3) 学会ニュース No.76、No.77の発行
- 4) 役員の変更
- 5) 総会の拡大および活動の充実
- 6) 学内団体交流
- 7) 定例研究会の開催
- 8) 第34回学会大会開催準備
- 9) 会員名簿の整理
- 10) 年会費未納者への催促
- 11) その他(学会の目的に関わる事項)

II. 会議

- 1) 学会総会の開催
- 2) 理事会の開催
- 3) 常任理事会の開催
- 4) 各専門委員会の開催
- 5) その他(学会の目的に関わる事項)

平成15年度決算報告書(高)

日本レジャー・レクリエーション学会 平成15年4月1日～平成16年3月31日 (単位：円)

科目	収入の部		支出の部	
	予算額	決算額	予算額	決算額
前年度繰越金	683,953	683,953	0	0
年会費	4,600,000	2,848,000	19,408	8,000×35名(納入会員24件、議決会員11件を含む)
過年度会費	240,000	360,000	-120,000	8,000×45名
入会金	60,000	68,000	-8,000	2,000×34名
賛助会費	22,000	0	22,000	0
広域性	300,000	130,000	170,000	5件
雑収入	294,437	558,510	-264,073	学会誌、第33回学会大会(東北福祉大)等
合計	5,600,000	4,648,073	951,927	
印刷費	3,100,000	3,106,685	593,315	学会ニュース76、77、78、学誌No.31(大分号)、活動誌、印刷費等
通信費	550,000	356,592	19,408	学会ニュース(76)、77、78、学誌(76)、77、78、会議通知等
事務用品費	70,000	6,226	63,774	文書
事務用品費	350,000	218,930	131,070	交通費・アルバイト代等
各専門委員会議費	100,000	33,148	66,852	委員会開催費・委員会通信費等
会議費	250,000	116,064	133,936	選挙用印刷費・共済費
印刷費	100,000	80,725	38,255	新学術情報誌会費
会議費	150,000	162,000	-12,000	理事会・常任理事会議費
大会補助費	201,000	200,630	370	第33回学会大会(東北福祉大)
予備費	128,000	0	128,000	0
次年度繰越金	0	365,063	-365,063	0
合計	5,600,000	4,648,073	951,927	

監査の結果、決算報告は適正であると認めます。

総収入：4,648,073  
総支出：4,283,010  
残高：365,063

平成16年4月16日

監事 寺島 新一

総会・会議 審議報告書(つづき)

日本レジャー・レクリエーション学会 平成16年度 事業計画(高)

I. 事業

- 1) 第34回学会大会開催  
期日：平成16年12月3日(金)・4日(土)・5日(日)  
場所：立教大学
- 2) 学会誌『レジャー・レクリエーション研究』の発行  
第52号(大分号)、第53号
- 3) 学会ニュース No.78、No.79、No.80の発行
- 4) 総会の拡大および活動の充実
- 5) 学内団体交流
- 6) 定例研究会の開催
- 7) 第35回学会大会開催準備
- 8) その他(学会の目的に関わる事項)

II. 会議

- 1) 学会総会の開催
- 2) 理事会の開催
- 3) 常任理事会の開催
- 4) 各専門委員会の開催
- 5) 学会の活性化に努む会議の開催
- 6) その他(学会の目的に関わる事項)

日本レジャー・レクリエーション学会

平成16年度 事業計画(高)

平成16年4月1日～平成17年3月31日 (単位：円)

科目	収入の部		支出の部	
	予算額	決算額	予算額	決算額
前年度繰越金	385,063	683,953	-298,500	0
年会費	3,200,000	4,000,000	-800,000	8,000×400名
過年度会費	640,000	240,000	400,000	8,000×80名
入会金	60,000	60,000	70,000	2,000×40名
賛助会費	22,000	22,000	0	22,000×1件(入会者含む)
広域性	300,000	300,000	-100,000	0
雑収入	172,937	294,437	-121,500	学会誌等
合計	4,700,000	5,600,000	-900,000	
印刷費	3,200,000	3,700,000	-500,000	学誌No.79-80、学誌No.32(大分号)、活動誌、印刷費等
通信費	400,000	550,000	-150,000	学会ニュース、学誌、会議通知等
事務用品費	70,000	70,000	0	文書、コピー用紙、トナー等
事務用品費	350,000	350,000	0	交通費・アルバイト代等
各専門委員会議費	100,000	100,000	0	委員会開催費・委員会通信費等
会議費	0	250,000	-250,000	選挙用印刷費・共済費
印刷費	100,000	100,000	0	新学術情報誌会費
会議費	200,000	150,000	50,000	総会・理事会・常任理事会議費
大会補助費	291,000	201,000	90,000	第34回学会大会(立教大)
予備費	78,000	128,000	-50,000	0
合計	4,700,000	5,600,000	-900,000	

-3-

平成15年度(2003年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第3回) 議事録

日 時：平成15年3月13日(日) 13:00～19:00

場 所：立教大学池袋キャンパス12号館地下3階会議室

出席者：松田、池井、鈴木(欠)、坂口、藤生、荒井、

西田、西野、松橋、藤岡、山崎、横内、小坂

会長挨拶

議 程

I. 確認事項

1) 堀口理事長

1) 前回常任理事会(第4回)議事録の確認

II. 報告事項

1) 堀口理事長

1) 平成15年度の会費納入状況について  
2月23日現在、正会員 345名(86.2%)が納入している。  
各会員の会費の納入状況を把握し、催促に納入していただくことが課題である。

2) レジャー・レクリエーション研究第52号の進捗状況について

テープ起こしが終了し、印刷所より刷合済み報告を受ける予定になっている。  
今年度中に発送できるよう努力したい。

3) その他

→西野常任理事

2004年9月8日～10日に開催される「全国レクリエーション世界大会」の出席を関係者に呼びかけている。

III. 審議事項

1) 平成15年度会計(中間)報告について

→西田常任理事

資料にもとづき、平成15年度決算(中間)報告がなされた。決算収入額は現時点で4,528,333円となっている。第77号ニュースレターと第52号学誌の誤りについては検討が必要である。次回の常任理事会にも報告の予定である

- 2) 各委員会報告について
  - 研究委員会
  - 庶務常任理事
  - レポートの整理管理等について年度末考えていきたい。
- 3) 西野常任理事
  - 新年度に向けてこの委員会が力をいれていけるべきかと再検討をしておく必要がある。
- 4) 藤岡理事
  - 堀口理事長
  - 立教大学から次の事務局をなるべく早い段階で検討していくことが求められている。
- 4) 藤岡(各委員)について
  - 堀口理事長
  - 今まで会長、副会長を経験した方は顧問になっていただいているが新役員で検討していく必要がある。
- 5) その他
  - 第34回学会大会について
  - 松橋常任理事
  - 期日：12月3日(金)、4日(土)、5日(日)
  - 場所：立教大学池袋キャンパス

平成16年度(2004年)  
日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第1回) 議事録

日 時：平成16年5月10日(月) 18:30～20:30

場 所：立教大学池袋キャンパス12号館地下1階会議室

出席者：池井、坂口、松橋、西田、小坂、片根、堀岡、

田中、西野、松橋、山崎、横内

会長挨拶

I. 確認事項

1) 前回常任理事会(平成15年度第3回) 議事録の確認

→西田常任理事

II. 報告事項

1) 入会案内の作成(改訂)について

→西田常任理事

- 1) 改訂部分は役員構成などである。サイズは定額封筒に入る大きさ。
- 2) 学会誌第52号の送付について
  - 西田常任理事
  - 送付済みである。
- 3) ニュース77号の作成について
  - 西田常任理事
  - 新年度には、会員数+100部とした。
- 4) 会費納入状況について
  - 西田常任理事
  - 5月10日現在、納入者94名と過年度未納者79名、合計173名であるが、未納者を再調査し、該当者65名に対しては書面丁寧な会費未納を告知して、継続の意思を確認した。その結果、15名からの返信があった。今後は3年未納の会員へのサービスは自動的に停止することにした。現在3年未納者は次期常任理事会に報告する旨の経過報告があった。
  - 上記の経過報告によって、会費未納問題の対策時間を若干持ち、次に新しい会費納入方法について継続検討するよう提案があり、次期常任理事会で討論することとなった。
- 5) その他
  - 西田常任理事
  - 本学会監事であった本島先生の葬儀が営まれた旨の報告があった。
  - 第34回学会大会の会計報告を近日中に行いたい旨の報告があった。

III. 審議事項

1) 平成15年度事業報告(高)について

→西田常任理事

総記の件について、資料1に基づき説明が行われ、「その他」の項目を具体的に細分化して次期常任理事会で検討を加えることで原案は承認された。

2) 平成15年度決算報告(高)について

→西田常任理事

総記の件について、資料2に基づき説明が行われ、原案通り承認された。

3) 会計監事について

→寺島監事

平成15年度決算報告(高)を修正監査の結果、適正であると報告された。

- 4) 平成16年度事業計画(高)について
  - 西田常任理事
  - 総記の件について、資料3に基づき、「学会誌の発行」については、第53号を大会号にすること、第54号を3月に発行すること、および第55号は次年度発行にすること、訂正、および「第35回学会大会開催費」については、会場は未定であり提携先が未定に決定した旨の説明があった。
  - 事業計画に関連して学会の活性化問題が討議され、常任理事会においても検討が必要なこと、なら、次期常任理事会で継続的に審議することとなった。
- 5) 平成16年度予算(高)について
  - 西田常任理事
  - 総記の件について、資料4に基づき、説明が行われ、支出の「印刷費等」では、学会誌第53号を大会号とすることに訂正され承認した。なお学会誌については大学院費への印刷費増加増進などが討議された。
- 6) 役員の確認について
  - 西田常任理事
  - 平成16年度・平成17年度役員における会長、副会長、理事長、常任理事、理事(理事長補佐)理事(会務)を、監事を確認した。
  - 本学会ニュースP.7参照。
- 7) 各専門委員会の構成について
  - 西田常任理事
  - 専門委員会の活性化をはかるため、理事長が整理して次期常任理事会で検討することが承認された。
- 8) 第34回学会大会について
  - 堀岡常任理事
  - 会場を立教大学で引き受けるに際して、実行委員会を早くに立ち上げた方が、基本的に実行委員は大卒を常任理事にしたい旨の要望があり、承認された。
- 9) その他
  - 西田常任理事
  - 入会希望者2名の承認、ならびに道徳希望者17名が承認された。

以上

事務局からのお知らせ

- バックナンバー(「歩み」を含む)の発行準備を行っています。特に新入会員におすすめます。
    - ①『歩み』32号の編成
      - 1冊¥2,000 (送料¥390)
      - ②『歩み』を除くその他の研究誌は、50・51号1冊 ¥1,000
      - 49号まで1冊 ¥1,000→¥500になります。(送料別)
  - 会員の皆様のお知り合いでジャーレクリエーションに関心のある方を事務局へお知らせください。
- [申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を添えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。]
- 平成16年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員は、至急納入手続きをお願いします。郵便振替番号 00130-3-602353
  - 学会のホームページをご覧ください。http://www.rikkyo.ac.jp/grp/jslrs

編集委員会からのお知らせ

●「ジャーレクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最長でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿してください。会員の皆様の情報的な役割をお願いいたします。

投稿論文送付先  
〒352-8558 埼玉県新庄市北野1の28  
立教大学 武蔵野新キャンパス  
コミュニケーション学部 松尾研究室  
[日本ジャーレクリエーション学会事務局]

会員の動静

●新入会員 (所属)

- ※34・35号 応募 (大分大学経済学部)
1. 小西 浩子 (大分大学経済学部)
  2. 山本佳代子 (西南大学法学部)
  3. 滝立行政人 (森林総合研究所)
  4. 中村 正巳 (秋葉学園短期大学)
  5. 丸山 善 (新宿一丁目クリニック・ユリの木クラブ)

●平成15年度 退会書

在久本穂代、八木穂元一、坂内夏子、小川克輝、松井謙、神原孝、松本朋二、浅井清司、常松裕人、斎藤ゆかり、大塚孝雄、藤井昭江、藤田千鶴子、中村千鶴子、秋山多喜男、大場伸、川村晴子、石井雅生、佐藤初雄

学会ニュース

日本ジャーレクリエーション学会

NOVEMBER 2004 No.79  
[Japan Society of Leisure and Recreation Studies]  
発行人 西田 俊夫 編集 編集委員会  
事務局 〒352-8558 埼玉県新庄市北野1-2-28 立教大学 武蔵野新キャンパスコミュニケーション学部 松尾研究室  
電話/FAX 048-471-7245 郵便振替 00130-3-602353

2005年スペシャルオリンピックを迎えるにあたって

日本ジャーレクリエーション学会  
副会長 松浦 三代子

暑かった夏、日本中を沸かせた「アテネオリンピック」その後が続いた「パラリンピック」、今は静かに秋を迎えています。

2005年2月長野県で知的発達障害者のオリンピック「オリムピックス」冬季世界大会が開催されます。熊本県一の宮町の阿蘇神社で振込され9月に各支団体に分火され、全国各地の支団体に運動し、知的発達障害のあるトーチャーナーが併走者とともに聖火を持って走り、冬季世界大会の機運を盛り上げています。

スペシャルオリンピックスは、知的発達障害のあるアスリートが自立と社会参加が出来るようサポートする国際的なスポーツ組織です。現在160の国、100万人のアスリートと75万人のボランティアが参加する国際的な大きな組織です。何時も圧倒されるのは、アスリートの熱気と支えをえるボランティアのエネルギーと行動力です。最近わが国でもボランティア活動が盛んになってきましたが、まだまだ道半ばです。

1999年日本身体障害者スポーツ協会は名称を日本障害者スポーツ協会と改称しました。知的障害者のスポーツ振興も含めて全ての障害者のスポーツ振興に力を注ぐことになったのです。

このようにして「障害者スポーツ」、「障害者スポーツ」という特殊なスポーツというパラが取り扱われたのです。

参加しているアスリートを見ると、リハビリテーションの一環として汗を流す人、趣味として楽しむ人、そして競技として激しいトレーニングに励んでいる人等、障害の有無に関係なく、本人の意志でスポーツ活動をしています。

多様な価値観が存在し、多様な選択が出来る21世紀。生命の尊さ、人間の幸せ、本当の福祉の姿を問うこの領域のボランティア活動に本学会員、関係者のご理解とご協力を期待するしだいで。

JSLRS

1. 学会副会長挨拶(松浦三代子)	..... P.1	6. 学会大会研究発表・演題	..... P.8
2. 第34回学会大会開催案内(第3期)	..... P.2	7. 常任理事会の報告	..... P.10
3. 赤レングと歴史の空気の中で(松尾哲矢)	..... P.2	8. 事務局からのお知らせ	..... P.11
4. 第34回学会大会開催要項	..... P.4	9. 編集委員会からのお知らせ	..... P.11
5. 地域研究「ジャーレクリエーションの今昔」投稿募集	..... P.6	10. 会員の動静	..... P.11

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

第34回学会大会開催のご案内 (第3報)

■日程 平成16年12月3日(金)~12月5日(日)  
■会場 立教大学池袋キャンパス 〒111-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

赤レングと歴史の空気の中で

第34回学会大会実行委員長 松尾 哲矢

池袋の駅から西へ15分ほど歩くとある立教大学の敷地には、今更には見えない「赤レング」の跡が、赤レングの建物が見える。今大会の会場である立教大学は、「赤レング」として1948年の開校以来、今年で56周年を迎えます。大会が行われる12月は、二本の赤木にマラヤヤチに打てるイルミネーションなども美しく、秋の気配を帯びます。

本大会では、21世紀を迎え、これからのジャーレクリエーションのビジョンをどのように構築すればよいか、また、グローバル化の進展に伴い、それぞれの組織が独自の理念と明確なビジョンをもち、いかに社会に向けたアピールと貢献を行うかが問われる時代において、本学会はどのような取り組みをすべきかという問題意識から、大会テーマとして、「21世紀グローバル社会に向けた学会発展のビジョンと戦略を再考」が設定されました。

ジャーレクリエーションの今昔を究る地域研究に始まり、創設者三氏(前日本サッカー協会技術委員長)にサッカーの立場から21世紀のスポーツと社会について語っていただきます。その後、豊島区文化局長(立教大学名誉教授)による基調講演とパネルディスカッションを通して、今後取り組むべき学会の課題を浮き彫りにし、学会活動の新たな展開に向けた将来ビジョンと具体的な戦略について議論します。ワークショップは、各基調ワークショップを加工3つ開催されます。

懇話の場でではマラヤチのイルミネーションとハンパルの美しい景色に、一般発表の会場には、チャペルでの礼拝の美しい景色に、美しい一瞬を楽しんでいただきます。本学会が赤レングと歴史の空気の中で21世紀のジャーレクリエーションの発展を考へる空間になればと念願してあります。

当日は、いくつかの他学会が開催されることもあり、行き帰りにご迷惑をおかけしますが実行委員ならびにスタッフ一同、皆様のご参加をよりお待ちしております。

立教大学池袋キャンパス位置図



第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

立教大学池袋キャンパス案内図



理事会 平成16年12月4日(土) 11:00~12:00 会場 本館1103教室  
総会 平成16年12月5日(日) 13:10~14:10 会場 7号館7102教室

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

日本レジャー・レクリエーション学会  
第34回学会大会開催要項

大会テーマ『21世紀グローバル社会に向けた学会発展のビジョンと戦略を考える』

- 主催：日本レジャー・レクリエーション学会
- 共催：日本レジャー・レクリエーション学会第34回学会大会実行委員会
- 期日：平成16年12月3日(金)・4日(土)・5日(日)
- 会場：立教大学池袋キャンパス  
〒171-0021 東京都豊島区西池袋3-34-1
- 日程
  - 第1日目 12月3日(金)
    - 13:00~13:10 受付(銀治橋駐車場：J R東武八重洲南口から徒歩5分)
    - 13:10~13:20 開会挨拶 坂口正治(学会副会長)
    - 13:20~17:00 地域研究 テーマ『都市レジャーの今昔』  
(Ⅰ)都市再生とレジャー空間(六本木ヒルズ)  
(Ⅱ)江戸の娯楽とライフスタイル(江戸東京博物館)
  - 第2日目 12月4日(土)
    - 11:00~12:00 理事会
    - 12:00~ 受付
    - 13:00~13:15 会長挨拶 池井正昭(日本レジャー・レクリエーション学会会長)
    - 13:15~14:15 特別講演(7102教室)  
「サッカーからみた21世紀のスポーツビジョンと戦略」  
田嶋幸三(前日本サッカー協会技術委員長)
    - 14:20~15:05 基調講演  
「始動した21世紀において学会に求められる役割」  
森茂寿太郎(東京農工大学学芸 改革推進担当/日本遊園学会副会長)
    - 15:10~16:30 パネルディスカッション  
『21世紀の学会発展のビジョンと戦略を考える』  
コーディネーター：麻生 恵(東京農業大学)  
パネリスト  
○日本レジャー・レクリエーション学会のこれまでの取り組みから 鈴木秀雄 藤澤洋一 松島良  
○国際化の動きと国際化への対応から  
○産業界、行政等との連携から

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

- 16:40~18:30 ワークショップ
  - ①セラピューティックレクリエーション専門分科会  
テーマ：要介護予防運動指導におけるセラピューティックエクササイズの意味と意義  
~今年度(2004年)から始動した要介護予防運動指導者養成(資格認定制度をもつて)~  
話題提供者：鈴木秀雄(東京学院大学) (10号館304教室)
  - ②『景観・造園・環境』及び『レジャー・レクリエーション産業』の合同開催  
テーマ：レクリエーション資源空間と産業に関わる研究の今後の取り組みを考える  
コーディネーター：栗田和弥(東京農業大学)  
櫻崎 寿(筑波大学) (10号館305教室)
  - ③公募ワークショップ  
テーマ：個別プログラムとケースワークの実践  
コーディネーター：吉岡尚美(東海大学)  
話題提供者：茅野宏明(武蔵川女子大学)ほか (10号館306教室)
- 18:40~20:10 懇親会(立教大学第一食堂二階「藤だん」)
- 第3日目 12月5日(日)
  - 8:30~ 受付
  - 9:00~10:00 研究発表 A会場(7101教室) <3演題>  
B会場(7102教室) <3演題>
  - 10:05~11:05 研究発表 A会場(7102教室) <2演題>  
B会場(7102教室) <2演題>
  - 11:10~11:50 研究発表 A会場(7101教室) <2演題>  
B会場(7102教室) <2演題>
  - 12:30~13:00 オルガンコンサート(チャペル)
  - 13:10~14:10 総会(7102教室)
  - 14:10~15:10 研究発表 A会場(7101教室) <3演題>  
B会場(7102教室) <3演題>
  - 15:15~16:15 研究発表 A会場(7101教室) <2演題>  
B会場(7102教室) <3演題>

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

地域研究『都市レジャーの今昔』参加者募集

- 第1日目 12月3日(金)
- 13:00~13:10 受付(銀治橋駐車場：J R東武八重洲南口から徒歩5分)
  - 13:10~13:20 開会挨拶 坂口正治(学会副会長)
  - 13:20~17:00 地域研究 テーマ『都市レジャーの今昔』  
(Ⅰ)都市再生とレジャー空間(六本木ヒルズ)  
(Ⅱ)江戸の娯楽とライフスタイル(江戸東京博物館)

大会初日の恒例となった地域研究を12月3日(金)に開催します。4年ぶりに東京で開催される今回は『都市レジャーの今昔』がテーマです。

首都東京は、江戸時代の幕府から現在に至るまで、わが国の都市レジャーの中心地として発展してきました。その400年の歴史の中で、江戸から東京にいたる都市レジャーがどのように変遷したかを体験するツアーです。

テーマ1：都市再生とレジャー空間 ~六本木ヒルズ~

『都市レジャーの今昔』として、六本木ヒルズを見学します。  
ここは昔と変わった現代都市レジャーの中心地です。1人で何処へも出かけなくても、まわりきれいな緑の都市レジャー空間を、ウォーキングツアーで発見します。  
また、六本木ヒルズは都市再生と自然との共生の場としても見所いっぱいです。今回は、個人では見学できない『ゆき坂コンプレックスの屋上庭園』を見学します。  
また、一般には非公開の会員制クラブの見学・体験も予定されています。

テーマ2：江戸の娯楽とライフスタイル ~江戸東京博物館~

『都市レジャーの今昔』として、江戸東京博物館を見学します。  
江戸東京博物館は、失われつつある江戸東京の歴史遺産を守るとともに、東京の歴史と文化を振り返ることによって東京の未来を考えるために設立された博物館です。また、展示室は、『江戸ゾーン』『東京ゾーン』『歴史ゾーン』で構成され、浮世絵や絵巻、貨幣、古道具など約1,500点、大型模型など約300点あまりが展示されています。

ここでは、まずガイドによる解説聞き、江戸の娯楽やライフスタイルに関する見学を済ませます。その後には旗本屋敷を、各自興味のある展示施設を見学して頂く予定です。12月3日(金)は午後8時まで開催しています。

テーマ3：移動に『はとバス』を利用します

見学会の交通機関は『はとバス』です。半世紀以上わたって、都市住民や観光客に親しまれている『はとバス』ですが、利用したことがない会員も意外に多いのではないのでしょうか。これを機会に是非現実の『はとバス』ツアーを実体験してください。

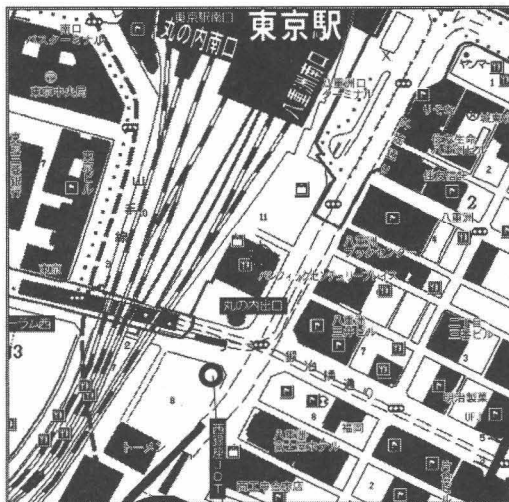
ちなみに、『はとバス』の設立は1948年(昭和23年)、その際の趣旨は「内外人ヲ対象トシテ、内八国内観光ニ新時代のシテ快速ナサービスヲ供スル……、外八国内観光ニ対シテ本事業ヲ進ジテ、新生平和日本ノ良ノ表ヲ紹介ス……」と、戦後復興期の意気込みが込められています。それから半世紀、『はとバス』は昭和の都市レジャーを牽引し、現在も新しい東京の姿を国内外の人々に届けています。

その他：同業者(非会員)の参加を歓迎します

今回の地域研究は公開形式なので、非会員の参加も歓迎します。非会員の学生さんや同業者にも是非お声をかけてください。参加申込ハガキに同業者の記入欄があります。御用聞き下さい。参加費は会員・非会員とも1人8,500円。参加者30~55人を予定しています。

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

地域研究『都市レジャーの今昔』  
集合場所案内



第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

第34回学会大会研究発表・演題

■ 研究発表 A会場 (7101教室)

- 座長：京野 基子 (淑徳大学) 9:00~10:00
- A-01 高齢者における歩行速度の向上  
～介助歩行装置と歩行分析装置の製作から～  
○小畑 一也 (国際医療福祉大学)
- A-02 老人医療・福祉施設におけるレクリエーションプログラムおよびレクリエーション専門職の役割に関する研究!  
○小池和幸 (筑波大学)
- A-03 セグメント表(身体能力・CD)によるレクリエーションプログラムの抽出  
○早坂孝治 (香梅堂及病院)

質疑応答

- 座長：野村 一浩 (日本体育大学) 10:05~11:05
- A-04 高齢者の余暇活動について(6)  
～主にコホート調査にみられる満足感と誇りを感じて～  
○上野 孝 (余暇問題研究所)

- A-05 個別レクリエーションの必要性とその効果について  
○牧野 隆子 (医療法人協会 東前橋)

- 植木 順子 (横浜国立大学) 付-C  
吉岡 尚美 (東海大学体育学部)

- A-06 TR Accountability Model (TRAM) に基づくアセスメント用紙の作成と実用性について  
○植木 順子 (横浜国立大学) 付-C  
佐藤 宏子 (医療法人協会 東前橋)

- 吉岡 尚美 (東海大学体育学部)

質疑応答

- 座長：荒井 裕子 (学芸大学) 11:10~11:50
- A-07 現代におけるスポーツの存在意義に関する一考察  
～身体的関係性と関連から～  
○大塚 謙子 (九州大学)

- A-08 遊びと日常性  
～遊びの原理的研究の継承を求めて～  
○藤部 百合子 (池光大学人間関係学部)

- 藤部 百合子 (池光大学人間関係学部)

質疑応答

- 座長：長崎 伸 (関西福祉科学大学) 14:10~15:10
- A-09 砂の堆積化に向けて(3)  
～「砂り」と「くつまろ」～  
○西野 仁 (東海大学)

- A-10 「楽しい体育」におけるフロー理論適用の意義と実践  
○田 俊道 (広島市立大学)

- A-11 給乳期のライフデザイン  
～生活形態や環境変化による身体機能の変化を中心として～  
○田中 光 (国立学芸短期大学)

- 鈴木 英信 (東海大学非常勤)
- 鈴木 秀雄 (東京大学人間科学部)

質疑応答

- 座長：小池和幸 (仙台大学) 15:15~15:55
- A-12 親子学習指導者育成認定制度の構築  
○鈴木 秀雄 (東京大学人間科学部)

- 田中 光 (国立学芸短期大学)
- 鈴木 英信 (東海大学非常勤)

- A-13 親子学習指導内容の検討  
～生活スタイルの多様化を背景として～  
○鈴木 英信 (東海大学非常勤)

- 田中 光 (国立学芸短期大学)
- 鈴木 秀雄 (東京大学人間科学部)

- 坂口 正浩 (東洋大学社会学部)

質疑応答

第34回学会大会 (立教大学 2004年12月3日・4日・5日)

■ 研究発表 B会場 (7102教室)

- 座長：谷口 真一 (大分大学) 9:00~10:00
- B-01 クラッシュ・イベントへの参加意識について  
～ヴェブレンの「有閑階級の理論」を手がかりに～  
○沖 真衣子 (東海大学大学院)

- B-02 大学生アスリートの日常生活様式について  
～T大学体育会アメリカンフットボール部員・野球部員の日常生活様式～  
○藤原 弘 (東海大学大学院)

- B-03 「楽しい」レクリエーションプログラムにまつての一考察  
～楽しい環境づくりの提案～  
○吉岡 尚美 (東海大学体育学部)

質疑応答

- 座長：下村 彰男 (漢学大学) 10:05~11:05
- B-04 デジタル・アーカイブと観光ナビゲーションシステムの可能性  
○土屋 進 (青森大学)

- B-05 宮古・雫・崎半島のリゾート開発における国民休暇村の役割と貢献  
○田中 謙 (日本メニエティ研究所)

- B-06 「江戸名所花見」に見るサクラの名所と花見の権威  
○畑井 正明 (新潟県立大学)

質疑応答

- 座長：山田 力也 (西九州大学) 11:10~11:50
- B-07 NAPA 年次大会レジャー・研究シンポジウム抄録にみる研究動向(2001~2003年)  
～特に社会変化への対応の視点から～  
○栗原 年次 (余暇問題研究所)

- 高橋 伸 (国際基督教大学)
- 高橋 和敏 (余暇問題研究所)

- B-08 企業における社員健康づくり事業と地域貢献に向けた取り組み  
～T社における事例中間報告～  
○窪田 浩 (余暇問題研究所)

- 山崎 博子 (余暇問題研究所)

質疑応答

- 座長：山崎 博子 (余暇問題研究所) 14:10~15:10
- B-09 地域福祉とレクリエーション  
～地域レクリエーション協会に注目して～  
○立木 宏樹 (九州保健福祉大学)

- B-10 地域との連携を促進したレクリエーション講習員自任による教育効果の検証  
～レクリエーション協会職員研修会における実践事例として～  
○谷口 真一 (大分大学)

- B-11 福島のレクリエーション利用における視覚的デザインの設計について  
○大澤 由紀子 (東京農業大学)

- 藤生 恵 (東京農業大学健康科学部)

質疑応答

- 座長：田中 伸彦 (産科総合研究所) 15:15~16:15
- B-12 アジア地域の山岳国立公園における登山利用行動の管理手法の比較  
～富士山(日本)、玉山(台湾)、キナバル山(マレーシア)を対象として～  
○金子 茂博 (東京農業大学)

- 藤生 恵 (東京農業大学健康科学部)
- 下崎 聖 (東京農業大学)

- B-13 山岳国立公園における団体客の観光利用の実態  
○下崎 聖 (東京農業大学)

- 藤生 恵 (東京農業大学健康科学部)

- B-14 サガルマータ(エベレスト)登山活動と周辺地域の観光利用が自然環境に及ぼす人的影響  
○下崎 聖 (東京農業大学)

- 藤生 恵 (東京農業大学健康科学部)

質疑応答

平成16年度(2004年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第2回)議事録

日 程：平成16年7月5日(月) 18:00~20:00  
場 所：立教大学池袋キャンパス12号館

出席者：植井、坂口、松浦、西田、藤生、小畑、井原、高橋、下村、田中、西野、沼澤、松浦、松浦、山崎、横内

会長挨拶

議題

I 議事事項  
前回常任理事会(平成16年度第1回)議事録の確認  
→西田理事長

II 報告事項  
1) 会費納入状況について  
→西田理事長  
7月5日現在、納入者221名

2) 入会案内について  
→西田理事長  
資料参照 2004年度~2005年度の役員名簿の閲覧  
とくに、名簿・所属については誤りがないように留意したい。

3) 学会大会発表申し込み者について  
→西田理事長  
6月30日〆切りで現在24名の申し込みがあった。申し込み状況としては、昨年、一昨年と比較すると高い状況だが、さらに増やす努力をしたい。今後とも対応することとして、7月下旬まで状況を見ていくことにしたい。

4) その他  
→西田理事長  
理事就任の承諾については、全理事の承諾を得ていること、

III 審議事項  
1) 理事会設置各専門委員会の構成(案)について  
→西田理事長  
資料により学会の専門委員会の構成(案)が確認された。

また、議井会長よりとくに学会の活性化を図る

以上

→10

ために「理事会の運営に関する規定」が説明された。

次回の常任委員会の会合は、各担当に対し副会長より指摘され、議論を始めることとした。

2) 第34回学会大会(立教大学)のテーマについて  
→松浦理事  
資料にもとづき、第34回学会大会大拡大会委員会の第1回会合で検討された準備状況、組織構成、役割などが承認された。

なお、今後の実行委員会のスケジュールは、大会プログラム、開催などが決定され、大会開催の運びなども皆旨報告された。

3) 第34回学会大会の広告料の確認について  
→西田理事長  
資料にもとづき、大会費広告掲載費が確認され、9月30日(水)の申込み〆切りまで積極的に進めていくことが求められた。

4) 平成15年度事業報告案について  
→西田理事長  
資料にもとづき、平成15年度事業報告書(案)が原案どおり承認された。

5) 平成15年度決算報告(案)について  
→西田理事長  
資料にもとづき、平成15年度決算報告書(案)が原案どおり承認された。

6) 平成15年度事業計画(案)  
→西田理事長  
資料の中「5 会議 5」学会の活性化に伴う会議の開催を  
「5 会議 5」学会の活性化に係る会議の開催に  
修正し、承認された。

7) 平成16年度予算(案)  
→西田理事長  
資料中の支出の部、印刷費の概要の項中「学会誌53(大会号)54号」を削除し、「学会誌52・53(大会号)」に修正し、承認された。

IV その他  
1) 会員の動向  
→西田理事長  
入会希望者2名が承認された。(丸山 香、中村 正広)

2) 3年以上の未納者(9名)について係理事より詳細な報告があり、その返りぬきについて話し合ったが、連絡してまだ返さぬ53名については、追討したものとし、さらに検討することとした。

以上

→10

事務局からのお知らせ

- バックナンバー(「歩み」を含む)の実装配布を行っています。特に新入会員におすめします。  
①「歩み」37号の雑誌  
1冊 ¥2,000 (郵送料 ¥300)  
②「歩み」を除くその他の研究誌は、50~53号 1冊 ¥1,000~¥500になります。49号まで1冊 ¥1,000~¥500になります。(送料別)
- 会員の皆様のお知らせにレジャー・レクリエーションに関心のある方を事務局へお知らせください。  
(申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を揃えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。)
- 平成16年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員は、至急納入手続きをお願いします。  
口座振替番号 00150-3-802353  
口座名「日本レジャー・レクリエーション学会」
- 学会のホームページをご覧ください。  
<http://www.rikkyo.ne.jp/np/jslrs>

編集委員会からのお知らせ

- 「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●
- 投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最長でも2ヶ月程度の間を要する点を考慮して、投稿してください。
- 投稿論文送付先  
〒352-8558 埼玉県新座市北野1の2の26  
立教大学 武蔵野新座キャンパス  
コミュニティ福祉学部 松尾研究室  
会員の皆様への積極的な投稿をお願いします。  
「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

会員の動静

- 新入会員 (所属) 計14名(入会者の詳細はこちら)
- 6. 伊藤 理子 (東海大学大学院)
- 7. 高山 優子 (京都工芸繊維大学(非常勤講師))
- 8. 小長谷 悠紀 (立教大学観光学部)
- 9. 北高 幹士 (東海大学福岡短期大学)
- 10. 大阪体育大学図書館

●平成16年度 退会者

岡田 隆造



平成17年 8月

# 学会ニュース

JUN 2005 No.80

日本レジャー・レクリエーション学会  
(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)  
発行人 西田 俊夫 編集 広報渉外委員会

事務局 〒254-8510 埼玉県久喜市三芳町久喜1159-1 編集大学 国際コミュニケーション学部 西田俊夫研究室内  
電話 0495-74-1511 fax 0495-74-0253

---

## 学会の「活力」向上を目指して

日本レジャー・レクリエーション学会  
会長 油井 正昭  
(桐蔭横浜大学)

日本レジャー・レクリエーション学会は、1964年に15名の先覚者によって発足した研究懇話会が発展して1971年に設立された。研究懇話会時代から数えると歴史は40年を超え、この間多くの方々の努力により今日が築かれてきたが、さらなる発展に向け学会の「活力」向上が必要である。

卒業の学会運営では、会員が積極的な学会活動に資する会員サービスのあり方が頻りに討議されている。学会の「活力」は会員活動でもたらされるから、会員が増加し経営的に学会誌や学会ニュースの発行回数を増やすことが理想だが、現在は経費的に可能な「活力」向上上の工夫を行っている。その一つが学会大会のプログラムである。

学会の「活力」を示す指標の一つに、大会の参加者数、研究発表数が増えること、大会参加者数は、開催地や開催時期が関係するが、会員の参加率を高めたいと考えている。そのためには、大会に魅力的なプログラムが必要であり、一年前から開催地の特性をレジャー・レクリエーションの視点で捉える「地域研究」を、エクスカーション形式で取り入れた。地域性について専門家の解説を受けながら会員と一緒に歩く、会場間のコミュニケーションが深まる機会になり、日常の研究活動や教育にも役立つプログラムになっている。「地域研究」の実施で大会前日目が3日間になったが、大会参加の魅力は増えた。

大会での研究発表数は、近年は25〜30編で推移している。学会の「活力」向上には、研究発表が増え、学術討論が発見されるのが重要である。研究発表は多様な形式が考えられるが、今年「ポスター発表」を導入することになった。「ポスター発表」が効果的なテーマは、積極的に展示形式のポスター発表をして頂き、大会に新しい活力を添えて頂く。論文発表にポスター発表が加わり、研究発表数が増えることを期待している。

このように大会プログラムの内容を工夫することにより、参加しやすく、参加する魅力を感じる大会を育てて行きたい。大会が3日間になり、全日程の都合が付かない場合は、この内2日間だけ、あるいは1日だけでも参加して頂く。大会への参加は、会員一人ひとりの行動の問題だが、その行動の結果が学会の「活力」を向上させる。学会の「活力」は学会発展の原動力であり、学会員を増やす効果にもつながる。会員のご協力をお願いして学会の「活力」向上を図りたい。

---

**JSLRS**

<b>目次</b> 12	1. 学会の「活力」向上を目指して(油井正昭) …… P. 1	7. 平成17年度予算案 …… P. 5	8. 平成17年度決算報告書 …… P. 5	
	2. 第35回学会大会開催案内(第1報) …… P. 2	9. 常任理事會・理事會の報告 …… P. 6	9. 常任理事會・理事會の報告 …… P. 6	
	3. 第35回学会大会研究発表論文の審査要旨 …… P. 8	9. 常任理事會による進捗管理の進捗報告 …… P. 9	10. 常任理事會による進捗管理の進捗報告 …… P. 9	10. 常任理事會による進捗管理の進捗報告 …… P. 9
	4. 平成16年度事業報告書(案) …… P. 4	10. 常任理事會による進捗管理の進捗報告 …… P. 9	11. 事務局・編集委員会のお知らせ …… P. 12	11. 事務局・編集委員会のお知らせ …… P. 12
	5. 平成16年度決算報告書(案) …… P. 5	11. 事務局・編集委員会のお知らせ …… P. 12	12. 会員の動向 …… P. 12	12. 会員の動向 …… P. 12
	6. 平成17年度予算案(案) …… P. 5	12. 会員の動向 …… P. 12		

---

—1—

## 第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

### 第35回学会大会のご案内 (第1報)

■日 程 平成17年12月9日(金)〜11日(日)  
■会 場 国際基督教大学 (ICU)

〒161-8535 東京都三鷹市大沢3-10-2



▶速報地から国際基督教大学(ICU)まで▶

**航空機利用の場合**  
 羽田空港(東京国際空港) → 東横線 → 横浜駅 → 京浜東北線 → 横浜駅 → 有楽町線 → 茗荷谷駅 → 丸の内線 → 茗荷谷駅 → 丸の内線 → 茗荷谷駅 → 丸の内線 → 茗荷谷駅

**新幹線利用の場合**  
 千葉線 → 大塚駅 → 山形線 → 秋田線 → 上越線 → 長野新幹線(東京駅) → 上野駅 → 山手線 → 茗荷谷駅 → 丸の内線 → 茗荷谷駅

—2—

## 第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)



▶最寄り駅からICUまで▶

- JR中央線武蔵境駅(南口)
  - 小田急バス「国際基督教大学」行き車中。終点下車(乗車時間約15分、大塚境内まで入ります)
  - 小田急バス「新江古田」行き車中。「新江古田」下车(乗車時間約15分) 徒歩10分
- JR中央線三鷹駅(南口)
  - 小田急バス「国際基督教大学」行き車中。終点下車(乗車時間約20分、大塚境内まで入ります)
  - 小田急バス「武蔵小山」行き車中。武蔵小山駅下車(終点) 徒歩10分
  - 小田急バス「武蔵小金井」行き車中。武蔵小金井駅下車(終点) 徒歩10分
- 京王線茗荷谷駅(北口)
  - 小田急バス「茗荷谷駅」行き車中。茗荷谷駅下車(終点) 徒歩10分
  - 小田急バス「茗荷谷駅」行き車中。茗荷谷駅下車(終点) 徒歩10分

※最寄り駅からはバスまたはタクシーをご利用ください。

---

### 研究発表および、ポスター発表の申し込み

本年学会大会は、より多くの研究 実践者を発表の機会を提供する試みとして、研究発表に對してポスター発表を追加します。これは研究者にアピールと場外スペースが与えられ、集まった観客に対して対面でも発表、質疑応答を行うものです。前、研究発表・ポスター発表とも同研究発表者にも限られます。両者の場合には年次入会申請書の送りください。

1. 研究発表申し込みの方法  
 官製1府券(1枚50円)に研究発表と題して、著者、氏名および所属(共同研究または個人研究の区別)、および共同研究の場合は共同研究者の氏名を記入してください。共有(共同研究の場合は代表者とします)郵便番号、電話番号を記入の上、7月28日(金)まで、学会事務局(国際大学)へお申し込みください。宛先の登録住所用紙を申し込み票に記載されている発表者の住所に送付してください。

2. ポスター発表申し込みの方法  
 官製1府券(1枚50円)に「ポスター発表」と題して、著者、氏名および所属(共同研究または個人研究の区別)、および共同研究の場合は共同研究者の氏名を記入してください。共有(共同研究の場合は代表者とします)郵便番号、電話番号を記入の上、7月28日(金)まで、学会事務局(国際大学)へお申し込みください。宛先の登録住所用紙を申し込み票に記載されている発表者の住所に送付してください。

3. 申し込み先(学会事務局)  
 〒254-8510 埼玉県久喜市三芳町久喜1159-1  
 編集大学 国際コミュニケーション学部 西田俊夫研究室内  
 日本レジャー・レクリエーション学会事務局

---

—2—

## 日本レジャー・レクリエーション学会 平成16年度 事業報告書(案)

総会・企画 審議委員報告

1. 要 要

- 1) 第35回学会大会(9/10日・11日)の開催(12月9日・10日・11日) 場所: 国際基督教大学
- 2) 学会誌「レジャー・レクリエーション」の発行(年2回) 発行部数: 1,000部
- 3) 学会ニュース/雑誌 発行部数: 1,000部
- 4) 学会誌「レジャー・レクリエーション」の発行(年2回) 発行部数: 1,000部
- 5) 学会誌「レジャー・レクリエーション」の発行(年2回) 発行部数: 1,000部
- 6) 学会誌「レジャー・レクリエーション」の発行(年2回) 発行部数: 1,000部
- 7) 学会誌「レジャー・レクリエーション」の発行(年2回) 発行部数: 1,000部
- 8) 学会誌「レジャー・レクリエーション」の発行(年2回) 発行部数: 1,000部
- 9) 学会誌「レジャー・レクリエーション」の発行(年2回) 発行部数: 1,000部
- 10) 学会誌「レジャー・レクリエーション」の発行(年2回) 発行部数: 1,000部

II. 会 費

- 1) 学会誌「レジャー・レクリエーション」の発行(年2回) 発行部数: 1,000部
- 2) 学会誌「レジャー・レクリエーション」の発行(年2回) 発行部数: 1,000部
- 3) 学会誌「レジャー・レクリエーション」の発行(年2回) 発行部数: 1,000部
- 4) 学会誌「レジャー・レクリエーション」の発行(年2回) 発行部数: 1,000部
- 5) 学会誌「レジャー・レクリエーション」の発行(年2回) 発行部数: 1,000部
- 6) 学会誌「レジャー・レクリエーション」の発行(年2回) 発行部数: 1,000部

---

### 平成16年度決算報告書(案)

日本レジャー・レクリエーション学会 平成16年4月1日〜平成17年3月31日 (単位: 円)

種 目	予算額(円)	決算額(円)	予算対比(A-B)	備 考
前年度繰越金	385,063	385,063	0	
年次決算費	5,250,000	2,576,000	2,674,000	8,000×32名(新入会員13名、継続会員17名各者)
入 会 金	640,000	728,000	88,000	8,000×92名
入 会 費	80,000	26,000	54,000	2,000×28名
賞 励 金	22,000	0	22,000	
広 告 費	200,000	30,000	170,000	
雑 費	172,827	590,811	-417,984	
合 計	4,700,000	4,325,874	374,126	
出 入 の 部				
印刷費	3,500,000	2,534,476	965,524	幹事会2名、幹事会5名、事務局、事務局、事務局
通信費	400,000	322,513	77,487	学会ニュース、学会誌、会議録等の発行
事務用品費	10,000	18,740	-8,740	文具、コピー用紙、トナー等
事務経理費	360,000	53,424	306,576	交通費/アルバイト代等
各種印刷費	100,000	15,000	85,000	委員会委員、事務局委員等
雑 費	0	0	0	
内外学費控除費	100,000	129,665	-29,665	関係学連体委員会
会 費	200,000	121,866	78,134	協会、事務局、幹事会委員等
大会補助費	201,000	200,000	1,000	第34回学会大会(立教大学)
雑 費	70,000	0	70,000	
次年度繰越金	0	889,792	-889,792	
合 計	4,700,000	4,325,874	374,126	

総額差: 4,325,874  
 経費差: 2,446,502  
 純増: 889,792

監事 寺島 豊  
監事 大谷 隆  
平成17年5月28日

---

—4—

総会・会議 要綱要項報告(つづき)

日本レジャー・レクリエーション学会 平成17年度 事業計画(案)

- I. 事業
- 1) 第34回学会大会の開催/期日:平成17年12月8日(祝日)-11日(土日)開催。場所:立教大学大ホール
  - 2) 学誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行/発行元:東京、秋田
  - 3) 学会ニュース/雑誌、雑誌の発行
  - 4) 学員の募集/活動推進委員会(3月31日締め切り)、新理事募集、新理事長選出、会長・副会長・監事の選出、新理事長による新理事選出(1-2月の間)
  - 5) 組織の拡大による「学入会員の募集、立正学園の提携、「レジャー・レクリエーション研究」投稿論文募集の拡大等
  - 6) 学誌編集上の文芸/日本学術会議、日本公認統計学会大会、日本学術協力賞、体育学・スポーツ科学研究連絡会
  - 7) 立教大学との関係/連携関係
  - 8) 学誌の活性化による関係の維持/運営関係
  - 9) その他(学会の目的に關する事項)
    - ① 会長・副会長
    - ② 専任理事・非常任理事
- II. 会議
- 1) 学会総会の開催/平成17年12月11日(日) 立教大学大ホール
  - 2) 理事会の開催/毎月開催
  - 3) 常任理事会の開催/毎月開催
  - 4) 各種専門委員会の開催/毎月開催
  - 5) 学会の活性化に關する会議の開催/運営関係
  - 6) その他(学会の目的に關する事項)

日本レジャー・レクリエーション学会

平成17年度 予算(案)

		平成17年4月1日~平成18年3月31日(単位:円)			
		取 入		出 部	
目 目	本年予算	前年度予算	増減(A-B)	目 目	本年予算
前年度繰越金	800,792	365,083	435,709	印刷費	3,200,000
年度会費	3,900,000	3,900,000	0	通信費	300,000
講座会費	320,000	640,000	-320,000	事務用品費	70,000
入会費	40,000	60,000	-20,000	事務局運営費	100,000
賛助金	22,000	22,000	0	各専門委員会の費	100,000
誌 誌	50,000	200,000	-150,000	遊学研修費	250,000
雑 収 入	178,278	172,837	5,441	学内学際交流費	100,000
合 計	4,700,000	4,700,000	0	会 費	200,000
				大 典 贈 答 費	201,000
				予 算 外	178,000
				合 計	4,700,000

平成16年度(2004年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第3回) 議事録

開催日:平成16年10月26日(日) 18:00~19:30  
 開催場所:立教大学池袋キャンパス大ホール12号館地下1会議室  
 出席者:池井、松浦、鈴木、原生、小塚、坂口、田中、西田、西野、松尾、山崎、橋内

会長挨拶  
 議 題  
 I 確認事項 → 常任理事  
 前回常任理事会(平成16年度第2回)の議事録の確認

II 報告事項  
 1) 会費納入状況について → 小塚常任理事  
 10月25日現在 納入者26名  
 昨年度の状況に比べると納入者が少ない。12月の学会大会で会費納入を積極的に行いかけたい。  
 2) 第34回学会大会の発表申し込み状況について → 松浦常任理事  
 発表申し込み 27題  
 3) 学会ニュース79号・79号について → 松浦常任理事  
 79号に学会大会のプログラムを掲載して11月8日に発送予定

III 審議事項  
 1) 第34回学会大会の開催について → 松浦常任理事  
 資料(第34回学会大会開催要綱)により、12月9日(日)の開催から12月5日(日)の開催までの日程が確認された。  
 2) 第34回学会大会の特別講演、基調講演、パネリストによる特別講演、パネリストによる特別講演、パネリストによる特別講演について → 松浦常任理事  
 ① 特別講演 (立教大学名誉教授) 池井 俊子  
 ② 特別講演 (立教大学名誉教授) 小塚 敏夫  
 ③ 特別講演 (立教大学名誉教授) 坂口 勲  
 ④ 特別講演 (立教大学名誉教授) 田中 伸彦  
 ⑤ 特別講演 (立教大学名誉教授) 西野 洋平  
 ⑥ 特別講演 (立教大学名誉教授) 松尾 隆雄  
 ⑦ 特別講演 (立教大学名誉教授) 山崎 隆雄  
 ⑧ その他  
 ⑨ 編集委員会より → 常任理事  
 学誌第54号は年度内の発行を目指す

「活動した」日記において学会に求められる役割が基調講演されることと確認された。  
 ⑨ パネリストカクシヨウ  
 タイトル「21世紀の学会発表のビジョンと戦略を考える」  
 コーディネーター 立教大学池袋キャンパス大ホール 池井俊子氏  
 講師 池井俊子氏が担当して実施する確認をした。  
 パネリストについては再度検討し、大会実行委員長に一任することとなった。

3) 第34回学会大会のワークショップの確認について → 松浦常任理事  
 従来実施してきたワークショップの他に公開ワークショップとして、武蔵川女子大学教授 茅野宏明氏よりテーマ「個別プログラムとネットワークの両立」があった。その実施にあたっては協議、承認された。  
 4) 学誌第53号(大会号)について → 松浦常任理事  
 11月20日に発送する予定で現在進めている。基調講演の内容、研究発表の抄録を掲載することが確認された。  
 5) 35回学会大会の開催会場について → 松浦常任理事  
 まだ開催会場が定まっていない。次回11月22日(日)の常任理事会までに候補地を選び、常任理事会で決定したい。できれば35回の会場についても検討していきたい。  
 6) 学会活性化検討の委員会設置について → 松浦常任理事  
 学会の活性化に向けて委員会の名称を学会活性化検討委員会(仮)として進めたい。  
 この会の方向性委員選出については次回の常任理事会で検討・決定したい。  
 7) 入会・退会者について → 松浦常任理事  
 入会希望者  
 ① 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ② 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ③ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ④ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑤ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑥ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑦ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑧ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑨ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑩ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑪ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑫ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑬ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑭ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑮ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑯ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑰ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑱ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑲ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ⑳ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㉑ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㉒ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㉓ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㉔ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㉕ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㉖ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㉗ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㉘ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㉙ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㉚ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㉛ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㉜ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㉝ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㉞ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㉟ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㊱ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㊲ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㊳ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㊴ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㊵ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㊶ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㊷ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㊸ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㊹ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㊺ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㊻ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㊼ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㊽ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㊾ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス  
 ㊿ 高橋 隆雄(立教大学池袋キャンパス) 立教大学池袋キャンパス

指している。第34回学会大会の開催の開催を早急に、今回(第35回)の大会の内容については終了次第作業にとりかかるとのこと。

平成16年度(2004年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第4回) 議事録

開催日:平成16年11月22日(月) 20:00~21:00  
 開催場所:立教大学池袋キャンパス12号館地下1階 第3会議室  
 出席者:池井、松浦、鈴木、原生、小塚、坂口、田中、西田、西野、松尾、山崎、橋内

会長挨拶  
 議 題  
 I 確認事項 → 西田理事  
 前回常任理事会(平成16年度第3回)の議事録の確認

II 報告事項  
 1) 会費納入状況について → 小塚常任理事  
 11月22日現在 納入者26名  
 平成16年度・15年度と比べると少し低い納入状況になっている。今後ニュースレターなどにより督促する。  
 2) 学会ニュース79号について → 山崎常任理事  
 79号は発送済み。  
 ホームページも更新されているので、会員各位に届けてほしい。  
 3) 学誌第53号(大会号)について → 松浦常任理事  
 現在53号(大会号)の抄録が整った。11月24日に発送予定している。  
 4) 第34回学会大会の開催準備状況について → 西田理事  
 第34回学会大会開催準備状況について、大会運営のシステム・担当者をはじめ、会場設営、受付業務、接遇、記録、案内等の運営についても確認された。  
 5) 第34回学会大会の開催状況について → 西田理事  
 ポスターを作成し、常任理事の方々へ配布日本レジャー・レクリエーション協会との協力により、開催決定校へのチラシ案内、またホームページに掲載される。

6) 第34回学会大会地域研究、特別講演、基調講演、パネリストによる特別講演の開催状況について → 西田理事  
 地域研究、特別講演、基調講演、パネリストによる特別講演について、それぞれの内容・題目について確認された。特に研究発表者のポイント等の使用について交付に確認された。  
 7) 第34回学会大会総会会場(立教大学池袋キャンパス)の開催状況について → 西田理事  
 コンサートとして参加者に楽しんでいただく。  
 8) 学大会大会広告協賛について → 松浦常任理事  
 マナ・ファイナンドリゾート東京 1件のみの広告協賛。  
 大会終了後感謝状を送る予定。来年に向けては常任理事の先生方に協力していただき、多くの広告協賛をお願いしたい。  
 9) 学会活性化検討委員会について → 松浦常任理事  
 名称を学会活性化委員会として、原生、池井、松浦、鈴木、原生、田中伸彦、西野、山崎、松尾の6名で担当する。  
 10) その他  
 ① 公園レクリエーション世界大会(浜松)について → 西野常任理事  
 平成16年9月6日~10日に静岡県浜松市で開催された。  
 公園レクリエーション世界大会(浜松)のポスターセッション監修業務を無事終了した。  
 ② 学大会大会広告協賛について → 松浦常任理事  
 1) 第34回学会大会開催について → 西田理事  
 ニュースレター79号に掲載された平成16年度事業計画(案)、予算(案)が審議され、確認された。  
 2) 第34回学会大会の開催状況について → 松浦常任理事  
 大会2日目12月4日(日)1時より、第2回理事者にて総会についての内容を確認することが確認された。  
 3) 第34回学会大会の開催会場について → 松浦常任理事  
 第34回学会大会の開催会場について → 松浦常任理事

けた事業をしたい。  
 ④ 第4号講演について → 納入会員の増進と会員制度の導入を考慮する。  
 ⑤ その他について → 報告事項と役員名簿についての報告を予定。  
 2) 第35回学会大会の開催について → 西田理事  
 推進により高橋(紳)理事が活動する国際基督教大学としたい。高橋(紳)理事、前向きな手続を進めたい意向を表明した。

平成16年度(2004年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第5回) 議事録

開催日:平成17年1月24日(日) 18:00~19:00  
 開催場所:立教大学池袋キャンパス・セントホール 2号館2階  
 出席者:池井、松浦、鈴木、坂口、原生、小塚、田中、西田、西野、松尾、山崎、橋内

会長挨拶  
 議 題  
 I 確認事項 → 西田理事  
 前回常任理事会(平成16年度第4回)の議事録の確認

II 報告事項  
 1) 第34回学会大会にかかわる事項 → 松浦常任理事  
 ① 参加人数について  
 従来200名程度の参加となった。  
 ② 大会開催校に対する報告  
 立教大学池袋キャンパス 池井俊子氏にもへ直接御礼の挨拶をした。  
 ③ 大会号への広告掲載に対する御礼  
 状状を送付した。  
 ④ 大会決算報告  
 大会の収入と支出に関しては前常任理事により、適切に処理されていることが確認された。  
 ⑤ シンポジウムについて  
 チューブが終了しなくなりチューブ起こしをすることができなくなった。  
 基調講演をはじめ、特別講演、パネリストカクシヨウ等の担当者に感謝をお願いしている。  
 学会大会の内容を学誌に掲載の予定。  
 ⑥ 学大会開催校について

総会資料として総会の内容が詳細に至るまで行方よく進んでほしい。  
 (7) その他  
 研究発表の一部時間滞りの進行がなされていない会場があった。次回に向けて再度確認していきたい。  
 2) その他  
 ① 11月22日の常任理事会  
 入会希望者 岡島隆雄(立教大学池袋キャンパス)  
 退会希望者 宮下桂治  
 入会希望者・退会希望者それぞれについて確認し、承認された。  
 2005年1月24日現在 287名の納入会費の未納者に対して、希達用紙に未納年費、会費を記入し、再度呼びかけを行っていた。  
 ② 学大会開催校に対する報告  
 立教大学池袋キャンパス 池井俊子氏にもへ直接御礼の挨拶をした。  
 ③ その他  
 ④ スペシャルオリンピクについて → 松浦常任理事  
 2月26日長野でスペシャルオリンピクが開催される。前日5日にホテルオークラにおいて、スペシャルオリンピクのシンポジウム、フォーラムが開催された。その会場でのボランティアも実施している。先生方にもご協力をお願いしたい。  
 ⑤ 日本学術会議への登録について → 松浦常任理事

平成16年度(2004年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第6回) 議事録

開催日:平成17年8月7日(日) 18:00~19:30  
 開催場所:立教大学池袋キャンパス・12号館地下1階第1会議室  
 出席者:坂口、松浦、西田、田中、西野、松尾、橋内、小塚、松浦副会長挨拶

議 題  
 I 確認事項 → 西田理事  
 ・前回常任理事会(平成16年度・第5回)の議事録の確認

II 報告事項  
 1) 第34回学会大会にかかわる事項 → 松浦常任理事  
 ① 参加人数について  
 従来200名程度の参加となった。  
 ② 大会開催校に対する報告  
 立教大学池袋キャンパス 池井俊子氏にもへ直接御礼の挨拶をした。  
 ③ 大会号への広告掲載に対する御礼  
 状状を送付した。  
 ④ 大会決算報告  
 大会の収入と支出に関しては前常任理事により、適切に処理されていることが確認された。  
 ⑤ シンポジウムについて  
 チューブが終了しなくなりチューブ起こしをすることができなくなった。  
 基調講演をはじめ、特別講演、パネリストカクシヨウ等の担当者に感謝をお願いしている。  
 学会大会の内容を学誌に掲載の予定。  
 ⑥ 学大会開催校について

平成16年度(2004年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第6回) 議事録

開催日:平成17年8月7日(日) 18:00~19:30  
 開催場所:立教大学池袋キャンパス・12号館地下1階第1会議室  
 出席者:坂口、松浦、西田、田中、西野、松尾、橋内、小塚、松浦副会長挨拶

議 題  
 I 確認事項 → 西田理事  
 ・前回常任理事会(平成16年度・第5回)の議事録の確認

→西田理事長  
国際基督教大学との関係を深めていく。さらに第30回学大会の開催地を検討していきたいと希望している。

5) 会員の動向について →西田理事長

平成16年度(2004年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
理事会(第2回)議事録

■日程: 平成16年12月4日(出) 11:00~12:00

■場所: 立教大学池袋キャンパス第一食堂二階「藤」

出席者: 油井、坂口、鈴木、松嶋、西田、藤生、小野寺、片貝、京野、磯崎、高橋(伸)、山中(伸)、中野、西野、野村、沼津、松尾、山崎、横内

会長挨拶

議題

I 確認事項

- 1) 定款確認 →西田理事長
- 2) 前回議事録確認 →西田理事長  
故木直正監事交代り島島一先生が監事職務に変更された。

II 報告事項

- 1) 第30回学大会の準備状況について  
→松尾常任理事(大会実行委員長)  
第30回学大会開催要項および資料に基づき説明し、理事および幹事等の協力に謝意を述べた。
- 2) 第30回学大会における催しのプログラム準備状況について  
① 地域研究(12月3日実施)について  
→田中(伸) 常任理事  
時限: 13:00(集合)東京駅(丸の内線)駅構内  
16:00~自然観察(江戸東京博物館)  
今回テーマ「都市レジャーの今昔」に基づき、東京はパネリス見学の実施場所を、六本木ヒルズ見学、江戸東京博物館見学を実施した。
- ② 特別講演、基調講演、パネリス・ディスカッション状況について→藤生理事長挨拶  
13:00より会長挨拶に続き神見立教大学総長の挨拶がある予定。  
13:15より「チャーム」からあじ21世紀

のスポーツビジョンと題して田嶋技芸委員長(日本サッカー協会)の特別講演がある。

14:20より「始動した21世紀において学会に求められる役割」と題して東京農業大学副学長(日本遊園学会副会長)の特別講演がある。

15:15より藤生理事長報告(パネリス・ディスカッション)と題して藤生理事長、山崎先生(早稲田大学理工学部)をテーマに、鈴木副会長、西野常任理事、山中先生(早稲田大学理工学部)のパネリス・ディスカッションが行われた。

③ 懇親会・ホテルコンサートについて  
→松尾常任理事(大会実行委員長)  
12月4日 16:40~20:10に「藤だな」での懇親会は、クリスマスとホスピタリティをテーマにした楽しいパーティを予定。また12月5日12:30~13:00にチャームにおいてホテルコンサートを予定している。極力参加をお願いしたい。

3) 学大会前日の会場使用について→松尾常任理事(大会実行委員長)  
両日とも他の学大会が重複しているため、4日は、7号館と10号館が使用できるが5日は、7号館のみが使用となる。したがって本日のワークショップは10号館が使用できることとなる。

4) 学誌誌(大会号)の発行について  
→西田理事長  
発行が決定しているが、近日中に届く予定になっている。

5) 広告の協力について →西田理事長  
今回は1件のみであったが、来年はより多くの理事の皆さんに協力をお願いしたい。

6) 会費納入状況について→西田理事長  
12月3日現在、27名の納入があった。

7) その他 →西田理事長  
会員数: 新入会員は14名。その後1名あるが、承認がある。

III 審議事項

第30回学大会総会について  
① 第1号議案について→ニュースレター79号で通知された。  
② 第2号議案について→学会収入が減少している。主に会費納入状況がよくないことによる。  
③ 第3号議案について→学会活性化にむ

サーバーへの移行を検討していくことが確認された。

4) 科学研究補助金審査委員会候補者の推薦について →西田理事長  
→藤生、京野副会長、藤生理事長挨拶、西野常任理事に候補者として打診中である。

5) その他  
① 第30回学大会について  
→松尾常任理事  
→母校である国際基督教大学の高橋理事との初回打ち合わせした。平成17年度初回より松尾常任理事を立ち、松嶋副会長に向けた学大会体制を整理していくことが確認された。

② 会員の動向について →西田理事長  
・退会希望者: 以下の5名  
小清水英樹  
松村 俊博  
池田 隆二  
大北 文生  
関井 正徳

平成17年度(2005年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第1回)議事録

■日程: 平成17年4月25日(日) 18:30~21:30

■場所: 立教大学池袋キャンパス第一食堂2号宴会室

出席者: 油井、坂口、鈴木、松嶋、西田、藤生、小野、磯崎、高橋(伸)、山中(伸)、松尾、沼津、西野、山崎、横内

会長挨拶

議題

I 確認事項  
1) 定款確認 →西田理事長  
2) 前回(平成16年度第2回)議事録の確認

II 報告事項  
1) 平成16年度分会費納入状況について →西田理事長  
年度末現在、47名の会費納入があった。

2) 学誌誌54号の発行について  
→田中(伸) 常任理事  
投稿の遅れによる。(掲載未定のため)、基調講演、レクリエーションなどの様子を掲載し、連休明けには委員の手元へ届くようにしたい。また今後に向けては、投稿について、

【学会活性化委員会】委員長からのお知らせとお祝い

昨年度(2004年度)常任理事会(第11月22日開催)においても報告(第9号)発行のニュース(JUN.2005, No.80, p.7)を掲載していましたが、学会活性化に向け、会員から多くのご意見をいただきました。学会活性化委員会が組織されましたが、会員さんからも多くの意見を寄せ、学会活性化に向け多角的な検討を進めてまいりたいと思います。

以下でメールマガジン「学会活性化委員会」の発行についてお知らせいたします。

事務局からのお知らせ  
1. バックナンバー(「歩み」を含む)の実質頒布...  
2. 会員の皆様のお祝いについてレジャー・レクリエーションに関するお祝いについてお知らせします。  
3. 平成16年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員は、急ぎ納入手続きをお願いします。  
4. 学会のホームページをご覧ください。

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション」投稿募集について  
投稿は常時受付しております。また、研究論文の査読、査正作業には最長でも2ヶ月程度の間を要する点を考慮して、投稿してください。

会員の動向

●新入会員 (所属)  
平野 貴之(福稲社工務(東京大学担当))  
田辺 友規(仙台医大歯学部歯科非常勤講師)  
金子知夫(東京農業大学大学院農学研究科(大学院生))  
高橋 孝典(立教大学大学院農学研究科(大学院生))  
三橋 正幸(日本レクリエーション協会)  
清水 一久(九州大学大学院)

●平成16年度 退会者

岡田 隆造 大矢 隆二 大北 文生 田嶋 英夫(退去) 小清水英樹 関井 正徳  
宮下 祐治 松村 俊博 生方 豊代 池田 隆二

編集委員会から積極的にアプローチしたい。  
3) 学大会事務局について  
→山崎常任理事  
担当に引き継がれた。それには細部の確認が必要と思われる。

III 審議事項  
1) 役員選挙について →西田理事長  
今年度は、役員改選となる。したがって次の手続きが必要である。  
①改選前理事会(第12回)開催について、4月27日(日)あるいは4月28日(月)に平成16年度会費納入通知と納金票額に加えて改選前理事会選挙に関する書面一式を、現理事に郵送し、現理事が会費納入を終了し、5月20日(日)までに投票することとなる。

②正会員による選挙については、5月20日(日)に、まず年費納入通知、納金票額を正会員に送付し、(連年度会費未納者に対しては、納入を督促して、返寄がない場合は返会)選挙権、被選挙権がある者が作成された。そして、6月までに役員選挙に関する書面一式と投票用紙を郵送した。

また、選挙管理委員会設置については、設置が必要不可欠なことから、山崎、松嶋、横内、沼津、小野の5名が常任理事が委員候補に推薦され、候補者委員が選出された。その委員長は、山崎常任理事が選出された。

2) 平成16年度事業報告について  
→西田理事長  
報告内容が提示されたが、審議の結果、事業報告内容の記載を、次回の理事会において再審査することとなった。

3) 平成16年度決算報告書について  
→西田理事長  
報告書が提示されたが、一部不備があり、訂正後再提出された。改選前理事会に提出し、承認された後に監査報告を筆頭に改選することとなる旨の議決があった。

4) 平成17年度事業計画(案)について  
→西田理事長  
概算事業計画案が提示されたが、審議の結果、修正して承認された。

5) 平成17年度予算案について  
→西田理事長  
概算予算案が提示され、審議の結果、一部訂正して承認された。

6) 平成17年度役員選挙について  
→西田理事長  
報告書が提示されたが、審議の結果、一部訂正して承認された。

7) 平成17年度役員選挙について  
→西田理事長  
報告書が提示されたが、審議の結果、一部訂正して承認された。

8) その他  
① 松嶋副会長より発言があり、平成17年度の任期満了をもって本年副会長の職を辞したい(大学を定年退職の儀に)旨の申し出があり、了承された。  
② 次回理事会を5月30日(日)開催を決定した。  
③ 会員名簿調査については、個人情報管理などの観点からもその取り扱いを慎重に検討する必要がある旨の要請があった。

改選前理事会による改選前理事会の選出選挙結果

執行理事会による改選前理事会の選出選挙の結果、以下の10名を5月30日の理事会で決定し、承認された。

- 改選前理事会10名(執行理事会による選出)  
1位 松嶋 哲矢(立教大学)  
2位 坂口 正治(東洋大学)  
3位 鈴木 秀樹(国際基督教大学)  
4位 西田 英夫(東洋大学)  
5位 沼津 秀樹(立教大学)  
6位 小野 一也(国際基督教大学大学院)  
7位 小野寺孝三(東北福祉大学)  
8位 西野 仁(東海大学)  
9位 藤生 豊(国際基督教大学)  
10位 三橋 正幸(福稲社工務)

平成17年11月

学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会  
(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

NOV. 2005 No.81

事務局 〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1  
電話 0492-74-1511 郵便番号 30150-3-60353

発行人 西田 敏夫 編集 広報部外委員  
編集人 宇野 謙二 編集委員 西田敏夫研究室内

本学会の共通言語としての  
“レジャー・レクリエーション”再考

学会副会長 鈴木秀雄  
(関東学院大学教授)

学会会議録団体としての日本レジャー・レクリエーション学会も研究会時代を含め、すでに40年を経る長い歴史を有している。時代の変遷と共に社会の中でのレジャー・レクリエーションの捉えられ方も少なからず変容してきた。余暇時間の増大、経済的豊かさを享受してきた時代のto haveからto beへの変化が求められていく。いまだに真の豊かさはどこかが問われている。現代社会が抱える諸問題は、少子高齢化、虐待、犯罪の悪化とその低年齢化、公徳心の欠如、貧乏の不安を含めた生活習慣もたらす健康への危うさ、人間関係の希薄化、匿名伝達力の低下、地域社会の崩壊、環境の汚染など数枚に上らない。しかしこれらの諸問題を俯瞰してみると、実はそこにはレジャー・レクリエーションの在り方が大きく介在していることが窺えてくる。

例えば、少子化は子ども自身の生活に大きな変容をもたらす。自然環境や社会環境の悪化から遊び自体にも変容をきたしている。外で遊び、集団遊び、自らのエネルギーを費やし進んで来た形骸の中で、個人で、そして体を動かさない遊び形態へと変化していった。またおもちゃも子どもだけの責任などではない。向後、高齢化(長寿)も悪いのではない。しかし、医療の進歩、衣食住の変容は、自己責任の能力の範囲を超え、「すべきこと」と「したいこと」のバランスを失い、命は永らえても、自身の体さえ自ら動かすことのできない生活を余儀なくされている高齢者も数多い。

また、子どもが社会性を育うために必要とされるのは、大人が先ずその規範を示し得るものを持つていなければならない。特に“仕事でもない偉大な遊びでもない余暇”における行動は、本来、自由であり自己責任ということになる。しかしその判断を持ち得ない状況であれば、どこかで指針となるものがそれなりに規範に準じ提示されなければならない。それがまさに“文化としての力”である公徳心であろう。「教の恥はかき捨て」の考え方の延長とばかりに、“人に見つからなければそれでよい”という風潮は、人間関係の希薄化、地域社会の崩壊などからくる自己中心的な行動として多分野で散見される。命、社会に対して、健全なレジャー・レクリエーション行動を求めるといいうのではなく、レジャー・レクリエーションの質的な在り方を再考する機会を社会が持たなければならない時代であろう。

休養として、娯楽・気晴らしとして、また、自身の啓蒙や開拓に関わる機能が余暇には存在し、それらの機能がカウパング化(組み合わせ)されたり、カクテル化(融合化)されたりして、日常の肌身に近いところにあるのだと認識することが必要である。

余暇における活動や状態は、決して日常から遠く離れ、日本の生活から距離を置かれた状態では存在するものではない。“レジャーの中で遊べる遊戯と状態の具体化がレクリエーションである”という認識も社会の中でしっかりと再考することができるとは思ひづくりが必要なのである。

JSLRS

1. 学会副会長挨拶(鈴木秀雄)	1	8. 学会大会研究発表・演題	P. 10
2. 第35回学会大会の案内(第2報)	P. 2	7. 理事会の報告	P. 13
3. 学会大会実行委員長挨拶(高橋伸)	P. 5	9. 事務局のお知らせ	P. 14
4. 第35回学会大会開催要項	P. 6	6. 観覧券のお知らせ	P. 14
5. 地域研究普及文化講座「夢加害罪案」	P. 8	10. 会員の動き	P. 14

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

第35回学会大会のご案内 (第2報)

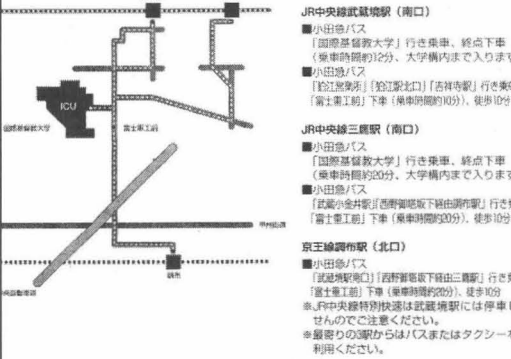
■日程 平成17年12月9日(金)～11日(日)  
■会場 国際基督教大学 (ICU)  
〒181-8585 東京都三鷹市大沢3-10-2

▶遠隔地から国際基督教大学(ICU)まで▶

航空機利用の場合  
■羽田空港 (東京国際空港)  
→東京モノレール(羽田空港駅～浜松町駅)  
または、京浜急行(羽田空港駅～品川駅)  
→JR山手線・京浜東北線(浜松町～品川駅)→東京駅  
→JR中央線(東京駅～三鷹駅または武蔵境駅)

新幹線利用の場合  
■鹿島海浜・東北・山形・秋田・上越・長野新幹線(東京駅)  
→JR中央線(東京駅～三鷹駅または武蔵境駅)

▶最寄り駅からICUまで▶



第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

一学内案内図一

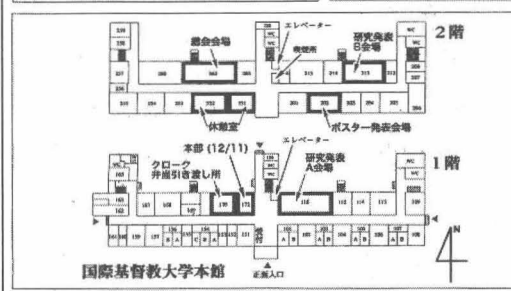
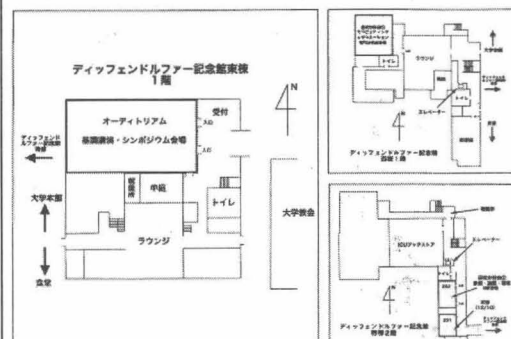


第35回学会大会参加について

返信葉書の申込みと大会参加費等の振り込みの締切は、12月1日(木)となります。なお、振り込み先は下記宛にお振り込みください。  
振込先: みずほ銀行成増支店(店番: 239) 口座番号: 2103127  
名義: 日本レジャー・レクリエーション学会

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

第35回 日本レジャー・レクリエーション学会 会場案内図



第35回学会大会 (国際基督教大学 2006年12月9日・10日・11日)

時代を担うために

第35回学会大会実行委員長 高橋 伸

第35回日本レジャー・レクリエーション学会大会の開催に当たり、縁に囲まれた自然豊かな国際基督教大学(ICU)のキャンパスに皆さんをお迎えできることを、とてうれしく思っております。

ご存知の方も多いと思いますが、昭和31年(1956年)の夏休みから全国のレクリエーション指導者が年に一度本学に集まり、「レクリエーションワークショップ」が開催されました。それぞれの参加者が考えを受け取るだけでなく、自分の考えを出し合って新しいアイデアを作り上げていったことは言うまでもありません。あれからちょうど50年目にあたる本年に学会大会を開催できることは大きな喜びであり、参加された方々に新たな飛躍の機会となるよう願っております。

今年の大会テーマは「ダウンサイジングな時代に即応するレジャー・レクリエーション」です。様々な時代において人々の生活とのかかわりの中でその役割を担ってきたレジャー・レクリエーションについて、改めてその有効性や可能性、さらに各分野の期待などを学ぶとともに、活発な意見や情報の交換を通して、これからの進むべき方向を探ります。

第一日目の地域研究は、本学周辺の歴史文化施設を訪れ、先人の残した生活文化遺産とレジャー・レクリエーションとの関わりを思いを巡らしその意義を考えます。二日目の基調講演では、本学の卒業生で元NHK解説委員の平野次郎氏から、氏の豊富な海外生活経験を通じてこれからのレジャー・レクリエーションが向かうべき方向の示唆を頂き、シンポジウムでは若年層、高齢者、そして公園・緑地問題に関わる3人のスペシャリストの方々から、実践報告や今後の期待についてご意見を伺うとともに、これから我々が担うべき役割の意義や課題を明らかにして頂きます。具体的な活動について学び合う研究分科会は「セラピューティックレクリエーション」と「景観・造園・環境」の2分野です。三日目は研究発表です。口頭発表は19題。さらに今年は初めての試みとしてポスター発表(14題)を行い、活発な意見交換が期待されます。

会期中は本学の中心的存在であります教会とクリスマスツリー、そして私たち実行委員が皆様をお迎え致します。多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

-5-

第35回学会大会 (国際基督教大学 2006年12月9日・10日・11日)

日本レジャー・レクリエーション学会  
第35回学会大会開催要項

大会テーマ「ダウンサイジングな時代に即応するレジャー・レクリエーション」

- 主催：日本レジャー・レクリエーション学会
- 主 覧：日本レジャー・レクリエーション学会第35回学会大会実行委員会
- 期 日：平成17年12月9日(金)・10日(土)・11日(日)
- 会 場：国際基督教大学 (ICU)  
〒181-8585 東京都三鷹市大沢3-10-2

5. 日 程

第1日目 12月9日(金)

- 10:45~11:00 受付 (JR中央線、武蔵境駅南口)
- 11:00~11:10 開会挨拶 坂口正治 (学会副会長)
- 11:10~15:30 地域研究 テーマ「歴史文化探訪」
  1. 地域の歴史文化探訪 (調布市、深大寺)
  2. 日本の歴史文化探訪 (ICU内、湯浅八郎記念館)
  3. 世界の歴史文化探訪 (ICU隣接、中近東文化センター)

第2日目 12月10日(土)

- 11:00~12:00 理事会 (ディッフェンドルフアー記念館2階252会議室)
- 12:00~ 受付 (ディッフェンドルフアー記念館東棟)
- 13:00~13:15 会長挨拶 滝井 正昭 (学会会長)  
大会名誉会長挨拶 鈴木典比古 (国際基督教大学学長)
- 13:15~14:15 基調講演 「ディッフェンドルフアー記念館東棟、オーデトリウム」  
「レジャー・レクリエーション見聞記」  
平野 次郎 (学習院女子大学特別専任教授、元NHK解説委員)
- 14:30~15:50 シンポジウム  
「ダウンサイジングな時代に即応するレジャー・レクリエーション」  
モデレーター：西野 仁 (東海大学)  
パネリスト
  - 若年層分野から  
徳村 光昭 (慶応大学保健管理センター助教授)
  - 高齢者分野から  
鈴木 隆雄 (東京都老人総合研究所所長)

-6-

第35回学会大会 (国際基督教大学 2006年12月9日・10日・11日)

○ 公園・緑地環境分野から  
西川嘉輝 (国土交通省公園緑地課緑地環境推進室長)

- 16:00~17:15 研究分科会
  - ① セラピューティックレクリエーション専門分科会  
企画責任者及び話題提供者 鈴木秀雄 (関東学院大学)  
(ディッフェンドルフアー記念館西棟1階、多目的ホール)
  - ② 景観・造園・環境分野  
企画責任者 麻生 恵 (東京農業大学)  
(ディッフェンドルフアー記念館西棟2階、252会議室)
- 17:30~19:00 懇親会 (アラムナイハウス)

第3日目 12月11日(日)

- 8:30~ 受付開始 (本館1階正面入り口)
- 9:00~9:40 研究発表 A会場 (本館1階、116教室) 2題  
B会場 (本館2階、213教室) 2題
- 9:50~10:50 研究発表 A会場 (本館1階、116教室) 3題  
B会場 (本館2階、213教室) 3題
- 11:00~11:40 研究発表 A会場 (本館1階、116教室) 2題  
B会場 (本館2階、213教室) 2題
- 11:00~15:00 ポスター発表会場オープン (本館2階、202教室)
- 11:40~12:30 ポスター指定発表時間
- 11:40~13:00 昼 食
- 13:00~14:00 総 会 (本館2階、262教室)
- 14:00~15:00 研究発表 A会場 (本館1階、116教室) 3題  
B会場 (本館2階、213教室) 2題

理事会 平成17年12月10日(土) 11:00~12:00  
会場 ディッフェンドルフアー記念館西棟2階252会議室  
総 会 平成17年12月11日(日) 13:00~14:00 会場 本館2階262教室

大学食堂：12月10日、11日両日とも大学食堂のご利用が可能です。  
喫 煙 所：喫煙は指定された場所をお願いいたします。(学内図参照)

-7-

第35回学会大会 (国際基督教大学 2006年12月9日・10日・11日)

地域研究「歴史文化探訪」参加者募集

第1日目 12月9日(金)

- 10:45~11:00 受付 (JR中央線、武蔵境駅南口)
- 11:00~11:10 開会挨拶 坂口正治 (学会副会長)
- 11:10~15:30 地域研究 テーマ「歴史文化探訪」
  1. 地域の歴史文化探訪 (調布市、深大寺)
  2. 日本の歴史文化探訪 (ICU内、湯浅八郎記念館)
  3. 世界の歴史文化探訪 (ICU隣接、中近東文化センター)

今年の地域研究では、縁に囲まれた閑静なキャンパスで有名な、国際基督教大学(ICU)周辺を散策しながら、武蔵野から世界に向けた歴史文化を探訪します。

はじめに、「地域の歴史文化探訪」として東京で浅草寺に次いで古い、森に囲まれた白鳳仏の「深大寺」を訪れて「武蔵野の歴史文化」に触れた後、ICUに移動します。そして、キャンパスを散策しながら、日本考古学や民芸品の収集で名高いICUの初代学長を顕彰して開館した「国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館」を訪ね「日本の歴史文化」を考えます。最後に、ICUの隣にある「中近東文化センター」で、キリスト教発祥の地でもあり、全世界に様々な文化的影響を与えた「中近東の歴史文化」についての解説を受け、「世界の歴史文化探訪」が締めくくります。

私たちのレジャー・レクリエーションは、歴史文化に大きく影響されて、現在の形になりました。地域の歴史、国の歴史、世界の歴史と、スケールを変えながら歴史文化の意義を考えることで、レジャー・レクリエーション学に対する意義を深めてみてはいかがでしょうか。

- ※当日はカジュアルな服装と靴でおいでください。
- ※移動は貸切マイクロバスを利用します。
- ※深大寺では調布市のボランティアガイド、湯浅八郎記念館と中近東文化センターでは、担当者や研究員の方に説明をして頂きます。
- ※深大寺で昼食の時間を取ります。門前にはおいしい蕎麦屋が多数あります、各自で昼食をおとりください。

申込み

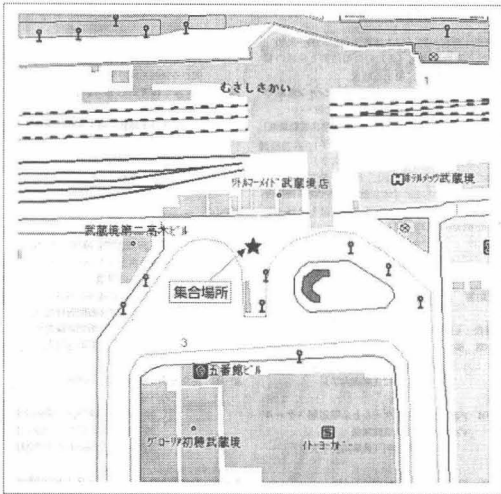
- 同封の大会参加申込みハガキにご記入ください。
- 同伴者(非会員)の方の参加を歓迎いたします。配偶者、学生、同僚、友人など同乗車にお誘いください。
- 参加費は会員・非会員とも1人3000円(交通費、入館料等)、参加者20名を予定しております。

-8-



第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

地域研究「歴史文化探訪」  
集合場所のご案内



R武蔵境駅南口  
12月9日(金) 11:00集合

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

第35回学会大会研究発表・演題

第3日目 12月11日(日)

■ 研究発表 A会場 (本館1階 116教室)

- 座長: 野村一雄 (日本体育大学) 9:00~9:40
- A-01 知的障害児(者)の余暇活動と生活の質(QOL)に関する研究  
~スポーツ・レクリエーション活動の活動費と非活動費の比較~  
○南極正人 (仙台大)非常勤講師  
伴野隆士 (仙台大)  
小池和幸 (仙台大)
- A-02 知的障害者の余暇活動についての事例報告  
~A地区の知的障害者学級を事例として~  
○廣田出久 (余暇問題研究所)  
黒原秋秋 (余暇問題研究所)
- 質疑応答
- 座長: 松尾 哲矢 (立教大学) 9:50~10:50
- A-03 湯治の実態と湯治に対する意識について  
○伊藤雅子 (東海大学大学院)  
西野 仁 (東海大学)
- A-04 内的余暇活動スケールと余暇適応スケールの解釈シートの実践開発  
○茅野宏明 (武蔵川女子大学)
- A-05 ゆとりへの構造化に向けて(3)  
~「くつろぎ」と「日常生活経軌」~  
○西野 仁 (東海大学)  
吉原さらえ (神奈川県体育協会)
- 質疑応答
- 座長: 藤生 真 (東京理科大学) 11:00~11:40
- A-06 世界各国における野外レクリエーションに関わる保護地域の実態とその特徴  
○油井正則 (桐蔭横浜大学)
- A-07 伝統芸能継承団体の再生過程に関する実践報告  
~伊勢神宮十二神祇の場合~  
○山崎 優 (広島市立大学)
- 質疑応答
- 座長: 西野 仁 (東海大学) 14:00~15:00
- A-08 特別養護老人ホームにおけるレクリエーション・プログラムの課題  
~その支援方法の確立に向けて~  
○山崎佳子 (余暇問題研究所)  
上野 幸 (余暇問題研究所)  
高橋和敏 (余暇問題研究所)
- 質疑応答
- A-09 要介護予防運動の本質的理解  
~その外延と内位~  
○鈴木秀雄 (長野県立大学人間福祉学部)  
福井孝夫 (東信大学人間福祉学部)  
鈴木英吾 (長野県立大学人間福祉学部)
- A-10 要介護予防運動スペシャリストの活動実況  
~全有資格者への調査から~  
○鈴木英吾 (長野県立大学人間福祉学部)  
福井孝夫 (東信大学人間福祉学部)  
鈴木秀雄 (長野県立大学人間福祉学部)
- 質疑応答

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

第3日目 12月11日(日)

■ 研究発表 B会場 (本館2階 213教室)

- 座長: 山崎 律子 (余暇問題研究所) 9:00~9:40
- B-01 総合型地域スポーツクラブの設立に向けた2年間の取り組み  
~神奈川県育成指定クラブを事例として~  
○古原さらえ (神奈川県体育協会)  
西野 仁 (東海大学)
- B-02 中山間地域における体験型観光推進協議会の設立について  
~広島県北部の取り組みに着目して~  
○山下雅彦 (新潟県立大学)
- 質疑応答
- 座長: 沼澤 秀雄 (立教大学) 9:50~10:50
- B-03 レクリエーション資格の取得意識に関する調査研究  
○山田力也 (西九州大学)  
土井真樹 (佐賀短期大学)  
金崎良三 (佐賀大学)  
尾公一 (九州龍谷短期大学)  
田崎伸子 (九州保健福祉専門学校)  
山口 真 (西九州大学)  
池田孝博 (佐賀短期大学)
- B-04 レクリエーション資格に関するイメージ分析  
○池田孝博 (佐賀短期大学)  
土井真樹 (佐賀短期大学)  
金崎良三 (佐賀大学)  
山田力也 (西九州大学)  
田崎伸子 (九州保健福祉専門学校)  
尾公一 (九州龍谷短期大学)
- B-05 老人医療福祉施設におけるレクリエーションワークおよびレクリエーション専門職の役割に関する研究(2)  
○小池和幸 (仙台大)
- 質疑応答
- 座長: 磯崎 寿 (筑波大学) 11:00~11:40
- B-06 オランダ社会の近代化とヨハン・ホイジンガの遊戯文化論  
○杉浦 恭 (愛知教育大学)
- B-07 2000~2005年「ワールド・レジャー・ジャーナル」における投稿研究論文の動向  
○黒原秋秋 (余暇問題研究所)  
高橋 伸 (国際基督教大学)  
高橋和敏 (余暇問題研究所)
- 質疑応答
- 座長: 茅野 宏明 (武蔵川女子大学) 14:00~14:40
- B-08 吉野林業地域における文化的景観の保全  
○田中伸彦 (国土庁研究開発センター)  
黒田乃生 (国土庁研究開発センター)
- B-09 国民休暇村における眺望景観の形成とその特徴  
○加市 隆 (日本アメニティ研究所)
- 質疑応答

第35回学会大会 (国際基督教大学 2005年12月9日・10日・11日)

第35回日本レジャー・レクリエーション学会大会  
ポスター発表演題

- 会場/本館2階 202教室
- 開場時間 11:00~15:00  
指定発表時間 11:40~12:30
- P-1 ましむって何? セラピー・テックレクリエーション  
マレー竜子 (平安女子学院大学)  
茅野 宏明 (武蔵川女子大学)  
山田 直代 (筑波大学)  
田島 栄文 (甲子園短期大学)
- P-2 歴史館学芸キャンプに参る学生ボランティアへの研修の効果  
五十嵐真希 (社会福祉法人柳屋館)  
野島 健治 (社会福祉法人興智館)  
高橋 伸 (国際基督教大学)
- P-3 三城市「緑のボランティア講座」活動報告  
佐野 光昭 (三重市立公園課)  
深野 理香 (東京農業大学)  
西村 直人 (東京農業大学)  
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-4 環境学習のための優良研修ツアー報告  
深野 理香 (東京農業大学)  
二階堂由紀 (東京農業大学)  
島村 昌代 (東京農業大学)  
田崎和祐 (東京農業大学)
- P-5 地味な遊を事例としたレクリエーション空間と利用者属性からみた利用計画のあり方について-ROS(レクリエーション利用区分プログラム)の概念を用いて-  
津田 智弘 (東京農業大学)  
金子真知史 (東京農業大学)  
下島 聖 (東京農業大学)  
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-6 富士御用掛国立公園園路緑地における屋敷施設の実態と評価  
藤原真依子 (千葉大学)  
古谷 勝剛 (千葉大学)  
油井 正昭 (桐蔭横浜大学)
- P-7 2次産業における環境保全ボランティアの参加意識について-阿蘇野焼き支援ボランティアを対象として-  
牧 安奈 (東京農業大学)  
麻生 恵 (東京農業大学)  
藤田 和祐 (東京農業大学)
- P-8 市民参加・NPOによる自然環境の保全管理の課題に関する調査研究  
藤田 和祐 (東京農業大学)
- P-9 利根川上流域における「武蔵100歳歩トレイル」の市民による整備・運営計画について  
岸 昌孝 (非常勤特定活動法人 利根川上下流域支援センター)  
藤田 和祐 (東京農業大学)
- P-10 山形県金山町における田園環境や住民の質性の高い景観認識に関する調査研究  
朝日 隆夫 (東京農業大学)  
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-11 自然公園の利用計画に見る乗鞍山麓五色ヶ原の利用システムについて  
川口 香 (東京農業大学)  
下島 聖 (東京農業大学)  
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-12 サガルマータ(エベレスト)登山がバースケイティングに及ぼす環境影響についてのシミュレーションの試み  
下嶋 啓 (東京農業大学)  
島田 沢彦 (東京農業大学)  
佐賀安希子 (東京農業大学)  
入江 満美 (東京農業大学)  
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-13 町田市さくわく緑地における市民参加型管理運営活動と参加者の意識  
薄井 美江 (東京農業大学)  
山内 真彦 (さくわく緑地愛護会)  
麻生 恵 (東京農業大学)
- P-14 小笠原国立公園における適正な利用ルールの導入に向けた現状と課題  
下嶋 啓 (東京農業大学)  
井上 麻衣 (東京農業大学)  
一木 重夫 (小笠原国立公園ウォッチング協会)  
麻生 恵 (東京農業大学)

平成17年度(2005年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第1回) 開幕式

■日時:平成17年7月22日(日) 18:00~18:30  
■場所:立教大学池袋キャンパス太刀川記念館  
1階第1会議室  
出席者:油井、塚口、鈴木、松浦、西田、麻生、小沼、松澤、山崎、横内、高橋

会長挨拶

議題  
I 議題事項-西田理事長  
1) 前回常任理事会(平成16年度第6回)議事録の確認

II 報告事項

- 1) 年度会費納入状況について  
→小沼常任理事  
平成17年7月23日現在、252名の納入が確認された。  
2) 第35回学会大会の研究発表申込み状況について  
→西田理事長  
平成17年7月23日現在、4組の研究発表申込みがあった。  
3) 『学会誌』第54号発行について  
→西田理事長  
既に発行した。  
4) 学会ニュース№80(80号)の発行について  
→西田理事長  
既に発行した。  
5) その他  
→西田理事長

- ①日本レジャー・レクリエーション協会より鈴木秀雄副会長へ幹事委員の委嘱状が届けられた。  
②学会の活性化に向けて  
→鈴木副会長  
地元の学会ニュースにおいて、学会の活性化についての意見を7月1日までに1件も応募がなかった。しかし今後も、会員からの意見を求めていきたい。  
③会費納入率について  
5月2日に発送して、5月末までにこのようにするが意識確認通知を出した。その結果、会員として復帰希望者が3名、退会希望者が2名あった。その他の58名の会費納入率は無回答であった。そのため会費納入するに至った。

II 審議事項

- 1) 次回(第36回学会大会)開催校について  
→横内常任理事  
大成学院大学が候補になっており、現在検討している段階にある。他の開催校についての検討も他の理事の方にお願したい。  
2) 35回学会大会の総論講演、シンポジウム、分科会、地域研究について  
→高橋理事  
総論講演(15名)選出に関する選考者、候補者確保の確認について→西田理事長  
資料、分科会、地域研究について→高橋理事  
3) 新理事(10名)選出に関する選考者、候補者確保の確認について→西田理事長  
資料、分科会、地域研究について→高橋理事  
4) 役員候補者選定委員会委員の選出について  
→西田理事長  
資料により選定に基づいて説明がなされ、以下の7名が選出された。  
油井正昭(会長)、鈴木秀雄(副会長)、塚口正浩(副会長)、松浦三代子(副会長)、西田俊夫(常任理事)、麻生圭(理事候補)、沼澤秀雄(常任理事)  
5) その他  
①会員動向について  
→西田理事長  
新入会員 菅 伸江(日本体育大学)  
退会者 平 聡志、萬井 望子、塚口 泰武、新村 尚、森島 健也 以上

- ②年度会費3年以上の滞り未納のため、内訳に依り以下58名を退会処理とする。  
期間 功 藤 健西 神野 隆 藤本祐太郎  
長野千景 金 星一 正武重治 本田 真次  
伊勢 達郎 野田山法一 杉田 文雄 増田 良一  
磯崎 剛 高島 春夫 鈴木 文昭 松岡 宏高  
村上 辰樹 岡田 大剛 藤野 孝文 松原 洋三  
岩田 貴之 後藤 太之 谷 地二 柳 敏明  
上田 謙一 五林 正隆 藤 崇英 山田 孟  
戸田 忠夫 勇 賢治 寺島 文代 山形 彰一  
大島 輝子 塩田 隆 戸田 安信 山田 亮  
大島 敏生 渋谷 孝秀 長瀬 順哉 渡辺 立由  
加藤 健雄 津津 俊子 野川 春夫 田中 忠彦  
藤 真博 丁 村 幸 早川 章治  
川西 正志 藤出 昌博 横田 勇朗

事務局からのお知らせ

- 1. パクンバー(「歩み」を含む)の実費額  
高を行っています。特に新入会員におすす  
めします。  
①「歩み」32号の値段  
1冊¥2,000(紙誌料¥300)  
②「歩み」を除くその他の研究誌は、  
50〜60号1冊 ¥1,000  
49号まで1冊 ¥1,000→¥500になります。  
(送料別)  
2. 会員の皆様のお知らせレジャー・レクリエー  
ションのふるふる事務局へお知らせください。  
【申込用紙に必要事項を記入し、入会金  
(¥2,000)と年度会費(¥8,000)を高めて  
郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。】  
平成16年度の年会費(¥8,000)を納めてい  
ない会員は、年会納入手続きをお願いします。  
郵便振替番号 00150-3-602353  
口座名「日本レジャー・レクリエーション学会」  
学会のホームページをご覧ください。  
http://www.rikkyo.net.jp/grip/sjrs

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●  
投稿は常時受付しております。また、研究論文  
の審査、修正作業には最長でも2ヶ月程度を要  
間を要する点を考慮して、投稿してください。  
『日本レジャー・レクリエーション学会事務局』

会員の動静

●新入会員 (所属)

- 菅 伸 江 (日本体育大学)  
菅 原 江 美 (奈良女子短期大学)  
野 野 隆 (長徳文化研究所)  
森 千 佐 (佐野短期大学)  
山 内 俊 次 (佐野短期大学)  
堀 公一 (九州龍谷短期大学)

●平成17年度 退会者

- 平木 聡志 萬井 望子 塚口 泰武 新村 尚 森島 健也  
太田あや子 京野 純子

お詫びと訂正

前回は平成17年度第1回常任理事会の議事録は、常任理事会ではなく  
理事会の議事録でありました。  
また、平成16年度第6回常任理事会議事録の日に平成17年8月7日と記載されておりましたが、正  
しくは3月7日の誤りです。ここに訂正させて頂き、お詫び申し上げます。

平成16年8月 学会ニュース 日本レジャー・レクリエーション学会

AUG. 2006 No.82 発行人 西田 俊夫 編集 広報渉外委員会  
事務局 〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1  
電 話 0492-74-1511 郵政振替 0010-3-020353

【新会長あいさつ】 余暇活動をデザインするために求められる 「余暇能力(Leisurability)向上」の支援に向けて

日本レジャー・レクリエーション学会会長 鈴木秀雄  
(関東学院大学教授)

昨年の第35回学会大会において、第8代目の本  
学会会長に推され、歴代(前川肇雄、江崎慎一郎、  
渡田重雄、前野邦一郎、鈴木一、松田典幸、油井  
正昭)各会長の後継者候補者であるが、いささか  
もとの胸に自信がなかった。ただこの困難の中、  
即ちユメキと時間をかけ、協力者が学会のため  
に努力をいとわぬ姿勢で取り組んでほしい。  
本学会も長い伝統の中、その時代に向けた改革が  
なされてきたが、今後の、社会の流動性、学会とし  
てのPerspectiveを明らかにしていくことが必要  
な時代ではない。特に、日本におけるレジャー・レ  
クリエーションの外延は内包し、一般社会に広く  
浸透してきている。学会、専門家集団として、  
共通言語としてのレジャー・レクリエーション  
の意味合いを再考すべきである。  
今夏も、梅雨の明けの中、どっどどが海山河  
に乗り出し、その余暇活動に親友や友人との楽し  
みを求め関心になるのだが、水による被害もも  
絶たない。勿論、自然動物は、原則自由行動あり、  
自己責任の範疇を要される。この水難事故を防ぐ  
心構えについては、東京新聞のインシデント(2006年  
8月1日朝刊)にも、「防災の力」を自身の職務とし  
て兼合い、どどど自分の命を守り、自分の能力  
を客観的に見つめることが大切である。と記したが、  
もう一度、自身の生活環境や余暇活動をデザインす  
る余暇能力(Leisurability)をどう高めたいべきか  
を、検討していかねばならないであろう。  
継続的な運動と生理学的必要(Psychological  
Needs)から生ずることだけでなく、心理的欲求  
(Psychological Wants)により生ずるだけに留ま

JSLRS

1. 学会新会長挨拶(鈴木秀雄)	P. 1
2. 第35回学会大会開催報告	P. 2
3. 第35回学会大会総論講演(菅伸江)	P. 2
4. 新役員(2006年度)の紹介	P. 3
5. 平成17年度常任理事会(菅伸江)	P. 4
6. 平成17年度常任理事会(菅伸江)	P. 4
7. 平成18年度審議事項(菅伸江)	P. 5
8. 平成18年度学費(菅伸江)	P. 5
9. 常任理事会・理事会の報告	P. 6
10. 事務局からのお知らせ	P. 15
11. 編集委員会からのお知らせ	P. 15
12. 会員の動静	P. 15

第36回学会大会(平安女学院大学 2006年12月1・2日・3日)

お知らせ第1弾

第36回学会大会(平安女学院大学 2006年12月1日・2日・3日)

第36回学会大会のご案内

■日 程 平成18年12月1日(金)〜3日(日)  
■会 場 平安女学院大学 高槻キャンパス  
〒569-1092 大阪府高槻市南平台5丁目84-1

平成18年度 第36回学会大会(於:平安女学院大学)  
一般研究発表申込み「延期」のお知らせ

平成18年度第36回学会大会では、より多くの研究・実践者へ研究発表の機会を提供する試みとして昨  
年の第35回学会大会と同様、口頭発表に加え、ポスター発表(掲示ボードによる質疑応答形式)を設  
けます。尚、口頭発表は共同研究者を含め本学会員に限ります。また、ポスター発表は筆頭および共同  
研究者の中に本学会員が含まれていれば申込みが可能です。申込み締切日は8月21日(木)まで延期しまし  
たので会員皆様のお申込みをお待ちいたしております。  
また、発表原稿の締め切りは、原稿のとおり9月30日(必着)です。

- 1. 研究発表申込みの方法  
官製はがき(PAX不可)に研究発表と表記し、筆頭、氏名および所属(共同研究または個人研究の  
区分)および共同研究者の氏名全てを記入してください。住所(共同研究の場合は代表者  
とする)、郵便番号、電話番号を記入の上、8月21日までに、本部・事務局(長徳大学)へお申込  
みください。所定の封筒原稿用紙を申込書に記載されている発表者の住所に送付します。
- 2. ポスター発表申込みの方法  
官製はがき(PAX不可)にポスター発表と表記し、筆頭、氏名および所属(共同研究または個人研究  
の区分)共同研究者の場合は共同研究者の氏名全てを記入し、筆頭氏名に印、正学会員に△印を付記、住所  
(共同研究の場合は筆頭者を代表とする)、郵便番号、電話番号を記入の上、8月21日までに、本  
部・事務局(長徳大学)へお申込み下さい。所定のポスター用封筒原稿用紙(725号)を申込書に記載  
されている発表者の住所に送付します。
- 3. 申し込み料  
〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1  
長徳大学 国際コミュニケーション学部 西田俊夫研究室  
日本レジャー・レクリエーション学会 本部・事務局 宛  
TEL:0492-74-1511 (内:2921) mail:ysyokouchi@mm.com-net.ac.jp (換内 増典 宛)



①セラピューティック・レクリエーション専門分科会

企画提供者：鈴木秀雄 副会長  
②巻頭・造園・園地分科会  
企画提供者：藤生 恵 理事長  
なお、今後の詳細については高専大実行委員会、企画提供者に一任することが確認された。

③その他 →西田理事長  
その他の報告・確認、審議・承認事項については、拡大実行委員会に一任している。

4) その他  
①個人情報保護に基づく情報管理について →西田理事長  
②会員の管理と会員情報の保護について、法に基づいた原案を田中常任理事に一任することが承認された。

③田中常任理事より原案は「プライバシーポリシー」、会員の情報公表・公表情報についての進行を軸に作成していくことが提案され、承認された。

④本学は学会数から、法の適用団体ではないが会員の個人情報は多く記載されていること、学会に名前が記載されていることを考慮し名簿の分冊作成、発行回数なども再考することが承認された。

⑤会員の動向  
新入会員：以下の3名が承認された。  
奥野 雄（独立）奈良文化財研究所）、森 千佐子（佐野短期大学）、山内 健次（佐野短期大学）

退会者：以下の2名が承認された。  
田中 あや子、西野 誠子

⑥取組委員の更新  
取組委員の更新候補者（秋田城崎短期大学）が6月16日に選出されたことが報告された。学会として神諭の意をもってあることが確認された。

平成17年度(2005年)  
日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第3回)議事録

開催日時：平成17年11月7日(月) 18:30～20:30  
開催場所：立教大学池袋キャンパス大井川記念館 1階第2小会議室

出席者：油井、坂口、鈴木、坂崎、西田、藤生、小原、西野、沼澤、松尾、山崎、横内、小原(理事)

会長挨拶  
1. 確認事項  
①前回常任理事会(平成17年度第2回)の議事録確認について →西田理事長

2. 報告事項  
①平成17年度会費納入状況について →西田理事長  
平成17年11月17日現在366件の納入が確認された。

②学費ニュース(11号)について →西田理事長  
今号中に校正が終了できている。

③学会誌第55号(大会号)について →西田理事長  
11月18日印刷が仕上がり予定。校正後11月28日に発送できる。

④第35回学会大会広告協賛について →西田理事長  
西田のとう「マナ・アイルランド・リゾート」と「ナス・スポーツ・プロダクト」の2件が広告協賛の意向を示している。11月15日まで広告協賛を受けるので、協力を要した。

⑤理事就任承諾書提出の件 →西田理事長  
本日まで23名に承認の返事があつた。

⑥その他  
①日本学術振興会申請について →西田理事長  
継続の方針で、申し込みを完了した。

②第36回学会大会について →西田理事長  
第36回学会大会が秋田城崎短期大学で開催されている。マレー・寛子先生より、大学に日程等の確認を行っている。さらに会報校として、西九州大学が上っており、山田力也先生に確認していただいている。

③承認事項  
1) 候補者選定委員会の報告 →西田理事長  
第1回選考委員で、西田理事長が委員長に選ばれ、会長1名、副会長2名、監事候補者が選出された。

会長 鈴木 秀雄  
副会長 坂口 正治、小田切 毅一  
大谷 繁博、巻頭 浩一  
以上が候補者として承認された。

2) 第35回学会大会について →西田理事長  
資料に基づき学会大会運営について審議され、候補者選定が行われた。次回大会(11月28日)において最終決定の運びにしたい旨の提案あり、承認された。

3) 次期理事として新理事長の選出(互選)について →西田理事長  
新選出の選出にしたい旨の提案があり、承認された。

4) 会員の動向について →西田理事長  
田崎 伸子氏と堀 公一氏の入会申請が回覧され、両氏の入会が承認された。以上

④会員の動向  
①新入会員4名  
菊池 大介(横浜労働者専門学校) 17-14  
植野 扇希(東京大学) 17-15  
田中 暢子(ラブラヴァ大学) 17-16  
所澤 保寿(関東学院大学) 17-17

②退会者4件  
阿部 信博  
高橋 大雄  
矢川 洋子  
田崎 英夫(物故)  
杉尾 邦江  
※→海外出張グループ(原 和男) 聖学院大総合図書館 以上

平成18年度(2006年)  
日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第1回)議事録

開催日時：平成18年6月9日(月) 18:30～20:30  
開催場所：立教大学池袋キャンパス大井川記念館 1階第2小会議室

出席者：鈴木、小田、西田、藤生、巻頭、田中(幹)、西野、沼澤、松尾、山崎、横内、小原(理事)

会長挨拶  
議題  
1. 確認事項  
→前回常任理事会(平成17年度第5回)の議事録確認

平成17年度(2005年)  
日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第4回)議事録

開催日時：平成17年12月28日(月) 18:00～19:00  
開催場所：立教大学池袋キャンパスセントラル会館2階サテライト

出席者：油井、坂口、鈴木、坂崎、西田、藤生、小原、西野、松尾、山崎、横内、高橋(理事)

会長挨拶  
1. 確認事項  
①前回常任理事会の議事録確認について →西田理事長

2. 報告事項  
①第35回学会大会にかかわる事項  
1)参加数について  
・地域研究 15名  
・大会参加者 83名(会費納入者)  
・基礎講座/シンポジウム 約50名

②大会開催校への礼状(本部事務局(学生会長名)から12月中旬に学長への礼状を送付した。)

③大会への広告掲載に対する礼状(本部事務局からSASスポーツ、モンペム、マナ・アイルランド・リゾート(協力いただいた)が印刷に合わせた礼状、などへの礼状、送付した。)

④大会開催校へ挨拶報告の結果、大会実行委員会事務局より本部事務局へ大会費納付(¥195,963)を本部事務局に前払した。

⑤基礎講座/シンポジウムとテーマについて  
一時間設定、記録方法などの問題点の指摘があった。1か月以内に原稿をまとめることと報告の編集委員からあった。

⑥研究分科会の報告(時間設定、これからの活動やテーマの方向性などの報告が検討事項としてあげられた。)

⑦総会議事録について  
→議事録署名人名と総会議事録、修繕委員(会費)の署名のリストと、総会議事録が確認された。

⑧その他  
①第36回学大会について  
→マレー・寛子委員会より、学会大会の期日は、平成18年12月1日(土)2日(日)に、高専の平安女子学院大学で開催をする旨の報告があった。以上

平成17年度(2005年)  
日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第5回)議事録

開催日時：平成17年6月13日(月) 18:00～20:00  
開催場所：立教大学池袋キャンパス2号館第2会議室

出席者：油井、坂崎、鈴木(秀)、坂口、西田、田中(幹)、西野、横内、小原

会長挨拶  
1. 確認事項  
①前回常任理事会(平成17年度第4回)の議事録確認について →西田理事長

2. 報告事項  
①平成17年度会費納入状況について →西田理事長  
3月9日現在、307件の納入が確認されている。また、2月に年次会費未納(滞年費を含む)会員に対し督促状を記した。

②レジャー・レクリエーション研究第56号の進捗状況について  
①記述、巻頭論文について →田中常任理事  
4月中旬の記述を目標に編集を進めている。また、今号より会費未納の掲載はしないこととする。掲載される巻頭論文は4篇である。

②基礎講座/シンポジウムの掲載原稿について  
シンポジウムの原稿(3編分)は揃っている。また、基礎講座の原稿は最終確認の段階である。意い次第、編集委員へ送る。

③学会情報について →西田理事長  
学会誌の記述に伴い、早急な学会情報として第9回世界ジャーナル(中国)、第36回学会大会(平安女子学院大学)、プライバシーポリシー等の告知をする。また、平成18年度会費の案内と未払滞年費の告知も行う。

④学会ニュース82号の進捗状況について →西田理事長  
6月上旬に配達できるまゝ進んでいる。

⑤その他 →西田理事長  
第9回世界ジャーナル(中国)の案内学会誌第56号の発行について、同日理事会(第4回)において総務委員より引継ぎ挨拶報告をてらうこととなった。

⑥審議事項  
①平成17年度決算報告(中間)について →西田理事長  
中間報告がされた結果、常任理事会において承認された。以降、同日理事会

平成17年度(2005年)  
日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第1回)議事録

開催日時：平成17年4月25日(月) 18:30～21:30  
開催場所：立教大学池袋キャンパス

出席者：油井、坂口、鈴木、坂崎、西田、藤生、小原、西野、高橋(幹)、田中(幹)、松尾、山崎、横内

会長挨拶  
議題  
1. 確認事項 →西田理事長  
①前回常任理事会(平成16年度第2回)議事録の確認

2. 報告事項  
①平成16年度分度会費納入状況について →西田理事長  
年度未現在、417名の会費納入があった。

②第56号の発行について →西田理事長  
→田中(幹)常任理事  
巻頭が少ない(原稿未着のため)、基礎講座、シンポジウムの原稿が揃って、進捗明けには会員の手元に届くようにしたい。また今年に限り、掲載について、編集委員から積極的にアプローチしたい。

③学会ニュース80号について →山崎常任理事  
早急に発行がかりたい。それに詳細の確認が必要と思われる。

平成17年度(2005年)  
日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第1回)議事録

開催日時：平成17年4月25日(月) 18:30～21:30  
開催場所：立教大学池袋キャンパス

出席者：油井、坂口、鈴木、坂崎、西田、藤生、小原、西野、高橋(幹)、田中(幹)、松尾、山崎、横内

会長挨拶  
議題  
1. 確認事項 →西田理事長  
①前回常任理事会(平成16年度第2回)議事録の確認

2. 報告事項  
①平成16年度分度会費納入状況について →西田理事長  
年度未現在、417名の会費納入があった。

②第56号の発行について →西田理事長  
→田中(幹)常任理事  
巻頭が少ない(原稿未着のため)、基礎講座、シンポジウムの原稿が揃って、進捗明けには会員の手元に届くようにしたい。また今年に限り、掲載について、編集委員から積極的にアプローチしたい。

③学会ニュース80号について →山崎常任理事  
早急に発行がかりたい。それに詳細の確認が必要と思われる。

Ⅲ. 審議事項

- 1) 役員選挙について →西田理事長
  - 今年度は、役員改選年となる。したがって次の手続きが必要である。
  - ①改選前理事(10名)の選挙については、4月27日(休)から4月28日(休)に平成17年度金費納入通知書納入書類に加えて改選前理事選挙に関する書類一式を、理事長に郵送し、受理者が金費納入を終えたら、5月20日(金)までに投票することになる。
  - ②正会員による選挙については、5月20日(金)に、平成年度金費納入通知書、納金書類を正会員に交付し、「平成年度金費未納者に対しては、納入を督促して、返寄がない場合は選挙」選挙権、被選挙権がある金費納入済みの正会員による選挙人名簿を作成する。そして、6月末までに役員選挙に関する書面一式(投票用紙を郵送したい)。
  - 上記について審議の結果、上記の通り承認された。
  - また、選挙管理委員会設置については、設置が必要不可欠のこととなる。山崎、松尾、横内、沼澤、小沢の6名の常任理事が委員候補に推薦され、候補者全員が選出された。
  - その委員長は、山崎常任理事が選出された。
- 2) 平成16年度事業報告について →西田理事長
  - 審議報告が提示され、審議の結果、事業報告が承認された。次回(平成17年度)の理事会において再審議することとなった。
- 3) 平成16年度決算報告について →西田理事長
  - 審議報告が提示されたが、一部不備があり、訂正を審議委員会に提出し、承認された後に総括決算書を理事により監査することとなる旨の審議があった。
- 4) 平成17年度事業計画(案)について →西田理事長
  - 審議報告が提示され、審議の結果、一部訂正して承認された。
- 5) 平成17年度予算(案)について →西田理事長
  - 審議報告が提示され、審議の結果、一部訂正して承認された。
- 6) 第35回学大会について →高橋(幹)理事
  - 実施要綱の改訂があり、原則的には承認された。
  - 開催日程については、当初予定された日程を厳重(日本体育学会大会と重複するため)

平成17年度(2005年)

日本レジャー・レクリエーション学会 理事会(第2回)議事録

■日時:平成17年5月30日(月) 18:30~21:30  
 ■場所:立教大学池袋キャンパス セントポール学生会2階(英書)

出席者:油井、坂口、鈴木、松尾、西田、麻生、小坂、高橋(幹)、田中(幹)、松尾、横内、山崎、横内、上村

会長挨拶

- 議題
1. 確認事項 →西田理事長
    - 1) 定款確認(出席者14名、委任状提出者4名)
    - 2) 前回(平成17年度第1回)議事録の確認
  - Ⅱ. 報告事項
    - 1) 平成17年度金費納入状況について →小坂常任理事
      - 5月29日現在、152名の金費納入があった。
    - 2) 学会誌第54号の発行について →田中(幹)常任理事
      - 5月28日に原稿が集まったので石橋印刷に送付した。
    - 3) 学会ニュース80号について

→11→

→山崎常任理事  
 会長の懇話の対案とICUの学会大会開催の意向が決定次第6月末までに発行の手配である。

Ⅲ. 審議事項

- 1) 平成17年度事業報告(案)について →西田理事長
  - 前回の理事会で指摘された部分を訂正し、一部文書の書換えをして承認された。
- 2) 平成16年度決算報告(案)について →西田理事長
  - 前回の理事会で指摘された部分を訂正し、一部文書の書換えをして承認された。
- 3) 平成17年度事業計画(案)について →西田理事長
  - 前回の理事会で指摘された部分を訂正し、一部文書の書換えをして承認された。
- 4) 平成17年度予算(案)について →西田理事長
  - 支出の部の印刷費の簡略化を一部訂正し、承認された。
- 5) 改選前理事の選挙の決まりについて →西田理事長
  - 事務局が関係作業を行う決まりに従い、関係作業を行った。その結果、以下の通り、改選前理事が決まり、松尾常任理事より報告があった。
  - 松尾晋次、坂口正治、鈴木秀雄、西田健夫、沼澤秀夫、横内一也、小野寺浩三、西野仁、麻生忠、油井正昭(以上敬称略)
- 6) 前日本レジャー・レクリエーション学会 評議員の推薦について →西田理事長
  - 本学会から1名の評議員の推薦依頼があり、副会長の鈴木秀雄氏を推薦すること承認された。
- 7) 第35回学大会の日程と大会テーマについて →西田理事長
  - 前回の理事会で日程の変更も検討中とのことであったが、第35回学大会は平成17年12月9日(金)~11日(日)に国際基督教大学にて開催することが承認された。
  - 国際基督教大学の高橋(幹)理事が大会実行委員長となり、大会の盛大実行委員会を立ち上げることが承認された。
  - 実行委員長より大会大会は平成17年12月9日(金)~11日(日)に開催されることが承認された。
- 8) その他
  - ①学生会員の動向 →小坂常任理事
    - 入会者・退会者の回収あり、入会者4名、退会者5名が承認された。
  - ②個人情報保護法に関する特別委員会の設置が承認された。委員の推薦については、今後検討することとなる。

次回は、常任理事会を7月下旬に開催予定しているとの西田理事長から発言があった。以上

平成17年度(2005年)

日本レジャー・レクリエーション学会 理事会(第3回)議事録

■日時:平成17年12月10日(土) 11:00~12:00  
 ■場所:国際基督教大学アットフィールドホール 第2階第255会議室

出席者:油井、鈴木、松尾、坂口、西田、横内、西野、田中(幹)、松尾、沼澤、山崎、小坂、田中(幹)、茅野、荒井、高橋、小田切、小野寺、上村

会長挨拶

学会大会参加者について  
 地域研究参加者15名 懇話会参加者33名  
 1) 確認事項 →西田理事長  
 ① 定款確認(出席者18名、委任状提出者3名)  
 ② 前回の理事会(平成17年度第2回)議事録の確認

- Ⅱ. 報告事項
- 1) 年度金費納入状況について →西田理事長
    - 12月10日現在、267名が金費納入済みであること、また、新入会員10名、退会者15名が金費未納による退会処理者58名、退年度納入済みの会員であることが報告された。
  - 2) 学会誌第55号(大会号)の発行について →西田理事長
    - 学会誌第55号(大会号)の発行したことが報告された。
  - 3) 学会ニュース81号の発行について →西田理事長
    - 学会ニュース81号の発行したことが報告された。

Ⅲ. 審議事項

- 1) 平成17年度事業報告(案)について →西田理事長
  - 平成16年度事業報告(案)について確認の上、承認された。
- 2) 平成16年度決算報告(案)について →西田理事長
  - 総会までに指摘された箇所を訂正することで承認された。また、監査の先生より理事会承認のため、審議にてお受けとご報告の結果の取次決議が適正である旨ご連絡いただいたことが報告された。
- 3) 平成17年度事業計画(案)について

→12→

→西田理事長  
 平成17年度事業計画(案)について確認の上、承認された。

- 4) 平成17年度予算(案)について →西田理事長
  - 平成17年度予算(案)について確認の上、承認された。
- 5) 新役員を選出(2006~2007年度) →西田理事長
  - 新役員を選出について確認の上、承認された。
  - 鈴木副会長より、油井会長を顧問との案があり、承認された。
  - 田中幹事より、理事会を執行部へもつと女性を登用していただきたいとの要望があり、油井会長より、理事会の推薦理事の中で女性を入れた上で反映してもらいたいとの要望があった。
- 6) 個人情報保護法に関する特別委員会の設置について →田中(幹)常任理事
  - 2005年4月より個人情報保護法が施行されたこと、少人数の当学会は法律の対象外であるが学会として何らかの取り組み姿勢を示すことが必要であること、前回の理事会で委員会が立ち上がったこと、プライバシーポリシーや会員名簿の取扱い、その記載事項についてなどを検討する特別委員会を設置することを総会で承認していただく旨、提案があり、承認された。
- 7) 第35回学大会開催について →西田理事長
  - 第35回学大会の会場はマレー寬子氏の協力のもと、平安女学院大学にて開催されること、日程は11月の金~日、決定次第ニュースでお知らせすることが承認された。
- 8) その他
  - ①高橋伸夫実行委員長より、大会開催についての挨拶をいただいた。
  - ②新入会員の動向について →田中(幹)常任理事
    - 9日に開催された地域研究会について報告があり、参加者は10名、日本の歴史文化に触れることができるなかなか充実した地域研究会であったこと、会員には学会中に写真などでお知らせしたいとの報告があった。
    - ③次期会費より挨拶

閉会挨拶

以上

平成17年度(2005年)

日本レジャー・レクリエーション学会 理事会(第4回)議事録

■日時:平成18年3月13日(月) 19:00~20:00  
 ■場所:立教大学池袋キャンパス 5号館 第3会議室

出席者:油井、松尾、鈴木(秀)、坂口、西田、田中(幹)、田中(幹)、西野、野郎、横内、小坂

会長挨拶

- Ⅰ. 確認事項
1. 定款確認 →出席者11名、委任状提出者5名
  - 2) 前回の理事会(平成17年度第3回)の議事録確認について →西田理事長
- Ⅱ. 報告事項
- 1) 平成17年度金費納入状況について →西田理事長
    - 3月9日現在、307件の納入が確認されている。また、2月に年度金費未納(過年度分を含め)の会員に対して督促状を配達した。
  - 2) レジャー・レクリエーション研究会第56号の進捗状況について
    - ①配達、査読論文について →田中常任理事
      - 4月中旬の配達を目標に編集を進めている。現在、今年より役員名簿の掲載しなごこととする。掲載される査読論文は4篇である。
    - ②基礎講演 シンポジウムの掲載原稿について →高野常任理事
      - シンポジウムの原稿(3編分)は整っている。また、基礎講演の掲載も最終確認の段階である。整った原稿、編集委員へ送る。
    - ③学会情報について →西田理事長
      - 学会誌の配達に伴い、早急な学会情報として第9回世界レジャー・博覧会(中国)、第36回学大会(平安女学院大学)、プライバシーポリシー等の告知をする。また、平成18年度会費の案内と未払過年度会費の告知も行う。
    - 3) 学会ニュース82号の進捗状況について →西田理事長
      - 6月上旬に配達できるよう進めている。
  - 4) その他
    - ①第9回世界レジャー・博覧会(中国)の案内について →高野理事
      - 原稿が掲載され、学会誌第56号と学会ニュース82号において案内をすることが確認された。また、掲載原稿に関しては顧問理事に一任することが承認された。

Ⅲ. 審議事項

- 1) 平成17年度決算報告(中間)について →西田理事長
  - 中間報告がなされた結果、承認された。
  - 各委員報告について →西田理事長
    - 各専門委員会より平成17年度の報告がなされ、承認された。
  - 2) プライバシーポリシーについて →田中常任理事
    - 草案が完成された。審議の結果、草案の基本方針が承認された。以降、草案の加筆・訂正は田中常任理事に一任すること、また、次の審議においては次回常任理事会にて行うことが承認された。
  - 3) 会員名簿の管理について →田中常任理事
    - ①会員名簿の発行  
個人情報保護法により、会員名簿は学会誌に掲載せず、会員名簿として独立発行することが承認され承認された。また、その告知は学会誌第56号に掲載することが承認された。
    - ②会員名簿の提出  
会員情報調査の草案が提示され、基本方針が承認された。以降、草案の加筆・訂正は田中常任理事に一任すること、また、次の審議においては次回常任理事会にて行うことが承認された。

→13→

→田中常任理事  
 審議の結果、承認された。

- 4) 審議事項
  - ①平成17年度決算報告(中間)について →西田理事長
    - 中間報告がなされた結果、承認された。
  - ②各委員報告について →西田理事長
    - 各専門委員会より平成17年度の報告がなされ、承認された。
  - ③プライバシーポリシーについて →田中常任理事
    - 草案が完成された。審議の結果、草案の基本方針が承認された。以降、草案の加筆・訂正は田中常任理事に一任すること、また、次の審議においては次回常任理事会にて行うことが承認された。
  - ④会員名簿の管理について →田中常任理事
    - ①会員名簿の発行  
個人情報保護法により、会員名簿は学会誌に掲載せず、会員名簿として独立発行することが承認され承認された。また、その告知は学会誌第56号に掲載することが承認された。
    - ②会員名簿の提出  
会員情報調査の草案が提示され、基本方針が承認された。以降、草案の加筆・訂正は田中常任理事に一任すること、また、次の審議においては次回常任理事会にて行うことが承認された。

次回:常任理事会を7月下旬に開催予定しているとの西田理事長から発言があった。以上

平成17年度(2005年)

日本レジャー・レクリエーション学会 理事会(第3回)議事録

■日時:平成17年12月10日(土) 11:00~12:00  
 ■場所:国際基督教大学アットフィールドホール 第2階第255会議室

出席者:油井、鈴木、松尾、坂口、西田、横内、西野、田中(幹)、松尾、沼澤、山崎、小坂、田中(幹)、茅野、荒井、高橋、小田切、小野寺、上村

会長挨拶

学会大会参加者について  
 地域研究参加者15名 懇話会参加者33名  
 1) 確認事項 →西田理事長  
 ① 定款確認(出席者18名、委任状提出者3名)  
 ② 前回の理事会(平成17年度第2回)議事録の確認

- Ⅱ. 報告事項
- 1) 年度金費納入状況について →西田理事長
    - 12月10日現在、267名が金費納入済みであること、また、新入会員10名、退会者15名が金費未納による退会処理者58名、退年度納入済みの会員であることが報告された。
  - 2) 学会誌第55号(大会号)の発行について →西田理事長
    - 学会誌第55号(大会号)の発行したことが報告された。
  - 3) 学会ニュース81号の発行について →西田理事長
    - 学会ニュース81号の発行したことが報告された。

→14→



事務局からのお知らせ

- 1. バックナンバー(「歩み」を含む)の実費頒布を行っています。特に新入会員におすす...

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最短でも2ヶ月程度の時...

会員の動静

- 平成17年度 新入会員 (所属) 17-13 菊地 大介 (横浜方式看護専(寿))...

〈お 願 い〉

下記の通り、住所不明会員が18名おります。お知り合いの会員がございましたら、本報事務局(淑徳大学)までお知らせください。

平成18年8月

学会ニュース AUG.2006 No.82

平成18年11月

学会ニュース NOV.2006 No.83

日本レジャー・レクリエーション学会 (Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1 発行人 西田 貴夫 編集 広報渉外委員会

【副会長あいさつ】

レジャー・レクリエーションから「生活の質」への挑戦を

日本レジャー・レクリエーション学会副会長 小田切 毅 (新潟医療福祉大学健康スポーツ学科教授)

永年住み慣れた奈良女子大学文学部のスポーツ科学講座をこの春で定年退職した。そして西月からは、縁あって新潟医療福祉大学の健康スポーツ学科に在籍している。この大学では、いわゆる「QOL (Quality Of Life) サポーター」として、「生活の質」の向上に貢献することを目指して、社会に羽ばたく人材づくりを積極している。

忘れて人間」を連想させる問題事例と答えるかもしれない。つい最近も、生きる力を育むはずの教育者で、「世界史未読修」の問題を愛嬌に、全国の高校の教育カリキュラムの扱いをめくり、大きな社会的波紋が生じている。これは、かの「ホモ・ルーデンス」でも指摘されているような、真面目になりすぎて喜びを失いつつある現代を暗示されるものでもあろう。

もともと「生活の質」を高めると言っても、そのためのアプローチは、決して一筋縄ではあり得ないだろう。たとえば、バリアフリーという「質」の高さの中で育てられた若者が、幾つになっても親元を離れられず、社会に向けて行動出来なくなるという今の社会的傾向もある。あるいは對えることを知らない、ガスのような心を持った若者の暴走(犯罪)の事件などとも、同様な生活の「質」への問いかけが深く関わっているように思う。これらはまた、「喜びを

JSLRS 1. 学会副会長挨拶(小田切毅) P.1 2. 第36回学会大会のご案内(第2報) P.2 3. 学会大会実行委員会挨拶(マレー寛子) P.4 4. 第36回学会大会開催要領 P.5 5. 学会大会開催要領・決議 P.8 6. 学会大会がスター・発表・演題 P.9 7. 平成18年度専修計画(案) P.10 8. 平成18年度予算(案) P.10 9. 責任理事会の報告 P.11 10. 事務局からのお知らせ P.12 11. 編集委員会からのお知らせ P.12 12. 会員の動静 P.12

第36回学会大会(平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

お知らせ第2報

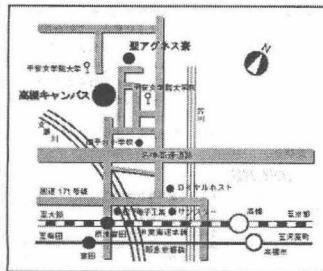
第36回学会大会(平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

第36回学会大会のご案内

- 日 程 平成18年12月2日(出)~3日(帰) ■会 場 平安女学院大学 高槻キャンパス 〒569-1092 大阪府高槻市南平台5丁目84-1

大学までのアクセス

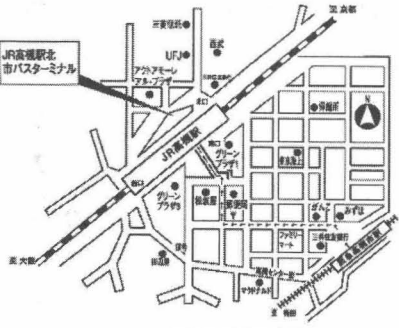
- 遠隔地から平安女学院大学まで ☆新幹線利用の場合 新大阪(JR東海道・山陽本線新快速 11分)→高槻 ☆航空機利用の場合 関西空港 (JR特急はるか約50分)→新大阪(JR東海道・山陽本線新快速 11分)→高槻 伊丹空港 (大塚モノレール)→南茨木(徒歩1分)→南茨木(阪急京都本線急行)→高槻市(徒歩8分)→高槻 神戸空港 (神戸新交通ポートアイランド線)→三宮(徒歩2分)→三ノ宮(JR東海道・山陽本線新快速 37分)→高槻



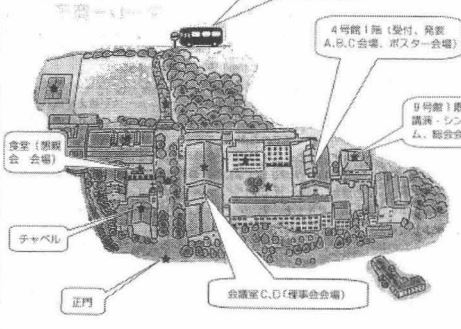
平安女学院大学高槻キャンパスへは、JR「高槻」へ新快速で「大阪」から約15分、或は「高槻市」へ快速特急で「河原町」、「梅田」から約20分。 JR高槻駅北(京都寄り出口)から市バス67番「平安女学院大学」行き、70番「平安女学院大学南由西大学」行きに乗車約15分、「平安女学院大学」下車す。 JR高槻駅北バスターミナル5箇のりばが本学行きのみです。

注) バス停は「平安女学院大学前」で下車ください。この2つ前のバス停が「平安女学院大学」ですが、キャンパスまで少しわかりにくいと思います。

第36回学会大会 (平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

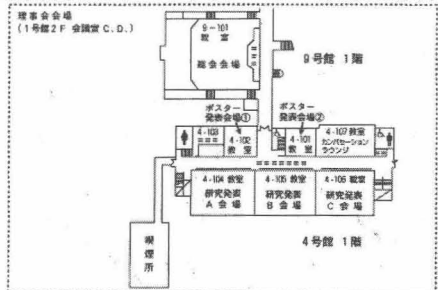


一学内案内図



第36回学会大会 (平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

第36回 日本レジャー・レクリエーション学会 会場案内図



育ちあい

第36回学会大会実行委員長 マーレー寛子

第36回日本レジャー・レクリエーション学会大会の開催にあたり、大阪高槻の地にあります平安女学院大学において皆様をお迎えすることを、とても楽しみにしております。今年の大会テーマは、「共に育つために求められるレジャー・レクリエーション」です。この複雑な社会では、喜び楽しみ生きることを忘れてしまったかのようなニュースが絶えず流れてきます。その様な状況の中で私たちは、今一度レジャー・レクリエーションの原点に戻り、この社会の中で生きている子どもたちから高齢者まですべての人がどのようにしてお互いがお互いを支えあい、育ちあい、喜び楽しみを見つけていくのかを考えていかなければならないと思います。...

第36回学会大会 (平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

日本レジャー・レクリエーション学会 第36回学会大会開催要項

大会テーマ「共に育つために求められるレジャー・レクリエーション」

- 1. 主催：日本レジャー・レクリエーション学会
2. 主幹：日本レジャー・レクリエーション学会第36回学会大会実行委員会
3. 期日：平成18年12月2日(土)、3日(日)
4. 会場：平安女学院大学 (高槻キャンパス) 〒566-1092 大阪府高槻市南平台6丁目84-1

5. 日程

第1日目 12月1日(金) 地域研究の予定でしたが中止となりました。

第1日目 12月2日(土)

- 11:00-12:00 理事会 (1号館2階会議室C,D)
12:00-13:10 受付 (4号館1階)
13:00-13:15 会長挨拶 鈴木秀雄 (学会会長)
大会名譽会長挨拶 山崎聖一 (平安女学院大学学長)
13:15-14:30 基調講演 (9号館1階 9-101教室)
○基「現代社会におけるレジャー・レクリエーションの課題」
○副「ウエルビーイングからエンリッチメントへ」
岡本義夫 (同志社大学文学部教授)
14:45-16:45 シンポジウム
コーディネーター：高橋 伸 (国際基督教大学)
シンポジスト
○「子供の遊びについて」
岡村紗子 (手づくりはくし研究会代表)
○「地域とレクリエーションの連携」
村田明子 (兵庫県社会福祉協議会)
○「さらに増加する余暇(自由時間)」
吉田生一 (武蔵野大学教授)
話者提供者 森生 恵 (東京農業大学)
(ディファントルファール記念館西棟2階、252会議室)
17:00-18:30 懇親会 (食堂)

第2日目 12月3日(日)

- 8:30- 受付開始 (4号館会議室C,D)
9:30-10:30 研究発表 A会場 (4号館4-104教室) 3題
B会場 (4号館4-105教室) 3題
C会場 (4号館4-106教室) 3題
10:40-11:40 研究発表 A会場 (4号館4-104教室) 3題
B会場 (4号館4-105教室) 3題
C会場 (4号館4-106教室) 3題
11:00-14:40 ポスター発表会場オープン(4号館1階 9-101教室)
11:40-12:10 ポスター指定発表時間
12:40-13:40 昼食 (食堂)
13:40-14:40 研究発表 A会場 (4号館4-104教室) 3題
B会場 (4号館4-105教室) 3題
C会場 (4号館4-106教室) 3題
14:40-15:10 総会 (9号館1階 9-101教室)
11:40-12:10 ポスター発表 A会場 (4号館4-101教室) 8題
B会場 (4号館4-102教室) 8題

理事会 平成18年12月2日出 11:00-12:00 会場 1号館2階 会議室C, D.
総会 平成18年12月3日 12:40-13:40 会場 9号館1階 9-101教室

大学食堂 12月2日、3日両日も大学食堂のご利用が可能です。
※ 喫煙所：喫煙は指定された場所でお願いたします。(学内図参照)

第36回学会大会 (平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

第36回学会大会研究発表・演題

第2日目 12月3日(日)

■ 研究発表 A会場 (4号館1F 4-104教室)

- 座長：西野 仁 (東海大学) 9:30-10:30 A-5 レジャー教育としてのキャンピング・プログラム
A-1 地域青少年活動における学生リーダーの活動意識に関する報告
～一部内A区リーダー達の事例～
○東原 邦秋 (余暇問題研究所) 横田治久 (余暇問題研究所)
A-2 デンマークにおける公営高齢者(含認知症者)介護型住居・デイサービスセンター建設についての報告
～IFA会議における訪問見学プログラムから～
○山崎祥子 (余暇問題研究所) 上野 幸 (余暇問題研究所) 高橋和敏 (余暇問題研究所) ☆質疑応答
○座長：山崎祥子 (余暇問題研究所) 13:40-14:40
A-3 高齢者介護サービス事業施設におけるレクリエーションに対する関心について
～レク・セミナー参加者アンケートの結果から～
○廣田治久 (余暇問題研究所) 山崎祥子 (余暇問題研究所) 上野 幸 (余暇問題研究所) A-10 総合型地域スポーツクラブの運営の実態
～神奈川県内18クラブを事例として～
○古原さちえ (東海大学) 西野 仁 (東海大学) ☆質疑応答
A-9 昭和初期の余暇・娯楽関連書籍の情報源
～中田俊彦著「教育上より見たる娯楽と休養」と「Leisure and Its Use」 by H.L.May and D.Petgen の場合～
○西野 仁 (東海大学体育学部) ☆質疑応答
○座長：沼澤勇雄 (立教大学) 10:40-11:40
A-4 大学生のオープンフォーター講習における生きる力の育成
○山下雅彦 (福山平成大学) ☆質疑応答

第36回学会大会 (平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

第2日目 12月3日(日)

■ 研究発表 B会場 (4号館1F 4-105教室)

- 座長: 土屋 薫 (江戸川大学) 9:30~10:30
- B-1 介護予防教室における目的別レクリエーションプログラムの開発と効果に関する研究(1)
  - 小池和幸 (仙台大学)
  - 高崎義輝 (仙台大学)
- B-2 老人病院における余暇支援
  - ～行動参加者増加への試み～
  - 左近慎平 (法政大学慶成会 青梅 慶友病院)
  - 草壁孝治 (法政大学慶成会 青梅 慶友病院)
- B-3 老人病院における余暇支援
  - ～余暇自立支援の試み～
  - 草壁孝治 (法政大学慶成会 青梅 慶友病院)
  - 左近慎平 (法政大学慶成会 青梅 慶友病院)
- ☆質疑応答
- 座長: 佐橋 由美 (大阪樟蔭女子大学) 10:40~11:40
- B-4 高齢者施設における楽しいレクリエーションプログラムの楽しさについての研究
  - 吉岡尚美 (東海大学)
  - 榎本順子 (財) 福寿会アイサーピスセンター(パソナル)
  - 佐藤宏子 (財) 福寿会アイサーピスセンター(パソナル)
- ☆質疑応答
- B-5 温水プール利用者の特性と利用決定要因に関する研究
  - ～タポポートまきまき・温水アクティブセンターを事例にして～
  - 櫻田つづる (東京農業大学地域環境科学部)
  - 上岡洋晴 (東京農業大学地域環境科学部)
  - 岡田真平 (奇寿教育医学研究所)
  - 本多卓也 (東京大学教育学部)
- B-6 伊勢志摩国立公園立国の特殊性
  - 池井正昭 (柳屋横浜大学、(財) 国立公園協会)
- ☆質疑応答
- 座長: 小池和幸 (仙台大学) 13:40~14:20
- B-7 「レジャー活動」と「レクリエーション」に関するランダム化比較試験のシステマティックレビュー
  - 上岡洋晴 (東京農業大学)
  - 漆谷一郎 (東京大学大学院)
  - 高橋美絵 (身体教育医学研究部)
  - 本田卓也 (東京大学教育学部)
  - 春日期子 (東京大学教育学部)
  - 山田有紀子 (東京理科大学保健体育学)
  - 真喜志まり (東京理科大学保健体育学)
  - 下崎 聖 (東京農業大学)
- B-8 メディア・ビオトープ構築に関する基礎的研究
  - 土屋 薫 (江戸川大学)
- ☆質疑応答

第36回学会大会 (平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

第2日目 12月3日(日)

■ 研究発表 C会場 (4号館1F 4-106教室)

- 座長: 志原さちえ (東海大学) 9:30~10:30
- C-1 元元高齢者に対する要介護予防運動の積極的導入を図るための視点
  - ～運動形態からの提案～
  - 田中 光 (産近学短期大学)
  - 鈴木英信 (東海大学非常勤)
  - 鈴木孝雄 (東海大学非常勤)
- ☆質疑応答
- C-2 障害者のスポーツにおけるEquityとEqualityの視点
  - ～英国の事例から～
  - 田中聡子 (東海大学大学院)
  - 鈴木秀雄 (東海大学大学院)
- C-3 余暇活動における水の事故に関する研究
  - ～特に新聞の掲載記事分析を中心に～
  - 鈴木英信 (東海大学非常勤)
  - 郷持 武 (社) 伸正会、(財) 大阪府レクリエーション協会
  - 鈴木秀雄 (東海大学大学院)
  - 鈴木英信 (東海大学非常勤)
  - 鈴木秀雄 (東海大学大学院)
- ☆質疑応答
- 座長: 郷持 武 (筑波大学) 10:40~11:40
- C-4 福祉施設におけるレクリエーションに関する専門家の導入をめぐる提言
  - ～セブティエティックレクリエーションを中心に～
  - 郷持 武 (社) 伸正会、(財) 大阪府レクリエーション協会
  - 郷持 武 (社) 伸正会、(財) 大阪府レクリエーション協会
  - 鈴木英信 (東海大学非常勤)
  - 鈴木秀雄 (東海大学大学院)
- ☆質疑応答
- C-5 社会福祉におけるレクリエーションの展開と課題
  - ～文部科学省検定教科書を通して～
  - 樋口 真 (九州大学)
- 座長: 樋口 真 (九州大学) 13:40~14:40
- C-7 教員養成大学生における「野外活動」の意識に関する研究
  - ～教員志望者と非教員志望者に着目して～
  - 佐藤修大 (大阪体育大学)
  - 松永敏子 (大阪体育大学)
  - 鈴木祐志 (大阪体育大学大学院)
  - 井澤悠樹 (大阪体育大学大学院)
- C-8 地域スポーツイベントにおけるプログラムの満足度に関する研究
  - 鈴木祐志 (大阪体育大学)
  - 松永敏子 (大阪体育大学)
- ☆質疑応答
- C-9 レクリエーション講習会参加者の特性とニーズについて
  - ～平成17年度大阪府レクリエーション協会アンケート調査より～
  - 横山 誠 (財) 大阪府レクリエーション協会
  - 相泉良 律 (財) 大阪府レクリエーション協会
- ☆質疑応答

第36回学会大会 (平安女学院大学 2006年12月2日・3日)

第2日目 12月3日(日)

第36回日本レジャー・レクリエーション学会大会 ポスター発表演題

- 会場 / 4号館 4-101教室
- P-1 森林浴におけるリラックス効果
  - 井川昭弘 (岐阜県森林研究所)
- P-2 大学生の余暇生活について
  - 相泉良 律 (財) 大阪府レクリエーション協会)
  - 横山 誠 (財) 大阪府レクリエーション協会)
- P-3 レクリエーション活動におけるエコロベラスの検討
  - ～障害者スポーツ大会の道路調査～
  - 高橋 仁美 (同志社大学)
  - 柴田 宣孝 (京都大学)
  - 西山 龍之 (京都府障害者スポーツセンター)
  - 清水 薫 (日本エコロベラス協会)
- P-4 レジャー志向性尺度の開発に関する研究
  - 佐橋 由美 (大阪樟蔭女子大学)
  - 多賀 豊章 (大阪樟蔭女子大学)
- P-5 障害者スポーツセンターにおける知的障害者の余暇支援の動向
  - 水井由美子 (大阪府障害者スポーツセンター)
  - 茅野 宏明 (武蔵川女子大学)
- P-6 障害者とレクリエーション
  - ～A国立総合リハビリテーションセンターにおける余暇教育プログラム～
  - 竹園 恵 (武蔵川女子大学大学院)
  - 原由美子 (武蔵川女子大学大学院)
  - 茅野 宏明 (武蔵川女子大学)
- P-7 老人病院における余暇支援
  - ～看護実践者研修への余暇支援の試み～
  - 今井 悦子 (法政大学慶成会 青梅慶友病院)
  - 草壁 孝治 (法政大学慶成会 青梅慶友病院)
  - 左近 慎平 (法政大学慶成会 青梅慶友病院)
- P-8 住環境による健康の自己管理能力を高めるための取り組み
  - ～心身の影響を見る「気づきスモア」を使って～
  - 三浦 玲子 (芝罘工業大学非常勤)
  - 小畑 一也 (芝罘工業大学非常勤)
  - 宮々本明子 (芝罘工業大学)
  - 澤田 弘子 (国) パリクトラスシニア)
  - 小畑 紀子 (国) パリクトラスシニア)
- 会場 / 4号館 4-102教室
- P-9 大学生による自由時間の構造とその類型化
  - 永松 昌樹 (大阪教育大学)
  - 藤方 真輝 (大阪教育大学大学院)
- P-10 児童の放課後における自由時間の意識と行動
  - 長手 良平 (大阪教育大学大学院)
  - 水松 昌樹 (大阪教育大学)
- P-11 介護保険制度など環境の変化にともなう障害者老人ホームにおけるレクリエーションプログラムの変遷と今後の課題
  - 尾井 基子 (福祉レクリエーション・ワーカー)
  - マール・アキラ (平安女学院大学)
- P-12 花と緑のまちづくりにおける地域住民の認識に関する研究
  - ～長野県小池町を事例として～
  - 朝日 慶太 (東京農業大学地域環境科学部)
  - 麻生 恵 (東京農業大学地域環境科学部)
- P-13 自然学習における教材の作成
  - ～磐前郡国立公園、磐前山を対象とした地形・情報視覚パズル～
  - 栗田 みは (東京農業大学地域環境科学部)
  - 栗田 和祐 (東京農業大学地域環境科学部)
- P-14 武蔵山百景(100景)トイルのづくりと管理運営に関する課題
  - 平冢 敬 (東京農業大学地域環境科学部)
  - 岸 昌孝 (NPO法人利根川上下連携推進センター)
  - 栗田 和祐 (東京農業大学地域環境科学部)
- P-15 輪島市三井地区における農村景観の保存・活用手法に関する研究
  - 大西 広司 (東京農業大学)
  - 鹿島 春樹 (東京農業大学)
  - 那谷 浩子 (東京農業大学大学院)
  - 那谷 恵 (東京農業大学)
- P-16 朝日における景観体験創造に関する研究
  - 高野 謙 (東京農業大学地域環境科学部)
  - 麻生 恵 (東京農業大学地域環境科学部)

日本レジャー・レクリエーション学会 平成19年度 事業計画 (案)

- I. 事業
  - 1) 第37回学会大会の開催
    - 期日: 平成19年12月(予定)
    - 場所: 候補地 東洋大学山手キャンパス(予定)
  - 2) 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行
    - 雑誌号: 第60号【「学ム」第2巻-1】、第61号
  - 3) 学会ニュースの発行
    - №14、№15
  - 4) 役員選挙
    - 改選前理事の選出(10名)、幹事選挙(15名)、幹事選挙による推薦理事(4名)の選出
  - 5) 組織の強化および活動の充実
    - 新人委員の募集、プラ(パター)・ゲル(ゲル)に在籍の仲介及び研修、応答委員の募集、新会員の募集、学会研究プロジェクト実施
  - 6) 年間団体との交流
  - 7) 第36回学会大会開催準備
    - 開催場所の決定
    - ①「学ム」第2巻-1の編集
    - ②「学ム」【学会誌】の電子化
    - ③ 学会ホームページの改修
    - ④ 年度会費の内訳を徴収財源の安定
  - 8) 学会活性化に関する事業
- II. 諸会議の開催
  - 1) 学会総会
  - 2) 理事会
  - 3) 常任委員会
  - 4) 各専門委員会
  - 5) 幹事選挙委員会
  - 6) 「学ム」【学会誌】の編集委員会
  - 7) 「学ム」【学会誌】電子化委員会
  - 8) 学会ホームページ推進委員会

日本レジャー・レクリエーション学会

平成19年度 予算(案)

科目	平成19年4月1日～平成20年2月28日(単位:円)			備 考
	本年度予算(案)	前年度予算(案)	増減(A-B)	
前年度繰越金	500,000	1,282,899	-782,899	
年 度 費 用	2,680,000	2,680,000	0	8,000×300名
増 年 度 費 用	240,000	240,000	0	8,000×30名
人 員 費	80,000	40,000	20,000	2,000×10名
賛 助 費 用	72,000	22,000	0	22,000×1件 (入会会費)
雑 費 料	540,000	90,000	540,000	3件(大会費)、15件(学費)
補 収 金	150,000	125,110	24,890	学会誌等
合 計	4,392,000	4,688,000	-296,000	
支 出 の 部				
印 刷 費	2,300,000	2,600,000	-200,000	学会ニュース84、85号、学会誌65号・69号(大会費) 30号(少人数部)、51号、各種資料、抄録集編纂費等
通 信 費	400,000	400,000	0	学会ニュース、学費、各種資料、抄録集編纂費等
事務用品費	200,000	200,000	0	文房具、コピー、トナー、PC用品等
事務用雑費	200,000	200,000	0	文房具、事務用品、Web費等
各専門委員会費	100,000	100,000	0	委員会経費、招待経費等
役員委員会費	100,000	100,000	0	雑誌、電子化等委員会経費等
ホームページ経費	200,000	200,000	0	Web経費等
講師等費用	250,000	0	250,000	講師費用経費、役員用紙経費
内務用印刷費	100,000	100,000	0	講師用印刷費
会 費	200,000	200,000	0	雑誌、研修会、常任委員会経費
大会補助費	201,000	201,000	0	第37回学会大会
予 備 費	141,000	476,000	-335,000	
合 計	4,392,000	4,688,000	-296,000	

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第2回)議事録

開催日時:平成18年7月24日(月)18:00-19:00  
開催場所:立教大学保健センター(セントポール会館2階大会議室)〒162-8601  
出席者:鈴木、坂口、小田切、西田、麻生、小椋、沼澤、山崎、橋内、橋塚

会長挨拶

議題

- I. 確認事項  
1) 前回常任理事会(平成18年度第1回)議事録の確認
- II. 報告事項  
1) 年度会費納入状況について  
郵便振替の手違いがあり、正確な納入状況は次回に告知するとの報告があった。  
2) 第36回学会大会の研究発表申込み状況について  
平成18年7月22日現在、口頭発表1題、ポスター発表2題の申込みがあった。  
発表申込の締切りが7月29日から8月31日に延期し、ニューズ誌等に掲載される。発表の締切りは、従来通り9月30日とするとの報告があった。
- III. 審議事項  
1) 平成18年度事業計画(案)について  
資料1に基づき審議がなされ、資料の一部を訂正し、承認された。  
2) 平成18年度予算(案)について  
資料1に基づき審議がなされ、資料の一部を訂正し、承認された。  
3) 第36回学会大会(テーマ:基礎講演・シンポジウム等)について  
資料1に基づき審議がなされ、基調講演:シンポジウムを承認できるが、研究科会費をとりやめることを承認した。  
マレーシア理事(大会開催地:早稲大学大学院)より提案された大会テーマ等を研究科大会委員会(発案委員)と再度検討することを承認された。

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
常任理事会(第3回)議事録

開催日時:平成18年9月25日(月)18:30-21:00  
開催場所:立教大学保健センター(セントポール会館2階大会議室)〒162-8601  
出席者:鈴木、小田切、坂口、西田、麻生、小椋、橋塚、池袋、山崎、橋内

会長挨拶

議題

I. 確認事項

定数確認(出席者10名、欠席者5名)

1) 前期(平成18年度第2回)議事録の確認

- II. 報告事項  
1) 平成18年度会費納入状況について  
9月2日現在、156名の会費及び14件の期賦会費の納入があった。  
2) 第36回学会大会の申込み状況について  
口頭発表27題、ポスター発表15題(計42題)の申込みがあった。  
3) シンポジウムについて  
会場校よりバールのサイズはH184×W185(㎝)の2段階の寸法の連絡があったが、バール1台につき1議題を行うことを発表者に告知することとなった。  
4) 学会大会参加費(会場費を除く)等について  
参加費4,000円、懇親会費3,000円、弁当代900円に決まった。  
5) 第36回学会大会会場費について  
広告協賛費の協力依頼がなされた。  
6) ニュース誌の発送について  
ニューズ部では発送したとの報告がなされた。  
7) 入会案内について  
入会案内の協力依頼がなされた。

III. 審議事項

- 1) 平成18年度事業計画(案)について  
資料1が配られ、審議の結果、一部訂正がなされ、承認された。  
2) 平成18年度予算(案)について  
資料1が配られ、審議の結果、一部修正のうえ承認された。  
3) 第36回学会大会について  
実行委員会より、テーマ、基調講演、シンポジウムについて審議がなされ、レジャー・レクリエーションとの関わりを明確にするとの意見があり、その旨の明確を実行委員会に研究完全態に一致することが承認された。また、シンポジウムのについては、コメンテーターの必要性がある旨の意見がなされた。基礎講演について今回は、中止も視野に入れて早急に結論を出すことが承認された。  
4) 第37回学会大会開催校について  
関東地区を視野に入念中で、次回の常任理事会までに候補を報告することとなった。  
5) 「多歩一第2巻」の編集企画及び編集委員会について  
資料1が配られ、編集企画は、常任理事会員が担当し、編集委員会については、委員長は西田理事兼とし、研究企画・編集の担当編集長、正副委員長が、委員となることが決まった。  
6) 電子化委員会(「歩み」、「学会誌」)について  
資料1が配られ、編集企画は、常任理事会員が担当し、編集委員会については、委員長は、西田理事兼とし、研究企画・編集の担当編集長、正副委員長が、委員となることが決まった。  
7) 規約の改正(役員任期の変更)について  
現行の役員任期の改正について審議がなされた。今後、関連する諸契約を含め検討することが承認された。  
8) 学会員の動静について  
入会者・退会者の届数があり、入会者、松尾輝子、退会者、志村賢一、丸山香が承認された。以上

事務局からのお知らせ

1. バックナンバー(「歩み」を含む)の実費負担者を行っています。特に新入会員におすめします。  
①「歩み」32号の値段  
1冊¥2,000(郵送料¥350)  
②「歩み」を除くその他の研究誌は、  
50-53号1冊 ¥1,000  
49号まで1冊 ¥1,000-¥500になります。  
(送料別)

- 「申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を添えて、郵便振替あるいは現金振替でお送り下さい。」  
3. 平成18年度の年会費(¥8,000)を納めていない会員は、至急納入手続きをお願いします。  
4. 学会のホームページをご覧ください。  
http://www.rakkyo.nippon.gr.jp/jalrs  
5. 事務局の開設日は火曜・水曜・金曜となっております。

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査、修正作業には最短でも2ヶ月程度の間を要する点を考慮して、投稿してください。

投稿論文送付先  
〒544-8510 埼玉県入間郡三芳町森久保1150-1  
淑徳大学 国際コミュニケーション学部  
西田俊夫研究室  
〒162-8601 東京都目黒区三軒が辻1-15-1  
淑徳大学 国際コミュニケーション学部  
西田俊夫研究室  
[日本レジャー・レクリエーション学会事務局]

会員の動静

●平成18年度 新入会員

- 16-A 3 松尾 輝子  
A 4 穂田 つづる (東京農業大学地域環境科学部)  
A 5 岡田 慎樹 (東京農業大学大学院研究科)  
A 6 伊澤 悠樹 (大阪体育大学大学院)  
A 7 相原良 律 (大阪府レクリエーション協会)

●平成18年度 退会者

- 富田 敏之  
志村 健一  
丸山 香

平成18年11月

学会ニュース  
NOV.2006 No.83

平成19年4月  
**学会ニュース**  
APR. 2007 No.84  
事務局 〒544-8510 埼玉県入間郡三芳町森久保1150-1  
電話 048-274-1811 郵便振替 00150-3-002553  
E-mail: syokoku@mm.u-tokyo.ac.jp  
発行人 西田 俊夫 編集 広野伸吾委員会  
淑徳大学 国際コミュニケーション学部 西田俊夫研究室内

～現代の生活における「優遊」の提案～

本学会会長 鈴木秀雄 (関東学院大学教授)

新しい年度も始まる。会員の皆さんも教育、研究、学事、また諸活動に日々励んでおられるかと思えます。

一方で暮らにもある「光陰矢の如し」を強く実感しつつも忙しさをかき消す、つい時間を削り出して「のんびり」することが何から出来るか、「今」を過ごしている人も多いのではないのでしょうか。さらに時代の流れは、行動(努力)の結果として常に著実な成果を求め、何もかも効率的に事務を運ぶことを善としし過ぎではないでしょうか。

優遊とは、暇があつてのんびりしているさまも意味しますが、言葉としては楽遊に自身の生活のなかで「優れた遊びののんびり楽しむこと」と理解する意義もあると思えます。

楽をするのではなく、むしろ本来の意味で生活を楽しむ生きかたこそ現代社会では重要であり、心身の健康を維持増進する視点からも、優れた遊びを「のんびり」と楽しむ勇氣を持つ姿勢も必要です。

「レジャー・レクリエーション」を学会(≒教育、研究、活動)の共通言語として扱うべき学会員が、もっとも個性豊かな楽しみや喜びを享受する術を持ち得ていなければならないでしょう。向のために教育し、研のために研究し、なぜその活動をするのか...それは豊かそして真の「個人の生活の喜び(EPL=Enjoying Personal Living)」を追求する学問であり、実践することを強く意識しなければならぬ世界そのものだからです。

レジャー・レクリエーションが本質的に含む持つ「その知られざる力」を明確に示していく専門家集団として、高い評価や位置づけを勝ち取る努力を学会として担い上げていかなければならぬ時代に入っているといえます。

単なる生命維持機能領域でもなければ、仕事(あるいは生計・暮らしを立てる経済的基盤機能領域)でもない、レジャー・レクリエーションであるからこそ、自己啓発、自己実現、社会参加、社会貢献、ボランティア活動などが明確に含まれているのですが、しかしあまりにもこの価値論ばかりに終結すれば、前述の個人の生活の喜びや個人の優遊がややもすると薄く、底流されてしまいます。

今、社会は多くの困難や難問を深く抱え込んでいますが、どのあたりで個人々の「したいこと」と「すべきこと」の約り合いを探るかが重要であり、まさに現代の生活形態として欠かすことができない「優れた遊びののんびり楽しむこと」そして「優遊」に思いを寄せると工夫と勇氣が時々求められるのです。会員の皆さん、よき一年(年度)をお過ごしください。

二 ユ ー ズ 10	1. 学会会長の挨拶(鈴木秀雄)	P. 1	6. 年度会費納入のお知らせ	P. 7
	2. 役員選挙(2006-2007年度)の公示	P. 2	7. 常任理事会・理事会の報告	P. 8
	3. 第37回学会大会開催案内(第1報)	P. 3	8. 事務局からのお知らせ	P. 12
	4. 第37回学会大会研究発表申込みのお知らせ	P. 3	9. 編集委員会からのお知らせ	P. 12
	5. 第36回学会大会時の総括報告	P. 4	10. 会員の動静	P. 12

2008～2010(平成20～22)年度学会役員選出選挙について

役員選出選挙について

1. 正会員の選挙権、被選挙権について
- (1) 学会会則および役員選出細則第4条に基づき、正会員の選挙権、被選挙権は、平成19年6月30日迄に年度会費(過年度未納分がある場合にはそれらを含む)を納入している者。
- (2) 新入会員(平成18年度入会者)は、平成18年12月31日迄に入会手続き(申込、払込、承認)が完了している者。
2. 新理事の選出について
- (1) 正会員による選挙は、既に現行理事会において選出された「改選前理事選出候補者(10名)」を除く「新理事(15名)」を選出する。
- (2) 正会員による新理事(15名)の「選出の形態」および「選出の方法」は、平成19年8月10日に発送(予定)される投票用紙(5名選記)による。
- (3) 選挙の投票締切は、平成19年9月10日(消印有効)とする。

※平成19年8月10日に発送予定の選挙関連の送付物は以下の4点です。

1. 新理事選出投票用紙 [b]
2. 被選挙人名簿
3. 投票用紙入れ
4. 返信用封筒

第37回学会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

お知らせ第1報

第37回学会大会(東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

第37回学会大会のご案内

■日 程 平成19年11月30日(金)～12月2日(日)
■会 場 東洋大学 白山キャンパス
〒122-0001 東京都文京区白山5-28-20

■交通

都営地下鉄三田線「千石」駅
A1出口から「正門・西門」徒歩8分
※「白山」駅は大変混雑しますので、できるだけ「千石」駅をご利用ください。
都営地下鉄三田線「白山」駅
A3出口から「正門・南門」徒歩5分 ・ A1出口から「西門」徒歩5分
東京メトロ有楽町線「本郷3丁目」駅
・1番出口から「正門・南門」徒歩9分
山手線「有楽町」駅
・西口から「正門・西門」徒歩20分 ・有楽町線(有楽町線)駅「東洋大学」下車

平成19年度 第37回学会大会(於:東洋大学) 「研究発表」申込みのお知らせ

本年度は東洋大学白山キャンパスにて開催(11/30～12/2)いたします。つきましては一般研究発表(12/2)の申込みはすでにご案内いたします。一般研究発表には口頭発表とポスター発表がございます。以下の案内文をご参照ください。締め切りのお申し込みをお待ちいたしております。

- 1. 口頭発表について
① 口頭発表(15分)にて「口頭発表」と明記してお申し込み下さい。
演題、演題(任意)、氏名、所属先を明記(共同研究者がいる場合は共同研究予定の氏名、所属先を記載)、住所(共同研究者の場合は代表者とする)、郵便番号、電話番号を記入の上、7月31日(火)までに郵送してください。申込み済みに記載されている発着者の住所へ所定の抄録用紙を送付いたします。抄録原稿(A4判2枚)の写りは9月2日(土)まで(必着)。
口頭発表の申込み資格は共同研究者を含め正学会員に限ります。共同研究者が非会員の場合は速やかに入会申請を完了してください。
② ポスター発表について
「ポスター発表」と明記してお申し込み下さい。
演題、演題(任意)、氏名、所属先を明記(共同研究者がいる場合は全ての氏名、所属先を記載)、住所(共同研究者の場合は代表者とする)、郵便番号、電話番号を記入の上、7月31日(火)までに郵送してください。申込み済みに記載されている発着者の住所へ所定の抄録用紙を送付いたします。抄録原稿(A4判1枚)の写りは9月2日(土)まで(必着)。
ポスター発表は非会員の方でも申し込みできますが、その場合は正学会員の共同研究者が含まれていることが条件となります。記載した共同研究者の名、本学会員の氏名の順には△印を記して下さい。ポスター発表の掲示ボードの大きさ(サイズ)は、過去の大会事務局よりお知らせいたします。

3. 申し込み先
〒124-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
東洋大学国際コミュニケーション学部 西館5階 研究室内
日本レジャー・レクリエーション学会 本部・事務局 兼
TEL: 049-274-1311(内: 2921) mail: syyskouchi@nu.nu.ac.jp

総会・会議 審議要領報告

日本レジャー・レクリエーション学会
平成17年度 事業報告

- I. 事業
1. 第37回学会大会開催/期日:平成17年12月9日(日)・10日(月)・11日(火)/場所: 東洋大学
2. 学会誌「レジャー・レクリエーション」研究の発行/発行部数、期号
3. 学会ニュースの発行/発行部数、期号
4. 役員の変更/改選理事の選出(18名)、幹事委員(15名)、理事委員による業務分掌(3～5名)の選出
5. 総務部及び広報部の充て/新人会員の募集、広報委員、役員、また、公益財団(年度会費徴収業務)15名
6. 平成17年12月1日(日)の総会/出席者(一般学員、非学員)
7. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
8. 学術奨励との交流
9. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
10. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
11. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
12. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
13. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
14. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
15. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
16. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
17. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
18. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
19. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
20. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会

平成17年度決算報告書

日本レジャー・レクリエーション学会 平成17年4月1日～平成18年3月31日 (単位:円)

Table with financial data for the association. Columns include '科目' (Item), '予算額(A)' (Budget), '決算額(B)' (Actual), '増減(A-B)' (Change), and '備 考' (Remarks). It is divided into '収入の部' (Income) and '支出の部' (Expenditure).

総会・会議 審議要領報告(つづき)
日本レジャー・レクリエーション学会 平成18年度 事業計画

- I. 事業
1. 第38回学会大会開催/期日:平成18年12月2日(土)・3日(日)/開催/場所: 東洋大学白山キャンパス(候補)
2. 学会誌「レジャー・レクリエーション」研究の発行/発行部数、期号
3. 学会ニュースの発行/発行部数、期号
4. 役員の変更/改選理事の選出(18名)、幹事委員(15名)、理事委員による業務分掌(3～5名)の選出
5. 総務部及び広報部の充て/新人会員の募集、広報委員、役員、また、公益財団(年度会費徴収業務)15名
6. 平成18年12月1日(日)の総会/出席者(一般学員、非学員)
7. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
8. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
9. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
10. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
11. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
12. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
13. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
14. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
15. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
16. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
17. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
18. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
19. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
20. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会

日本レジャー・レクリエーション学会
平成18年度 予算

Table with financial data for the association. Columns include '科目' (Item), '本年度予算額(A)' (This Year Budget), '前年度予算額(B)' (Last Year Budget), '増減(A-B)' (Change), and '備 考' (Remarks). It is divided into '収入の部' (Income) and '支出の部' (Expenditure).

総会・会議 審議要領報告(つづき)
日本レジャー・レクリエーション学会 平成18年度 事業計画

- I. 事業
1. 第38回学会大会開催(予定)/期日:平成18年12月(予定)/場所: 東洋大学白山キャンパス(予定)
2. 学会誌「レジャー・レクリエーション」研究の発行/発行部数、期号(予定)
3. 学会ニュースの発行/発行部数、期号(予定)
4. 役員の変更/改選理事の選出(18名)、幹事委員(15名)、理事委員による業務分掌(3～5名)の選出
5. 総務部及び広報部の充て/新人会員の募集、広報委員、役員、また、公益財団(年度会費徴収業務)15名
6. 平成18年12月1日(日)の総会/出席者(一般学員、非学員)
7. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
8. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
9. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
10. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
11. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
12. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
13. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
14. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
15. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
16. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
17. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
18. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
19. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会
20. 学術奨励との交流/日本学術会議、財団法人日本学術協力財団、体育学・スポーツ科学研究協議会

日本レジャー・レクリエーション学会
平成19年度 予算

Table with financial data for the association. Columns include '科目' (Item), '本年度予算額(A)' (This Year Budget), '前年度予算額(B)' (Last Year Budget), '増減(A-B)' (Change), and '備 考' (Remarks). It is divided into '収入の部' (Income) and '支出の部' (Expenditure).



平成18年度日本レジャー・レクリエーション学会総会議事録

日時：平成18年12月3日(日) 12:40～13:40
場所：平安女学院大学 9号館1階9-101教室

式次第

開会
学会会長挨拶 鈴木秀雄
議長 渡辺 小池和幸
議事録署名人選出 栗原邦秋
田中暢子

- 議題
(1) 第1号議案 平成17年度事業報告
平成17年度事業報告が承認された
(2) 第2号議案 平成17年度決算報告

監査報告 会計監査報告があった
平成17年度決算報告が承認された

- (3) 第3号議案 平成18年度事業計画(案)
平成18年度事業計画(案)が承認された
(4) 第4号議案 平成18年度予算(案)
平成18年度予算(案)が承認された
(5) 第5号議案 平成19年度事業計画(案)
平成19年度事業計画(案)が承認された
(6) 第6号議案 平成19年度予算(案)
平成19年度予算(案)が承認された
(7) 第7号議案 学会会則(第12条：役員任期)の改正(案)
学会会則(第12条：役員任期)の改正(案)が承認された
(8) 第8号議案 第37回学会大会開催(東洋大学白山キャンパス)(案)
東洋大学白山キャンパスの学会開催会場が承認された

閉会
議事録署名人 栗原邦秋
田中暢子

正会員による役員選出に伴う年度会費納入のお知らせ

本年度は学会の役員選出選挙の実施年でもあります。この選挙は、本学会則および役員選出細則第4条に基づき実施されます。正会員の皆様が選挙権、被選挙権を有するためには、平成19年6月30日迄に今年度の会費を納入して頂かなければなりません。同時に郵便用払込用紙にて下記口座番号、加入者宛に年度会費のお振込を宜しくお願い申し上げます。なお、過年度の会費未納分がある場合には、上記期日までに金額納入して頂くことが選挙権、被選挙権を得る条件となりますのでご注意ください。

口座番号 00150-3-802353

加入者名 日本レジャー・レクリエーション学会

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第4回) 議事録

開催日時：平成18年10月25日(月) 18:30～21:00
開催場所：立教大学池袋キャンパス12号館第2会議室
出席者：鈴木、坂口、西田、藤生、小原、嵯峨、
沼澤、田中、西野、山崎、横内

会長挨拶

議題

- I. 確認事項-西田理事長
1) 定足数確認(出席者11名、欠席者4名)
2) 前回(平成18年度第3回)議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 平成18年度会費納入状況について
10月19日現在、23件の会費の納入があった。
2) 第36回学会大会発表要録の申込状況について
最終的には口頭発表要録、ポスター発表18冊(計24冊)の原稿が届いた。
3) ニュース83号について
11月中旬までに発送の予定である。
4) その他
既存のホームページが更新されないままになっており、検討すべきであるとの意見があった。

III. 審議事項

- 1) 第36回学会大会について
地域研究は事情により取りやめたい旨の連絡が第36回学会大会実行委員長よりあり、審議の結果今回は見送ることと承認された。
2) 第37回学会大会の開催について
候補地の東洋大学に候補した結果、入試等の調整があるものの、会場の提供は可能とのことで、平成19年10月初旬(12月1日(土)・2日(日))に東洋大学白山キャンパスで開催することが承認された。
3) 規約の改正(役員任期の変更)について
学会会則(第12条：役員任期)及び役員選出細則の改正の必要性について審議がなされ、改正の方向で検討することと継続審議となった。
4) 『レジャー・レクリエーション研究』投稿規定(定規費格の変更)について資料が配られ、審議の結果、現行の継続となった。
5) 編集委員会からの(研究誌)印刷所の変更について

- 編集委員会より3社からの見積もりが提示された。審議の結果、見積額の最も少ない額の印刷所とすることが承認された。
6) 平成18年度事業計画(案)の一部変更について
事業計画の一部変更の審議がなされ、変更して承認された。
7) 平成18年度予算(案)の一部修正について
予算の一部修正の審議がなされ、承認された。
8) 会員の動向について
新入会員の申込者3名(徳田つづる、岡田順一、井澤悠樹)が認められた。
退会者1名(富田敏之)が認められた。

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第5回) 議事録

開催日時：平成18年11月20日(月) 18:00～19:15
開催場所：立教大学池袋キャンパス12号館第2会議室
出席者：鈴木、坂口、西田、嵯峨、沼澤、松尾、小原、横内

会長挨拶

議題

- I. 確認事項
1) 定足数確認
2) 前回(平成18年度第4回)議事録の確認

II. 報告事項

- 1) ニュース83号の発送について
11月10日に発送し、年度会費未納者にも通知した。
2) 学会大会の進捗状況について
11月21日現在に243件の納入があった。
3) その他
①会費の納入状況
11月18日現在に243件の納入があった。
②大会参加申し込み状況
11月16日現在 学会大会参加申込者18名、懇親会参加申込者13名があった。
③学会大会について
開催要項の一部変更した。

III. 審議事項

- 1) 学会大会時総会に向けての経緯について
①第1号議案 平成17年度事業報告
審議の結果、現行の継続となった。
②第2号議案 平成17年度決算報告
審議の結果、現行の継続となった。
③第3号議案 平成18年度事業計画(案)

- 審議の結果、現行の一部修正し、承認された。
④第4号議案 平成18年度予算(案)
審議の結果、現行の一部修正し、承認された。
⑤第5号議案 平成18年度事業計画(案)
審議の結果、現行の一部修正し、承認された。
⑥第6号議案 平成19年度予算(案)
審議の結果、現行の一部修正し、承認された。
⑦第7号議案 学会会則(第12条：役員任期)の改正及び附則第11条第4項の改正
審議の結果、現行の一部修正し、承認された。
⑧第8号議案 第37回学会大会の開催(東洋大学白山キャンパス)
審議の結果、東洋大学白山キャンパスで開催することが承認された。

- ①委員長については土屋理事が選出された。
②印の内容については概要の説明があったが、詳細については継続審議となった。
③印の内容については予算案の継続後、委員会にて審議を進める。
2) その他
(1)会費の納入状況について
69件納入が確認。累計で312件の納入である。正会員の平成18年度分会費の納入は283件(73.5%)である。
(2)会員の動向について
以下の新入会員、退会者の報告があった。
新入会者(3名)：藤原はると、和久田佳代、川口裕太
退会者(5名)：高橋真真(物故)、庄切正徳、平田厚、田端太、外崎裕将

III. 審議事項

- 1) 選挙について
(1)日程
調整し詳細については次回に提案する。
(2)改選前理事(10名)選出の手続き
3月17日以降に理事室に送付し、4月20日投票開票の予定で進めたい。
(3)役員選出委員会の設置(委員の選出について)
藤生、小原、沼澤、松尾、横内の各氏に決定
2) その他
(1)名簿作成
名簿の作成について西田理事長預かりにて結論は持ち帰しとなった。

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第1回) 議事録

開催日時：平成18年7月24日(月) 19:00～19:40
開催場所：立教大学池袋キャンパス セントポールズ
会議室2階会議室
出席者：鈴木、坂口、西田、天野、浮田、鶴崎、
田中元、土屋、嵯峨

会長挨拶

議題

- I. 確認事項
1) 定足数確認(出席者5名、委任状出席者4名)
2) 前回(平成17年度第4回)議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 学会誌第95号の送付について
6月の下旬に届けられた。同封資料として学会会案内(第一編)、学会発表申込、年度会費納入案内、住所変更のハガキを送付した。
2) 学会ニュース82号の作成について
編集校正を6月中旬に行い、7月中旬までに送付予定である。
3) 会費納入状況について
6件の払込(後15件、事務局確認)があった。

III. 審議事項

- 1) 平成17年度事業報告(案)について
平成17年度事業報告(案)の提示があり、承認された。
2) 平成17年度決算報告(案)について
平成17年度決算報告(案)の提示があり、承認された。
3) 会計監査について
監査については、監査委員の本格格合のため秋季以降になることが報告され、承認された。
4) 平成18年度事業計画(案)について
平成18年度事業計画(案)の提示があり、承認された。

- 5) 平成18年度予算(案)について
平成18年度予算(案)の提示があり、承認された。
6) 各専門委員会の構成について
2006(平成18)～2007(平成19)年度の各専門委員会の構成委員が提示された。承認された。各専門委員会の専門委員の選出については、各委員長を中心に専門委員会に任ずることと承認された。
7) 『歩み』(第2号)の編集準備委員会(案)及び学誌誌『歩み』電子化準備委員会(案)の設立について
提案事項として報告された。審議の結果、学誌誌の電子化をすすめる方向で、命題『歩み』に対して委員会があり、この方向で検討することとなった。また、以院検討事項については西田理事長預かり、継続審議として持ち帰られた。
8) 学会担当専門委員会(案)の設立について
提案事項として報告された。主審議がなされ西田理事長預かり、継続審議として持ち帰られた。
9) 選挙実施年の及び役員任期(3年)の変更について
次回以降の検討事項として報告された。主

- 審議がなされ西田理事長が預かり、継続審議として持ち帰られた。
10) 懇親会開催時に年度大会(平成19年度)事業案・提案者の提示について
提案事項として報告された。主審議がなされ、西田理事長が預かり、継続審議として持ち帰られた。
11) 第36回学会大会について
大会実行委員会から提案事項が報告され、日程、テーマ、基調講演、シンポジウム、研究分科会、地域研究等について審議がなされた。特に今回は、研究分科会は行わないことが決まった。詳細なスケジュールについては、開催地からの提案を待ち、継続審議として持ち帰られた。

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第1回) 議事録

開催日時：平成18年11月20日(月) 19:15～21:00
開催場所：立教大学池袋キャンパス12号館第2会議室
出席者：鈴木、坂口、西田、高橋、上村、嵯峨、
沼澤、菅野、松尾、小原、横内
委任状出席者8名

会長挨拶

議題

- I. 確認事項
1) 定足数確認(出席者5名、委任状出席者8名)
2) 前回(平成18年度第1回)議事録の確認

II. 報告事項

- 1) ニュース83号の発送について
11月10日に発送し、年度会費未納者にも通知した。
2) 学会大会の進捗状況について
11月21日に発送予定である。
3) その他
①会費の納入状況
11月18日現在に243件の納入があった。
②大会参加申し込み状況
11月16日現在 学会大会参加申込者18名、懇親会参加申込者13名があった。
③学会大会について
開催要項の一部変更した。

III. 審議事項

- 1) 学会大会時総会に向けての経緯について

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会
常任理事会(第6回) 議事録

開催日時：平成19年1月22日(月) 18:00～19:00
(常任理事会)
開催場所：立教大学池袋キャンパス セントポールズ
会議室2階第1号特別(常任理事会)
出席者：鈴木、坂口、西田、嵯峨、田中、沼澤、
横内、小原

会長挨拶

議題

- I. 確認事項
1) 定足数確認
2) 前回常任理事会(第5回) 議事録の確認
3) 平成18年度総会議事録の確認

II. 報告事項

- 1) 第36回学会大会にかかわる処理事項
(1)学会大会参加者数について
123名(2日間)の大会参加者であった。
(2)学会大会開催校へのお礼
12月下旬に平安女学院大学学長に御礼状を送付した。
(3)学会大会決算報告
大会開催校から\$1,085円返還された。
(4)学会会誌『歩み』シンポジウムのテープ起こしについて
学会会本部に再度問い合わせることになった。
(5)Web委員会
第1回のWeb委員会の報告がなされた。

- ①第1号議案 平成17年度事業報告  
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ②第2号議案 平成17年度決算報告  
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ③第3号議案 平成18年度事業計画(案)  
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ④第4号議案 平成18年度予算(案)  
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ⑤第5号議案 平成18年度事業計画(案)  
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ⑥第6号議案 平成18年度予算(案)  
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ⑦第7号議案 学会会則(第12条:役員任期の改正及び関連事項(役員選出規則第11条第4項)の改正)  
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ⑧第8号議案 第37回学会大会の開催先(東洋大学白山キャンパス)  
審議の結果、東洋大学白山キャンパスで開催することが承認された。

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会  
理事会(第3回) 議事録

■日時:平成18年12月2日(土)11:00~12:00  
■場所:平安女学院高輪キャンパス1号館2階会議室  
出席者:鈴木(清)、小田切、坂口、小野寺、福田、寺島、南村、渡辺、松尾、山崎、田中(伸)、高橋(伸)、坪田、マレー-寛子、土屋

会長挨拶

議題

- I. 議事事項  
1) 定足数確認一出席者16名、委任状提出者7名  
2) 総務報告(平成18年度第2回)の議事録確認について

II. 報告事項

- 1) 第36回学会大会について  
平安女学院のホールで実行委員会を中心に準備が進められ、学会大会を開催する運びとなった。
- 2) 平成18年度会費納入状況について  
12月1日現在 259件の納入が確認されている。また、今年度の新入会員は9名、退会者7名である。学会大会の事前催行申込は49名である。

- 3) 学会大会開催について  
平安女学院で行われる、第36回学会大会の事項を即に掲載したことが報告された。

III. 審議事項

- 1) 学会大会総会に向けての議題について  
①第1号議案 平成17年度事業報告  
議案の審議がなされ、原案どおり承認された。
- ②第2号議案 平成17年度決算報告  
寺島幹事の監査報告がなされ、原案どおり承認された。
- ③第3号議案 平成18年度事業計画(案)  
議案の審議がなされ、原案どおり承認された。
- ④第4号議案 平成18年度予算(案)  
議案の審議がなされ、原案どおり承認された。
- ⑤第5号議案 平成18年度事業計画(案)  
議案の審議がなされ、原案どおり承認された。
- ⑥第6号議案 平成18年度予算(案)  
議案の審議がなされ、原案どおり承認された。
- ⑦第7号議案 学会会則(第12条:役員任期の改正及び関連事項(役員選出規則第11条第4項)の改正)  
議案の審議がなされ一部修正し、承認された。
- ⑧第8号議案 第37回学会大会の開催(東洋大学白山キャンパス)  
議案の審議がなされ、原案どおり承認された。

2) その他

- ①今後、学会の充実が望まれるので、広報委員会を中心に学会担当委員会を早急立ち上げ、情報発信できるようにしてほしいという意見が出され、理事会から今後研究会を計上しているので進めてほしいとの見解が出された。
- ②2年後の学会大会開催校を早い時期に内定をだすようにしてほしいとの要望が出された。

以上

事務局からのお知らせ

- 1. 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」のバックナンバーを学会員に無償配布しております(送料別途)。尚、欠番号が有る場合はご容赦ください。  
①060-57号まで1冊¥1,000-  
②1-31号、32-49号まで1冊¥500-  
③「寄み」32号-1冊¥2,000-
- 2. 会員の皆様のお知り合いでレジャー・レクリエーション学会に関心のある方を事務局へお知らせください。

(申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を添えて郵付振替あるいは現金書留でお送り下さい。)

3. 年会費(¥8,000-)、未納過年度会費がある会員は、別途、郵便局にて払込手続きをお願いします。  
口座番号 00150-3-602353  
加入者名 日本レジャー・レクリエーション学会  
4. 事務局の開設日は水曜・木曜の週2日となっております。

編集委員会からのお知らせ

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査等は最速でも2ヶ月程度の時間を要することを考慮して、投稿してください。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

投稿論文送付先  
〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1  
廣徳大学 国際コミュニケーション学部  
国際観光研究室内  
『日本レジャー・レクリエーション学会事務局』

会員の動静

●新入会員 6名(07.3.12付)

- 相余 泰 偉
- 佐藤 啓 大
- 鈴木 祐 志
- 藤波 俊 正
- 和久田 佳 代
- 川口 啓 太

●退会者 7名

- 高橋 真 昭
- 荘 司 正 厚
- 甲 田 太 大
- 田 端 太 大
- 外 嶋 紅 木
- 小長谷 悠 紀
- 斎 藤 孝 幸

訃報

日本レジャー・レクリエーション学会副会長をされていました某田信重先生は平成19年3月にご逝去されました。  
ここにご冥福をお祈り申し上げます

平成19年4月

学会ニュース  
APR.2007 No.84

平成19年11月

学会ニュース  
NOV. 2007 No.85

事務局 〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1  
電 話 049-231-1111 発信番号 049-231-602353  
E-mail jslrs@sls.jp

日本レジャー・レクリエーション学会  
(Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

発行人 西田 啓夫 編集 広瀬洋外委員会  
敬告者 加藤コロケーション学部 西田俊夫研究室内

第37回日本レジャー・レクリエーション学会大会開催にあたり

日本レジャー・レクリエーション学会  
副会長 坂口 正治  
(東洋大学)

来る11月30日(金)、12月1日(土)、2日(日)の3日間(11月30日は地域研究)、東洋大学白山キャンパス(東京都文京区)を会場として、第37回学会大会を開催することを告知いたします。会場となる白山キャンパスは、平尾邦上博士が明治29(1897)年に創設以来今年で120年になります。現在白山キャンパスには、東洋大学の文系5学部(文学部、経済学部、法学部、社会学部、経営学部)が拠点を置くキャンパスです。都市型大学の典型で手頃なキャンパスではありますが、全国から会員の皆様をお迎えできますことをご承知願います。

今大会のテーマを「レジャー・レクリエーションの充実と寄与するオリエンティック・レジャー」と定めました。

今、東京都(右原英夫前知事)は、2016年に東京で再びオリエンティックをテーマとする開催を志しています。昭和35年の東京オリエンティックは、名実ともに私たちの暮らしを大きく変えました。新幹線の開通、高速道路網の整備、高層ビル群が建設された東京の都市景観はここからスタートしたといっても過言ではないでしょう。しかし、その反面自然環境問題や大気汚染など私たちの生活や健康に対する意識がこの頃から大きく変化したように思われます。田

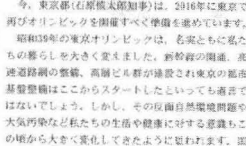
原一人ひとりが自ら積極的に健康づくりに取り組み、週二日以上の有休により労働時間は短縮され様々な余暇活動や家族が一緒に楽しめる時間が持てるようになったもののおかげではないでしょうか。

このように考えますと、オリエンティックを原動力に私たちの生活やおもてがいが変わっていったと同時に、レジャー・レクリエーションに対する考え方や実践活動も大きく変化してきたと思います。

前回の東京オリエンティックが残してくれた遺産を大切にしながら2016年に再びオリエンティックを招致することに対し、本学会が今大会以後オリエンティックのスタンスや開催について考え直す機会となることを期待しております。

基調講演とオーガナイズドセッションさらには、学会大会第一日目は、地域研究を実施いたします。会員の皆様のご参加をお待ちいたしております。詳細につきましては、学会誌56号(大会号)で紹介させていただきます。

大会運営につきましては、参加される皆様によって変り多岐大会となります。本学の教職員、大学院生、学部生がそれぞれ役割を担い準備を進めております。一人でも多くの会員が参加されますよう、一層お誘いいたしております。



ニュース7

1. 学会副会長挨拶(坂口正治)	.....P. 1	5. 学会大会ポスター発表・課題	.....P. 9
2. 第37回学会大会の案内(第2種)	.....P. 2	6. 理事会・常任理事会の報告	.....P. 10
3. 第37回学会大会開催要項	.....P. 6	7. 事務局からのお知らせ	.....P. 14
4. 学会大会研究(口頭)発表・演説	.....P. 7		

第37回学会大会(東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

お知らせ第2報

第37回学会大会のご案内

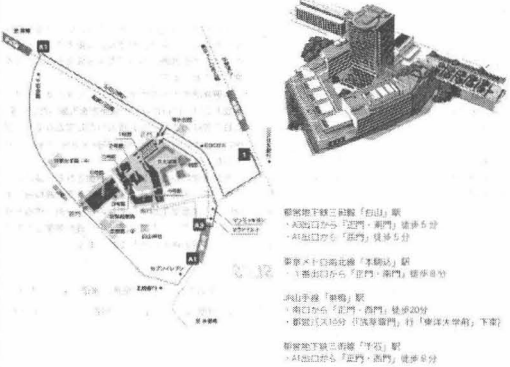
- 日程 平成19年11月30日(金)~12月2日(日)
- 会場 東洋大学 白山キャンパス  
〒122-0001 東京都文京区白山5-28-20  
大会実行委員会委員長 坂口 正治

第2日目(12月1日・土)

- 3号館2階3232教室……本部
- ” 第2会議室……理事会
- ” 3203教室……基調講演
- ” オアガナイズドセッション
- 2号館10階会議室(カライネ1号)……懇親会場

第3日目(12月2日・日)

- 3号館2階3234教室……A会場
- ” 3205教室……B会場
- ” 第2会議室……ボクスター発表会場
- ” 3203教室……総会会場
- ” 3208教室……休養室



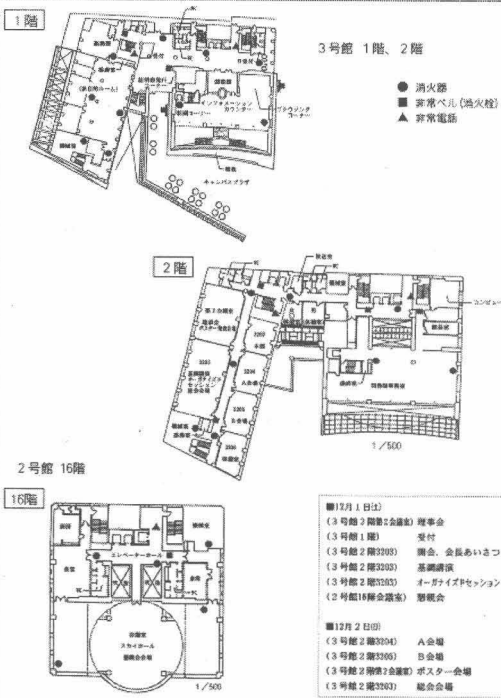
御座館下3階3232「白山」棟  
A会場から「正門・西門」徒歩5分  
B会場から「正門」徒歩5分

事務棟10階北側「本館」棟  
1号館3号館から「正門・南門」徒歩5分

白山ホール「東門」棟  
東口から「正門・西門」徒歩20分  
新館(又は15号)「防災専門」棟「東洋大学南」下町

新館地下3階3203「学生」棟  
A会場から「正門・西門」徒歩5分

第37回学会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)



-3-

第37回学会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

第37回学会大会開催要項

大会テーマ「レジャー・レクリエーションの充実と寄与するオリンピック・レガシー」

1. 主催：日本レジャー・レクリエーション学会
2. 主管：日本レジャー・レクリエーション学会第37回学会大会実行委員会
3. 期日：平成19年11月30日(金)、12月1日(土)、12月2日(日)
4. 会場：東洋大学 白山キャンパス  
〒122-0001 東京都文京区白山5-28-20

5. 日程：第1日目 11月30日(金) 地域研究  
第2日目 12月1日(土)  
11:00~12:00 理事会 (3号館2階 第2会議室)  
12:00~15:00 受付 (3号館1階)  
13:00~13:15 会長挨拶 鈴木秀雄 (学会会長)  
13:15~14:05 基調講演 (3号館2階 3203教室) 予定  
14:20~16:00 オープンデイズセッション  
プレゼンテーション4名予定  
17:00~18:30 懇親会 (2号館16階 会議室 スカイホール)  
第3日目 12月2日(日)  
9:00 受付開始  
9:30~10:30 研究発表 A会場 (3号館2階 3204教室) 3題  
B会場 (3号館2階 3205教室) 3題  
10:40~11:40 研究発表 A会場 (3号館2階 3204教室) 2題  
B会場 (3号館2階 3205教室) 2題  
11:00~14:20 ポスター発表会場オープン (3号館2階第2会議室)  
11:40~12:10 ポスター質疑応答時間  
12:40~13:40 総会 (3号館 3203教室)  
13:40~14:20 研究発表 A会場 (3号館 3204教室) 2題  
B会場 (3号館 3205教室) 2題

理事会 平成19年12月1日(土) 11:00~12:00 会場 3号館2階 第2会議室  
総会 平成19年12月2日(日) 12:40~13:40 会場 3号館2階 3203教室

大学食堂：12月1日(土) 営業しています。  
12月2日(日) 営業していません。コンビニ等ご利用が可能です。  
喫煙所：喫煙は指定された場所をお願いします。(厳守のこと)

-4-

第37回学会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

レジャー・レクリエーションの充実と寄与する  
オリンピック・レガシー

開催趣旨

児童・生徒らの学力低下を招いた元凶であるかのように指弾される「ゆとり教育」。その影響もあつてか、一時期あれほど頻りに耳にするところが多かった「ゆとり」という言葉は今や死語となりつつあるようだ。しかし、たとえ言葉の使用が控えられようと、それが指し示す理念の重要性までもが一掃に覆らされてよいわけではなく、むしろ、ゆとりに対する立場は、あのバブル時代とは異なる別の文脈においてますます強まっているようにさえ思える。

私たちの暮らしから、かつてのゆとりが失われるようになったのは、紛れもなく高度経済成長の影響がある。新幹線、高速道路、高層ビルなどに代表される多くの都市景観は高度経済成長の結晶として、昭和39年の東京オリンピックを契機に急進につくられた。それゆえに、東京オリンピックは日本を先進国に押し上げた反面、代償も大きかったと反省されている。しかし、江戸の時代から東京の人々が親しんできた豊かな自然は失われ、高層ビルや大気汚染の影響で富士の姿をみることも稀になった。

東京都は、2016年の夏季オリンピック招致を進める中で、「10年後の東京」と題された再開発プランを同時に進めようとしている。「10年後の東京」の中にはレジャーやレクリエーション、ゆとりといった言葉自体は見当たらないものの、「開港」「景観」「スポーツ」「福祉」「健康」「教育」「産業振興」「高齢者」「観光」「文化」などレジャー・レクリエーションと関わりのある語が数多く登場する。東京都は、次の東京オリンピックを前のオリンピックの成功と引き換えに手放した、いわばゆとりの再生・復活を図る好機と位置づけている。

東京都は、2008年1月に国際オリンピック委員会に対して「開催都市計画書 (application file)」を提出するが、計画書の冒頭には、オリンピック開催の動機、レガシー、大会コンセプトの3つを明記することが求められている。今年10月に開催された立候補申請都市に対するIOC主催の説明会では、あらためてレガシーの重要性が強調されたという。レガシーとはIOCが示すところによれば、「オリンピック招致の成否にかかわらず、招致活動を通じて東京、日本、スポーツそれぞれの発展のために実現が期待される遺産」ことである。また、「大会コンセプト」については、東京都の長期都市計画、つまり「10年後の東京」との関係性が問われる。

オリンピックは、前回の東京大会がそうであったように単なるスポーツの国際大会とは違い、大会後の地域社会や国ありよう、人々の生活にも影響をもたらす。このたびの学会大会では、レジャー・レクリエーション学会として期待する「オリンピック・レガシー」のビジョンをより具体的に描き、その実現に向けたいかなる貢献が学会に可能であるか、オリンピック招致に対する本学会のスタンスや課題について検討する一歩としたい。

特別プログラム

■基調講演 80分  
現在、実行委員会にて人選中

-5-

第37回学会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

■オープニングセッション 100分

期待するレガシーについて、レジャー・レクリエーションに関わる特徴的な研究ならびに実証分析の代表(4名程度)より各自20分程度、発表してもらおう。東京都に対し要望するオリンピック・レガシーや、学会としての協力内容などをまとめるワーキング・グループ(勉強会)の発足に備えたい。

プレゼンテーション  
学会員より4名 (現在人選中)

■オープナー  
堺橋 秀 (筑波大学)  
麻生 原 (東京農業大学)

地域研究「江戸・東京の庭」のご案内

2007年度の大会は、東京都文京区白山の東洋大学で開催されます。そこで、地元文京区または近隣地域を中心に「江戸・東京の庭」をテーマにした地域研究を企画いたしました。ふるってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

尚、非会員の方、同業者の方のご参加も歓迎いたしております。

- 期日 時：2007年11月30日(金) 午前10時～午後4時  
■参加費：¥2,000 現地にて徴収  
■見学場所：小石川後楽園(午前)、旧古河庭園(午後)  
■講師：原 勉 (東京農業大学地域環境科学部道楽科学科准教授・産学連携)  
■集合：小石川後楽園「開港亭」券売所前集合 午前10時まで  
地下鉄大江戸線「飯田橋」(E06) C3出口下車徒歩2分  
JR総武線「飯田橋」東口下車徒歩8分  
地下鉄丸の内線・南北線「後楽園」(M22, N11) 中央口下車徒歩6分  
地下鉄東西線・有楽町線・南北線「飯田橋」(T06, Y13, N10) A1出口徒歩8分  
■その他：(1)傷害保険につきましては、各自の責任において事前に加入のほど、お願い申し上げます。  
(2)服装については、軽装でご参加ください。雨具、着替え等は各自ご持参ください。

■運行

- 10:00 小石川後楽園 産学連携券所前集合  
(見学2時間) 入園料 (団体240円)  
12:00 飯田橋解散  
各自昼食/移動 地下鉄南北線「飯田橋」～「西ヶ原」間 11分  
「西ヶ原」駅より旧古河庭園まで徒歩7分

- 13:30 旧古河庭園 券売所前集合  
(見学1.5～2時間) 入園料 (団体120円)  
15:30～16:00 解散  
(時間的に余裕があれば、六義園または飛鳥山公園まで足を延ばしたいと思います。)

-6-

第37回学会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

大会研究(口頭)発表・演題

第3日目 12月2日(日)

■ A会場：3号館2階 3204教室

- 座長：土屋 薫 (江戸川大学) 9:30~10:30  
 A-1 救急救護実践指路にみるガイドライン 2005変更の視点  
 ~ガイドライン3000から2005への変更 領域を中心として~  
 ○鈴木 英樹 (東海大学非常勤講師)  
 A-2 介護予防事業における運動実施の参加者 自覚の変化について  
 ~その経過事例研究~  
 ○上野 幸 (駒余暇問題研究所)  
 山崎 律子 (駒余暇問題研究所)  
 高橋 和敏 (駒余暇問題研究所)  
 A-3 アメリカ組織キャンプにおける儀式プロ グラム  
 ~Camp 0-AT-BA におけるギャラハッ ド(騎士)プログラム~  
 ○高橋 伸 (国際基督教大学)  
 ☆質疑応答  
 □座長：山崎 律子 (駒余暇問題研究所) 10:40~11:40  
 A-4 人を対象とした研究の質を高めるための 声明・チェックリストとエビデンス・グレイ ディングの考え方  
 ~疫学・臨床研究分野の国際動向を参 考にして~  
 ○上岡 洋輔 (東京農工大学地域健康科学部健康科学学研究室)  
 本田 卓也 (東京大学大学院農学研究科自然資源学専攻)
- A-5 台所のセラピューティックレクリエーショ ンに関する研究の傾向  
 ○徐 玉珠 (市原大学健康福祉学部生活福祉学専攻)  
 A-6 高齢者介護サービス事業施設の職員にお ける高齢者レクリエーションの支援力向上につ いての期待  
 ~セミナー受講者の場合~  
 ○横田 浩久 (駒余暇問題研究所)  
 上野 幸 (駒余暇問題研究所)  
 山崎 律子 (駒余暇問題研究所)  
 ☆質疑応答  
 □座長：高橋 伸 (国際基督教大学) 13:40~14:20  
 A-7 スポーツによる国政の転換は可能か? ~昭和15年東京オリンピック招致活動 を事例として~  
 ○古城 康夫 (江戸川大学)  
 A-8 現代社会と情懷行動の特質から見た「メ ディア・ピエトープ」の神韻み  
 ○土屋 薫 (江戸川大学)  
 ☆質疑応答

-7-

第37回学会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

■ B会場：3号館2階 3205教室

第3日目 12月2日(日)

- 座長：田中伸彦 (森林総合研究所) 9:30~10:30  
 B-1 嵐山村における空間計画ワークショップ に期待される効果とその構造化に関する 研究  
 ~長野県千曲市横路地区を対象として~  
 ○矢野加奈子 (駒余暇問題研究所)  
 麻生 恵 (駒余暇問題研究所)  
 B-2 大都市近郊地域における鉄道会社が行う 里山などの環境を利用したレクリエーショ ン空間の整備に関する研究  
 ○岡田 慎也 (東京農工大学 大学院農学研究科)  
 下場 聖 (駒余暇問題研究所)  
 麻生 恵 (駒余暇問題研究所)  
 B-3 求められる総合型地域スポーツクラブ ~神奈川県内総合型地域スポーツクラ ブのクラブ理念やその目的を参考に して~  
 ○吉原さちえ (東海大学)  
 西野 仁 (東海大学)  
 ☆質疑応答  
 □座長：沼澤清彦 (立教大学) 10:40~11:20  
 B-4 レジャー志向性尺度の開発に関する研究の ~多様な大学生における調査データか ら志向性尺度の今後を展望する~  
 ○佐藤 由美 (大阪府立女子大学)  
 佐藤 馨 (ゆいぎんスポーツ大学)  
 B-5 市町村合併による広域スポーツ空間の再 構築に関する基礎研究  
 ○池田 俊道 (大阪商業大学)  
 藤原 泰佑 (広島国際大学)  
 浜田 龍介 (広島市立大学大学院)  
 ☆質疑応答  
 □座長：小野寺浩三 (北里大学) 13:40~14:20  
 B-6 100年前の「運動雑誌」の思想 ~明治18年発行の「遊樂雑誌」を 手がかりに~  
 ○西野 仁 (東海大学)  
 B-7 専門辞典の記述に見る「森林レクリエー ション」の定義・解釈の変遷  
 ○田中 伸彦 (森林総合研究所)  
 ☆質疑応答

-8-

第37回学会大会 (東洋大学 2007年11月30日・12月1日・2日)

第3日目 12月2日(日)

ポスター発表・演題

- 会場/第2会議室  
 ■ ポスター発表会場オープン/11:00~14:20  
 ■ ポスター質疑応答時間(発表者配置時間)/11:40~12:10

- P-1 運動機能維持向上におけるプログラムの現 状と課題  
 ~福山市の老人福祉施設におけるアンケ ート調査より~  
 ○千後直樹子 (福山平成大学)  
 △山下 雅彦 (福山平成大学)  
 P-2 中山間地域と都市地域における自然体験活 動の意識調査  
 ~親子どもの期待と不安に着目して~  
 ○中田 祐子 (福山平成大学)  
 △山下 雅彦 (福山平成大学)  
 P-3 中山間地域における冬季スポーツイベント に関する研究  
 ~広島県高野町の事例について~  
 ○山下 雅彦 (福山平成大学)  
 P-4 床屋による健康の自己管理能力を高めるた めの取り組み  
 ~心身への影響をみる「気づきスコア」と PMSとの比較~  
 ○三浦 玲子 (芝罘工業大学)  
 △西田 俊夫 (立教大学)  
 小嶋 紀子 (麗澤大学)  
 藤田 弘子 (信州大学)
- P-5 横浜市青葉区の「美しが丘遊歩公園」の 愛護会活動について  
 ○今井 健 (東京農工大学経済学部学友会)  
 △原田 和弥 (東京農工大学)  
 △麻生 恵 (東京農工大学)  
 P-6 農地区(富士湖高沼)における参加型協働 型地域づくりについて  
 ○横田 浩康 (東京農工大学)  
 今井 健 (東京農工大学大学院)  
 木村 辰之 (東京農工大学非常勤講師)  
 △麻生 恵 (東京農工大学)  
 P-7 鎌倉市三井町における地域の魅力発見ワ ークショップについて  
 ○山本 亮 (駒余暇問題研究所)  
 △矢野加奈子 (東京農工大学経済学部学友会)  
 △麻生 恵 (東京農工大学地域健康科学部)

○印は、発表者  
△印は、正会員

-9-

平成18年度(2006年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第7回)議事録

- 開催日：平成18年3月12日(月) 18:00~18:45  
 ■ 開催所：立教大学池袋キャンパス12号館1会議室  
 出席者：鈴木、小畑、坂口、西田、麻生、藤原、 田中(幹)、佐藤、橋本、小嶋
- 議題  
 I. 確認事項  
 1) 定数確認  
 2) 前回常任理事会の議事録の確認について  
 II. 報告事項  
 1) 平成18年度会費納入状況について  
 3月9日現在、12年が払い込みが確認。累積 324件の払い込みがあった。  
 2) 学会誌第58号の進捗状況について  
 58号は年度内発行に向けて準備している。原 著論文2編、学会大会の基調講演とシンポジ ヴムの原稿を掲載予定。  
 III. 審議事項  
 1) 進捗について  
 (1) 選挙 選挙全体の日程についてスケジュール案が提 示された。  
 (2) 改選前理事(10名)選出の手續き 会則に基づき、上記の件を理事会の審議事項 とすることが確認された。  
 (3) 選挙管理委員会(委員の選出について) 選挙管理委員5名の選出とその委員の中から、 委員長1名選出を理事会で審議事項とすること が確認された。  
 2) 平成18年度決算報告(中間)について  
 2月23日現在の中間報告(案)の提示がなされ た。  
 3) 会員名簿作成のための情報提供について  
 個人情報提供の観点に伴う学名名簿の作成に ついて、会員(正会員)に向けた情報提供出 題する件を理事会で審議事項とすることが確認 された。  
 4) Web 上担当に関する件  
 HP立ち上げに関する件を理事会で審議する ことが確認された。

平成18年度(2007年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第1回)議事録

- 開催日：平成18年4月23日(月) 18:30~20:30  
 ■ 開催所：立教大学池袋キャンパス 5号館1階 第1会議室  
 出席者：鈴木、坂口、西田、麻生、小嶋、藤原、 田中、山崎、橋本、土屋
- 議題  
 I. 確認事項  
 1) 前回常任理事会(第7回)議事録の確認  
 II. 報告事項  
 1) 年度会費納入状況について(平成18年3月31 日現在及び平成18年度分)  
 3月31日現在、304名(新入社員12名、理事 会員17名、を含む)の会費納入 (正会員30名、18回者が加入して)いる。  
 2) 学会誌第58号の発行について  
 4月来日、あるいは5月上旬に発送予定  
 3) 学会ニュース84号の発送について  
 学会入会案内、6月30日までの学会費振込み 案内を別添いで発送した。  
 学会ニュース9・10ページに訂正箇所  
 9ページの平成18年(2006年)日本レジャー・ レクリエーション学会常任理事会 (第1回)議事録は、修正後へ訂正 10ページの平成18年(2006年)日本レジャー・ レクリエーション学会常任理事会 (第1回)議事録は、第2回へ訂正  
 4) 会則の改定について  
 学会ニュース84号に記載  
 III. 審議事項  
 1) 改選前理事(10名)選出について  
 4月20日清印にて現在21名の選出があっ た。  
 5月14日(月)に開封、10名の選出にあたる。  
 2) 平成18年度選挙報告(案)について  
 平成18年度選挙報告(案)が提出され、審 議の結果承認された。  
 3) 平成18年度決算報告(案)及び会計監査報告 について  
 平成18年度決算報告(案)が提出され、審 議の結果承認された。  
 4) 平成20年度事業計画(案)について  
 平成19年度の事業を見ながら今後さらに検 討していく。  
 5) 平成20年度予算(案)について  
 選挙年にあたり、19年度は6月30日まで 会費の納入が必要となる。  
 6月30日時点で、会費納入状況を把握しな がら検討していく。

-10-

- 6) 新入会員について  
平成19年度に入り、新入会員8名、退会者7名である。  
一人でも多くの会員獲得が求められる。
- 7) 会員名簿作成のための情報提供について  
会員名簿作成のための情報提供のお願いの資料が提出され、掲載・非掲載内容について審議された。さらなる会員名簿においでを検討していくことが決められた。平成21年度に会員名簿を更新する予定。
- 8) 第37回学会大会（東洋大学白山キャンパス）について  
東洋大学白山キャンパスで総会開催、発表会場、懇親会場の場所を検討しているが、新学期にならないと明確にならない地域研究も東洋の方向で考えている。  
テーマについても出来るだけ早い時期に検討することが決められた。
- 9) Web担当専門委員会（連絡HP委員会）担当の土屋理事より資料が提出された。特に現在のサイトが立派なWebサイトになり、サーバー、ドメイン取得等々ながら学会の内容、学会会員募集に向けて構成が検討された。

**平成19年度(2007年)**  
**日本レジャー・レクリエーション学会**  
**常任理事会(第2回) 議事録**

- 開催日：平成19年5月14日(月) 18:30～19:30  
開催場所：立教大学池袋キャンパス  
大丸記念館1階第1会議室  
出席者：鈴木、坂口、西田、藤生、小椋、堀内、松尾、沼澤、山根、横内、土屋
- 議題：  
1) 前回の常任理事会(平成19年度第1回) 議事録の確認  
2) 報告事項  
3) 年度会費納入状況について(平成18年5月10日現在)  
正会員17、退年度員17、理事会員4 合計38名会費納入済み  
4) 学術誌58号の発行について  
年度末発行が予定されて、表紙中には手元が届かず、裏の作成(編集委員の名が分からなかった)、掲載改訂中の論文についての確認、シンプォームを発行者の締切などで手取遅延  
5) ニュース84号の発行について  
4月中旬に発送した。会長挨拶、2008～2010年度役員発表出席者公示、第37回学会大会案内(第1冊)および研究発表申込みの通知なども掲載した。

- 4) 会員の動向について  
新入会員2名、退会者6名、メールアドレス変更1名(天野翔)
  - 5) 学会ウェブサイトのリニューアルについて  
青年から学生向けに見積書が提出されたとの報告があった。情報の告知はもちろん、学会員向けについても必要不可欠である。
- Ⅲ. 議事事項
- 1) 改選期理事(10名) 選出について  
理事27名中9名投票の結果、以下に10名が選出された。その結果を理事会に報告することになった。  
小椋、小田切、坂口、鈴木、田中(光)、西田、西野、沼澤、松尾、横内
  - 2) 平成18年度年報編纂報告(第3回)について  
理事会の承認を受ける。
  - 3) 会員名簿作成のための情報提供について  
常任理事会において検討中。

**平成19年度(2007年)**  
**日本レジャー・レクリエーション学会**  
**常任理事会(第3回) 議事録**

- 開催日：平成19年8月25日(月) 18:30～20:30  
開催場所：立教大学池袋キャンパス5号館第2会議室  
出席者：鈴木、小田切、坂口、西田、藤生、小椋、田中、沼澤、西野、山根、横内、土屋
- 議題：  
1) 前回の常任理事会(平成19年度第2回) 議事録の確認  
2) 報告事項  
3) 年度会費納入状況について  
6月21日現在において288名の納入があった。  
4) 学会誌59号の発行について  
雑誌の発行済み。経費の支払いは、事務局に今月中に済ませたい。  
5) 会員の動向について  
新入会員5名あり、退会者が1名あった。(田賀真智夢夢)

- 6) その他  
坂口副会長より  
介護福祉士養成カリキュラム変更に伴い、日本レジャーエーション協会より、レジャーエーション協会の目的が変更された件について、看護学会の藤田先生を中心に協議会を開催しての旨の連絡があり、本学会から鈴木会長が出席することとなった。
- Ⅲ. 議事事項
- 1) 第37回学会大会(テーマ、基礎講演、シンプォーム、地域研究等)について  
衛生学理事より  
報告がなされた。資料に基づき、報告がなされた。中でもオンラインや観光などが話題に上がったが、決定的要因には欠け、次回に引き継ぎ継続されることとなった。  
2) 論文発表学会の承認について  
田中常任理事より  
長崎論文の発表やその関連については、環境常任理事が田中常任理事と連絡をたれたとの連絡があった。

**平成18年度(2006年)**  
**日本レジャー・レクリエーション学会**  
**常任理事会(第4回) 議事録**

- 開催日：平成18年3月13日(月) 18:00～18:45  
開催場所：立教大学池袋キャンパス5号館第2会議室  
出席者：鈴木、坂口、西田、藤生、堀内、小椋、田中(光)、堀内、土屋、沼澤、山根、横内
- 議題：  
1) 議事事項  
1) 定款確認  
出席者15名、委任状提出者5名  
2) 前回の常任理事会の議事録確認について  
2) 報告事項  
3) 平成18年度会費納入状況について  
3月9日現在、12件の支払い済みが確認、東京34件の支払い済みであった。  
4) 学術誌58号の発行状況について  
58号は年度内に発行に向けて準備している。原稿論文2編、学会大会の基礎講演とシンプォームの原稿を掲載予定。  
5) 学術誌の発行  
学術誌の発行は次期に増巻する。  
学会誌の発行は編集またはメール後を待たせたい。  
6) 学術誌58号の発行状況について  
専攻の発表、第37回大会会場と併催(東洋大学白山キャンパス)の開催(第1冊)を検討中である。

- 4) 会員の動向  
以下2名の退会が承認された。  
小長谷 悠紀、高野 孝
  - 5) その他  
第37回学会大会の開催地候補として西日本地区に位置する大学に開催依頼を打診することが決定された。
- Ⅲ. 議事事項
- 1) 選挙について  
1) 選挙  
選挙全体の日程についてスケジュール案(資料)が提示された。審議の結果、修正と再審査をし、次回再提示することとなった。  
2) 改選期理事(10名) 選出の準備  
次回に基づき報告がなされ、承認された。  
3) 常任理事委員(委員の選出について)  
常任理事委員より鈴木、小椋、沼澤、松尾、横内常任理事が委員として選出された。また、委員長に衛生学理事が選出された。  
4) 平成18年度年報編纂報告(伊勢)について  
2月23日現在の年報編纂報告(資料)の提示がなされた。  
5) 会員名簿作成のための情報提供について  
個人情報保護の観点を持つ学会名簿の作成について、会員に向けた情報提供について審議がなされた。次年度への継続審議することとなった。

**平成18年度(2006年)**  
**日本レジャー・レクリエーション学会**  
**常任理事会(第1回) 議事録**

- 開催日：平成18年5月14日(月) 19:30～21:30  
開催場所：立教大学池袋キャンパス  
出席者：鈴木、坂口、西田、藤生、沼澤、小椋、堀内、松尾、土屋、沼澤、山根、横内
- 議題：  
1) 議事事項  
1) 理事発表  
理事発表者14名、12名出席  
2) 報告事項  
3) 平成18年度会費納入状況について  
4月30日現在、12件の支払い済みが確認、東京34件の支払い済みであった。  
4) 学術誌58号の発行について  
58号は年度内に発行に向けて準備している。原稿論文2編、学会大会の基礎講演とシンプォームの原稿を掲載予定。  
5) 学術誌の発行  
学術誌の発行は次期に増巻する。  
学会誌の発行は編集またはメール後を待たせたい。  
6) 学術誌58号の発行状況について  
専攻の発表、第37回大会会場と併催(東洋大学白山キャンパス)の開催(第1冊)を検討中である。

- Ⅱ. 報告事項  
1) 年度会費納入状況について  
平成18年5月10日現在、正会員17、退年度員17、理事会員4 合計38名会費納入済みであった。  
2) 学術誌58号の発行について  
年度末発行が予定されていたが、少し遅れて表紙中には届かなかった。  
3) ニュース84号の発行について  
4月中旬には、届けられる予定。会長挨拶、2008～2010年度役員発表出席者公示、第37回学会大会案内(第1冊)および研究発表申込みの通知なども掲載された。

**平成19年度(2007年)**  
**日本レジャー・レクリエーション学会**  
**常任理事会(第2回) 議事録**

- 開催日：平成19年7月23日(月) 18:00～19:15  
開催場所：立教大学池袋キャンパス  
セントポール会館2階(英客)
- 出席者：鈴木、坂口、西田、藤生、小椋、田中、松尾、沼澤、山根、横内、土屋
- 議題：  
1) 議事事項  
1) 理事発表出席者確認  
理事発表者27名中11名の出席、16名出席中9名の委任状提出が合計6名になり、理事会の承認条件を満たした。  
2) 前回の常任理事会(平成19年度第1回) 議事録の確認  
2) 報告事項  
3) 年度会費納入状況について  
理事発表より、状況報告について次回に持ち越された。  
4) 学会誌の発行について  
58号が平成19年7月下旬に発行された。  
5) 会員の動向について  
新入会員2名、退会者1名  
6) 第37回学会大会研究発表の申込み状況について  
一般研究発表の申込みについては17種類の受付状況である  
7) 学術誌58号の発行について  
学術誌58号の発行は、14編、ポスター発表は3編  
8) Web担当専門委員会の報告  
Webの開設準備状況、初年度経費の出発について途中報告がなされた。

**事務局からのお知らせ**

1. 学術誌「レジャー・レクリエーション研究」のバックナンバーを学会員に貸出しております(送料別途)。尚、欠番号がある場合はご容赦ください。  
①50～58号まで→1冊¥1,000  
②1～31号、33～49号まで→1冊¥500  
③「多」31号、1冊¥2,000
2. 会員の皆様へお知らせ  
レジャー・レクリエーション学会に関心のある方を事務局へお知らせください。
3. (申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を揃えて郵便振替あるいは現金書留でお送り下さい。)
4. 3. 年会費(¥8,000)、未納年度会費がある会員は、至急、郵便局にて払込手続をお願いします。
5. 口座番号 00150-3-002353  
加入者名 日本レジャー・レクリエーション学会事務局
6. 事務局の開設日は水曜・木曜の週2日となっております。

**編集委員会からのお知らせ**

●「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について●

投稿は常時受付しております。また、研究論文投稿論文送付先  
〒354-8510 埼玉県東松山町三芳町久保1150-1  
湖北大学 国際コミュニケーション学部  
西田俊夫研究室  
西田俊夫研究室内

「日本レジャー・レクリエーション学会事務局」

**会員の動向**

- 新入会員 17名 (07.10.11付)
  - 07-01 高橋 正人 07-10 福士 友子
  - 07-02 石田 夏浩 07-11 荒木 直夫
  - 07-03 宮本 佳嗣 07-12 北村 裕章
  - 07-04 小堀 義男 07-13 大城 浩志
  - 07-05 飛田あみえ 07-14 古越 貴子
  - 07-06 小林 勇 07-14 古越 貴子
  - 07-07 小玉 立哉 07-15 飯田 雄介
  - 07-08 池田 結 07-16 徐 玉珠
  - 07-09 宮澤マリ子 07-17 本田 咲也
- 退会者 11名
  - 多田 聡
  - 小椋 治人
  - 鈴木 雅子
  - 中村 正巳
  - 飯田 雄介
  - 樋口 隆乃
  - 佐々木明子
  - 北条 明美
  - 大石 永剛

お詫びと訂正

前回ニュース84号に掲載されていた平成18年度第1回常任理事会の議事録は、常任理事会ではなく理事会の議事録であります。  
また、平成18年度第1回理事会議議事録は第2回になります。ここに訂正させて頂き、お詫び申し上げます。



学会ニュース

日本レジャー・レクリエーション学会 (Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

AUG. 2008 No.86

事務局 〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町入原1150-1 新潟大学 国際コミュニケーションセンター 自然環境研究棟内 電話 049-274-1311(代) E-mail: aso@nodai.ac.jp

発行人 森 恵 編集 広報渉外委員会 学芸URTEL: http://jslrs.jp

第38回学会大会開催にあたって

日本レジャー・レクリエーション学会(JSLRS) 会長 鈴木秀雄 新潟大学教授、Ph. D.

本年度は、学会副会長(小田切毅一)の所属先である新潟医療福祉大学の御協力を得て、学会大会を開催することとなりました。同大学のNSGカレッジリーグ学生総合プラザSTEP(参照:本ニュース「学会大会のご案内」が主催となり開催いたします。

学会大会テーマは「地域おこしとレクリエーション」です。基調講演では、テーマに即し、「地域おこしの手法としてのレクリエーション実践の有効性について」をお話いただく。また、シンポジウムでは、「地域おこしの手法としてのレクリエーションの再検討」の討議が企画されています。

私は、去る8月7日から10日まで調査・研究の機会を得て新潟市を訪ねたが、折しも新潟県が潤澤されており、佐渡川に架かる東海橋を中心とする景観が素晴らしい。観光、企業、福祉、団体等、あらゆるグループによる新潟県が展開されている。特に印象に残ったのは、親子の多くの熱心な参りや、地域に根ざした取りこみその雰囲気と温かさが醸し出した新鮮な空気と、昨今の多くの参りやイベント化しているが、地域に密着している参りをしるがに目にしたいと思いついた。参りの観望もさき、安全で寄附金の集まりの機運が生まれるなら努力を怠らぬ。その参りにあつた市民の積極的参加が実現しているのを感じたい。

今回のシンポジウムのコーディネーターを務める皆さんが新潟に関係する方々で、このあたり内容も含め地域おこしと地域づくりの具体的なお話が聞けるのではないかと楽しみにしている一人でもある。ところで、今回は新潟市が世界一となり、健康寿命も世界のトップレベルにある。しかしこの両者の間には安心な年間の収入が関係している。即ち、生きているが自立してよりよき生きているかという点である。また、子どもには外資的価値観、青少年の成長も近年の調査を見ても、年々体格はよくなるものの体力は減少傾向にある。中高年のメタリックシンドロームや高血圧等では要介護状態での暮らしの割合も高い。

地域おこしや地域づくりは、地域の活性化、安全・安心の確保もさることながら、地域に住む人々の健康づくり、体力づくりが何より求められている現状にある。

地域おこしにおけるレクリエーション実践は、地域の生活の中でその個人が志向する個人の生きる喜び(LEP-Enjoying Personal Living)につながることも最も重要である。個人の自立に関わる術として、ADL(日常生活動作/活動)やQOLが重要であるが、Quality of Lifeは、単に「生活の質」というよりも、むしろ「生の質」であり、その生をより豊かに、生命の質、「生活の質」に留まらず、生き甲斐につながる「生の質」に向上する十分な認識が必要である。これら「生の質(QOL)」を向上させること、即ち生きる喜び、その先にある個人の生きる喜び(LEP)の獲得として最も重要である。「生」が「質」をよりよく「質」かつ「こと、それが「生の質(QOL)」でもある。

そしてそこにレジャー・レクリエーションの深い関与が望まれる。学会の社会貢献の場でもそこ一つ見えるのではないだろうか。これらについても学会大会での会員相互による活発な意見交換を期待してやまない。

JSLRS

Table with 2 columns: 1. 学会会長挨拶(鈴木秀雄) P. 1, 2. 第38回学会大会のご案内(第2報) P. 2, 3. 第38回学会大会基調講演およびシンポジウム P. 3, 4. 第38回学会大会研究発表申込のご案内 P. 4, 5. 2008年度-1019年度学術委員(幹事)発表要旨 P. 5, 6. 第38回学会大会時の総会報告 P. 5, 10. 7. 日本レジャー・レクリエーション学会 地域活性化のお願い P. 8, 8. 常任理事会・理事会の報告 P. 11, 9. 編集委員会からのお知らせ P. 17, 10. 事務局移転のお知らせ P. 17, 11. 会員の励み P. 17

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

第38回学会大会のご案内

お知らせ第2報

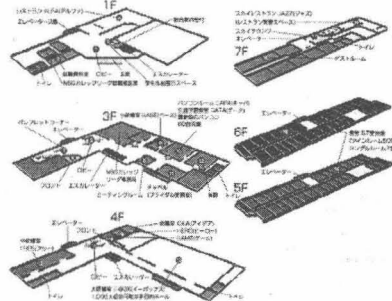
■日程 平成20年11月28日(金)・29日(土)・30日(日)

11月28日(金) 地域研究 11月29日(土) 幹事会・基調講演・シンポジウム・懇親会 11月30日(日) 口頭発表・総会・ポスター発表

■会場 新潟医療福祉大学 大会実行委員長 小田切 毅一 NSGカレッジリーグ学生総合プラザSTEP http://mydreams.jp/step/index.html

※同施設内は宿泊部を備えております。ご希望の方は下記にお問合せ下さい。〒950-0914 新潟県新潟市中央区紫竹山16丁目3-5 TEL 025-265-5534

■交通 新潟駅南口より新潟・南越前線所行バスにて、「井天橋」停留所下車1分。



STEP

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

大会テーマ「地域興しとレクリエーション」 基調講演およびシンポジウム (11月29日(土)午後を予定)

基調講演

講演者: 森川貞夫氏 (日本体育大学)

「地域興しとレクリエーション—その有効性をめぐって—」

—さまざまな地域興しの必要性が、文化的にも、社会的にも、政治・経済的にも投げかけられている。地域興しによってレクリエーションと何らかし、地域興しのためにレクリエーションが成立する自然的、文化的、社会・政治的機運の両面を捉えつつ、地域興しとレクリエーションの密接な関係性を、地域興しの手法としてのレクリエーション実践の有効性の問題とかわかって講話を展開したい。—

シンポジウム案 「地域興しの手法としてのレクリエーション再検討」 —新潟市における話事例から—

地域興しにレクリエーション実践が不可欠であるという。レクリエーションの有効性に着目した基調講演を受けて、本シンポジウムでは大会開催地である新潟市その周辺に地域興しの話事例から問題提起する。活性化の議論を通じて、地域興しの手法としてのレクリエーションの可能性を、「レクリエーション興し」という視点と重ね合わせつつ再検討したい。

◆コーディネーター: 小田切毅一氏 (新潟医療福祉大学) —提案趣旨、ならびに論議の「場」となる新潟市やその周辺の地域興し事情、レクリエーションの手法による実践を条件づける自然・文化・社会・政治的環境—

◆第一話題: 田村 賢 氏 (株式会社アルビレックス新潟) 「新潟アルビレックスにおける地域興しの実践から」 —新潟アルビレックスが目指した地域興しのサポーターづくり、新たなスポーツ・ビジネス経営戦略におけるレクリエーションの手法とは、この地域興し戦略の、光と影を問う。—

◆第二話題: 菅原康行氏 (新潟医療福祉大学) 「生産スポーツの視点、総合クラブにおける新潟の地域興しを問う」 —県下の総合型クラブ活動の構想を軸として、新潟市を取り巻く郊外地域の総合型クラブがいかなる展開をみせつつあるのか、その光と影に注目しつつ、郊外地区における新潟の地域興しの可能性を問う。—

◆第三話題: 池 弘 氏 (日本福祉医療専門学校) 「ハンディキャップ・レクリエーション、障害者主体の文化による町興しの試み」 —地域に開かれた学校としての拠点づくりをめざす。福祉レク・ワークの広がりの中で、ハンディキャップを持った人たちのレクリエーションによる新潟市の町興しなど、その実践から見えてくるものは、—

◆第四話題: 山 出 寛 氏 (建築家、2009年ワールドカップボランティア事務局長) 「新潟市の都市づくりと市民活動」 —ワールドカップなどのイベントやレクリエーションの実践の機会が市民に働きかけるのは何か、それを牽動するどんな仕組みのある都市計画などの環境づくりが必要とされるのか—

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

平成20年度 第38回学会大会 (於: 新潟医療福祉大学) 「一般研究発表」申込み締切り延期のお知らせ

本年度は新潟医療福祉大学のNSGカレッジリーグ学生総合プラザSTEPを会場に開催(11/28~30)いたします。大会日程は11月28日(金):地域研究、29日(土):シンポジウム、30日(日):総会・一般研究発表、となっております。

つきましては、一般研究発表(1.口頭発表、2.ポスター発表)のお申込みについてご案内いたします。なお、今春4月に年会費納入のご案内を送付した際に同封しましたお知らせでは申込み締切りを7月25日と告知しましたが、第2回理事会(7月28日)において9月19日まで延期することとなりました。

皆様よりのお申込みをお待ちしております。

1. 口頭発表について

官製ハガキ(FAX、メール不可)に「口頭発表」と明記し、お申し込み下さい。演題、副題(任意)、氏名、所属先を明記(共同研究者がいる場合は全ての氏名、所属先を明記)、住所(共同研究の場合は代表者とする)、郵便番号、電話番号を明記の上、9月19日(金)必着迄に郵送して下さい。申込みハガキに記載されている発表者の住所へ所定の抄録用紙を送付いたします。抄録原稿(A4判2枚または4枚のいずれか)の戻りは10月10日(金)です(必着)。

口頭発表の申込み資格について、発表者(筆頭者以外)は正会員の資格を有する者に限ります。非会員の場合は速やかに入手手続きをしてください。遅記される共同発表者においてはその限りではありません。

2. ポスター発表について

官製ハガキ(FAX、メール不可)に「ポスター発表」と明記し、お申し込み下さい。演題、副題(任意)、氏名、所属先を明記(共同研究者がいる場合は全ての氏名、所属先を記載)、住所(共同研究の場合は代表者とする)、郵便番号、電話番号を記入の上、9月19日(金)必着迄に郵送してください。申込みハガキに記載されている発表者の住所へ所定の抄録用紙を送付いたします。抄録原稿(A4判1枚)の戻りは10月10日(金)です(必着)。

ポスター発表は非会員の方でも申し込みできますが、その場合には正会員の共同研究者が含まれていることが条件となります。遅記した共同研究者の内、正会員の氏名の前には△印を記して下さい。

ポスター発表の掲示ボードの大きさ(サイズ)は、過って大会事務局よりお知らせいたします。

3. お申し込み先・お問合せ

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 東京農業大学 地域環境学部 造園科学科

自然環境保全学/観光レクリエーション研究室 森 恵 敬 子

日本レジャー・レクリエーション学会 第38回学会大会実行委員会・事務局 係 員

TEL: 03-5477-2436(直) 電子mail: aso@nodai.ac.jp

平成20年(2008年)度～平成22年(2010年)度 学会新役員

Table listing new officers from 2008 to 2010, including names, positions, and affiliations.

◎印は、改選前選出理事、○印は、選挙選出理事、△印は、理事長補選理事

平成20年(2008年)度～平成22年(2010年)度 専門委員会の構成

Table showing the composition of specialized committees, including committee names, members, and chairpersons.

○印 委員長、△印 副委員長、◇印 幹事

日本レジャー・レクリエーション学会 平成20年度 事業計画

I. 事業

- List of activities for the 20th fiscal year, including general assembly, journal publication, newsletters, and symposiums.

II. 総会議の開催

- Details of the general assembly, including date, location, and agenda.

日本レジャー・レクリエーション学会

平成20年度 予算

Financial budget table for the 20th fiscal year, showing income and expenses in detail.

日本レジャー・レクリエーション学会 平成18年度 事業報告

I. 事業

- Report on activities for the 18th fiscal year, including general assembly, journal, newsletters, and symposiums.

II. 総会議の開催

- Details of the general assembly for the 18th fiscal year, including date, location, and agenda.

平成18年度決算報告書

日本レジャー・レクリエーション学会 平成18年3月30日 算出 (単位:円)

Financial statement table for the 18th fiscal year, showing income and expenses.

監事の職務、決算報告は監定して承認と認めます。

監事 大谷 幹博

監事 寺島 節一

平成18年11月23日

「日本レジャー・レクリエーション学会賞」 候補者推薦のお願い

日本レジャー・レクリエーション学会 学会賞選考委員会 委員長 小田切 敏一

本学会では、平成19年度総会（於：東洋大学）における決定に基づき、会員の優れた活動を顕彰...

つきましては、平成20年9月末日締め切りで、下記の4賞について、学会賞候補者の推薦を受け付けます...

なお、推薦のお願いおよび推薦書の提出につきましては、学会ホームページ (http://www.jslrs.jp)...

学会賞は、(1)学会賞、(2)研究奨励賞、(3)支援実践奨励賞、(4)貢献賞の4賞で、研究奨励賞につきましては、論文部門と発表部門の2部門があります...

「学会賞」は、正会員によって平成19年度に発表された学会誌「レジャー・レクリエーション研究」およびその他のレジャー・レクリエーションに関する学術誌、著書、論文を対象として顕著な功績があったものとする...

「研究奨励賞（論文部門）」の対象は、平成19年度に発行された「レジャー・レクリエーション研究」の掲載論文とする。

「研究奨励賞（発表部門）」の対象は、平成19年度の学会大会において発表された一般研究発表（口頭、ポスター）とする。

「支援実践奨励賞」は、正会員によるレジャー・レクリエーション支援実践において顕著な優れた功績が認められたものを対象とする...

「貢献賞」は、長年にわたり本会運営ならびに本会に対して優れた功績が認められた者あるいは団体に対して授与する。

学会賞選考委員会事務局（推薦書等の提出先）

〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 独立行政法人森林総合研究所 上席研究員 (日本レジャー・レクリエーション学会 学会賞選考委員)

田中伸 亮

電話：029-829-8316 電子メール：tanaka@fpr.affrc.go.jp









第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

日本レジャー・レクリエーション学会  
第38回学会大会開催要項  
大会テーマ「地域興しとレクリエーション」

- 1. 主催: 日本レジャー・レクリエーション学会
2. 共催: 日本レジャー・レクリエーション学会第38回学会大会実行委員会
3. 期日: 平成20年11月28日(金)、29日(土)、30日(日)
4. 会場: NSGカレッジリゾート学生総合プラザSTEP
〒950-0914 新潟県新潟市中央区紫竹山6丁目3-5 電話025-255-5534

日程表: 11月28日(金) 地域研究 17:50~ 18:00 集合 18:00 出発
11月29日(土) 11:00~12:00 理事会 会場: 4階小会議室
12:00~15:00 受付 受付場所: 4階ロビー
13:00~13:15 会長挨拶 鈴木秀雄(学会会長)
13:15~14:15 基調講演 会場: 4階大ホール
森川英夫「地域興しとレクリエーション—その可能性をめぐって—」
シンポジウム 会場: 4階大ホール
「地域興しの手法としてのレクリエーション」基調—新潟県における事例から—
14:30~16:30 実行:小田切敏一、パネリスト4名
ワークショップ 会場: 4階大ホール
16:45~17:45 鈴木 允「中越地震災害復旧のレクリエーション支援体制づくり」
森川英夫「地域興しとレクリエーション—その可能性をめぐって—」

16:00~ 懇親会 7階 スカイラウンジ
18:30~ 受付開始
9:00~10:00 研究発表 4階A会場 3題
4階B会場 3題
4階C会場 3題
10:00~11:00 研究発表 4階A会場 2題
4階B会場 2題
4階C会場 2題
11:00~11:40 研究発表 4階A会場 2題
4階B会場 2題
4階C会場 2題
11:00~15:00 ポスター発表会場オープン 4階中研修室
11:40~12:30 ポスター発表質疑応答時間
13:00~14:00 学会発表形式および題名 会場: 4階A会場
14:00~15:00 研究発表 4階A会場 3題
4階B会場 3題
4階C会場 2題

理事会 平成20年11月29日(土) 11:00~12:00 会場: 4階小会議室
学会発表形式 平成20年11月30日(日) 13:00~13:15 会場: 4階A会場
総会 平成20年11月30日(日) 13:15~14:00 会場: 4階A会場

会場: 11月28日(土)、29日(日)のいずれも館内では営業していません。周辺には飲食できる店多数。
(11月30日の昼食は、参加申し込みの時に、あらかじめ弁当を予約可)
喫煙所:喫煙は指定された場所をお願いします。(厳守のこと)

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

地域研究紹介

- 開催日: 11月28日(金)
集合: 新潟駅南口バス乗り場噴水周辺
地域研究紹介
「地域興しとレクリエーション」を大会テーマとする本大会の開催地を、少しでも理解していただくために、新潟市の自然・文化・社会的環境に触れる半日コースに、会員(希望者)をご招待致します。
地域研究コース(天候などにより一部変更する場合があります)
新潟駅南口集合(12:50、出発13:00) →古町藤木街など11 経由 →生薑メッセ21(13:30~14:00) →北方文化博物館31(14:00~15:30) →麒麟14→福島高51(16:00~16:30) →新潟医療福祉大学見学・休憩(17:00) →NSG STEP(宿泊所)学会大会会場へ到着(18:00)。
1)別名「新潟島」とも呼ばれる新潟市の古くからの市街地の一面。
2)とりわけ展望室(140m)からは、新旧に及ぶ新潟市の全貌を眺めできる
3)越後を代表する、江戸中期以来の豪農伊藤氏の邸。国の登録有形文化財に登録。
4)国の天然記念物に指定された白鳥の湖。ラムサール条約に2008年10月に登録決定。
5)オオシロシギ(雁の一種)の飛来地として有名。

日本レジャー・レクリエーション学会  
第38回学会大会実行委員会

- 大会実行委員長: 小田切敏一(新潟医療福祉大学)
事務局長: 藤生 恵(東京農業大学)
大会幹事: 西原 康行(新潟医療福祉大学)
中島 孝子(新潟医療福祉大学)
池 良弘(日本福祉医療専門学校)
坂内 寿子(新潟中央短期大学)
中野 允(新潟育陵大学)
岡 久美子(新潟育陵大学)
見田 賢一(新潟医療福祉大学大学院)
小松 一也(東京医科歯科大学)
上岡 洋輔(東京農業大学)
塚崎 寿(筑波大学)
田中 伸彦(独法森林総合研究所)
土屋 薫(江戸川大学)
寺島 晋一(明治大学)
西野 仁(東海大学)
沼澤 秀雄(立教大学)
松尾 哲矢(立教大学)
横内 晴典(城西大学)
○天野 勲(聖徳大学)
○浮田千枝子(新潟松本福祉短期大学)
○小野寺浩三(東北福祉大学)
○新崎 武(社団)厚生会)
○下村 彰男(東京大学大学院)
○高橋 伸(国際基督教大学)
○滝口 真(西九州大学)
○田中 光(西足学短期大学)
○茅野 宏明(武蔵川女子大学)
○前橋 明(早稲田大学)
○マーレ-寛子(京都府立大学大学院)
○森川 貞夫(日本体育大学)
○藤岡 文男(上智大学)
○山崎 律子(独法森林総合研究所)
※古城 健一(大分大学)
※上野 直紀(いわき明星大学)
△菅原 成臣(YMCカネシマ専門学校)
△矢野加奈子(東京農業大学)

○学会常任理事、○学会理事、※学会監事、△学会幹事

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

研究(口頭)発表・演題

■ 研究発表 A会場

- 口座長: 堀嶋 寿(筑波大学) 9:00-10:00
A-1 First International Recreation Congressに参加した日本人代表3人の発表
○西野 仁(東海大学)
A-2 戦時日本における「体力向上」の盛典
—紀元二千六百年・東宝製鉄大会を中心として—
○小澤 寿人(東京大学大学院)
A-3 知識の社会的構造変化とレジャー概念の再構築
—メディアが提供する教育プログラムの開発を通して—
○犬塚順一郎(筑波大学)
★質疑応答
口座長: 西野 仁(東海大学) 10:00-11:00
A-4 現代社会における運動に関する経営としてのいくつかのkey wordsを探る
○藤村 武(社団)厚生会)
鈴木 英博(東海大学)
鈴木 秀雄(新潟学院大学人間健康学部)
A-5 森林分野の専門知識に見るレジャー・レクリエーション関連用語の変遷
○藤村 武(社団)厚生会)
A-6 英国レジャー研究学会およびその年次大会について
—2008年大会出席報告—
○山崎 律子(独法森林総合研究所)
高橋 和敏(独法森林総合研究所)
★質疑応答
口座長: 土屋 薫(江戸川大学) 11:00-11:40
A-7 フロー理論の構造と特質に関する基礎研究
—自己の統制、場相に対する支配的視点から—
○マレ-寛子(京都府立大学)
A-8 地域スポーツクラブに所属する父親の「仕事の日」と「休みの日」の1日2時間の使い方
○吉原直久(東海大学)
★質疑応答
口座長: 田中伸彦(独法森林総合研究所) 14:00-15:00
A-9 山小島山脈断崖状の地形が外観観望に及ぼす影響について
—北方ループと周辺の平山を事例として—
○下嶋 望(東京情報大学)
A-10 ポート競技による水辺環境の復権
—関水メダカとしてのポートの中心価値—
○藤村 武(社団)厚生会)
A-11 利根川とポルト競技
—両利根川がもたらしたまでの流域の歴史—
○古城 康夫(江戸川大学)
★質疑応答

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

■ 研究発表 B会場

- 口座長: 上岡洋輔(東京農業大学) 9:00-10:00
B-1 レクリエーション活動における参加者の気分と運動能力・身体組成の関係について
—1日2回参加型研究の結果より—
○高橋 和敏(独法森林総合研究所)
小松 一也(東京医科歯科大学)
B-2 介護予防事業における個別レクリエーションプログラムの開発と効果に関する研究(2)
○小松 一也(東京医科歯科大学)
森川 英夫(東京医科歯科大学)
B-3 介護予防事業における運動継続の自覚的変化について(2)
—おもにアンケート結果と面接から—
○上野 幸(独法森林総合研究所)
山崎 律子(独法森林総合研究所)
高橋 和敏(独法森林総合研究所)
★質疑応答
口座長: 松尾哲矢(立教大学) 16:00-16:40
B-4 高齢者介護サービス事業施設の職員における高齢者活動支援力向上について期待(2)
—エッセイ参加型における経験者差別によって—
○廣田 浩久(独法森林総合研究所)
山崎 律子(独法森林総合研究所)
高橋 和敏(独法森林総合研究所)
B-5 老人病院の入居環境における余暇支援のあり方
○菅原 孝治(医療法人社団成成会青陽院)
森川 英夫(医療法人社団成成会青陽院)
今井 悦子(医療法人社団成成会青陽院)
★質疑応答
口座長: 浮田千枝子(新潟松本福祉短期大学) 11:00-11:40
B-6 活動支援による行動障害軽減への試み
○松尾 哲矢(立教大学)
松尾 哲矢(立教大学)
今井 悦子(医療法人社団成成会青陽院)
B-7 障害者スポーツにおける「障害」/「障害」意識の浸透過程に関する研究
—車椅子バスケットボール競技を母体として—
○河野 正博(立教大学)
松尾 哲矢(立教大学)
★質疑応答
口座長: 山崎律子(独法森林総合研究所) 14:00-15:00
B-8 レジャー志向性尺度の開発に関する研究(3)
—成人女性サンプルによる尺度安定性の検討と旅行行動への応用—
○佐藤 由美(大阪府立大学)
高橋 和敏(独法森林総合研究所)
今井 悦子(医療法人社団成成会青陽院)
B-9 レジャー・アクセスと施設環境に関する基礎的研究
○土屋 薫(江戸川大学)
茅野 宏明(武蔵川女子大学)
マーレ-寛子(京都府立大学大学院)
佐藤 由美(大阪府立大学)
佐藤 謙(びわこ成蹊スポーツ大学)
B-10 エンババメントによるツーリズム発展事業に向けてのグループワークに関する研究
○見田 賢一(新潟医療福祉大学大学院)
★質疑応答

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

研究発表 C会場

- 口座長: 藤岡文男 (上智大学) 9:00~10:00
C-1 高等教育機関における地域に根ざした人材の育成
C-2 総合型スポーツクラブに関する社会学的検討
C-3 総合型地域スポーツクラブ育成事業とレクリエーション協会の「暮らし」
☆質疑応答
口座長: 高橋 伸 (国際基督教大学) 10:00~11:00
C-4 幼少・児童の健康づくりシステムの構築
C-5 幼児の健康づくりシステムの構築
C-6 幼児の生活リズム向上と睡眠・健全育成システムの構築 (IV)
☆質疑応答
口座長: 沼津実隆 (立教大学) 11:00~11:40
C-7 保育園児の生活状況と体力・運動能力に関する研究 (第6報)
C-8 高等教育における情報的体育運動の必要性に向けて
☆質疑応答
口座長: 前橋 明 (早稲田大学) 14:00~14:40
C-9 幼稚園児5歳児の身体発達と身体活動量
C-10 保育者の「遊び」の認識と実践に関する研究
☆質疑応答

第38回学会大会 (新潟医療福祉大学 2008年11月28日・29日・30日)

ポスター発表・演題

- ポスター発表会場オープン 11:00~15:00
ポスター質疑応答 (発表者控時間) 11:40~12:30
会場/4階中研修室
P-1 大学生の環境に対する態度についての研究
P-2 レクリエーション教育における実践的展開
P-3 高齢者の転倒予防のための運動あそびについて
P-4 アリゾナ州におけるTherapeutic Recreation
P-5 四天王寺大学及び短期大学部におけるレクリエーション・インストラクター資格取得状況とその課題
P-6 学校運動部に対する地域スポーツクラブの活用
P-7 西宮市レクリエーション活動協会の歩みと地域貢献への課題
P-8 民間野外教育活動団体における長期キャンプ
P-9 長浜キャンパスにおける参加者の疲労の推移
P-10 大学キャンパス実習の参加者によるキャンパスの施設評価
P-11 クッチャロ湖学生サミット (CASE 1) について
P-12 岐阜県土井町におけるワークショップとその効果について
P-13 横浜市美しが丘西浜公園における愛護館と地域との関わりについて
P-14 新入生
P-15 新入生
P-16 新入生

平成20年度(2008年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第3回)議事録

議日 時: 平成20年6月23日(月) 18:30~20:30
議場 所: 立教大学保健センター5F大田川記念館
出席者: 鈴木 小太郎、山口、西田、藤生、小坂、上野、桐城、堀内(幹事)、島野、横内、菅原(幹事)、矢野(幹事)
議程
1. 議事事項
2. 前回常任理事会(平成20年度第2回)議事録(案)を承認した。
3. 報告事項
4. 役員論文の送付先について

平成20年度(2008年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第4回)議事録

議日 時: 平成20年9月29日(月) 18:30~20:30
議場 所: 立教大学保健センター5F大田川記念館
出席者: 鈴木 小太郎、西田、藤生、小坂、上野、桐城、田中(幹事)、土掛、寺島、西野、松尾、横内、菅原(幹事)、矢野(幹事)
議程
1. 議事事項
2. 報告事項
3. 報告事項
4. 平成19年度決算・事業報告および平成21年度事業計画について

された。
2) 学会賞について
3) その他
4. その他
5. 次回常任理事会(第5回)は10月27日(月)

3. 審議事項
1) 第38回学会大会について
2) 学費納入状況
3) 役員論文の送付先について
4) 役員論文の送付先について
5) 役員論文の送付先について

事務局からのお知らせ

- 1. 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」のバックナンバーを学会員に実費頒布しております(送料別途)...

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査等は最短でも2ヶ月程度の時間を要する点と考慮して、投稿してください。

新事務局の案内

淑徳大学から「東京農業大学」へ移転しました。事務局住所: 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

会員の動静

- 新入会員 8名 (08.10.30付)
平成30年 長 秀生 岡安 功
北澤 誠 藤道 真也
谷 直史 今井 悦子
藤田 真光 長谷川 大

JSLRS 平成21年9月

学会ニュース SEP. 2009 No.88

日本レジャー・レクリエーション学会 (Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

事務局 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 麻生 恵 研究室

発行人 麻生 恵 編集 広報渉外委員会 会刊URL: http://jslrs.jp

日本レジャー・レクリエーション学会 第39回学会大会に向けて

日本レジャー・レクリエーション学会 大会実行委員長 土屋 薫 (江戸川大学)

来月11月27日(金)・28日(土)・29日(日)を会期として、江戸川大学にて第39回学会大会が開催される運びとなりました。

具体的には、セッションAのメインスピーカーとして、東京海洋大学教授で前学際理事でもある佐野利雄氏を招き、「旅を愛した山と川を愛した」というテーマで演説を提供していただきます。

第1日目(11月27日)の地味研究は、「田舎部エリアのレジャー・レクリエーション資源調査」がテーマです。

また総務セッションでは、電通OBで山岳在住の行政コミュニケーションアドバイザーである梅谷尚氏をコーディネーターに迎え、CS(顧客満足)の観点から見直しつつあり、(リピーター)をキーワードとしてサービスカクシを模索していく予定です。

1. 第39回学会大会実行委員会挨拶(土屋 薫) P. 1
2. 第39回学会大会開催要項 P. 2
3. 第39回学会大会開催要項 P. 3
4. 平成21年度会務報告書 P. 4
5. 学会ニュース「サービス」の発展について P. 4
6. 平成21年度 事業計画 P. 5
7. 平成21年度 予算 P. 5
8. 平成19年度 事業報告 P. 6

9. 平成19年度 決算報告 P. 7
10. 学会ニュースの巻頭 P. 8
11. 発行人挨拶・理事の報告 P. 9
12. 正会員、情報委員会出陣 P. 10
13. 事務局からのお知らせ P. 10
14. 編集委員会からのお知らせ P. 10
15. 事務局の案内 P. 10
16. 会員の動静 P. 10

第39回学会大会 (江戸川大学 2009年11月27日・28日・29日)

第39回学会大会のご案内

■日程 平成21年11月27日(金)・28日(土)・29日(日)

- 11月27日(金) 地域研究
11月28日(土) 理事会、シンポジウム、懇親会
11月29日(日) 口頭発表、学会賞表彰、総会、ポスター発表

■会場 江戸川大学

http://www.edogawa-u.ac.jp/koutuu/index.html

〒270-0198 千葉県流山市駒木474 TEL:04-7152-0661(代表) FAX:04-7154-2490

■交通

- つくばエクスプレス「流山おおたかの森」駅 からスクールバス(無料)約5分。
上野駅から常磐線柏駅まで快速で約28分。柏駅西口2番乗り場から東武バス高田車庫行き、柏の葉キャンパス駅西口行き。または国立立川センター行きで約8分(「榎林」下車、徒歩5分)。
東武野田線四 Seasons 駅から徒歩約12分。
会場までのアクセス(路線図・地図)については、上記のWebに掲載されております。

大会テーマ:「生態系資源と文化的資源をつなぐライフデザイン - 架け橋としてのレジャー・レクリエーション -」

■趣 旨

クオリティ・オブ・ライフの原点には「毎日ここで暮らすことが楽しいからこそ、ここに住み続けているのだ」という思いがあるように思います。この「暮らし」の現場のひとつである「地域」には、フィールドとしての自然環境をはじめとして、歴史的・文化的・社会的文脈など、様々な要素が介在します。ここでは、それらを結ぶものとして「レジャー・レクリエーション」に着目してみたいと思います。それはまた、「ひと」を介して観光とまちづくりの双方をつなぐ視座をわれわれに与えてくれます。

第39回学会大会 (江戸川大学 2009年11月27日・28日・29日)

日本レジャー・レクリエーション学会  
第39回学会大会開催要項

- 11月27日(金曜日): 地域研究(一般公開)
  - 地域研究: 旧葛飾部エリアのレジャー・レクリエーション資源: 午後12時30分～17時00分  
 都立水元公園(東京都葛飾区)～流山おおたかの森～利根運河～首都圏外郭放水路(埼玉県春日部市) 解説: 新保弘弘氏(東京自然と文化研究所所長)
  - 2日目 - 11月28日(土曜日): シンポジウム(一般公開)
    - 会長挨拶・趣旨説明: 午後13時00分～13時10分
    - セッションA: 午後13時10分～14時40分
      - \*話題提供「観光レクリエーションとスポーツから考える」  
 メインスピーカー: 庄司邦昭氏(東京海洋大学 船の科学館理事)  
 東京都江東区越中島で育ち、隅田川や河川の舟遊に興味をもって、著書に「航海造船学」「海洋観光立国のすゝめ」「ショージ先生の船の博物めぐり」など。

第39回学会大会 (江戸川大学 2009年11月27日・28日・29日)

- 総括セッション: 午後16時30分～18時00分
  - \*テーマ「ひとがリピーターを育み、リピーターがひとを育てる～着地型観光に学ぶ地域の誇り～」  
 庄司邦昭氏、後藤新弥氏、樋口正一郎氏、喜小百合氏、井高義治(流山市長)ほか予定  
 コーディネーター: 梅谷秀治氏(行政コミュニケーションアドバイザー、流山市コミュニティ審議委員会)  
 電通で東京デザインランドのオープニングを担当し、CS(顧客満足)を学ぶ。  
 その後自治体に関わり「行政にもCSの視点が不可欠」と考え、定年後も活動を継続。  
 「住んで良かった、ずっと住みたい」地域づくりを目指している。
- 懇親会: 午後18時30分～20時30分
  - \*懇親会の会場と費用につきましては、後日、学会URL(<http://www.jstsr.jp>)にてお知らせいたします。

平成21年度 会員名簿作成のための「登録情報変更」提出のお願い

平成21年度から会員登録情報に変更がございましたら、「日本レジャー・レクリエーション学会(SLRS)正会員・種別変更用紙」をコピーして、氏名、フリガナ、ローマ字表記を明記し捺印の上、変更する項目のみ記入し本部・事務局に送付して下さい。

〒156-8502 東京都世田谷区横丘1-1-1  
 東京農業大学地域環境科学部園芸科学科  
 自然環境保全学・観光レクリエーション研究室  
 梅谷 秀治  
 日本レジャー・レクリエーション学会事務局  
 E-mail: [jstsr\\_mail@yahoo.co.jp](mailto:jstsr_mail@yahoo.co.jp) (メール宛新着・増付行)  
 添付ファイルにてお願い致します。

「学会ニュース」サービス方法の変更計画について

本日より会員の皆様へ送付しております「学会ニュース」(原則的に年2回: 春季・秋季の発行時期、送付方法について変更する計画があります。お預めしていただいている性質上、少しでも早くフレックシブルな提供ができるよう各務が検討を重ねてまいりました。つきましては、会議決し、第20回常任理事会において下記の再編を決定いたしました。

- 1) 学会ニュース・秋季号(10～12月上旬発行)を春季(12～2月上旬発行)に変更。
- 2) 本年度の学会ニュースを冬季(6/6/9)より隔期的に電子メールによる送付とする。送付方法は正会員より正会員名簿作成、入会申込みWebフォーム等で任意提供された電子メールアドレス(PCに「学会ニュース」として添付ファイルの形式)にて行います。尚、その際は発行物の送付先を基準として送付します。

詳しくは、本号P.8をご参照いただき、ご変更のほどお願い致します。

日本レジャー・レクリエーション学会 平成21年度 事業計画

1. 事業
  - 1) 第39回学会大会の開催  
期日: 平成21年11～12月  
場所: 江戸川大学
  - 2) 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行  
第63巻(水会号)、第64号
  - 3) 学会ニュースの発行  
No.88, No.89
  - 4) Web活動(学会ホームページ)の充実
  - 5) 学術団体等との交流
  - 6) 「第40回学会記念大会」の開催準備
  - 7) 組織の充実および活動の充実  
新会員の獲得、広告掲載の獲得、年会費の円滑な徴収、財源の安定、学会費の進捗・授与、事務局体制の充実
  - 8) 学会活性化に関する事業  
「学会の歩み」第2号(1996-)の編集
2. 諸会議の開催
  - 1) 学会総会
  - 2) 理事会
  - 3) 常任理事会
  - 4) 各専門委員会(Web特別委員会を含む)
  - 5) 学会賞選考委員会

日本レジャー・レクリエーション学会  
平成19年度 事業報告

1. 事業
  - 1) 第37回学会大会開催  
期日: 平成19年11月30日(金)12月1日(土)・2日(日)  
場所: 東洋大学白山キャンパス
  - 2) 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」の発行  
第59号、第60号
  - 3) 学会ニュースの発行  
No.84, No.85
  - 4) 役員選挙  
改選理事の選出(10名)選挙の結果、小坂一也、小田誠一、坂口正治、鈴木秀徳、田中光、西田俊夫、西野仁、沼澤幸雄、松尾智史、橋内晴典の各氏が選出された。  
会員による役員選挙(15名)選挙の結果、藤田文男、麻生恵、茅野宏明、山崎律子、高橋伸、田中伸彦、マレー寛子、寺島善一、小野寺浩三、塚越寿、大谷善博、浮田千枝子、土屋真、天野勲、樋口真の各氏が選出された。大谷善博氏は、その後辞職された。  
新理事長による権限理事の選出の結果、上原洋輔、駒持武、下村彰男、植村明、森川貞夫の各氏が選出された。
  - 5) 組織の充実および活動の充実  
新入会員の獲得については本年度は、新入会員19名、進会者数19名であった。  
平成20年3月31日現在の会員数は、383名である。(正会員364名、賛助会員19団体)。  
プライバシー・ポリシーに伴う作業の作成及び管理は、総務委員会が原案を作成し、理事会及び常任理事会にて検討し、会員に周知を図ることとなった。  
広告掲載の獲得については、昨年より若干増の成果があった。
  - 6) 学術団体との交流  
日本学術会議、日本公園緑地学会、日本学術協会財団、体育学・スポーツ科学学術連絡会、第38回学会賞選考委員の準備
  - 7) 平成20年度の学会大会は、新潟医療福祉大学において開催することが決まった。
  - 8) 学会活性化に関する新原事業  
①「歩み」(第2巻)の編集、「歩み・学会誌」は、次年度以降に引継がれた。  
②「歩み」,「学会誌」の電子化は、次年度に引継がれた。  
③学会ホームページの充実は、原担当専門委員会で平成20年度から立ち上げることが決まった。  
④年度会費の円滑な徴収及び財源の安定については、更新新入会員の獲得の努力をすることや通年後費未納者の取扱いについて今後も検討することになった。
- II. 諸会議
  - 1) 学会総会の開催  
学会総会は、第37回学会大会の開催中の平成19年12月3日(日)の12:40～13:40、東洋大学白山キャンパス3号館2階3203教室で開催
  - 2) 理事の開催  
平成19年5月14日(第1回)、7月23日(第2回)、10月1日(第3回)、11月19日(第4回)、11月15日(第5回)、平成20年3月3日(第6回)、計6回を開催
  - 3) 常任理事会の開催  
平成19年4月23日(第1回)、5月14日(第2回)、6月25日(第3回)、7月23日(第4回)、10月1日(第5回)、平成20年1月28日(第6回)、3月3日(第7回)、計7回を開催
  - 4) 原担当専門委員会の開催  
臨時開催
  - 5) プライバシー・ポリシーに伴う作業の作成及び管理に関する委員会の開催  
臨時開催
  - 6) 他の委員会  
臨時開催

日本レジャー・レクリエーション学会  
平成21年度 予算

取 入	平成21年度 4月1日～平成22年3月31日(単位 円)		取 入 部	備 考
	前年度予算額	21年度予算額		
前年度繰越金	0	0	0	
年度会費	3,040,000	3,040,000	0	8,000×380名
通年費	240,000	240,000	0	8,000×30名
入会費	60,000	60,000	0	2,000×30名
賛助会費	0	110,000	-110,000	
雑収入	110,000	150,000	-40,000	4件
繰越収入	150,000	310,000	-160,000	学芸部等
合 計	3,560,000	3,910,000	-350,000	
支 出 の 部				
印刷費	2,000,000	2,300,000	-300,000	学会ニュース・学芸部、学芸部30-64名、各種経理、総務部経理
通信費	300,000	400,000	-100,000	学会ニュース、学芸部、会議通知等
事務用品費	200,000	200,000	0	文具、コピー機、カメラ、PC関係等
事務委託費	700,000	200,000	0	交通費・事務委託費、Web等
学術委員会費	50,000	50,000	0	委員会開催、委員会議費等
学芸委員会費	50,000	50,000	0	Web等
広報宣伝費	150,000	200,000	-50,000	学芸部等
選挙費	0	0	0	
内外学術交流費	50,000	100,000	-50,000	関係学術団体等
会議費	150,000	150,000	0	総会・理事会・常任理事会会議費
大会準備費	200,000	200,000	0	第39回学会大会
予備費	230,000	60,000	170,000	
合 計	3,560,000	3,910,000	-350,000	

平成19年度決算報告書

日本レジャー・レクリエーション学会 平成20年3月31日 現在

(単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額(A), 決算額(B), 予算残額(A-B), 備 考. It details income and expenses for the 19th fiscal year.

会員各位

2009年9月吉日

日本レジャー・レクリエーション学会 理事長 藤 生 恵

日本レジャー・レクリエーション学会「学会ニュース」のご連絡
～発行時期変更のお知らせと電子メール送信の移行についてのお願い～

拝啓 初秋の候、金銀の露降におかれましては、益々ご清福のこととお慶び申し上げます。
新年度に入りご挨拶、業務にご多忙のこととお察ししております。平素は皆様より日本レジャー・レクリエーション学会の運営にお力添えを賜りまして心より御礼申し上げます。

さて、本会の会員への配布サービスとして学会誌「レジャー・レクリエーション研究」とならび情報誌「学会ニュース」を原則的に年(年度)2回(春・秋)発行させて頂いております。情報誌としての性質上、年に10回以上行われる会議(理事会、常任理事会、大会実行委員会等)で決定された会員への告知事項を少しでも早くにお伝えすること、定期的にフレッシュな情報提供なども重要事項に各委員会において検討しました。また、総会でも報告の通り、ここ近年は財政的にも厳しい状況でもあります。

以上をふまえて会議1回常任理事会において次の事項を審議・承認いたしました。
(1) 学会ニュース・秋号(9月・10月発行)を冬号(12・2月発行)に変更する。
…利点となる例は次のことなどが考えられ、情報提供がフレッシュな時期に提示できます。
①総会決定事項の通知 ②次回学会大会開催の告知 ③学会賞受賞者の発表
④学会大会開催後の総評を掲載 ⑤大会の開催報告を副会報(写真)等で掲載 …etc.
(2) 本年度の学会ニュース冬号(08.09)との原則的に電子メールによる送信とする。
送信方法は会員より任意推薦(正会員簡便作成、入会申込書、Web入会申込フォーム)された電子メールアドレス(PC)に「学会ニュース」として添付ファイル(PDF)で行う。
…上記の通り趣味的な情報提供、財政面による正会員を利点として提示しております。また、本紙につまみましては本年の総会にて承認を希望する会員の方は、下記のアンケートをご記入の上、本部・事務局へ送達あるいは電子メールにて送信(添付ファイル)にてご連絡して下さい(2009年11月末日必着)。

また、期日までにご返信が無い場合、電子メールアドレス(PC)をご提供頂いた会員は送信を「0」とし、発行物の送付先を標準として送信させて頂きます。尚、電子メールアドレス(PC)をご提供が無い会員は紙媒体を送付することいたします。

敬 員

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学地域環境科学部施設園芸科学科
自然環境保全学/観光レクリエーション研究室
E-mail: jrls\_mail@yahoo.co.jp (事務局代行)

「学会ニュース」メール送信 一紙再申請フォーム

Subscription form with fields for フリガナ, お名前, (氏), (名), and ご所属先.

平成20年度(2008年)

日本レジャー・レクリエーション学会 総会議事録

開催日: 平成20年11月30日(日) 13:15～13:40
開催所: NSGカレッジリゾート学生会館クラブSTEP (新潟市) 4階大研修室

出席者: 約45名

【開 会】

司会・進行役の大澤雅晴氏(総務担当常任理事)により開会が宣言された。(13時15分)

【開会挨拶】

鈴木芳雄理事長より開会の挨拶があった。

【議長選出】

議長について司会者が推薦・希望者をつたが申し出が無く、司会者により日本福祉医療専門学校の高良弘氏が議長に選出された。賛成多数で承認された。

【議事録署名人選出】

議事録署名人について議長が推薦・希望者をつたが申し出が無く、議長の指名により①古城康夫氏(江戸川大学) および②下嶋聖氏(東京情報大学)の2名が選出された。

【議 事】

(1) 「第1号議案 平成19年度決算報告書(案)」および「第2号議案 平成19年度収支決算報告書(案)」について、専任理事より説明があり、議決が揃ったところ、賛成多数で承認された。

(2) 「監査報告」について、平成19年度監事の寺島第一氏が報告予定であったが、体調不良により急遽欠席されたため、代わりの専任理事より提出された監査報告書の説明と、前日の理事会において専任理事より監査報告がなされたことと理事者が賛成し、議長が揃ったところ、賛成多数で承認された。

【第3号議案 平成21年度事業計画(案)】

および「第4号議案 平成21年度予算(案)」について、専任理事より説明があった。これについて、会員より平成19年度業績(案)を9月1日とするのではなく、平成19年度の「(次年度業績金)の金額を定めておくべきではないかの質問が寄せられた。これに対して、専任理事は年度初めではなく年度の途中で実施し、その次の年度の予算案を提出しているため、前年度の業績金が定まらない収入の繰越金が発生する。その結果、繰越金も収入の繰越金で承認されていること、平成20年度の予算案も0年の総会で繰越金0円で承認

を得ていることを理事長が説明し、議長が揃ったところ、賛成多数で承認された。

【第5号議案 「レジャー・レクリエーション研究」投稿規定改定(案)】

について、専任理事より説明があり、議長が揃ったところ、賛成多数で承認された。

【第6号議案 正会員の入会、退会、除名、会費納入に関する申し合せ(案)】

の内容について専任理事より説明があり、これについては総会の議決事項ではなく理事会の議を経て決めることであるので、意見がなければ提出しては、とお話がなかった。議長が希望者をつたが申し出は無く、今後、意見がある場合に事務局に提出していただき、必要に応じて理事会で議論し、学会ニュース等で報告することになった。

【閉 会】

司会者により閉会が宣言された。(13時40分)

議事録署名人 古城康夫(江戸川大学)

議事録署名人 下嶋 聖(東京情報大学)

平成20年度(2008年)

日本レジャー・レクリエーション学会 理事会(第2回)議事録

開催日: 平成20年7月28日(月) 18:00～19:15
開催所: 立教大学地産学連携センターポルブルズ 金2階 実習室

出席者: 鈴木、小田切、野田、藤生、天野、陣田、小原、田中(幹)、酒場、前嶋、陣田、山崎、横内、矢野(幹)

委任状: 上野、土屋、森嶋、高橋、滝口、李野、マール、森川

1. 議事事項

定数超過)出席者13名、委任状4名
前理事会(平成19年度第1回理事会)の議事録について承認した。

2. 報告事項

(1) 平成20年度会費納入状況について
7月25日まで235件であることが報告された。

(2) 学会賞について
候補者推薦の締め切りを9月末に延期することの報告と候補者推薦のお問い合わせがあった。

(3) 大会研究発表申し込みについて
本日(7/28)までに口頭発表13件、ポスター発表6件、その他2件であることが報告された。また、大会研究発表申し込み等の締め切り日について、総会案に比べて早まること、

ポスター発表については学生の夏休み期間中の活動成果報告も含めたいとのことから、発表申し込みの締切日を9月1日(日)、口頭発表の締め切りを10月1日(日)とすることが理事長より提案され、承認した。この件については、学会ニュース、ホームページ等で会員に知らせることとした。

(4) 学会ニュースについて

8月10-15日に発送予定であることが報告された。

3. 審議事項

(1) 第3回理事会大会について

開催校である新潟医療福祉大学の小田切副会長より、計画案について報告があった。基調講演は松川貞夫氏(日本体育大学)、テーマ「健康増進とレクリエーション」の有効性をめぐって、シンポジウムはテーマ「健康増進の手法としてのレクリエーション再考」-新潟県における事例から-、コーディネーター:小田切第一氏(新潟医療福祉大学)、新議題提供者:土山夏江(徳島県、2002年ワールドカップポルポタンアスリート)、招待員氏(株式会社アルビレックス新潟)、地島弘氏(日本福祉医療専門学校)、部員兼行方(新潟福祉医療専門学校)。大会参加について検討し、会費は参加費4000円、懇親会5000円、弁当900円とするが、2日目のシンポジウムについては非会員は無料とし、3日目の研究発表については、非会員は参加費3000円(学生は無料)とすることとした。

2) 入会等の扱いについて
総務委員会委員長の小嶋理事から提案された入会等の一層の厳格化について検討し、了承した。大会時の参加には本会の理事等であるが、実態の厳しいことには本会の理事等も認められたというところ、今後厳格することになった。

(3) 平成19年度事業・事業報告について、および(4) 平成21年度事業計画については、次回の理事会(11月17日)で審議することとした。なお、平成21年度の第3回理事会開催日は11月の大会で決める必要があること、平成20年度は「第4回総会大会」にすることが協議された。

(5) 「レジャー・レクリエーション研究」投稿規定改定案について(事務局にて受け付け、それまに総務委員会に回して査読を行っている)の時間がかりかみずでいること、学会賞改定されたが、投稿者が直接総務委員会に交付できること、投稿規定の改訂について、編集委員長より提案があった。時間的制約もあり結論が出ず、継続審議となった。

4. その他

1998年以降未納となっている国会図書館の納

本を過去に遡って再購することが出発事より提案され、承認された。学会誌17冊から60冊で再購される。1冊1冊、1冊1冊、大会等は事務局、論文等は総務委員会より納本することとした。

以上

平成20年度(2008年)

日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事会(第5回)議事録

開催日: 平成20年10月27日(月) 18:30～20:15
開催所: 立教大学池袋キャンパス大川川記念館第1会議室

出席者: 鈴木、小田切、坂口、西田、藤生、小原、横内、田中(幹)、土屋、森嶋、松尾、横内、菅野(幹)、矢野(幹)

1. 承認事項

(1) 前常任理事会(平成20年度第4回)議事録の承認

2. 報告事項

(1) 会費納入状況
10月25日現在、計29件、これまでの総計で253人納入(会費の納入)と報告された。

(2) 第3回理事会について
2) 大会実行委員長の小田切先生より大会全体のプログラムの説明があった。シンポジウムのタイトルを一部修正すること、学会賞授与式と3日総会(18:00～18:15)に行うことになった。

3) 日報発表およびポスター発表のプログラム案について理事長より説明があり、産長の意見を踏まえて修正調整することになった。

4) 学会ニュースとホームページ掲載用原稿、論文の原稿は10月30日までに届える予定であることが理事より報告された。(国)

(3) 学会賞について
評選委員(論文部門)1名、支援総務委員の推薦として2名から常任理事が推薦し、(毎月1回のペースで)掲載していくこととした。また、学会大会レポートを何人かの理事にお預りするところ、関連して、学会のロゴマークを掲げるべきとの意見が出た。理事が協議を希望するところ、その方針について検討することになった。

(4) Web特別委員会の事業について
年間事業計画について説明があり、特に会員からの情報提供としてコラムに常任理事が掲載し、(毎月1回のペースで)掲載していくこととした。また、学会大会レポートを何人かの理事にお預りするところ、関連して、学会のロゴマークを掲げるべきとの意見が出た。理事が協議を希望するところ、その方針について検討することになった。

(5) 平成21年度学会大会開催校について、前常





日本レジャー・レクリエーション学会(JSLRS) 正会員・情報変更提出用紙

- ※1: 名簿掲載の可否を問わず、変更項目については全てご記入下さい。また、姓が変更した場合も併せてご記入下さい。
※2: 名簿掲載の可否がされていない場合は「掲載否」として記入します。
※3: 本紙をコピーし、事務局まで送付(封筒)またはメール(添付ファイル)にてご返信下さい。
※4: テキストファイル(Excel 2003)をご希望の場合は、事務局(jslrs\_mail@yahoo.co.jp)までメールにてご連絡下さい。

Form with fields for Name, Address, Phone, Email, etc. Includes checkboxes for membership status and publication preferences.

事務局からのお知らせ

- 1. 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」(申込用紙に必要事項を記入し、入会金(¥2,000)と年会費(¥8,000)を添えて郵送願われる場合は現金書留でお送り下さい。
3. 年会費(¥8,000)、未払年会費がある会員は、至急、事務局にて払込手続きをお願いします。
4. 事務局の開設日は月曜・水曜の2日となっております。

編集委員会からのお知らせ

「レジャー・レクリエーション研究」投稿募集について

投稿は常時受付しております。また、研究論文の審査等は最速でも2ヶ月程度の時間を要する点を考慮して、投稿していただき、会員の皆様への積極的な投稿をお願いいたします。

事務局の案内

T 156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学地域環境科学部造園科学科
自然環境保全学/観光レクリエーション研究室
Tel: 03-5477-2436 Fax: 03-5477-2625
Mail: jslrs\_mail@yahoo.co.jp 学会URL: http://jslrs.jp

会員の動静

- 新入会員 10名
平成21年 石橋 孝治 馬場 健
中島 豊 高橋 繁夫
藤本 大哉 後藤 新弥
藤藤 航貴 谷本 郁夫
関口 英聖 大沢 雄二
▼退会者 13名
松浦 三子 堀 町子
中島 豊 高橋 繁夫
松田 裕輝 岡 一雄
野田 英哉 一色 守
谷本 郁夫 田原 武彦
藤藤 百子 後藤 芳子
福士 友子

平成21年9月
学会ニュース
SEP. 2009 No. 88

JSLRS 平成22年7月

学会ニュース No.89

日本レジャー・レクリエーション学会
(JSLRS Japan Society of Leisure and Recreation Studies)

本部・事務局: 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科
自然環境保全学/観光レクリエーション研究室 麻生 康生 担当
TEL: 03-5477-2436 (直)
FAX: 03-5477-2625 (造園科学科事務局)
メールアドレス: mail@jslrs.jp
学会ウェブサイト: http://www.jslrs.jp

第40回記念大会にむけて

～新しい生活へのパラダイム転換(paradigm shift); パースペクティブ; セレンディビティなどを主なキーワードとして～

日本レジャー・レクリエーション学会(JSLRS)
会長 鈴木 秀雄
関東学院大学 人間環境学 人間発達学科教授、Ph. D

昨年(2009年)11月に、第39回学会大会が江戸川大学(千葉県流山市)で開催された。大会テーマが「生態系資源と文化的資源をつなぐデザイン」とし、第1日目の地場研究では、自然動物のレクリエーション・プログラムを設計した。第2日目は、多数のセッションがあり、異なる分野の研究者がレジャー・レクリエーションの視点から「環境デザイン」をテーマとして「セッション」。「世界の水辺空間を都市空間から考える」(セッション)。『我が家の水辺空間を都市空間から考える』(セッション)。『我が家の水辺空間を都市空間から考える』(セッション)。

うた豊かな多岐によるレジャー・ライフを構築し、また改作(arrange)し、豊かな活動・生活・生き方から生み出されるもの(serendipity)を紡ぎ出してレジャー・レクリエーションの存在(serendipity)とその方(serendipity)が問われる時代である。このよな多岐を生み出す(serendipity)という現象は、その方(serendipity)が問われる時代である。このよな多岐を生み出す(serendipity)という現象は、その方(serendipity)が問われる時代である。

さて、第40回記念大会(2010年)は、東京農業大学(東京都世田谷区)において開催されるが、記念大会にふさわしい、学会の歴史の振り返り、研究の動向と変遷、研究のメソッド/アプローチ/手法なども取り上げられ、また、レジャー・レクリエーションの可視化に関する動向と将来展望と題した『第40回記念大会』も記念大会と歩みを進めよう。特別企画として行われる予定である。このよな多岐を生み出す(serendipity)という現象は、その方(serendipity)が問われる時代である。

◆ 配信内容 ◆

- 01: 巻頭言 鈴木秀雄 学会会長
02: 学会大会を終えて 土屋 薫 学会大会実行委員長
03: 学会シンポジウム 概要
04: 事務局だより

学会大会を終えて - テーマ解題 -

大会実行委員 土屋 薫(江戸川大学)

民主党の鳩山政権では、国民の「幸福度」を新たな指標を開発する方針だといふ。これは、「自然と人の営みの重要なところとにわたる生活は位置し、レジャーやレクリエーションこそ、これらのバランスを取る役割を担っているのではないか」という問題意識に支えられたものである。

2009年の第39回学会大会のテーマは「生態系資源と文化的資源をつなぐライフデザイン- 傑作としてのレジャー・レクリエーション」であった。これは、「自然と人の営みの重要なところとにわたる生活は位置し、レジャーやレクリエーションこそ、これらのバランスを取る役割を担っているのではないか」という問題意識に支えられたものである。この問題意識を具体的に展開する上で注目したのが、「着地型観光」というキーワードである。ご承知の通り、この「着地型」とは、目的地である地域を中心として観光商品をプロデュースすることを意味する。すなわち、都市部の旅行会社に代表されるような「観光地(地元)の外にない第三者」が付加価値を積み上げることでプログラムを構成していく「発地型」とは異なり、地域住民による体験・交流がベースとなって展開されるというその特徴である。

第39回学会大会の巻頭言である江戸川大学の学長である土屋薫先生は、2005年のつばきエクスプレス開業以来、東京圏を中心とした観光地を中心とする「新住民」が長く地域で、高度経済成長期を通じて国民全体の状況を懸念されたいわゆる「置き去り都市型」のあり方を見つめ、したがって、この地域における現在進行形の課題を考えることが、実は、生活主体(あるいは市民主体)の視点でわが国の戦後史を振り返るという契機になるのではないか、あるいは、レジャー・レクリエーションの視点から、わが国が戦後復興してきたものは何だったのか、こうした問いが今回の学会テーマの基盤にある。

先日ガーデンクラブ「花恋一かたはし」は、2005年の設立以来、「オープンガーデン」(自宅裏庭の開放公開)を実施した。2009年には、5月6日(水)～8日(金)の期間中、のべ6,907名もの来場者があったという(主催者調べ)。会場当日は天候不順であったにもかかわらず、また来場者の特産品が豊富でもなく、もちろん観覧客の少ない観覧客や休憩所、交通インフラが整っていない、平日の3日間だけでこれだけの人数が来場したことは驚きではないだろうか。

これは、地域住民による集約の発信とそれに触発された「価値観転換者」としての「第三者」の存在、そして両者の交流の場がここから始まるのではないか、という問いを提示しているのではないか、と見做すことが出来る。この問いを提示しているのは「花恋一かたはし」にむけての問いである。これは、地域住民による集約の発信とそれに触発された「価値観転換者」としての「第三者」の存在、そして両者の交流の場がここから始まるのではないか、という問いを提示しているのではないか、と見做すことが出来る。

最後に、大会実行委員として、各方面からの人的・物的支援を受けて初めて大会が無事開催に漕ぎ着けたことを付け加えるとともに、あらためて関係各位にお礼を申し上げて置きたい。

学会シンポジウム 概要

セッションA

「親水レクリエーション&スポーツから考える」

コーディネーター：後藤新弥氏（江戸川大学教授）

メインスピーカー（基調講演）：庄司邦昭氏（東京海洋大学教授）

「船を通した川とのつきあい方」

ヨーロッパの川や運河の様子について写真を数多く提示され、水辺を活用した街づくりの事例を分かりやすく概説された。ご自身の趣味と実益を兼ねられているという水上移動体験（船の中から眺める風景）など、大変興味深い話であった。趣旨の核心部分は、「その地域の風土や伝統を生かしつつ、ハイテク技術をも取り入れるべき」という点にあった。

ゲストスピーカー1：郡司俊雄氏（江戸川大学教授）

「大堀川におけるカヌー体験セミナーの実践」

大学のゼミでカナディアン・カヌーを実施したときの一連の経過を概説された。「川にカヌーを浮かべて良いのかどうか」も含めて、学生との入念な意見交換、国土交通省へのお伺い、そして実施に至るまでの経緯について、ユーモアを含めて報告された。国土交通省からは「気をつけてやればいいですよ」という回答をいただき、「小さいカヌーだが、大船に乗ったつもりで実施した」ということで、大学教育における先進的な取り組みの発表であった。

ゲストスピーカー2：遠藤大哉氏（NPO法人バディ冒険団代表）

「スポーツイベントの開催と安全性に関する課題」

子どもの冒険体験や海辺での様々なスポーツ・イベントを開催している中で、海辺のスポーツ活動の展開例を紹介された。そのひとつに「初日の出スイム」があり、元旦に子どもたちと湘南の海（地域の子どもたちにとっては「里海」という位置づけ）を泳ぐ企画など、実にユニークな内容を紹介された。しかし、NPO活動をめぐる課題点（財政・経営問題、漁協との連携の問題、海の事故問題）を挙げられ、その対策も必要であることが述べられた。

学会シンポジウム 概要

セッションB

「世界の水辺空間&都市開発から考える」

コーディネーター：恵小百合氏（江戸川大学教授・江戸川大学総合福祉専門学校校長）

メインスピーカー（基調講演）：樋口正一郎氏（美術家 都市景観研究者）

「水辺空間の現在 〜ソウル・ロンドン・バーミンガム〜」

ヨーロッパ各地や韓国において、産業構造の変化などによって、使われなくなった運河が市民のためにどのように活用されているのかを中心にまとめられた。写真を多用したわかりやすい講演であった。水辺空間の再開発・再水をやキーワードとして豊富な事例の紹介があった。あまりにも豊富な事例のため、時間が不足したが、その後のセッションCでも事例をご紹介いただきたい。「日本の建設は、とりえず」、「イギリスは、最高のものを作る」ということが大きな差異であることを強調されていた。

ゲストスピーカー1：恵良好敏氏（NPO さとやま理事長）

「市野谷の森公園を核とする水と森のまちづくり」

市野谷の森（通称「おおかたの森」）の保全に関する基本方針を紹介され、都市公園において基本理念や自然保全目標を明確にしていることが先駆的であることを示された。生物多様性を守るという点で、6つのゾーンにおいて環境整備しながら、オオカカの生息を守る取り組みが紹介された。行政と住民側の話し合いは実に21回に及んだが、「話し合い」をすることでひとつの方向性が自然と見えてくることの実感を語られ、立場が違っても話し合いの重要性を説かれていた。

ゲストスピーカー2：新保國弘氏（東葛自然と文化研究所所長）

「地域をつなぐ歴史の架け橋 〜利根運河の神つかり〜」

運河を挟んで流山市に隣接する野田市を中心として、利根運河のロケーションや歴史（掘割当時のオランダ人技師の年譜を含む）、活用の様子を紹介された。野鳥や植物を見ながらの散策の様子、コウノトリやキが生息できるような水辺空間を目指した具体的な取り組みを理解することができた。オオカカ、サシバを初めとして15種類の猛禽類が存在し、それらが飛び交う「タカ街」とも呼ばれたユニークな写真も示された。

学会シンポジウム 概要

総括セッション

「ひとがリピーターを育み、リピーターがひとをそだてる  
一着地型観光に学ぶ地域の誇り」

コーディネーター：梅谷秀治氏（行政コミュニケーションアドバイザー）  
パネリスト：後藤新弥氏（江戸川大学教授）  
庄司邦昭氏（東京海洋大学教授）  
恵小百合氏（江戸川大学教授・江戸川大学総合福祉専門学校校長）  
樋口正一郎氏（美術家 都市景観研究者）  
小高静子氏（流山ガーデニングクラブ「花童子一かべん」とい）会長）  
井崎尚治氏（流山市長）

<要旨>

まちづくりのことも人の観点から考えることが大事であるとし、ドイツの成功のかなりの部分にスタッフの尽力があることを、まず梅谷氏が例示した。その後パネリストの間で活発な意見が交わされた。「地域」をキーワードとする議論では、井崎市長が流山市の現状を報告された。すなわち「以前は『人・物・金』が市外に流れる状況にあったが、今や縁の多い産業を求めて人が移住してくる。『流山グリーンチェン戦略』はそれを背景とした市の施策で、一定以上の縁を植えた後には特別融資が受けられるといった配慮をしている。こうした施策や流山ガーデニングクラブの活動（流山市内で会員が70名おり、そのうち35軒が自宅庭をオープンガーデンとして公開している）によって縁が多くなり、実際にそれを求めて市内に来る人が増えてきている」という。また流山市は、「都心から一番近い森のまち」をキャッチフレーズとして、自らの存在意義あるいは価値として明確化しているという点も強調されていた。

フロアからも活発な意見が出された。まず「水の駅」という発想から出発して、利根運河の水深を今よりさらに2mほど深めて、方向を変えなまま細長い運河を往來できる観光用「ナローボート」を導入したらどうか、というアイデアが出た。次に、おおかたの森の周辺道路に健康・ウェルネス志向の利用を促すような仕掛け（たとえば散歩コースと消費カロリーの表示など）が有効でないかという提案も出された。それから、イギリスの食糧が税金対策やビジネスとして自らのカンツリーハウスを公開すると同じようにオープンガーデンを実施するのと同じ手ではないか、という提案があった。また、縁を増やすことを実践している家、あるいはCO2対策をしている家に税法上の優遇措置を与えるのはどうか、という提案もあった。さらに、市役所職員で実践活動をしている人に対する表彰（褒賞）制度を設けるのもひとつの案ではないか、という意見も出た。

市民の声として、流山市やその周辺には利根運河などの有名なポイントがあるものの、それ以外には市民にあまり知られておらず、さらなる広報活動とともに、数策できる建設的なポイントが設置されると、市民が市内をめぐると具体的な対策となるのではないかと、という意見が出された。いずれにしても、地方都市は大都市と比べると「無い無い尽く」であり、それを払拭するためにも、地域特性を活かしながら市民や関係者の知恵と力を集めることが必要であり、今後も継続して検討すべきであるとして締めくくられた。

◎事務局からのお知らせ◎

1. 年会費（¥8,000）の納入をお願い致します。今年度は役員選挙年にあたり、6月30日（水）までに納入されませんと、選挙権、被選挙権を失いますので、くれぐれご注意ください。  
口座番号 00150-3-602353  
加入者名 日本レジャー・レクリエーション学会
2. 学会誌「レジャー・レクリエーション研究」のバックナンバーを実費頒布しております（送料別添）。尚、欠巻号がある場合はご容赦下さい。  
①58～62号まで→1冊¥1,000  
②1～31号、33～57号→1冊¥500  
③32号「学会の歩み」→1冊¥2,000
3. 事務局には専任（常勤）の職員がおらず、会員のボランティアで運営しております。連絡はなるべくメール、Fax でお願致します。

△事務局の案内▽

〒156-8502 東京都世田谷区萩丘1-1-1  
東京農業大学地域環境科学部造園園芸科学科  
観光レクリエーション研究室内  
Tel: 03-5477-2436 Fax: 03-5477-2625  
Mail: jsrs\_mail@yahoo.co.jp 学会 URL: http://jsrs.jp

□会員の動静■

◎新入会員 8名

内藤 真人  
金 銀正  
馬場 実智子  
脇谷 翔太郎  
甲斐 徹郎  
加藤 幸真  
中村 千城  
昇 寛

●退会者 10名

松山 東雲短期大学図書館  
北 徹朗  
志村 幸子  
木村 多喜  
松永 敬子  
見田 賢一  
渡辺 本江  
井上 忠夫  
栗原 邦秋  
岡村 泰斗